

全員協議会提出議題

日時 令和8年1月21日（水）

本会議終了後

1 報告事項

- (1) 令和7年度厚木市民意識調査報告書について（資料1）

【広報シティプロモーション課】

- (2) 令和7年歳末火災特別警戒の実施結果について

・実施期間 12月25日～31日、警戒期間中の火災発生件数2件

【警防課】

- (3) 厚木市制70周年記念令和8年厚木市消防出初め式の実施結果について

・実施日 1月11日、来場者数約3,600人

【警防課】

- (4) 厚木市制70周年記念令和8年厚木市はたちのつどいの実施結果について

・実施日 1月12日、参加者数1,537人

【青少年課】

2 その他（資料配布のみ）

- (1) 行事予定

ア 令和7年度厚木市表彰式・厚木市教育委員会表彰式について（資料）

・実施日 1月31日

【秘書課】

イ 第62回あつぎ飯山桜まつりの実施について（資料）

・実施期間 3月28日～29日

【商業観光課】

- (2) パブリックコメント実施予定一覧（資料）

厚木市子育て支援センターリニューアル基本計画（案）

【こども家庭センター】

令和7年度 厚木市民意識調査報告書について

- 1 調査目的 市民の皆様のまちづくりに対する考えや生活に密着した事項について、市民の皆様
様の意識やニーズを的確に把握するとともに、今後の市政運営等の基礎資料とす
ることを目的に実施しています（隔年で実施しています。）
- 2 調査期間 令和7年7月1日（火）～7月20日（日）
- 3 調査方法 郵送配布・郵送回収又はインターネット回答
- 4 調査対象 無作為に抽出した18歳以上の市民（外国籍市民含む。）6,000人
- 5 回収結果 2,938人（49.0％）

調査票A：1,487人(49.6%)(郵送回収979人、インターネット回答508人)

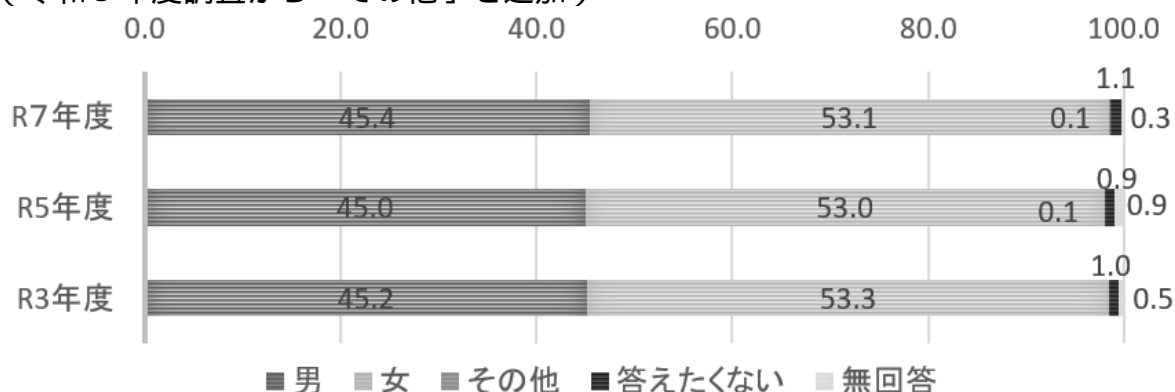
調査票B：1,451人(48.4%) (郵送回収979人、インターネット回答472人)

年度	対象者数	回収数	回収率	うち郵送回答	うちインターネット回答
R7年度	6,000人	2,938人	49.0%	66.6%(1,958人)	33.4%(980人)
R5年度	6,000人	2,859人	47.7%	73.9%(2,114人)	26.1%(745人)
R3年度	6,000人	3,275人	54.6%	76.3%(2,500人)	23.7%(775人)

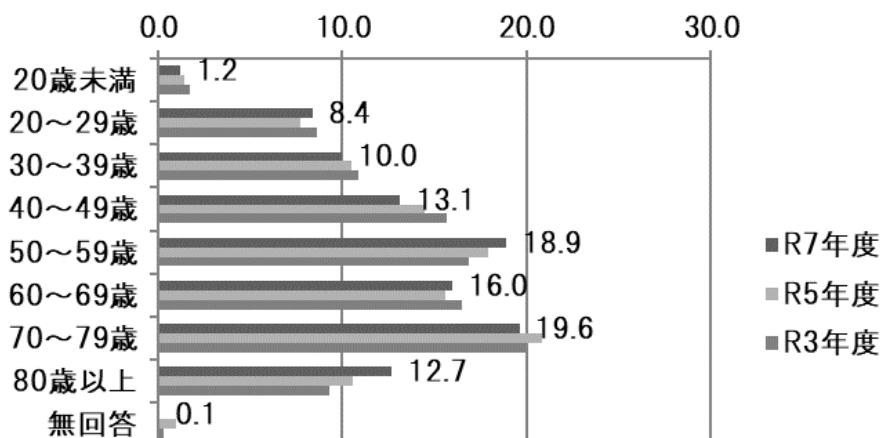
- 6 調査項目 15分野46問（AB調査票共通項目4問+A21問・B21問）

- 7 回答者の属性

（1）性別（令和5年度調査から「その他」を追加）



（2）年齢



厚木市民意識調査報告書

令和8年1月

厚 木 市

I. 調査の概要	
1 調査の目的	3
2 調査項目	3
3 調査設計	3
4 回収結果	3
5 報告書の見方	3
6 標本誤差	4
II. 回答者の属性	
1 回答者の属性	
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 家族構成	7
(4) 居住地区	8
(5) 住居形態	8
(6) 居住年数	9
(7) 職業	9
(8) 通勤(通学)先	10
(9) 最寄駅	10
III. 意識調査結果	
1 暮らしの状況	
(1) 定住意向	13
(2) 住み続けたい理由	17
(3) 市外に移りたい理由	20
2 市の現状と将来	
(1) 市の現在のイメージ	23
(2) 市の将来のイメージ	26
3 子育て・福祉・健康	
(1) 子どもを産み育てられる環境を整える取組	29
(2) 地域包括ケア社会の実現への取組	32
(3) がん検診の受診状況	35
(4) 自殺予防の対策	38
(5) かかりつけ医	41

目 次

4 安全・防災

- (1) 本厚木駅周辺の治安 44
- (2) 防犯対策に効果的な取組 47
- (3) セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくり 50
- (4) 地域の防犯活動への参加 53
- (5) 身に付ける必要がある応急手当・実行可能な応急手当 55

5 人権

- (1) 人権侵害を受けた経験 59
- (2) 人権や差別に対する関心 62

6 国際交流

- (1) 国際交流の取組 65

7 教育・生涯学習・文化・スポーツ

- (1) 現在の教育への取組 68
- (2) 文化芸術活動を充実させる取組 71
- (3) 生涯学習活動に参加する上で支障になること 74
- (4) スポーツをする目的・頻度 77
- (5) 開催してほしいスポーツイベント 85

8 環境

- (1) 地球温暖化防止への取組 88
- (2) 自然環境や生態系を守るための取組 91
- (3) 資源とごみの分別 93
- (4) ごみの減量化・資源化の推進 95
- (5) 河川整備への取組 98

9 観光

- (1) 観光の活性化への取組 102

10	まちづくり	
(1)	まちづくり全般の変化	105
(2)	日常利用する施設の場所	128
(3)	自宅周辺に必要な施設	132
(4)	本厚木駅周辺のイメージ	136
(5)	仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと	139
(6)	将来的なまちづくりで優先的に必要な取組	142
11	交通・道路	
(1)	本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段	145
(2)	本厚木駅周辺で主に利用する駐車場	149
(3)	市内のバス交通への取組	151
(4)	市内の道路の現状	155
(5)	道路整備への取組	159
12	広報	
(1)	家庭で利用する情報機器	163
(2)	市の情報の入手方法	166
13	行政	
(1)	市の施設の利用料	169
(2)	行政サービスのデジタル化推進への取組	172
(3)	より良い市民サービスを維持していく取組	175
(4)	市に必要な施設	178
(5)	市の施設の利用状況	181
14	自由意見	
(1)	本調査や市に関する意見	183
IV.	調査票と集計結果	
1	調査票 (A)	191
2	調査票 (B)	203

I. 調査の概要

1 調査の目的

市民のまちづくりに対する考えや市民生活に密着した事項について、市民の意識や市民ニーズを把握するとともに、今後の市政運営等の基礎資料とすることを目的に実施したものである。

2 調査項目

- | | | |
|---------------|---------------------|------------|
| (1) 暮らしの状況 | (6) 国際交流 | (11) 交通・道路 |
| (2) 市の現状と将来 | (7) 教育・生涯学習・文化・スポーツ | (12) 広報 |
| (3) 子育て・福祉・健康 | (8) 環境 | (13) 行政 |
| (4) 安全・防災 | (9) 観光 | |
| (5) 人権 | (10) まちづくり | |

3 調査設計

- | | |
|------------|---|
| (1) 調査地域 | 厚木市全域 |
| (2) 調査対象 | 厚木市在住の18歳以上の男女（外国籍市民含む） |
| (3) 調査対象者数 | 調査票A：3,000人
調査票B：3,000人 総対象6,000人 |
| (4) 抽出方法 | 無作為抽出法（年代及び居住地区は全体の構成比に基づく） |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収またはインターネット回答 |
| (6) 調査期間 | 令和7年7月1日～7月20日 |

4 回収結果

- | | |
|-----------|--|
| (1) 有効回収数 | 調査票A：1,487人（郵送回収 979人、インターネット回答508人）
調査票B：1,451人（郵送回収 979人、インターネット回答472人）
総回収：2,938人（郵送回収1,958人、インターネット回答980人） |
| (2) 回収率 | 調査票A：49.6%
調査票B：48.4%
平均：49.0% |

5 報告書の見方

- (1) 図表中の「n」（Number of Casesの略）は、各設問の回答者数のことである。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。

- (5) 設問によっては、過去に実施した「厚木市民意識調査」の結果と比較している。
- (6) 回答者数が20に満たないものについては、図表に示すに留め、この報告書の中では特に取りあげていない。
- (7) 集計結果の比率を考察する上では、割合表現を以下のとおりとした。ただし複数の選択肢または年代などの項目をまとめて考察する場合は必ずしもこの限りではない。

回答の比率（例）	割合表現	回答の比率（例）	割合表現
20.0%	2割	24.0%～25.9%	2割半ば
20.1%～20.9%	約2割	26.0%～27.4%	2割半ばを超え
21.0%～22.4%	2割を超え	27.5%～28.9%	3割近く
22.5%～23.9%	2割半ば近く	29.0%～29.9%	約3割

6 標本誤差

今回の調査は、調査対象となる母集団（厚木市全域に住む満18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（P）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

N = 母集団数
 （厚木市の満18歳以上人口）
 n = 比率算出の基数（回答者数）
 p = 回答の比率（%）

(注) $\frac{N-n}{N-1} \div 1$

今回の調査結果の標本誤差は次表のようになる。（この表の計算式の信頼度は95%）

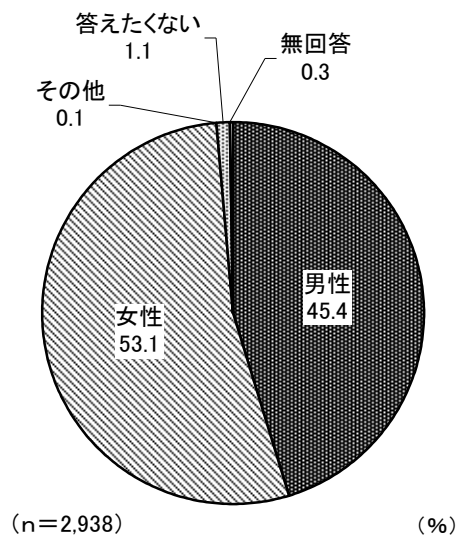
p n（基数）	回 答 比 率				
	90%または 10%	80%または 20%	70%または 30%	60%または 40%	50%
2,938票	±1.08	±1.45	±1.66	±1.77	±1.81
1,487票	±1.52	±2.03	±2.33	±2.49	±2.54
1,451票	±1.54	±2.06	±2.36	±2.52	±2.57
1,000票	±1.86	±2.48	±2.84	±3.04	±3.10
500票	±2.63	±3.51	±4.02	±4.29	±4.38
300票	±3.39	±4.53	±5.19	±5.54	±5.66
100票	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.80

例えば、問1の「厚木市に住み続けたいですか。」という質問に対して、「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」と答えた『転出意向』のある人は、2,938人のうち8.0%であった。回答者数が2,938人、回答率が10%前後のときの標本誤差は、上の表では±1.08%であるから、『転出意向』のある人は、厚木市在住の18歳以上の男女全体（母集団）の6.92%から9.08%の間にあると推定できる。（信頼度が95%のため、この推定は95%の確率で正しいといえる。）

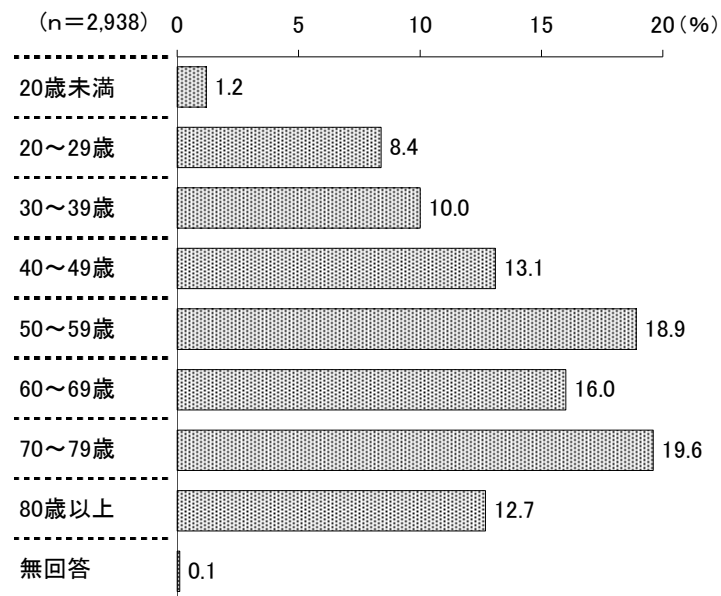
Ⅱ. 回答者の属性

1 回答者の属性

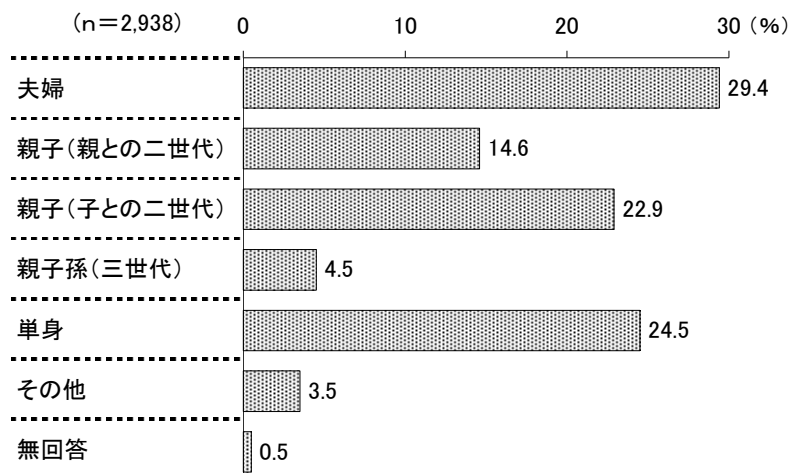
(1) 性別



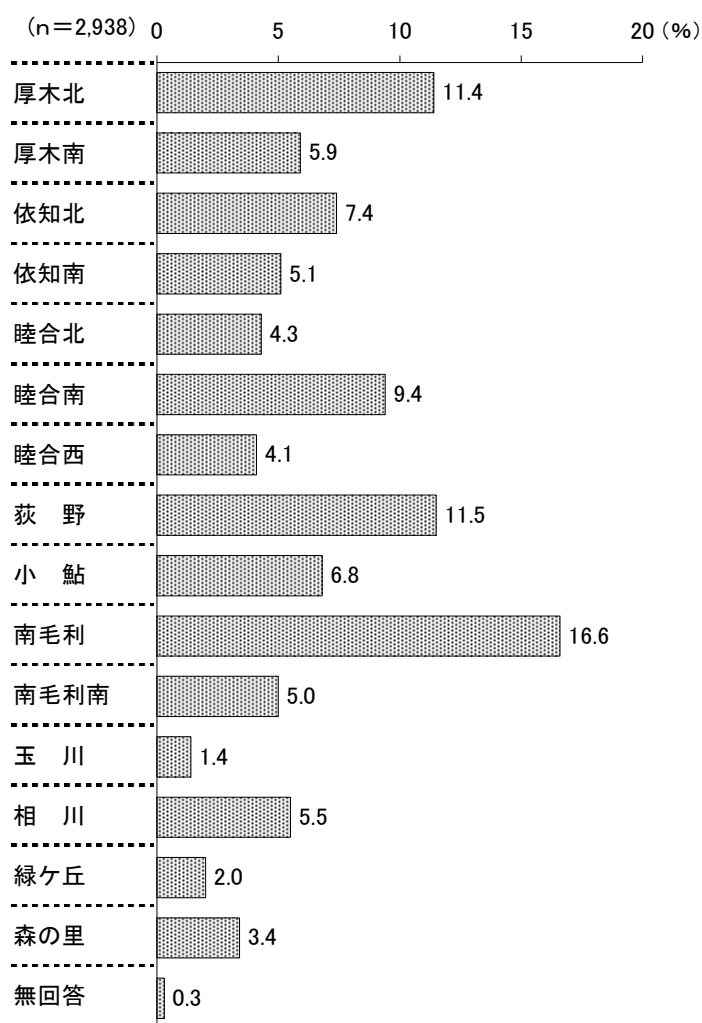
(2) 年齢



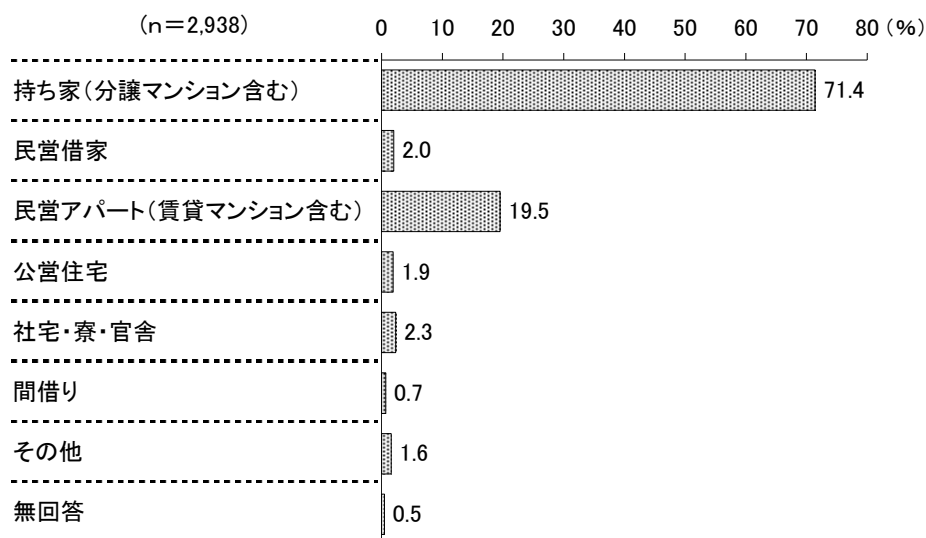
(3) 家族構成



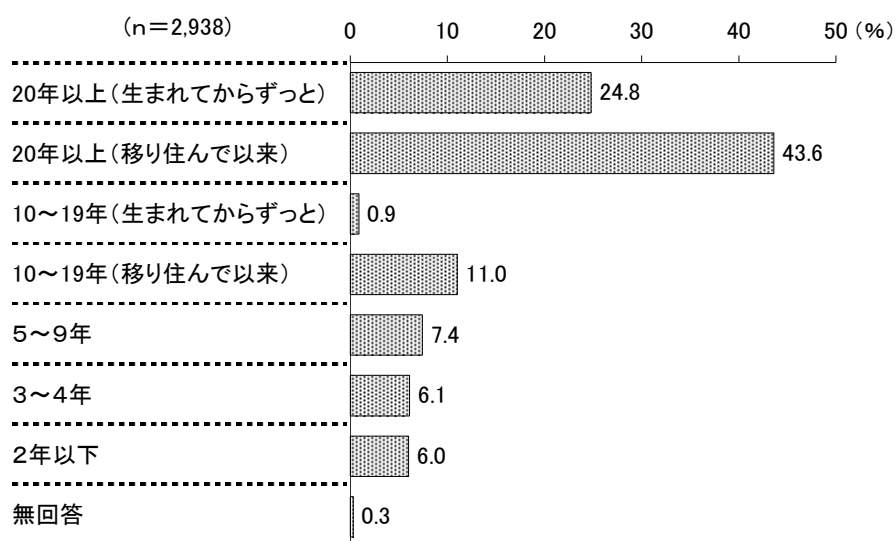
(4) 居住地区



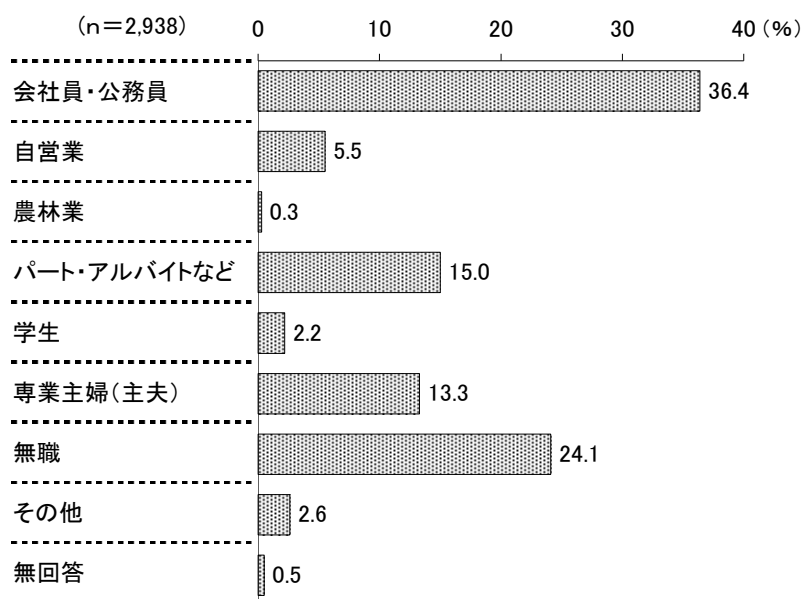
(5) 住居形態



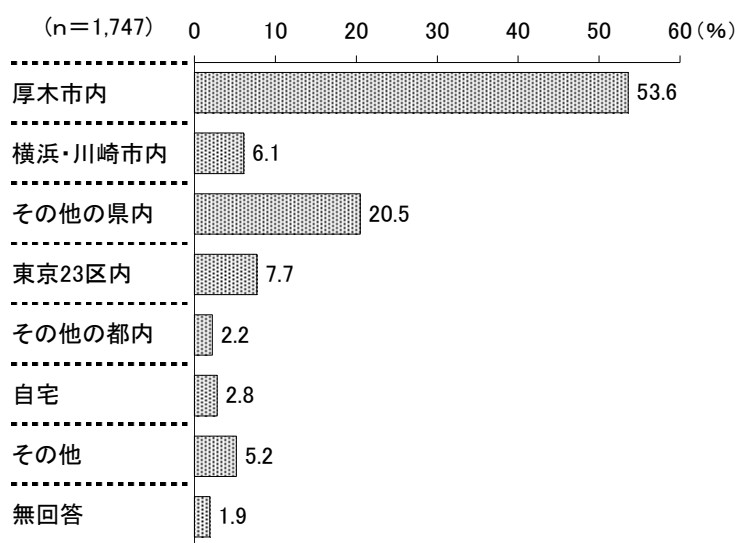
(6) 居住年数



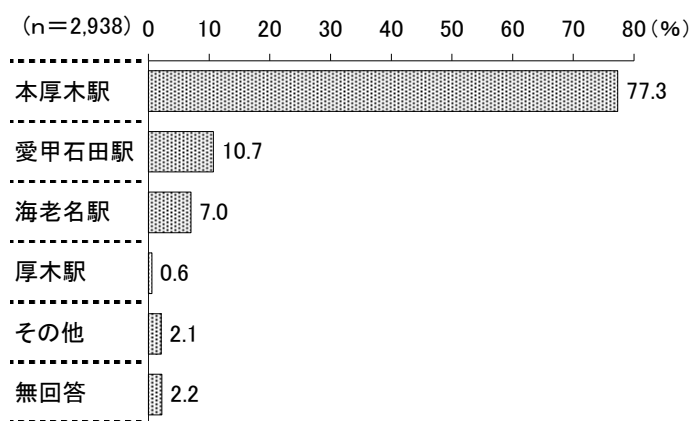
(7) 職業



(8) 通勤（通学）先



(9) 最寄駅



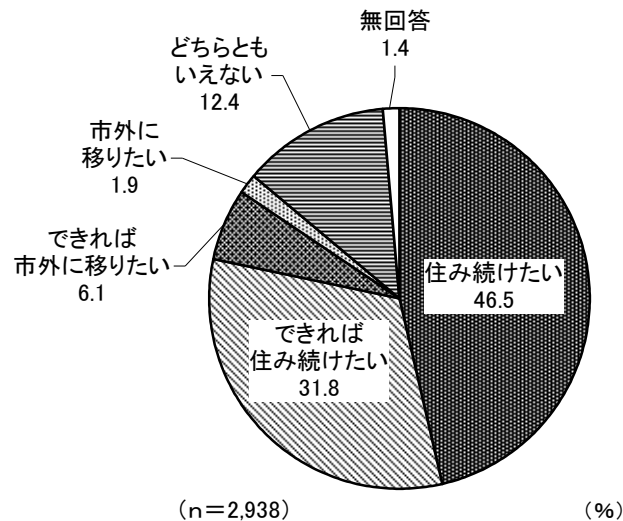
Ⅲ. 意識調査結果

1 暮らしの状況

(1) 定住意向 (A・B：問1)

問. 厚木市に住み続けたいですか。(1つだけ選んでください)

図1-1-1 定住意向



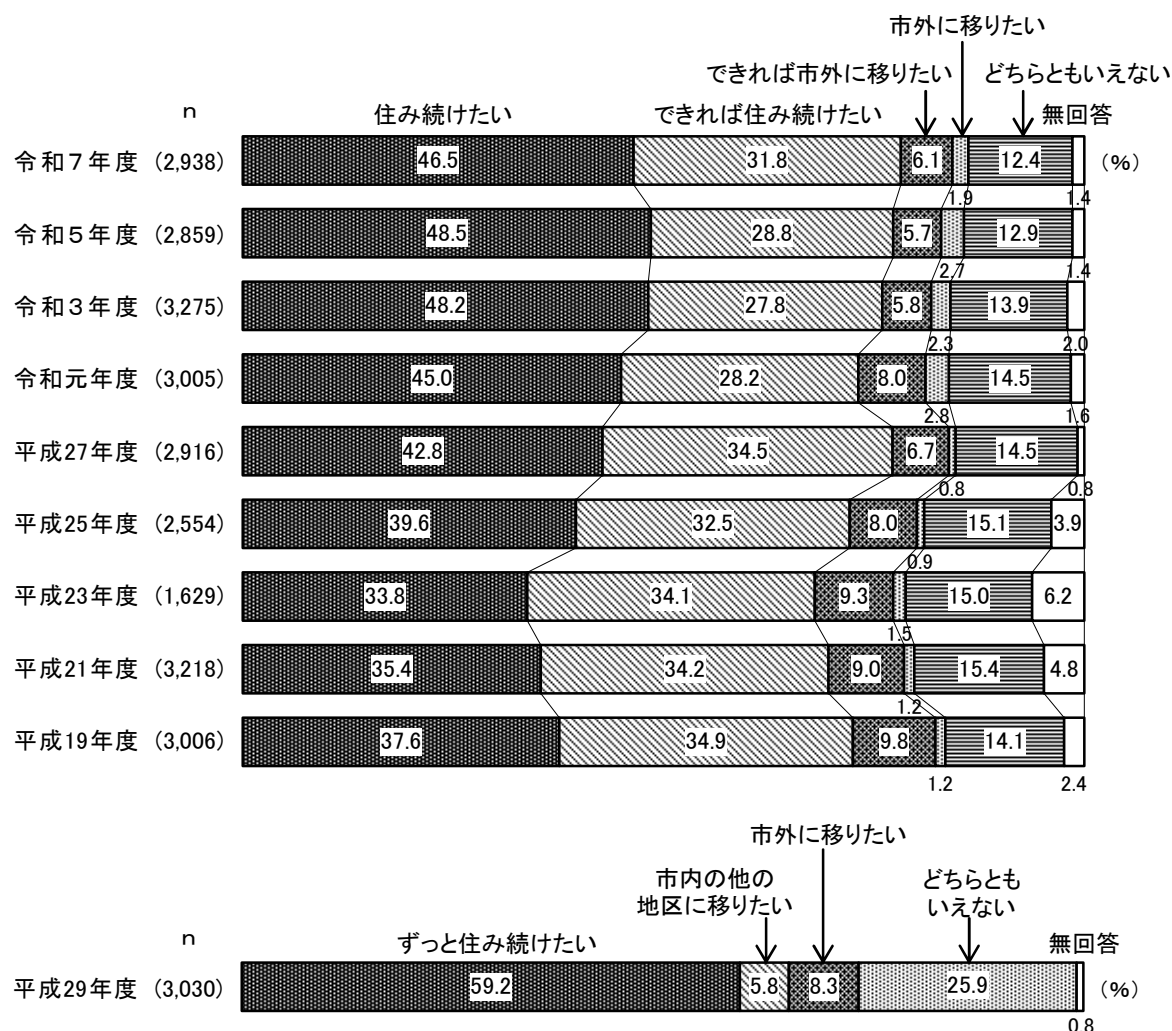
【全体】

厚木市への定住意向について聞いたところ、「住み続けたい」(46.5%)と「できれば住み続けたい」(31.8%)の2つを合わせた『定住意向』(78.3%)が8割近くで高くなっている。一方、「できれば市外に移りたい」(6.1%)と「市外に移りたい」(1.9%)の2つを合わせた『転出意向』(8.0%)は1割未満となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「できれば住み続けたい」（31.8％）は令和5年度調査（28.8％）より3.0ポイント増加している。

図 1－1－2 定住意向－経年変化



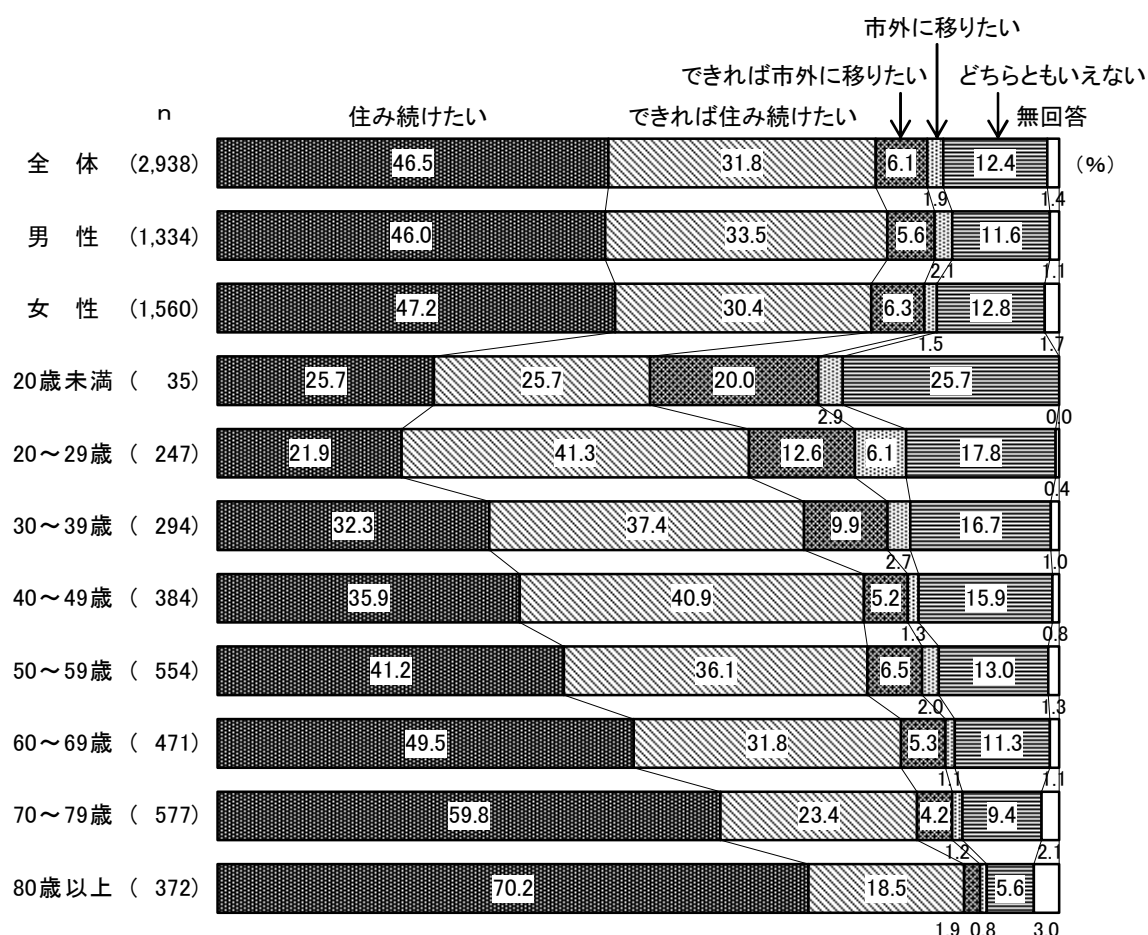
（注）平成29年度調査では、「現在お住まいの地区にずっと住み続けたいですか。（1つだけ選んでください）」と質問しており、選択肢を「ずっと住み続けたい」、「市内の他の地区に移りたい」、「市外に移りたい」、「どちらともいえない」としていたため、平成29年度の調査結果は参考掲載とする。

【属性別】

性別で見ると、男性では「できれば住み続けたい」（33.5%）が女性（30.4%）より3.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『定住意向』は80歳以上（88.7%）で9割近く、70～79歳（83.2%）で8割半ば近く、60～69歳（81.3%）で8割を超えて高くなっている。

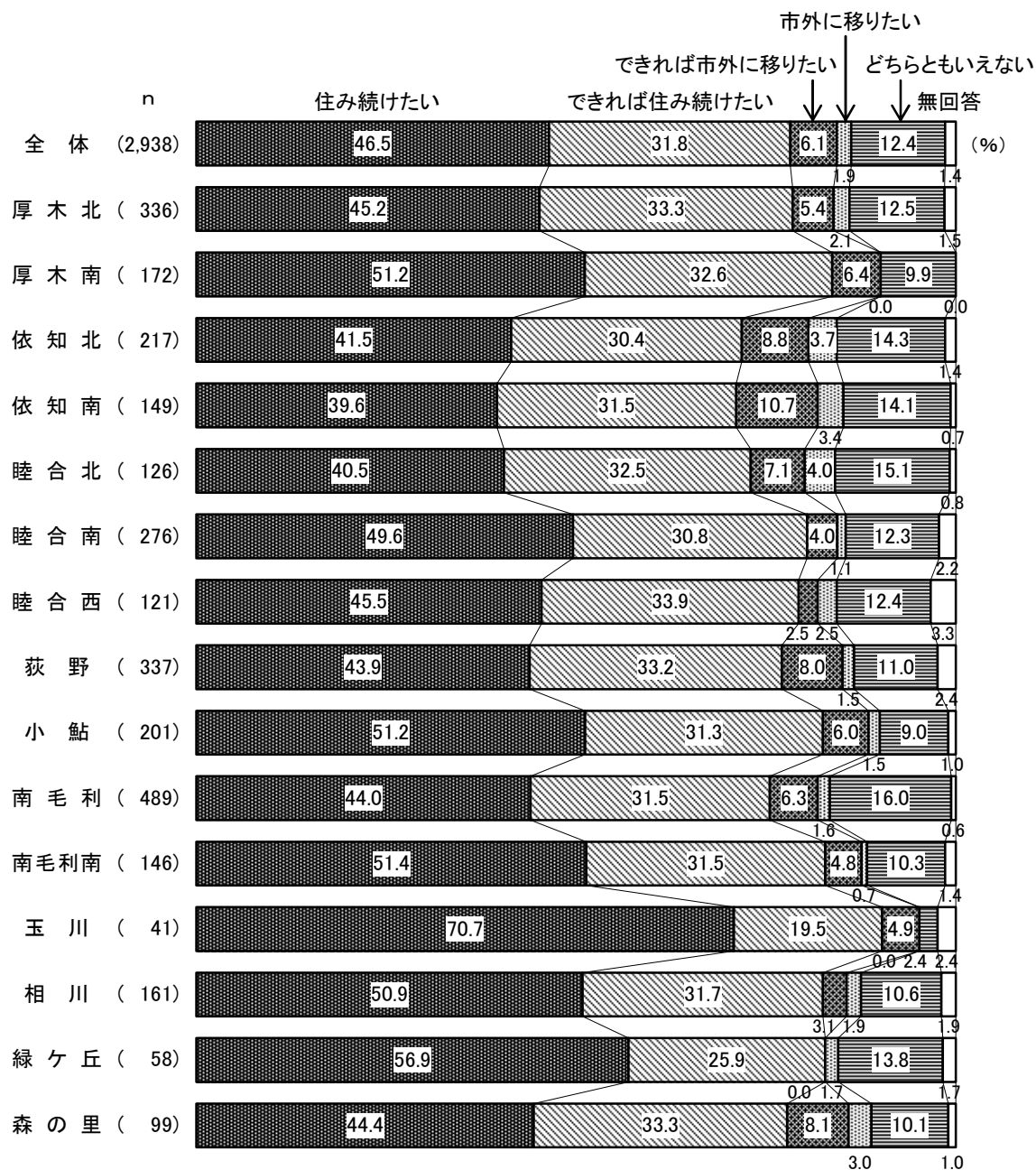
図1-1-3 定住意向－性別、年齢別



【属性別】

居住地区別で見ると、『定住意向』は玉川(90.2%)で約9割と最も高く、次いで厚木南(83.8%)で8割半ば近くとなっている。一方、依知南(71.1%)と依知北(71.9%)では7割超える程度にとどまっている。

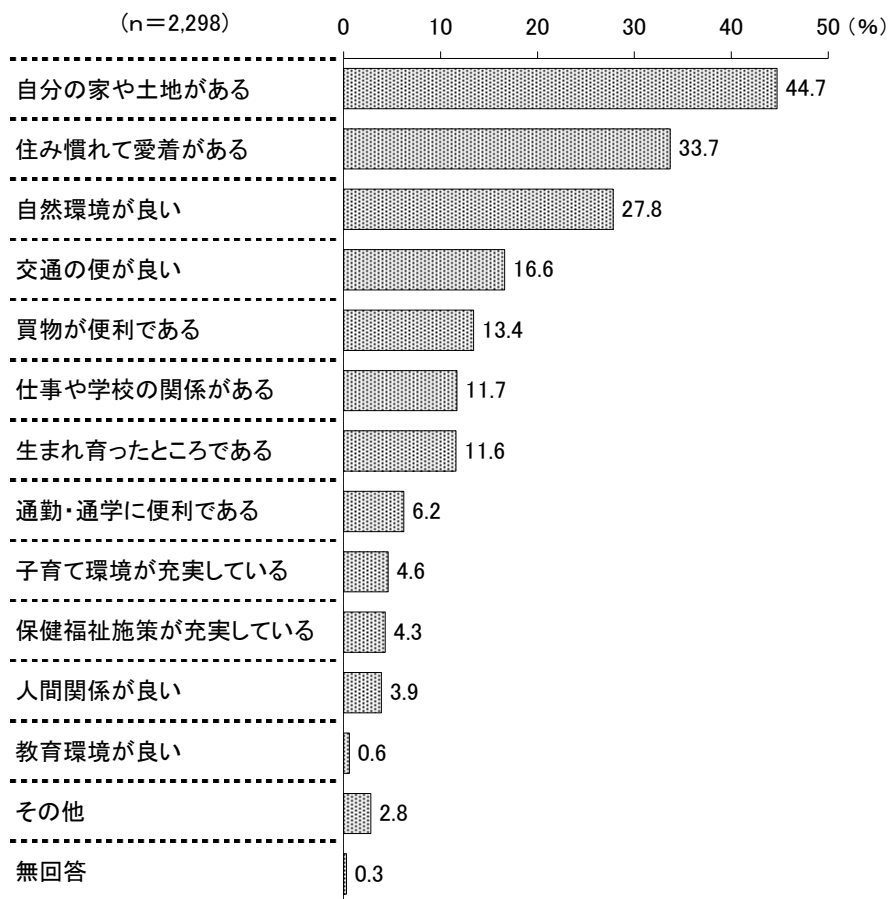
図1-1-4 定住意向—居住地区別



(2) 住みたい理由 (A・B：問2)

問.「住みたい」または「できれば住みたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。
(2つまで選んでください)

図1-2-1 住みたい理由



【全体】

厚木市に「住みたい」または「できれば住みたい」と答えた2,298人に、住みたい理由について聞いたところ、「自分の家や土地がある」(44.7%)が4割半ばで最も高く、次いで「住み慣れて愛着がある」(33.7%)、「自然環境が良い」(27.8%)、「交通の便が良い」(16.6%)、「買物が便利である」(13.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は令和5年度調査と同じ順位となっている。

表1－2－1 住み続けたい理由－経年変化

(%)

調 査 年	n	自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	交通の便が良い	買物が便利である	仕事や学校の関係がある	生まれ育ったところである	通勤・通学に便利である	子育て環境が充実している	保健福祉施策が充実している	人間関係が良い	教育環境が良い	その他	無回答
令和7年度	2,298	44.7	33.7	27.8	16.6	13.4	11.7	11.6	6.2	4.6	4.3	3.9	0.6	2.8	0.3
令和5年度	2,211	45.7	33.7	29.4	16.0	12.2	10.1	11.6	4.4	5.5	3.3	4.4	0.6	3.6	0.2
令和3年度	2,492	43.3	33.2	32.7	16.2	10.9	9.0	11.6	4.1	6.9	4.0	4.6	1.2	3.3	0.3
令和元年度	2,201	46.8	35.5	26.4	15.5	9.8	10.1	12.7	5.0	6.7	3.5	4.7	1.3	3.2	0.3
平成29年度	1,793	45.2	32.3	29.7	18.5	11.7	6.4	11.5	4.4	4.0	3.1	7.3	1.1	2.3	0.4
平成27年度	2,253	48.9	33.5	27.9	14.0	8.6	9.5	14.4	3.6	8.5	2.5	5.6	0.6	2.9	1.0
平成25年度	1,842	44.1	32.2	32.0	15.0	9.9	9.3	13.4	4.5	5.1	3.5	5.3	0.5	3.3	0.8
平成23年度	1,106	52.8	33.4	31.0	12.6	6.6	9.0	13.5	5.2	4.4	2.9	6.1	0.4	3.4	2.3
平成21年度	2,237	54.7	35.0	29.8	12.5	7.3	9.4	14.9	3.6	－	2.8	5.7	1.2	2.0	0.7
平成19年度	2,178	53.9	35.2	30.9	10.1	9.1	8.3	15.2	2.9	－	3.4	7.0	0.6	1.7	2.2

（注1）平成29年度調査では、現在住んでいる地区に「ずっと住み続けたい」と答えた人に対して質問していたため、平成29年度の調査結果は参考記載とする。

（注2）平成23年度調査以降では、「子育て環境が充実している」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、男性では「自然環境が良い」（29.7％）が女性（26.2％）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自分の家や土地がある」は60～69歳以上の年代で5割を超えて高くなっている。「住み慣れて愛着がある」は70～79歳（38.3％）で4割近くと高くなっている。「自然環境が良い」は70～79歳（35.2％）と80歳以上（34.5％）で3割半ばと高くなっている。

居住年数別で見ると、「自分の家や土地がある」は20年以上（移り住んで以来）（52.8％）で5割半ば近くと高くなっている。「住み慣れて愛着がある」は20年以上（移り住んで以来）（43.2％）で4割半ば近くと高くなっている。「自然環境が良い」は5～9年（34.9％）で3割半ばと高くなっている。「生まれ育ったところである」は20年以上（生まれてからずっと）（38.0％）で4割近くと高くなっている。

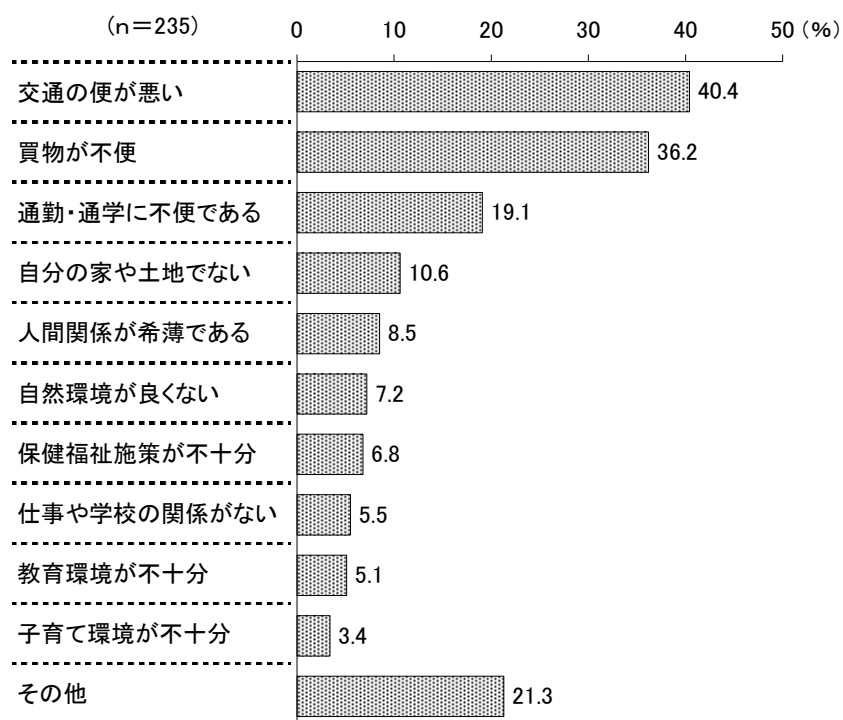
表1－2－2 住み続けたい理由－性別、年齢別、居住年数別

			(%)													
		n	自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	交通の便が良い	買物が便利である	仕事や学校の関係がある	生まれ育ったところである	通勤・通学に便利である	子育て環境が充実している	保健福祉施策が充実している	人間関係が良い	教育環境が良い	その他	無回答
全 体		2,298	44.7	33.7	27.8	16.6	13.4	11.7	11.6	6.2	4.6	4.3	3.9	0.6	2.8	0.3
性別	男 性	1,061	43.9	32.7	29.7	17.6	12.6	13.0	12.0	7.3	3.2	3.7	2.7	0.3	2.5	0.4
	女 性	1,211	45.4	34.8	26.2	15.6	14.2	10.7	11.2	5.1	5.8	4.7	5.0	0.8	3.1	0.3
年齢別	20 歳 未 満	18	5.6	55.6	16.7	27.8	11.1	0.0	44.4	11.1	5.6	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
	20 ～ 29 歳	156	14.7	23.7	25.6	19.9	15.4	22.4	19.9	14.1	16.0	2.6	1.3	1.9	5.8	0.0
	30 ～ 39 歳	205	29.3	21.0	19.0	15.1	14.1	21.5	18.5	16.1	16.6	1.5	2.4	2.9	2.9	1.5
	40 ～ 49 歳	295	42.7	33.9	20.0	14.6	11.5	21.0	12.9	11.2	11.9	2.4	3.4	0.7	1.0	0.0
	50 ～ 59 歳	428	47.2	32.2	26.2	18.7	13.6	16.6	10.3	7.9	1.9	2.6	3.5	0.0	3.0	0.0
	60 ～ 69 歳	383	51.2	36.0	26.4	17.5	13.1	12.0	11.0	3.7	0.5	4.4	3.1	0.3	2.6	0.3
	70 ～ 79 歳	480	51.9	38.3	35.2	15.6	13.8	2.3	9.6	0.8	0.0	5.6	5.4	0.2	2.7	0.6
	80 歳 以 上	330	51.5	37.3	34.5	14.5	13.3	0.3	6.1	0.0	0.0	8.8	5.5	0.0	3.3	0.3
居住年数別	20年以上(生まれてからずっと)	603	51.2	32.7	21.1	11.9	6.8	7.1	38.0	4.1	3.3	1.5	3.6	0.7	1.3	0.2
	20年以上(移り住んで以来)	1,062	52.8	43.2	30.3	15.8	13.1	8.5	1.8	3.0	1.0	5.6	4.9	0.1	2.6	0.2
	10～19年(生まれてからずっと)	13	7.7	53.8	7.7	38.5	0.0	0.0	53.8	15.4	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0
	10～19年(移り住んで以来)	230	35.7	24.8	29.1	22.6	20.0	14.8	1.7	9.1	12.2	4.8	2.6	1.7	3.0	0.0
	5 ～ 9 年	152	26.3	20.4	34.9	17.1	16.4	27.0	0.7	16.4	9.2	7.2	0.7	0.0	4.6	2.0
	3 ～ 4 年	121	17.4	9.9	28.9	26.4	22.3	23.1	3.3	14.9	14.0	1.7	3.3	1.7	7.4	1.7
	2 年 以 下	112	10.7	8.0	27.7	22.3	25.0	30.4	2.7	17.0	13.4	4.5	3.6	1.8	5.4	0.0

（３）市外に移りたい理由（Ａ・Ｂ：問３）

問.「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。（２つまで選んでください）

図１－３－１ 市外に移りたい理由



【全体】

「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」と答えた235人に、市外に移りたい理由について聞いたところ、「交通の便が悪い」（40.4％）が約４割で最も高く、次いで「買物が不便」（36.2％）、「通勤・通学に不便である」（19.1％）、「自分の家や土地でない」（10.6％）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は令和5年度調査と同じ順位となっており、「買物が不便」(36.2%)は令和5年度調査(32.2%)より4.0ポイント増加し、「自分の家や土地でない」(10.6%)は令和5年度調査(14.2%)より3.6ポイント減少している。

表1－3－1 市外に移りたい理由－経年変化

(%)

調査年	n	交通の便が悪い	買物が不便	通勤・通学に不便である	自分の家や土地でない	人間関係が希薄である	自然環境が良くない	保健福祉施策が不十分	仕事や学校の関係がない	教育環境が不十分	子育て環境が不十分	その他	無回答
令和7年度	235	40.4	36.2	19.1	10.6	8.5	7.2	6.8	5.5	5.1	3.4	21.3	－
令和5年度	239	43.1	32.2	18.4	14.2	7.9	4.6	7.9	5.0	2.5	3.3	22.6	0.4
令和3年度	264	40.5	31.1	18.2	12.5	6.8	4.5	6.1	6.8	1.9	1.1	27.3	0.8
令和元年度	322	47.5	32.3	27.6	9.9	7.1	6.8	7.5	3.7	6.5	1.2	21.1	0.3
平成29年度	427	44.7	39.1	16.4	14.1	6.6	8.0	7.5	4.0	1.9	2.1	21.8	1.4
平成27年度	217	39.2	31.3	20.3	11.1	12.4	8.3	6.5	6.0	4.6	6.5	24.4	0.5
平成25年度	227	38.3	31.3	19.4	14.1	11.9	3.5	5.3	4.0	3.1	1.3	30.8	0.0
平成23年度	177	41.2	29.4	22.0	14.1	8.5	8.5	6.2	5.6	6.2	7.9	22.6	2.8
平成21年度	329	45.0	33.1	19.5	10.6	10.3	12.2	8.5	5.2	10.6	－	18.5	0.3
平成19年度	331	42.3	25.4	26.0	10.0	7.6	12.4	9.1	5.4	10.9	－	23.6	0.3

(注1) 平成29年度調査では、現在住んでいる地区から「市内の他の地区に移りたい」または「市外に移りたい」と答えた人に対して質問していたため、平成29年度の調査結果は参考記載とする。

(注2) 平成23年度調査以降では、「子育て環境が不十分」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「買物が不便」(41.5%)が男性(29.1%)より12.4ポイント、「通勤・通学に不便である」(22.8%)が男性(15.5%)より7.3ポイント高くなっている。一方、男性では「自分の家や土地でない」(14.6%)が女性(7.3%)より7.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「交通の便が悪い」は70～79歳(54.8%)で5割半ばと高くなっている。「買物が不便」は70～79歳(64.5%)で6割半ばと高くなっている。「通勤・通学に不便である」は20～29歳(34.8%)で3割半ばと高くなっている。

居住年数別で見ると、「交通の便が悪い」は20年以上(移り住んで以来)(53.7%)で5割半ば近くと高くなっている。「買物が不便」は20年以上(移り住んで以来)(48.8%)で5割近くと高くなっている。「通勤・通学に不便である」は20年以上(生まれてからずっと)(37.9%)で4割近くと高くなっている。「自分の家や土地でない」は3～4年(33.3%)で3割半ば近くと高くなっている。

表1-3-2 市外に移りたい理由一性別、年齢別、居住年数別

(%)													
		n	交通の便が悪い	買物が不便	通勤・通学に不便である	自分の家や土地でない	人間関係が希薄である	自然環境が良くない	保健福祉施策が不十分	仕事や学校の関係がない	教育環境が不十分	子育て環境が不十分	その他
全 体		235	40.4	36.2	19.1	10.6	8.5	7.2	6.8	5.5	5.1	3.4	21.3
性別	男 性	103	36.9	29.1	15.5	14.6	5.8	10.7	9.7	4.9	6.8	2.9	23.3
	女 性	123	43.9	41.5	22.8	7.3	10.6	4.9	4.1	6.5	3.3	3.3	18.7
年 齢 別	20 歳 未 満	8	12.5	37.5	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5
	20 ～ 29 歳	46	41.3	21.7	34.8	19.6	4.3	4.3	0.0	13.0	4.3	2.2	13.0
	30 ～ 39 歳	37	27.0	32.4	24.3	10.8	2.7	10.8	5.4	5.4	13.5	10.8	13.5
	40 ～ 49 歳	25	28.0	20.0	20.0	20.0	16.0	4.0	8.0	0.0	4.0	4.0	24.0
	50 ～ 59 歳	47	46.8	40.4	14.9	4.3	4.3	12.8	6.4	4.3	0.0	2.1	36.2
	60 ～ 69 歳	30	40.0	30.0	10.0	10.0	13.3	0.0	16.7	0.0	6.7	3.3	36.7
	70 ～ 79 歳	31	54.8	64.5	3.2	3.2	16.1	12.9	9.7	0.0	6.5	0.0	9.7
	80 歳 以 上	10	70.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0
居 住 年 数 別	20年以上(生まれてからずっと)	58	37.9	29.3	37.9	3.4	1.7	8.6	6.9	6.9	1.7	3.4	22.4
	20年以上(移り住んで以来)	82	53.7	48.8	12.2	2.4	11.0	6.1	11.0	2.4	6.1	0.0	17.1
	10～19年(生まれてからずっと)	6	16.7	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7
	10～19年(移り住んで以来)	27	29.6	25.9	18.5	14.8	14.8	3.7	0.0	11.1	7.4	3.7	33.3
	5 ～ 9 年	16	43.8	25.0	12.5	37.5	12.5	12.5	12.5	0.0	6.3	12.5	6.3
	3 ～ 4 年	21	28.6	19.0	4.8	33.3	14.3	4.8	0.0	9.5	9.5	4.8	28.6
	2 年 以 下	23	30.4	39.1	4.3	17.4	4.3	13.0	0.0	4.3	4.3	8.7	21.7

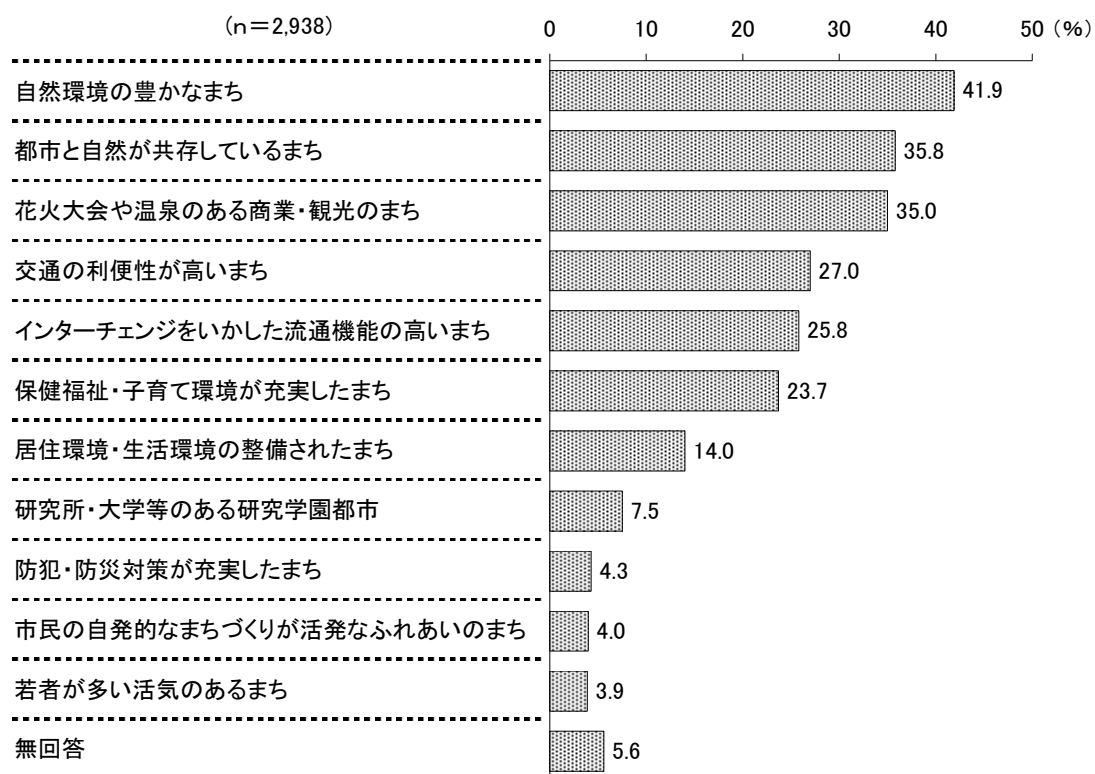
2 市の現状と将来

(1) 市の現在のイメージ (A・B：問4①)

問. 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。

(該当するものを3つまで選んでください)

図2-1-1 市の現在のイメージ



【全体】

市の現在のイメージについて聞いたところ、「自然環境の豊かなまち」(41.9%)が4割を超えて最も高く、次いで「都市と自然が共存しているまち」(35.8%)、「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」(35.0%)、「交通の利便性が高いまち」(27.0%)、「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」(25.8%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自然環境の豊かなまち」は令和5年度調査に引き続き第1位となっている。「都市と自然が共存しているまち」(35.8%)は令和5年度調査(31.1%)より4.7ポイント増加している。

表2-1-1 市の現在のイメージ経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和7年度 (n=2,938)	令和5年度 (n=2,859)	令和3年度 (n=3,275)	令和元年度 (n=3,005)	平成29年度 (n=3,030)	平成27年度 (n=2,916)	平成25年度 (n=2,554)	平成23年度 (n=1,629)	平成21年度 (n=3,218)
1	自然環境の 豊かなまち 41.9	自然環境の 豊かなまち 44.1	自然環境の 豊かなまち 44.0	自然環境の 豊かなまち 43.6	自然環境の 豊かなまち 44.0	自然環境の 豊かなまち 50.9	自然環境の 豊かなまち 48.7	自然環境の 豊かなまち 42.4	花火大会、 鮎、温泉 (飯山、七沢) のまち 45.7
2	都市と自然 が共存して いるまち 35.8	花火大会や 温泉のある 商業・観光の まち 35.0	都市と自然 が共存して いるまち 34.1	花火大会や 温泉のある 商業・観光の まち 38.0	花火大会や 温泉のある 商業・観光の まち 37.9	花火大会や 温泉のある 商業・レジャー のまち 28.5	花火大会や 温泉のある 商業・レジャー のまち 30.1	花火大会や 温泉のある 商業・レジャー のまち 41.0	恵まれた 自然環境を もつまち 41.1
3	花火大会や 温泉のある 商業・観光の まち 35.0	都市と自然 が共存して いるまち 31.1	花火大会や 温泉のある 商業・観光の まち 30.8	都市と自然 が共存して いるまち 28.1	都市と自然 が共存して いるまち 26.8	都市と自然 が共存して いるまち 28.2	都市と自然 が共存して いるまち 24.7	都市と自然 が共存する まち 24.7	都市と自然 が共存する まち 22.6
4	交通の 利便性が 高いまち 27.0	交通の 利便性が 高いまち 26.8	交通の 利便性が 高いまち 28.7	インターチェンジ をいかした 流通機能の 高いまち 26.9	交通の 利便性が 高いまち 24.0	交通の 利便性が 高いまち 24.7	交通の 利便性が 高いまち 23.6	交通の 利便性が 高いまち 19.3	交通の 利便性が 高いまち 16.4
5	インターチェンジ をいかした 流通機能の 高いまち 25.8	インターチェンジ をいかした 流通機能の 高いまち 24.9	保健福祉・ 子育て環境 が充実した まち 28.5	交通の 利便性が 高いまち 24.4	インターチェンジ をいかした 流通機能の 高いまち 23.0	保健福祉・ 子育て環境 が充実した まち 20.3	インターチェンジ をいかした 流通機能の 高いまち 18.4	インターチェンジ をいかした 流通機能の 高いまち 17.0	ハイテク・ 研究開発型 企業の 集まるまち 6.7

(注1)「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」は、平成27年度調査～平成23年度調査では「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」としていた。

(注2)「市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち」は、平成27年度調査～平成21年度調査では「自治活動の活発なふれあいのまち」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（29.4％）が男性（17.5％）より11.9ポイント、「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」（38.3％）が男性（30.7％）より7.6ポイント高くなっている。一方、男性では「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」（31.9％）が女性（20.7％）より11.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自然環境の豊かなまち」は70～79歳（46.6％）で4割半ばを超えて高くなっている。「都市と自然が共存しているまち」は20～29歳（40.5％）と40～49歳（39.6％）で約4割と高くなっている。「花火大会や温泉のある商業・観光のまち」は20歳未満（45.7％）で4割半ばと高くなっている。「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」は60～69歳（31.6％）、50～59歳（31.4％）、40～49歳（31.0％）で3割を超えて高くなっている。「保健福祉・子育て環境が充実したまち」は30～39歳（32.0％）と40～49歳（31.3％）で3割を超えて高くなっている。

表2-1-2 市の現在のイメージ性別、年齢別

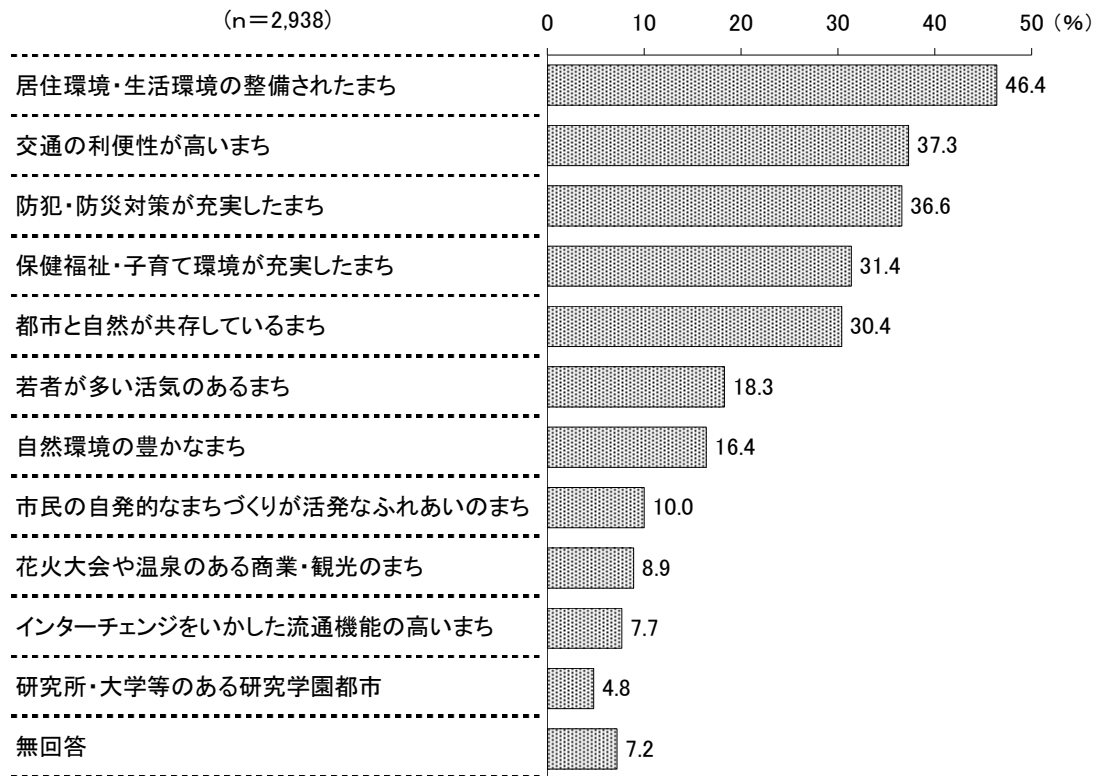
(%)															
			n	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	交通の利便性が高いまち	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	都市研究所・大学等のある研究学園都市	防犯・防災対策が充実したまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	若者が多い活気のあるまち	無回答
全 体			2,938	41.9	35.8	35.0	27.0	25.8	23.7	14.0	7.5	4.3	4.0	3.9	5.6
性別	男 性		1,334	39.9	38.3	30.7	29.5	31.9	17.5	16.5	7.5	4.6	4.2	3.9	4.7
	女 性		1,560	43.5	33.7	38.3	25.1	20.7	29.4	11.7	7.6	4.1	3.8	4.1	6.3
年 齢 別	20 歳 未 満		35	34.3	37.1	45.7	28.6	2.9	22.9	11.4	8.6	2.9	14.3	14.3	0.0
	20 ～ 29 歳		247	36.4	40.5	32.8	29.1	13.8	28.3	14.6	5.3	1.6	1.6	9.3	2.4
	30 ～ 39 歳		294	31.3	37.8	34.7	30.3	22.4	32.0	15.6	3.7	1.7	3.4	5.1	3.4
	40 ～ 49 歳		384	39.6	39.6	37.0	27.6	31.0	31.3	11.5	6.0	3.6	2.9	4.2	2.1
	50 ～ 59 歳		554	43.0	35.4	39.0	25.3	31.4	20.4	13.2	5.6	2.5	3.1	3.1	4.7
	60 ～ 69 歳		471	44.8	38.2	38.0	27.0	31.6	19.7	13.4	7.9	3.6	4.5	1.9	4.7
	70 ～ 79 歳		577	46.6	32.6	33.3	26.5	26.3	23.2	14.6	11.6	6.2	5.4	2.8	6.9
	80 歳 以 上		372	44.4	30.1	25.5	25.3	16.7	17.2	16.1	9.1	9.4	4.8	4.0	14.2

(2) 市の将来のイメージ (A・B：問4②)

問. 厚木市が将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(該当するものを3つまで選んでください)

図2-2-1 市の将来のイメージ



【全体】

市の将来のイメージについて聞いたところ、「居住環境・生活環境の整備されたまち」(46.4%)が4割半ばを超えて最も高く、次いで「交通の利便性が高いまち」(37.3%)、「防犯・防災対策が充実したまち」(36.6%)、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(31.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「居住環境・生活環境の整備されたまち」（46.4％）は令和5年度調査に引き続き第1位となっており、令和5年度調査（42.7％）より3.7ポイント増加している。「防犯・防災対策が充実したまち」（36.6％）は令和5年度調査（31.9％）より4.7ポイント増加している。

表2-2-1 市の将来のイメージ経年変化（上位5項目）

(%)									
順位	令和7年度 (n=2,938)	令和5年度 (n=2,859)	令和3年度 (n=3,275)	令和元年度 (n=3,005)	平成29年度 (n=3,030)	平成27年度 (n=2,916)	平成25年度 (n=2,554)	平成23年度 (n=1,629)	平成21年度 (n=3,218)
1	居住環境・生活環境の整備されたまち 46.4	居住環境・生活環境の整備されたまち 42.7	居住環境・生活環境の整備されたまち 44.8	居住環境・生活環境の整備されたまち 43.7	居住環境・生活環境の整備されたまち 42.4	居住環境・生活環境の整備されたまち 39.6	居住環境・生活環境の整備されたまち 39.3	都市と自然が共存しているまち 39.0	自然環境の豊かな都市 56.3
2	交通の利便性が高いまち 37.3	交通の利便性が高いまち 37.2	交通の利便性が高いまち 34.6	防犯・防災対策が充実したまち 37.6	交通の利便性が高いまち 36.7	交通の利便性が高いまち 36.5	交通の利便性が高いまち 33.6	居住環境・生活環境の整備されたまち 35.4	居住環境・生活環境の整備されたまち 49.7
3	防犯・防災対策が充実したまち 36.6	保健福祉・子育て環境が充実したまち 32.5	防犯・防災対策が充実したまち 34.2	交通の利便性が高いまち 37.5	防犯・防災対策が充実したまち 34.8	保健福祉・子育て環境が充実したまち 36.4	保健福祉・子育て環境が充実したまち 32.5	交通の利便性が高いまち 34.5	防犯・防災対策が充実したまち 47.3
4	保健福祉・子育て環境が充実したまち 31.4	都市と自然が共存しているまち /防犯・防災対策が充実したまち	都市と自然が共存しているまち 31.4	保健福祉・子育て環境が充実したまち 33.0	保健福祉・子育て環境が充実したまち 32.1	都市と自然が共存しているまち 33.0	都市と自然が共存しているまち 31.9	防犯・防災対策が充実したまち 32.5	保健福祉都市 23.2
5	都市と自然が共存しているまち 30.4		保健福祉・子育て環境が充実したまち 30.9	都市と自然が共存しているまち 28.1	都市と自然が共存しているまち 28.8	防犯・防災対策が充実したまち 32.1	防犯・防災対策が充実したまち 30.5	保健福祉・子育て環境が充実したまち 31.4	若者が多い活気のあるまち 20.4

【属性別】

性別で見ると、女性では「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（34.3％）が男性（28.2％）より6.1ポイント、「居住環境・生活環境の整備されたまち」（49.0％）が男性（43.3％）より5.7ポイント高くなっている。一方、男性では「自然環境の豊かなまち」（18.9％）が女性（14.2％）より4.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「居住環境・生活環境の整備されたまち」は50～59歳（55.2％）で5割半ばと高くなっている。「交通の利便性が高いまち」は20歳未満（45.7％）、20～29歳と40～49歳（ともに44.5％）で4割半ばと高くなっている。「防犯・防災対策が充実したまち」は50～59歳（40.8％）、20歳未満（40.0％）、60～69歳（39.9％）で約4割と高くなっている。

表2-2-2 市の将来のイメージ性別、年齢別

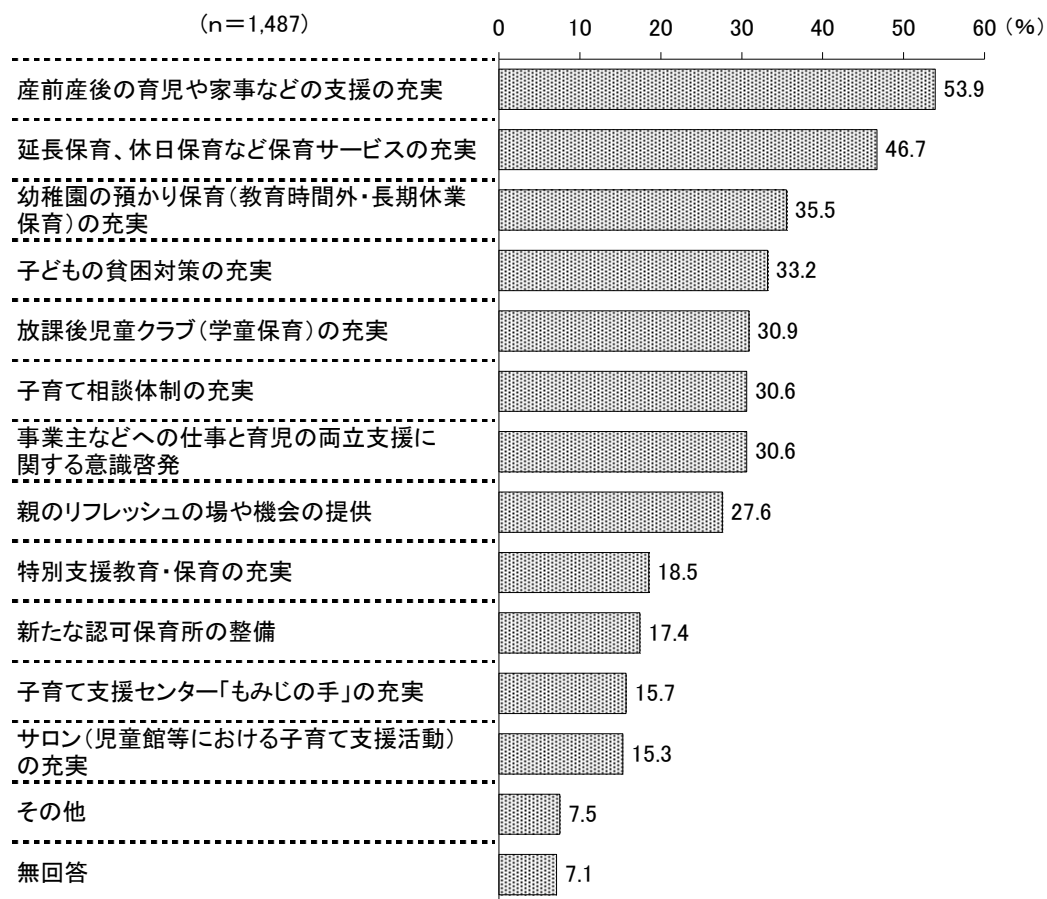
(%)														
														無回答
		n	居住環境・生活環境の整備されたまち	交通の利便性が高いまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	都市と自然が共存しているまち	若者が多い活気のあるまち	自然環境の豊かなまち	市民の自発的なまちづくりが活発なまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	インターネットチェンジをいかした流通機能の高いまち	都市研究所・大学等のある研究学園都市	
全 体		2,938	46.4	37.3	36.6	31.4	30.4	18.3	16.4	10.0	8.9	7.7	4.8	7.2
性別	男 性	1,334	43.3	35.9	35.7	28.2	32.6	19.5	18.9	10.0	8.2	10.0	5.5	6.4
	女 性	1,560	49.0	38.7	37.1	34.3	28.3	17.7	14.2	9.9	9.4	6.0	4.2	8.0
年齢別	20 歳 未 満	35	25.7	45.7	40.0	34.3	25.7	14.3	14.3	11.4	31.4	5.7	0.0	2.9
	20 ～ 29 歳	247	41.7	44.5	29.1	38.1	26.3	21.1	11.3	8.5	12.1	4.0	5.7	4.0
	30 ～ 39 歳	294	45.6	39.5	37.4	37.8	29.3	19.0	12.9	7.8	9.9	8.2	5.1	4.8
	40 ～ 49 歳	384	45.8	44.5	36.5	35.9	31.0	21.4	13.8	9.1	9.9	11.2	3.9	3.4
	50 ～ 59 歳	554	55.2	38.3	40.8	28.0	33.8	13.4	13.7	7.9	10.1	10.6	2.3	4.9
	60 ～ 69 歳	471	51.0	34.0	39.9	30.6	33.1	17.2	19.1	11.0	8.7	4.9	5.3	7.2
	70 ～ 79 歳	577	45.4	31.9	36.4	30.8	31.0	21.1	18.5	12.1	6.1	7.1	5.9	9.4
	80 歳 以上	372	35.5	33.6	30.4	24.5	23.9	17.5	22.8	11.6	5.6	6.7	6.5	15.9

3 子育て・福祉・健康

(1) 子どもを産み育てられる環境を整える取組（A：問5）

問. 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、どのような取組が必要であると思いますか。（5つまで選んでください）

図3-1-1 子どもを産み育てられる環境を整える取組



【全体】

子どもを産み育てられる環境を整える取組について聞いたところ、「産前産後の育児や家事などの支援の充実」（53.9%）が5割半ば近くで最も高く、次いで「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」（46.7%）、「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」（35.5%）、「子どもの貧困対策の充実」（33.2%）、「放課後児童クラブ（学童保育）の充実」（30.9%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「産前産後の育児や家事などの支援の充実」（53.9％）は令和5年度調査に引き続き第1位となっており、令和5年度調査（49.7％）より4.2ポイント増加している。「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」（46.7％）は令和5年度調査に引き続き第2位となっており、令和5年度調査（42.5％）より4.2ポイント増加している。

なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表3-1-1 子どもを産み育てられる環境を整える取組—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和7年度 (n=1,487)	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,471)	平成25年度 (n=1,270)	平成23年度 (n=815)
1	産前産後の育児や家事などの支援の充実 53.9	産前産後の育児や家事などの支援の充実 49.7	産前産後の育児や家事などの支援の充実 44.7	延長保育、休日保育など保育サービスの充実 46.4	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 50.0	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 54.4	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 56.7	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実 67.4
2	延長保育、休日保育など保育サービスの充実 46.7	延長保育、休日保育など保育サービスの充実 42.5	延長保育、休日保育など保育サービスの充実 40.3	産前産後の育児や家事などの支援の充実 45.5	産前産後の育児や家事などの支援の充実 42.8	子ども医療費助成制度の充実 49.0	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 49.9	小児医療(子ども医療費の助成等)の充実 49.0
3	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 35.5	子どもの貧困対策の充実 36.9	子どもの貧困対策の充実 35.7	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 37.0	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 34.9	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 36.6	子ども医療費助成制度の充実 49.7	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 42.2
4	子どもの貧困対策の充実 33.2	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 33.9	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 31.8	子育て相談体制の充実 35.8	子どもの貧困対策の充実 34.5	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実 36.4	産前産後における育児や家事などの支援の充実 44.6	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発 40.0
5	放課後児童クラブ(学童保育)の充実 30.9	放課後児童クラブ(学童保育)の充実 32.3	子育て相談体制の充実 30.2	子どもの貧困対策の充実 35.3	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 32.8	産前産後における育児や家事などの支援の充実 34.7	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 37.8	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実 32.9

(注1)「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」は、平成29年度調査では「延長保育、休日保育、病児保育など保育サービスの充実」としていた。

(注2)「放課後児童クラブ(学童保育)の充実」は、平成29年度調査以前では「放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実」としていた。

(注3)「特別支援教育・保育の充実」は、平成27年度調査では「特別支援教育の充実」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注4)平成27年度調査以前では、「子ども医療費助成の充実」、「経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の学用品費等の支援」、「健康診査や健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の保持増進」、「父親の育児参加に関する意識啓発」、「ファミリー・サポート・センター(会員相互による育児の援助活動)の充実」、「子育てサークル、自主グループ、NPO等の育成」の選択肢を追加していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「放課後児童クラブ（学童保育）の充実」（35.5%）が男性（26.0%）より9.5ポイント高くなっている。一方、男性では「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」（39.3%）が女性（32.3%）より7.0ポイント、「産前産後の育児や家事などの支援の充実」（57.6%）が女性（51.0%）より6.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「産前産後の育児や家事などの支援の充実」は20～29歳（76.9%）で7割半ばを超えて高くなっている。「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」は40～49歳（52.3%）と60～69歳（51.7%）で5割を超えて高くなっている。「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」は20～29歳（51.5%）で5割を超えて高くなっている。

表3-1-2 子どもを産み育てられる環境を整える取組一性別、年齢別

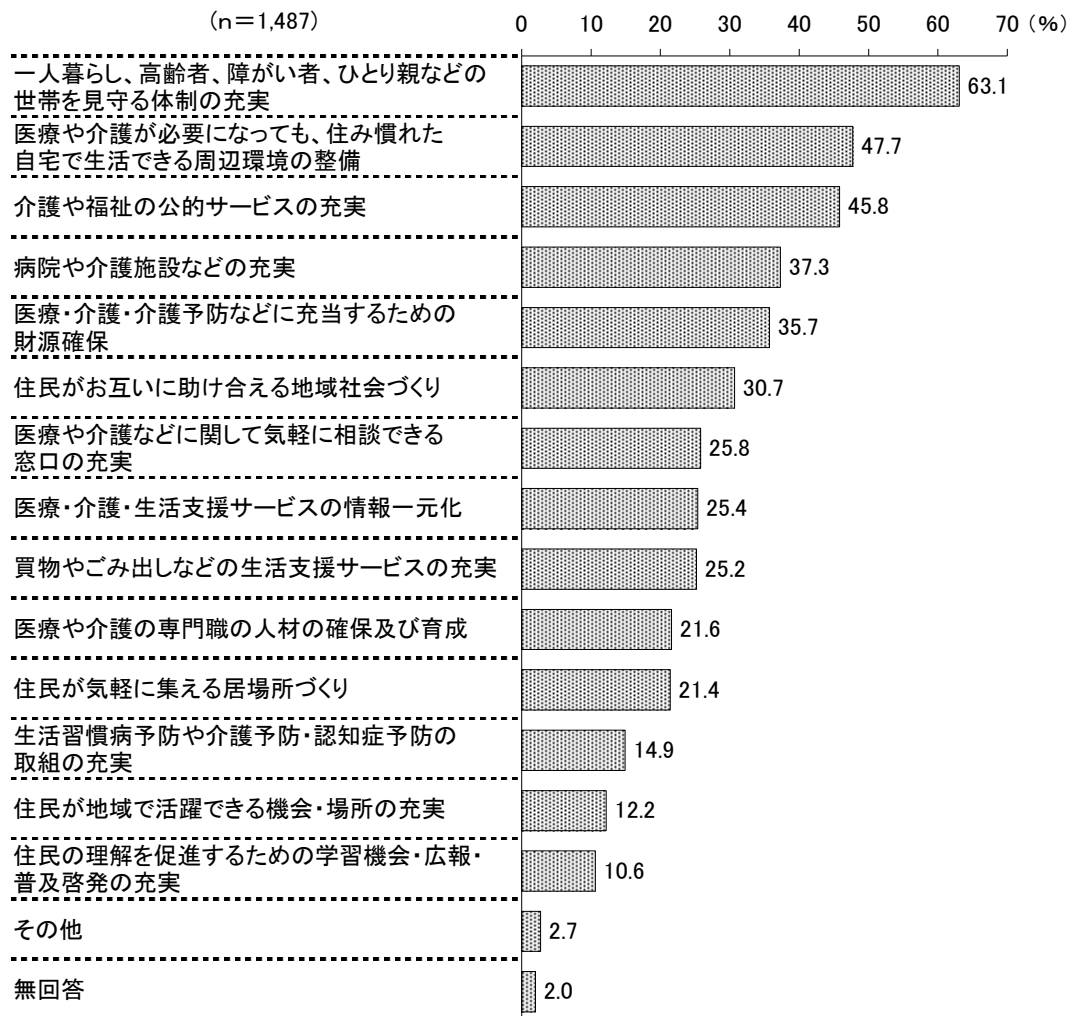
(%)																
		n	産前産後の育児や家事などの支援の充実	延長保育、休日保育など保育サービスの充実	間外・長期休業保育（教育時間外・長期休業保育）の充実	幼稚園の預かり保育（学童保育）の充実	放課後児童クラブ（学童保育）の充実	子育て相談体制の充実	両立支援に関する意識啓発	親のフレキシブルな働き方への支援	特別支援教育・保育の充実	新たな認可保育所の整備	子育て支援センター「もみじの手」の充実	サロン（児童館等における子育て支援活動）の充実	その他	無回答
全 体		1,487	53.9	46.7	35.5	33.2	30.9	30.6	30.6	27.6	18.5	17.4	15.7	15.3	7.5	7.1
性別	男 性	672	57.6	45.2	39.3	33.3	26.0	31.1	29.9	27.2	18.5	20.7	16.1	15.2	8.0	5.4
	女 性	798	51.0	48.1	32.3	32.5	35.5	30.3	31.3	27.9	18.4	14.5	15.4	15.4	6.9	8.6
年齢別	20 歳 未 満	17	88.2	17.6	29.4	35.3	23.5	52.9	47.1	47.1	23.5	11.8	0.0	17.6	11.8	0.0
	20 ～ 29 歳	130	76.9	50.0	51.5	33.1	19.2	20.8	23.1	33.1	15.4	23.1	7.7	14.6	2.3	0.8
	30 ～ 39 歳	152	68.4	44.1	33.6	20.4	28.9	22.4	21.1	40.8	15.8	28.3	18.4	19.7	7.2	1.3
	40 ～ 49 歳	195	49.7	52.3	35.4	43.6	30.8	23.1	36.4	25.1	16.4	15.9	10.8	10.3	11.3	2.1
	50 ～ 59 歳	276	50.0	49.3	34.1	34.8	29.3	29.7	28.3	28.6	17.4	19.2	13.0	13.0	11.2	4.3
	60 ～ 69 歳	236	53.8	51.7	41.1	33.1	32.6	40.7	36.4	26.7	24.6	16.9	19.1	15.3	5.1	3.8
	70 ～ 79 歳	293	46.1	45.1	31.7	34.1	39.6	33.1	32.8	20.1	19.1	12.3	19.1	17.4	5.8	13.0
	80 歳 以上	186	45.2	36.0	27.4	29.0	28.5	34.4	29.0	25.3	17.2	12.9	19.9	16.7	7.0	21.0

（２）地域包括ケア社会の実現への取組（Ａ：問６）

問．誰もが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる社会（地域包括ケア社会）の実現について、どのような取組が必要だと思いますか。

（５つまで選んでください）

図３－２－１ 地域包括ケア社会の実現への取組



【全体】

地域包括ケア社会の実現への取組について聞いたところ、「一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実」（63.1%）が6割半ば近くで最も高く、次いで「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備」（47.7%）、「介護や福祉の公的サービスの充実」（45.8%）、「病院や介護施設などの充実」（37.3%）、「医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保」（35.7%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保」（35.7％）は令和5年度調査（30.9％）より4.8ポイント、「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備」（47.7％）は令和5年度調査（44.6％）より3.1ポイント、「病院や介護施設などの充実」（37.3％）は令和5年度調査（34.2％）より3.1ポイント増加している。一方、「住民がお互いに助け合える地域社会づくり」（30.7％）は令和5年度調査（34.4％）より3.7ポイント減少している。

表3-2-1 地域包括ケア社会の実現への取組—経年変化

調査年	n	(%)															無回答
		一人暮らしなどの世帯を見守る体制の充実	医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備	介護や福祉の公的サービスの充実	病院や介護施設などの充実	医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保	住民がお互いに助け合える地域社会づくり	医療や介護などに關して気軽に相談できる窓口の充実	医療・介護・生活支援サービスの情報一元化	買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実	医療や介護の専門職の人材の確保及び育成	住民が気軽に集える居場所づくり	生活習慣病予防や介護予防・認知症予防の取組の充実	住民が地域で活躍できる機会・場所の充実	住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実	その他	
令和7年度	1,487	63.1	47.7	45.8	37.3	35.7	30.7	25.8	25.4	25.2	21.6	21.4	14.9	12.2	10.6	2.7	2.0
令和5年度	1,446	65.0	44.6	43.8	34.2	30.9	34.4	25.4	24.3	27.0	22.8	24.3	12.1	12.9	10.2	3.5	1.6
令和3年度	1,603	64.7	48.0	46.4	38.0	32.8	36.2	30.7	—	23.2	20.6	21.6	14.5	10.5	8.5	2.6	2.2
令和元年度	1,467	65.4	47.0	47.9	39.1	38.5	36.2	29.0	—	25.2	25.7	23.6	17.0	13.4	9.3	3.5	1.7
平成29年度	1,480	62.2	45.6	46.6	40.7	37.2	38.6	31.1	—	22.1	22.8	23.3	19.5	12.0	7.2	2.1	3.1

（注1）令和5年度調査以降では、「医療・介護・生活支援サービスの情報一元化」の選択肢を追加している。

（注2）令和3年度調査以前では、「医療や介護の専門職同士の連携強化」の選択肢を追加していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「介護や福祉の公的サービスの充実」（48.2％）が男性（43.3％）より4.9ポイント、「医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実」（27.9％）が男性（23.4％）より4.5ポイント高くなっている。一方、男性では「住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実」（13.2％）が女性（8.4％）より4.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実」は70～79歳（67.6％）で7割近くと高くなっている。「医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備」は60～69歳（51.7％）で5割を超えて高くなっている。「介護や福祉の公的サービスの充実」は60～69歳（59.7％）で約6割と高くなっている。

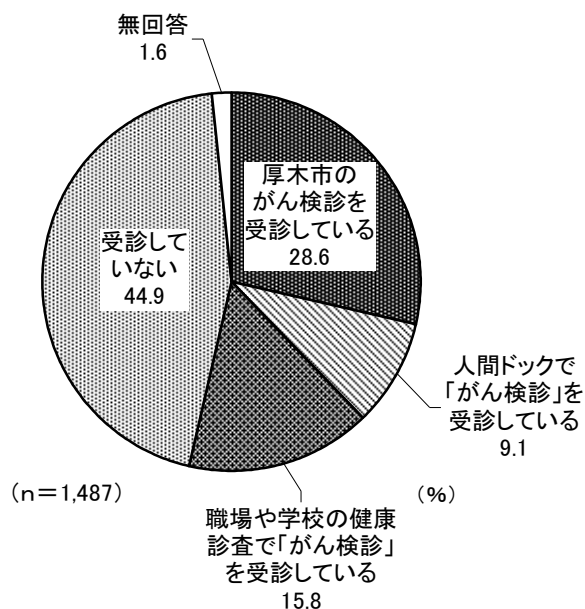
表3-2-2 地域包括ケア社会の実現への取組一性別、年齢別

(%)																		
		n	一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実	医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備	介護や福祉の公的サービスの充実	病院や介護施設などの充実	医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保	住民がお互いに助け合える地域社会づくり	医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実	医療・介護・生活支援サービスの情報一元化	買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実	医療や介護の専門職の人材の確保及び育成	住民が気軽に集える居場所づくり	生活習慣病予防や介護予防・認知症予防の取組の充実	住民が地域で活躍できる機会・場所の充実	住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実	その他	無回答
全 体		1,487	63.1	47.7	45.8	37.3	35.7	30.7	25.8	25.4	25.2	21.6	21.4	14.9	12.2	10.6	2.7	2.0
性別	男 性	672	62.9	46.3	43.3	36.3	34.4	31.1	23.4	23.4	23.4	22.6	19.9	14.3	14.0	13.2	3.9	2.1
	女 性	798	63.5	48.9	48.2	38.0	37.3	30.5	27.9	26.6	26.3	21.1	22.2	15.5	10.8	8.4	1.4	1.9
年 齢 別	20 歳 未 満	17	70.6	35.3	35.3	41.2	47.1	29.4	23.5	47.1	47.1	17.6	11.8	17.6	17.6	17.6	0.0	0.0
	20 ～ 29 歳	130	61.5	39.2	31.5	30.0	31.5	28.5	13.1	23.1	30.0	20.0	24.6	18.5	12.3	16.9	2.3	0.8
	30 ～ 39 歳	152	51.3	38.2	34.2	32.9	29.6	33.6	13.8	23.0	28.3	26.3	23.0	9.9	15.1	19.1	3.3	0.7
	40 ～ 49 歳	195	61.5	50.8	47.7	42.6	40.5	25.1	23.6	24.1	28.7	29.7	13.8	15.4	12.8	8.2	3.6	1.0
	50 ～ 59 歳	276	63.8	50.0	42.8	37.3	36.6	26.8	24.6	24.6	28.6	20.3	19.6	10.5	14.1	7.6	5.1	1.8
	60 ～ 69 歳	236	63.6	51.7	59.7	43.6	43.2	28.4	29.2	25.8	22.5	25.0	17.4	11.9	9.3	7.6	0.8	1.3
	70 ～ 79 歳	293	67.6	48.5	48.5	36.5	33.8	33.4	30.7	25.9	21.2	17.7	26.3	18.4	13.0	8.2	1.4	3.8
	80 歳 以 上	186	66.7	49.5	46.8	32.8	30.1	40.3	36.6	27.4	17.7	14.5	26.9	20.4	8.6	12.9	2.2	3.2

(3) がん検診の受診状況（A：問7）

問. がん検診を受診していますか。（1つだけ選んでください）

図3-3-1 がん検診の受診状況



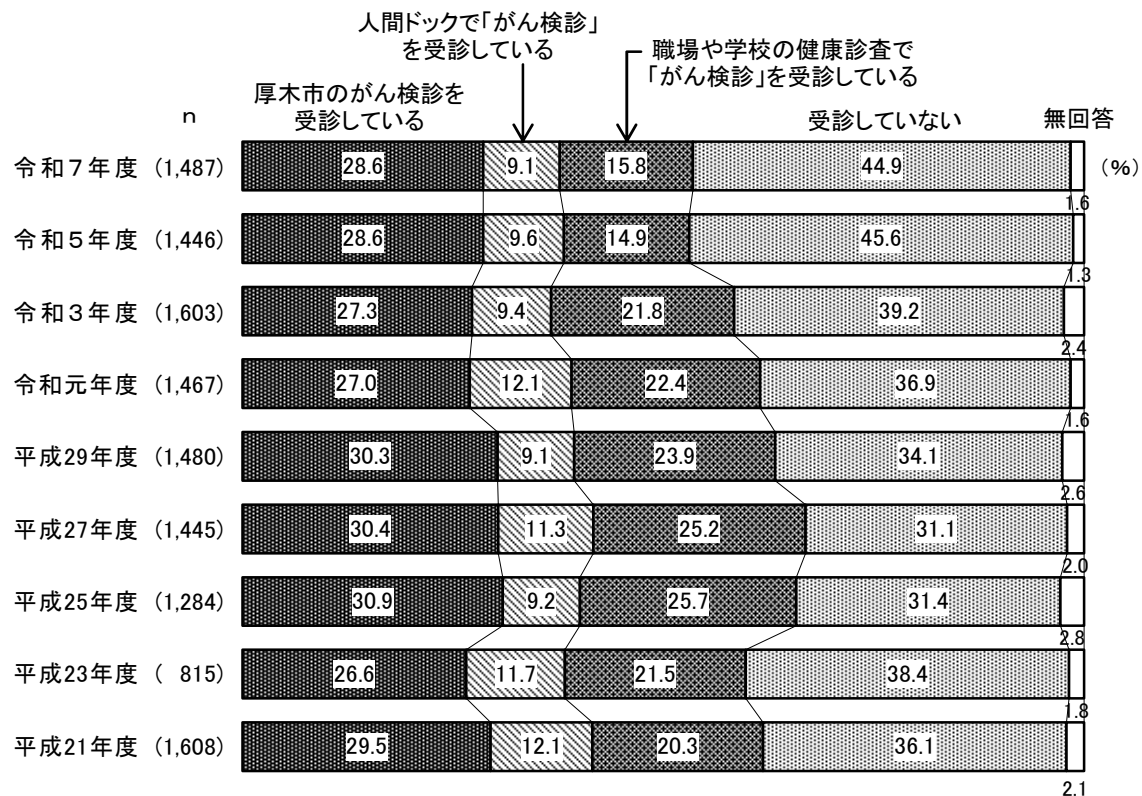
【全体】

がん検診の受診状況について聞いたところ、「厚木市のがん検診を受診している」（28.6%）が3割近く、「人間ドックで『がん検診』を受診している」（9.1%）が約1割、「職場や学校の健康診査で『がん検診』を受診している」（15.8%）が1割半ばで、この3つを合わせた『受診している』（53.5%）は5割半ば近くとなっている。一方、「受診していない」（44.9%）は4割半ばとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図3-3-2 がん検診の受診状況—経年変化



(注1)「人間ドックで『がん検診』を受診している」は、令和3年度調査以前では「人間ドックを受診している」としていた。

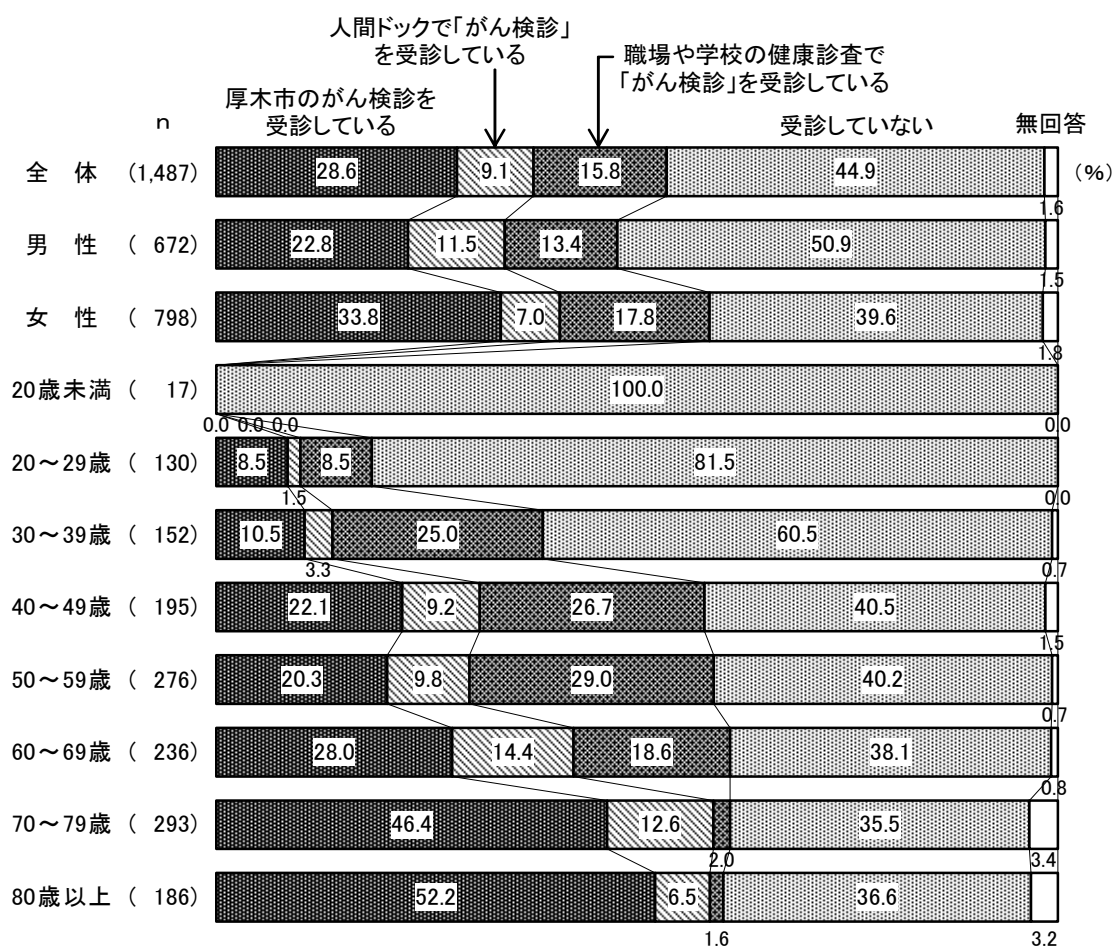
(注2)「職場や学校の健康診査で『がん検診』を受診している」は、令和3年度調査以前では「職場や学校の健康診査を受診している」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では『受診している』（58.6%）が男性（47.7%）より10.9ポイント高くなっており、その内、「厚木市のがん検診を受診している」（33.8%）が男性（22.8%）より11.0ポイント高くなっている。一方、男性では「受診していない」（50.9%）が女性（39.6%）より11.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『受診している』は60～69歳と70～79歳（ともに61.0%）で6割を超えて高くなっている。「厚木市のがん検診を受診している」は80歳以上（52.2%）で5割を超え、70～79歳（46.4%）で4割半ばを超えて高くなっている。

図3-3-3 がん検診の受診状況－性別、年齢別

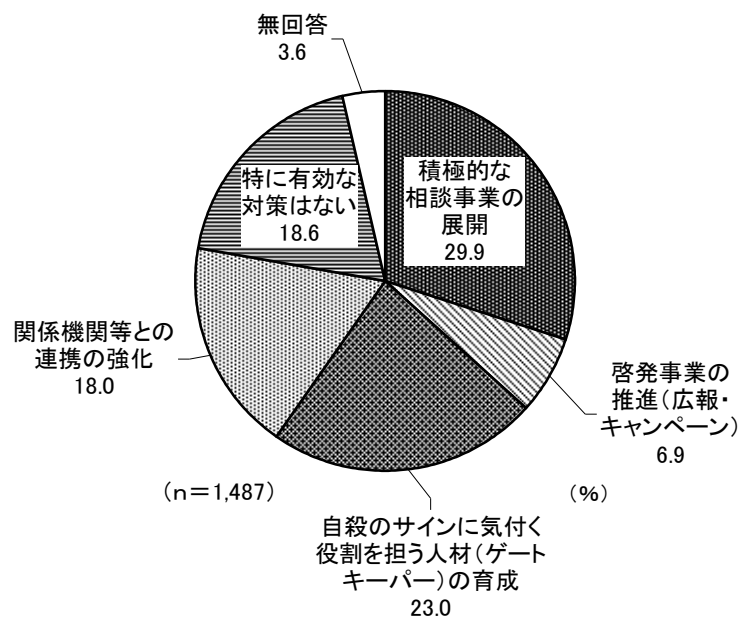


(4) 自殺予防の対策（A：問8）

問. 自殺を予防するために、どのような対策が必要であると思いますか。

（1つだけ選んでください）

図3-4-1 自殺予防の対策



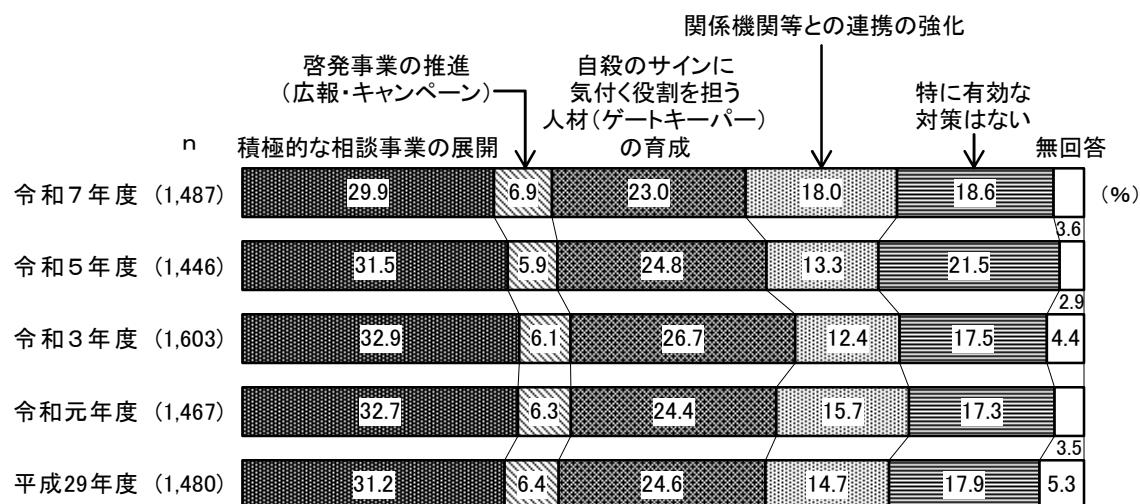
【全体】

自殺予防の対策について聞いたところ、「積極的な相談事業の展開」(29.9%) が約3割で最も高く、次いで「自殺のサインに気付く役割を担う人材(ゲートキーパー)の育成」(23.0%)、「関係機関等との連携の強化」(18.0%)、「啓発事業の推進(広報・キャンペーン)」(6.9%) となっている。一方、「特に有効な対策はない」(18.6%) は2割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「関係機関等との連携の強化」(18.0%)は令和5年度調査(13.3%)より4.7ポイント増加している。

図3-4-2 自殺予防の対策—経年変化



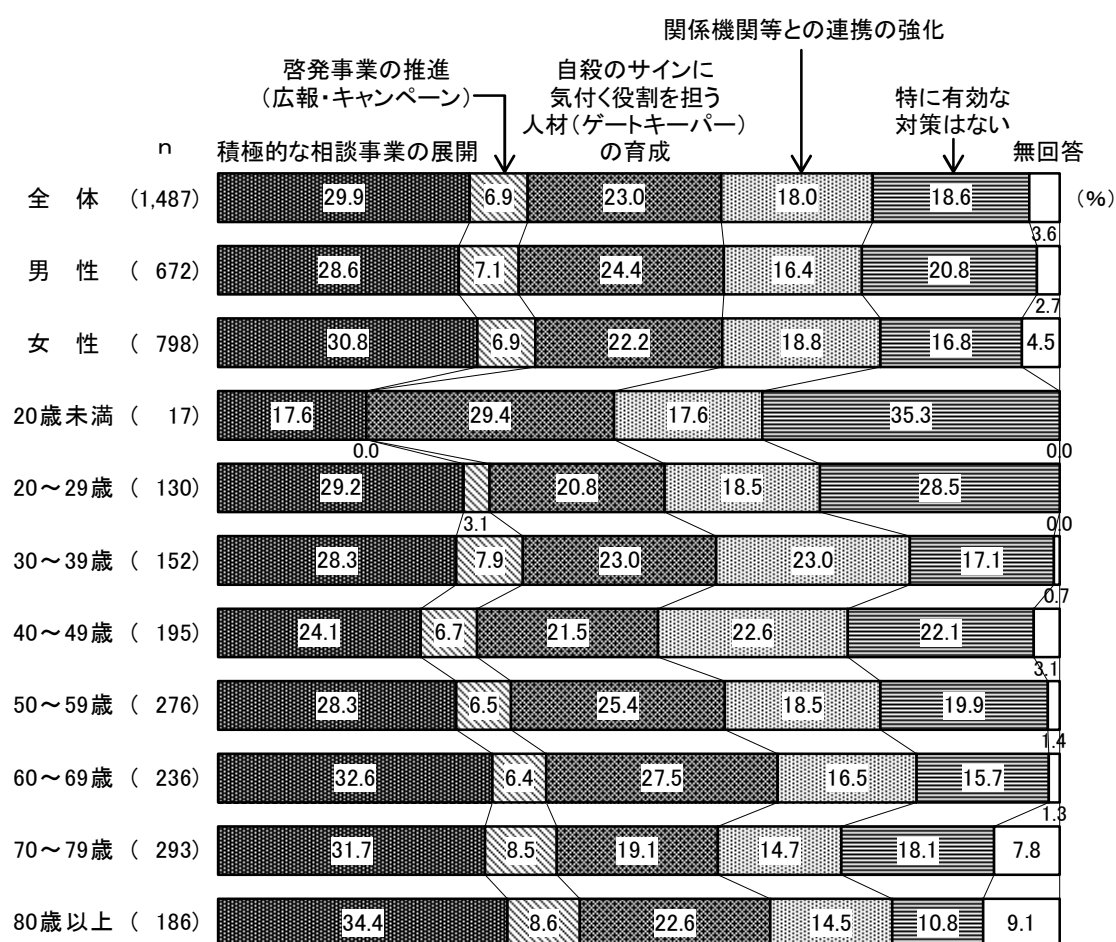
(注)「自殺のサインに気付く役割を担う人材(ゲートキーパー)の育成」は、令和元年度調査以前では「自殺のサインに気付く役割を担う人材の育成」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「特に有効な対策はない」（20.8％）が女性（16.8％）より4.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「積極的な相談事業の展開」は80歳以上（34.4％）で3割半ばと高くなっている。「自殺のサインに気付く役割を担う人材（ゲートキーパー）の育成」は60～69歳（27.5％）で3割近くと高くなっている。

図3-4-3 自殺予防の対策—性別、年齢別

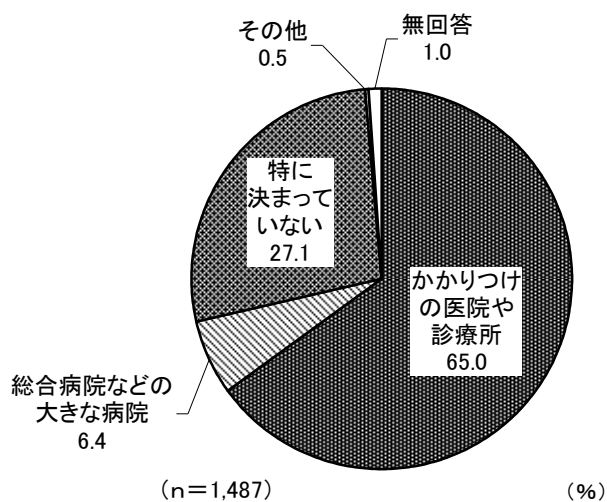


(5) かかりつけ医 (A：問9)

問. 風邪などにかかったとき、通院する医療機関は決まっていますか。

(1つだけ選んでください)

図3-5-1 かかりつけ医



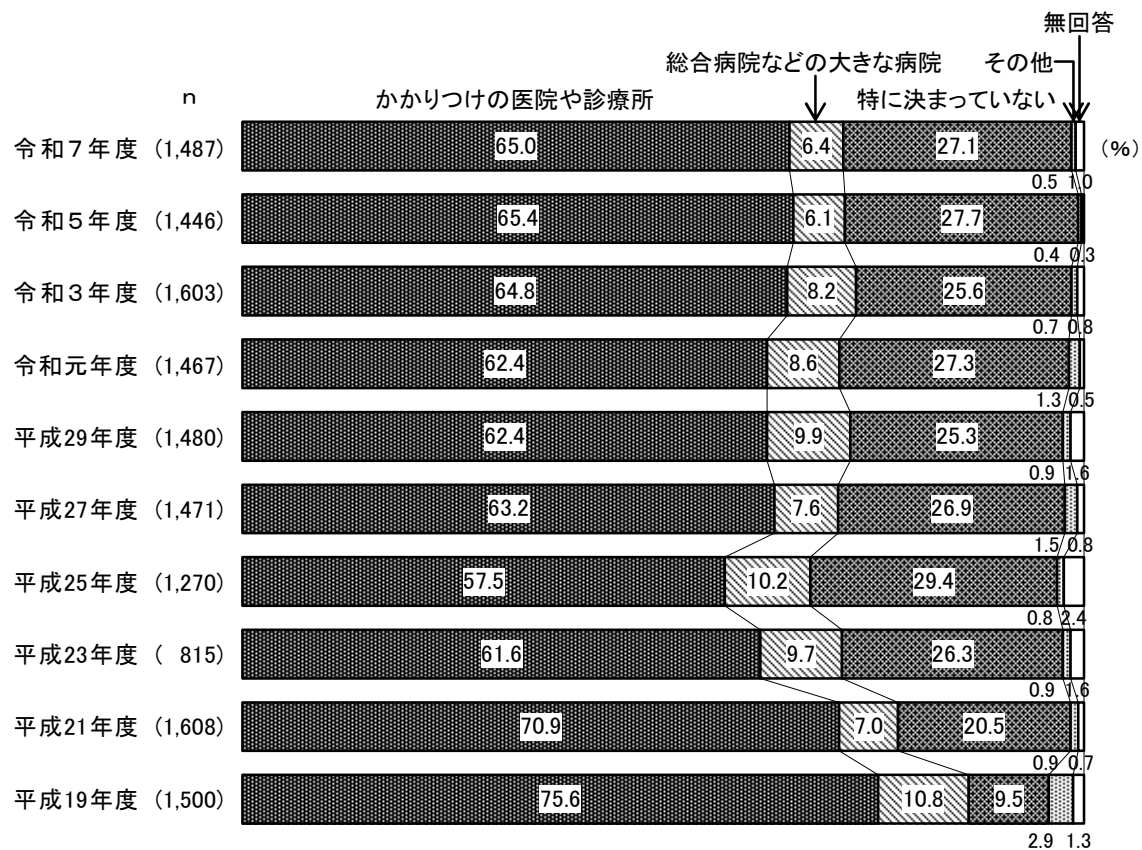
【全体】

風邪などにかかったとき、通院する医療機関について聞いたところ、「かかりつけの医院や診療所」(65.0%)が6割半ばで最も高くなっている。「総合病院などの大きな病院」(6.4%)は1割未満で、「特に決まっていない」(27.1%)は2割半ばを超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図3-5-2 かかりつけ医—経年変化

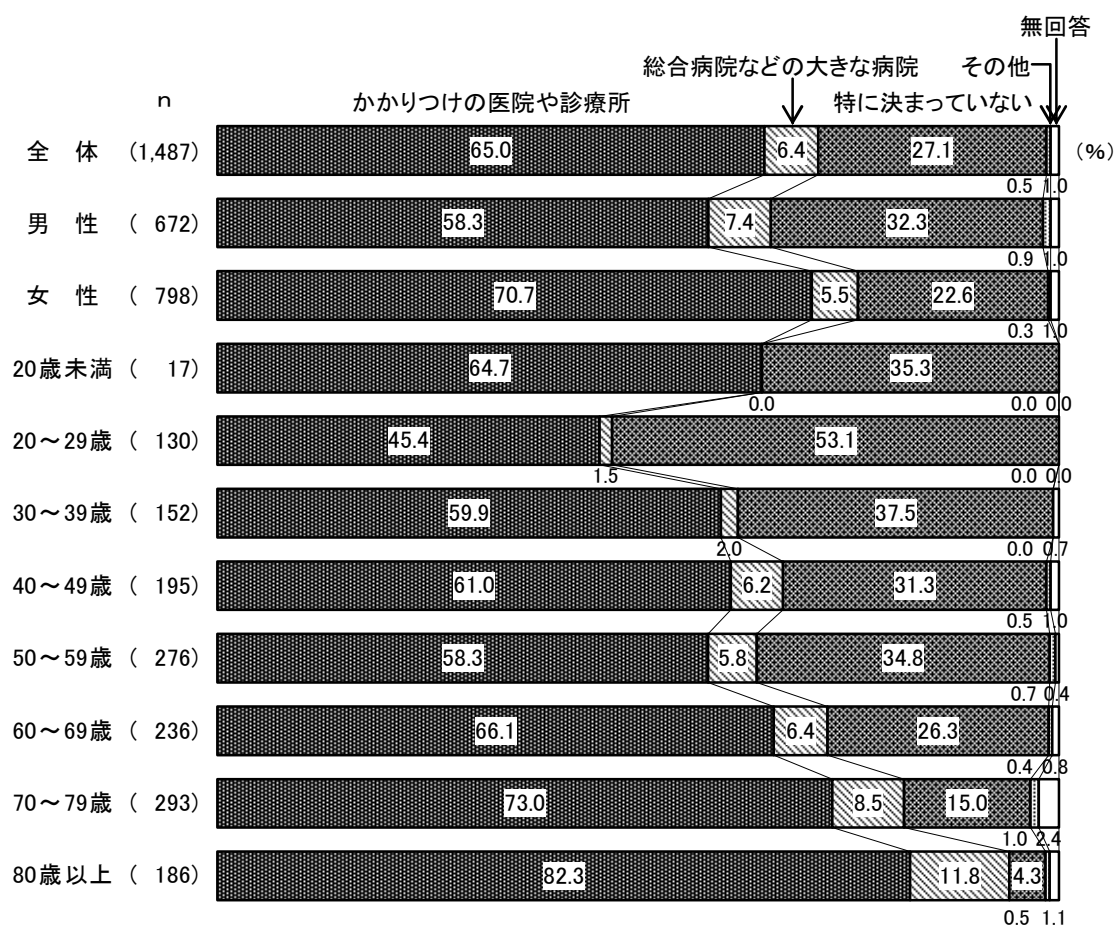


【属性別】

性別で見ると、女性では「かかりつけの医院や診療所」（70.7%）が男性（58.3%）より12.4ポイント高くなっている。一方、男性では「特に決まっていない」（32.3%）が女性（22.6%）より9.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「かかりつけの医院や診療所」は80歳以上（82.3%）で8割を超えて高くなっている。「特に決まっていない」は20～29歳（53.1%）で5割半ば近くと高くなっている。

図3-5-3 かかりつけ医—性別、年齢別



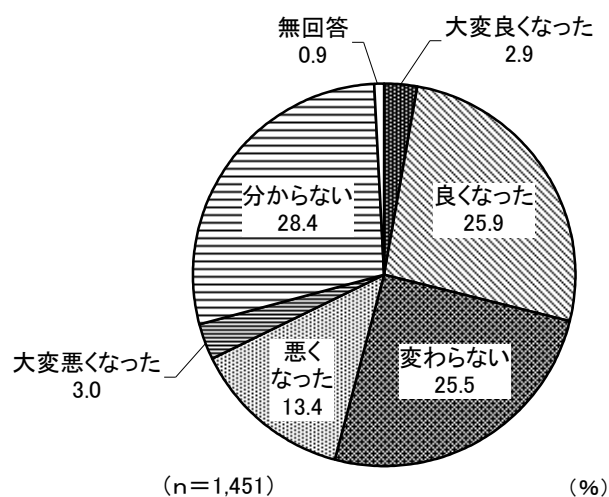
4 安全・防災

(1) 本厚木駅周辺の治安 (B：問5)

問. 本厚木駅周辺の治安について、過去と比べてどのように感じますか。

(1つだけ選んでください)

図4-1-1 本厚木駅周辺の治安



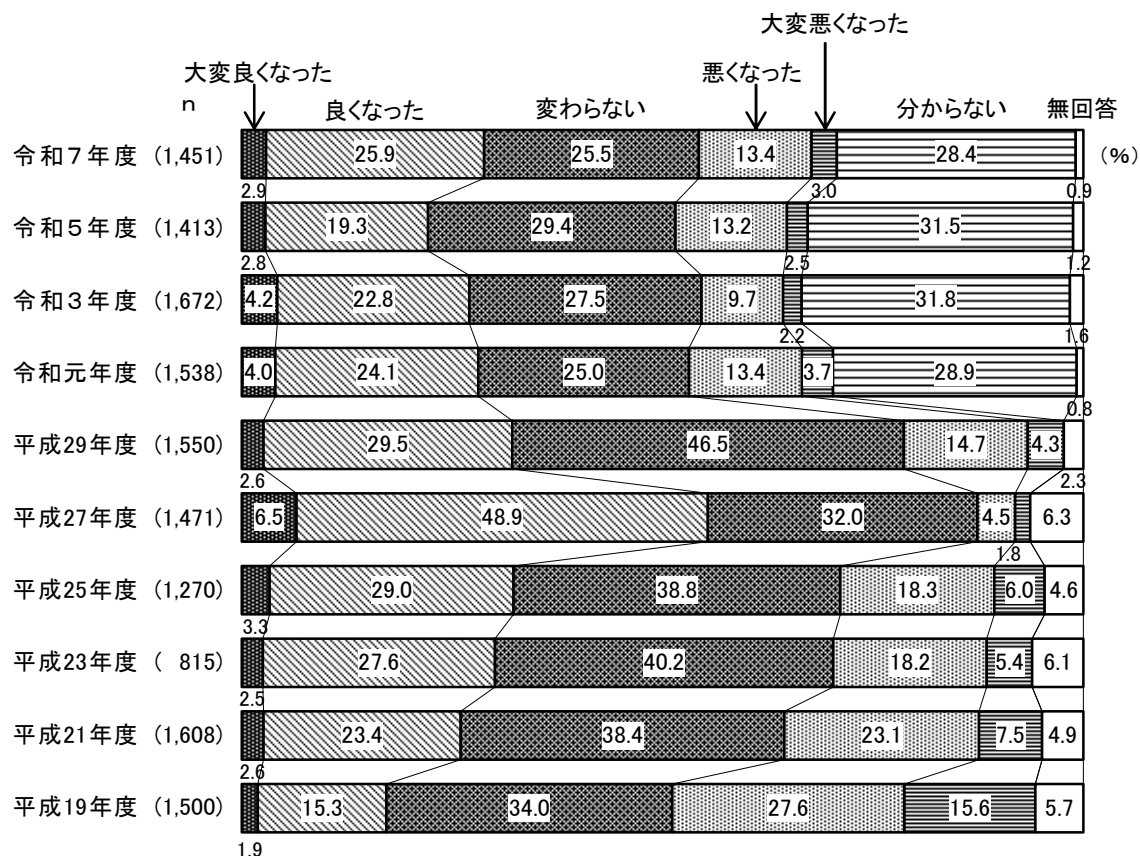
【全体】

本厚木駅周辺の治安について聞いたところ、「大変良くなった」(2.9%)と「良くなった」(25.9%)の2つを合わせた『改善した』(28.8%)が3割近くとなっている。「変わらない」(25.5%)は2割半ばで、「悪くなった」(13.4%)と「大変悪くなった」(3.0%)の2つを合わせた『悪化した』(16.4%)は1割半ばを超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『改善した』（28.8%）は令和5年度調査（22.1%）より6.7ポイント増加している。

図4-1-2 本厚木駅周辺の治安—経年変化



（注1）令和元年度調査から「分からない」の選択肢を追加している。

（注2）平成29年度調査および平成25年度以前の調査では、「現在の本厚木駅周辺の治安について、どのように感じますか。（1つだけ選んでください）」と質問していた。

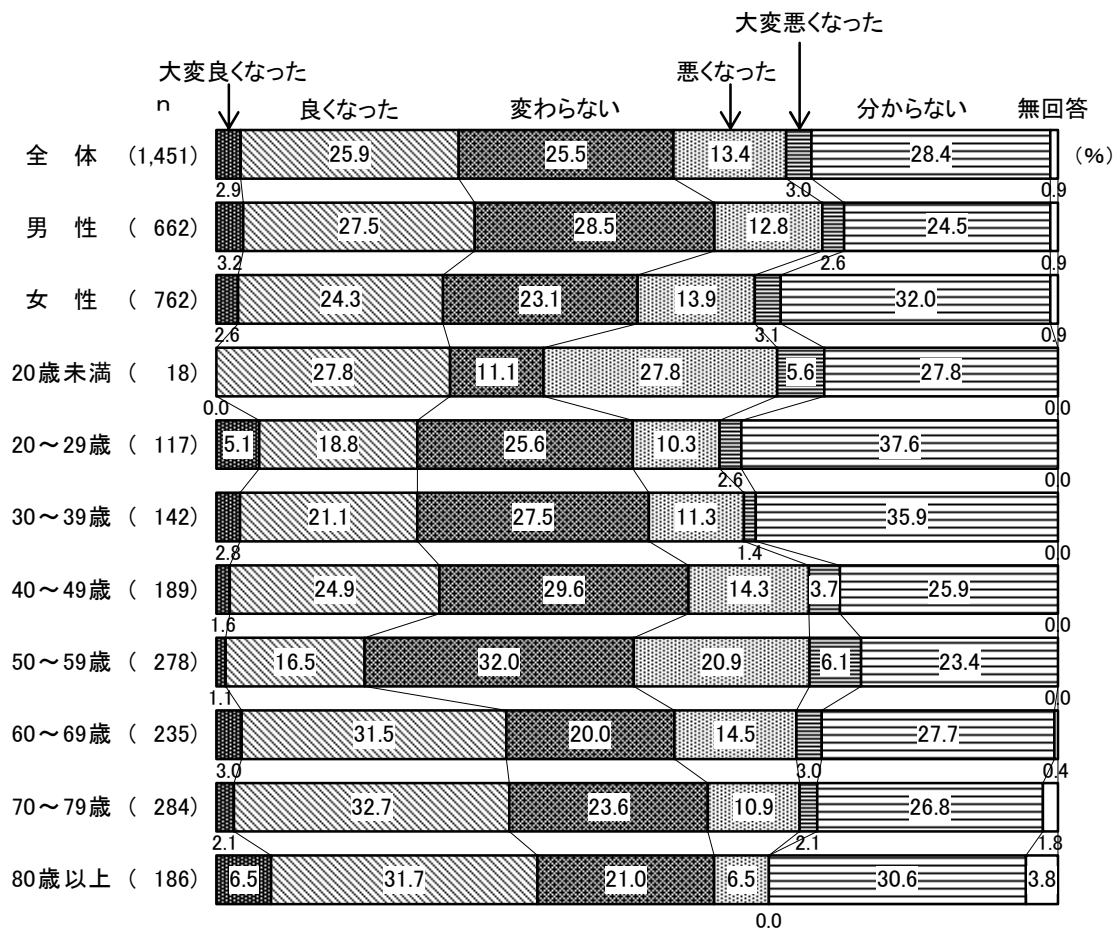
（注3）平成27年度調査では、「本厚木駅周辺の体感治安の向上を図るため客引き行為等防止条例を制定し、客引き行為等指導員による指導や防犯パトロールに努めております。現在の本厚木駅周辺の治安について、どう思いますか。（1つだけ選んでください）」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では『改善した』（30.7%）が女性（26.9%）より3.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『改善した』は80歳以上（38.2%）で4割近くと高くなっている。一方、『悪化した』は50～59歳（27.0%）で2割半ばを超えて高くなっている。

図4-1-3 本厚木駅周辺の治安—性別、年齢別

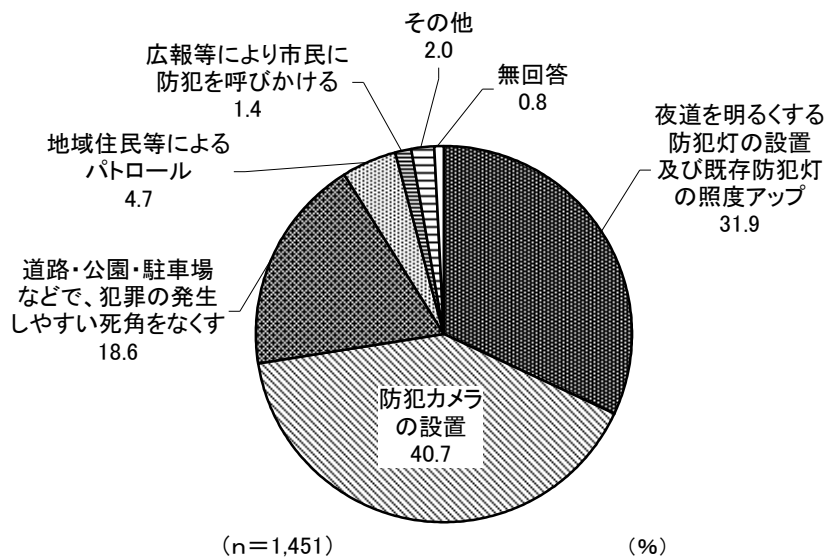


(2) 防犯対策に効果的な取組（B：問6）

問. 防犯対策について、どのような取組が効果的だと思いますか。

（1つだけ選んでください）

図4-2-1 防犯対策に効果的な取組



【全体】

防犯対策に効果的な取組について聞いたところ、「防犯カメラの設置」（40.7％）が約4割で最も高く、次いで「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」（31.9％）、「道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす」（18.6％）、「地域住民等によるパトロール」（4.7％）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

表4－2－1 防犯対策に効果的な取組－経年変化

(%)

調査年	n	防犯カメラの設置	灯の設置 夜間の照明 及び既存の防犯灯	道路・公園・駐車場の死角をなくす	地域住民等によるパトロール	広域等により市民に防犯を呼びかける	その他	無回答
令和7年度	1,451	40.7	31.9	18.6	4.7	1.4	2.0	0.8
令和5年度	1,413	42.1	30.1	18.4	4.4	0.7	2.5	1.8
令和3年度	1,672	38.7	29.1	21.1	5.8	1.1	2.5	1.7
令和元年度	1,538	38.0	31.4	20.8	5.4	1.7	1.9	0.8
平成29年度	1,550	33.4	31.6	22.4	7.2	1.5	3.1	0.8
平成27年度	1,471	－	41.7	36.8	14.3	2.0	3.5	1.6
平成25年度	1,270	－	41.9	39.1	10.9	2.0	3.8	2.3
平成23年度	815	－	70.7	60.0	38.7	15.7	6.1	2.2
平成21年度	1,608	－	72.7	76.2	39.6	21.0	5.8	2.2
平成19年度	1,500	－	67.1	77.3	40.3	22.3	9.1	2.5

(注1) 平成29年度調査以降では、「防犯カメラの設置」の選択肢を追加している。

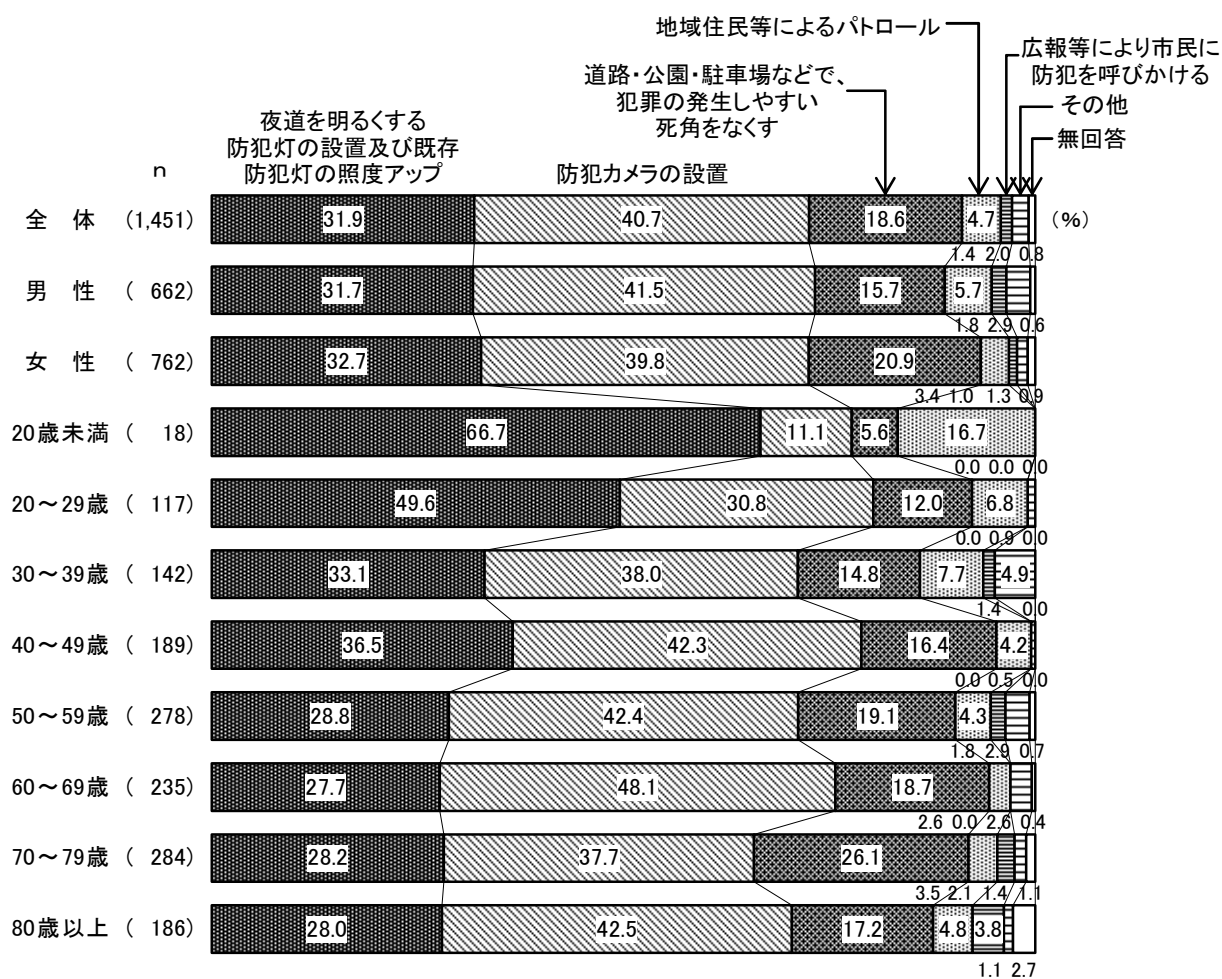
(注2) 平成23年度調査以前では、複数回答で質問していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(20.9%)が男性(15.7%)より5.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」は20～29歳(49.6%)で約5割と高くなっている。「防犯カメラの設置」は60～69歳(48.1%)で5割近くと高くなっている。「道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす」は70～79歳(26.1%)で2割半ばを超えて高くなっている。

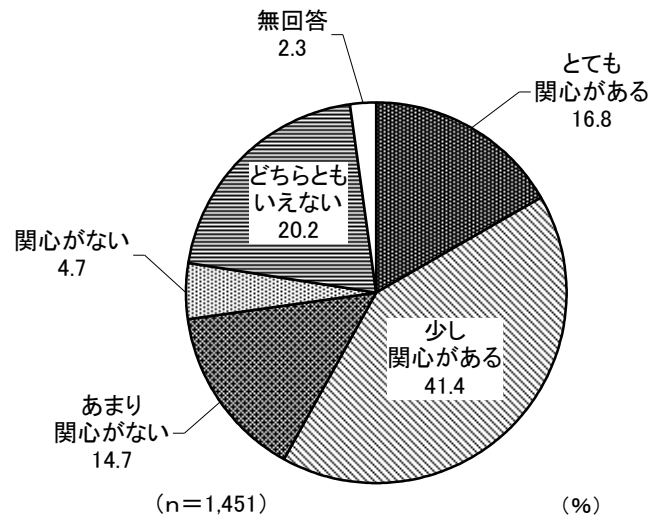
図4-2-2 防犯対策に効果的な取組一性別、年齢別



(3) セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくり（B：問7）

問. セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくりに、関心がありますか。
(1つだけ選んでください)

図4-3-1 セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくり



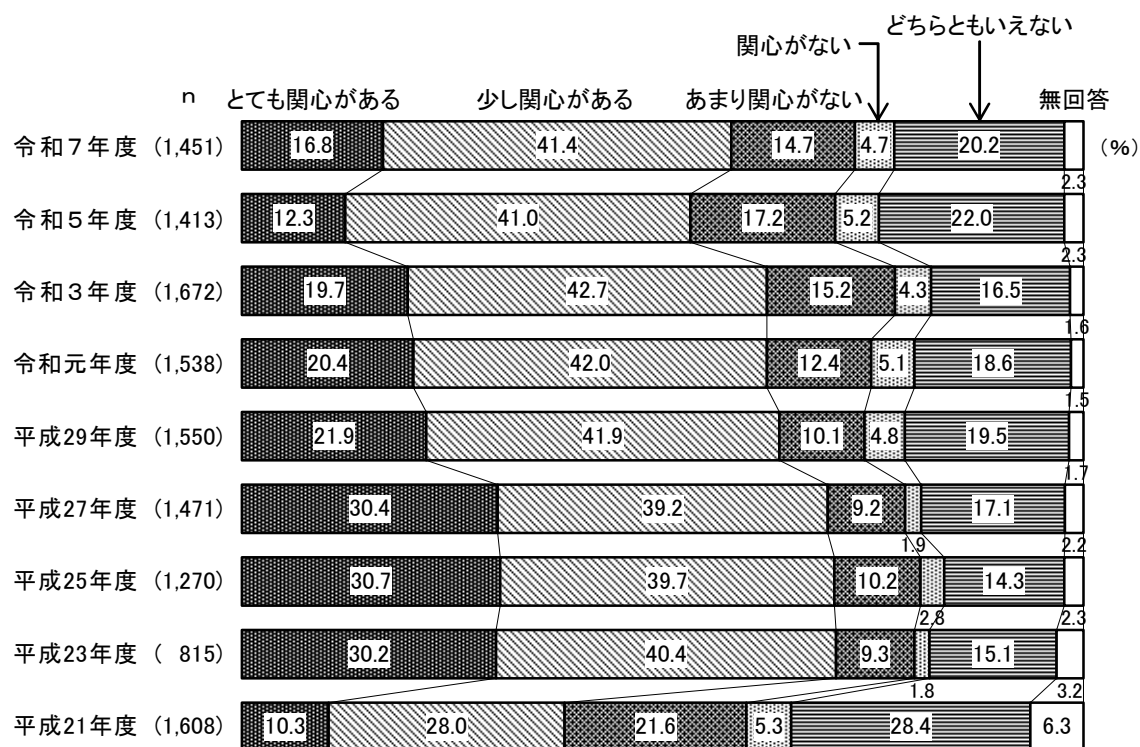
【全体】

セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくりに関心があるかについて聞いたところ、「とても関心がある」(16.8%)と「少し関心がある」(41.4%)の2つを合わせた『関心あり』(58.2%)が6割近くで高くなっている。「どちらともいえない」(20.2%)は約2割で、「あまり関心がない」(14.7%)と「関心がない」(4.7%)の2つを合わせた『関心なし』(19.4%)は約2割となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『関心あり』（58.2%）は令和5年度調査（53.3%）より4.9ポイント増加している。

図4-3-2 セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくり—経年変化



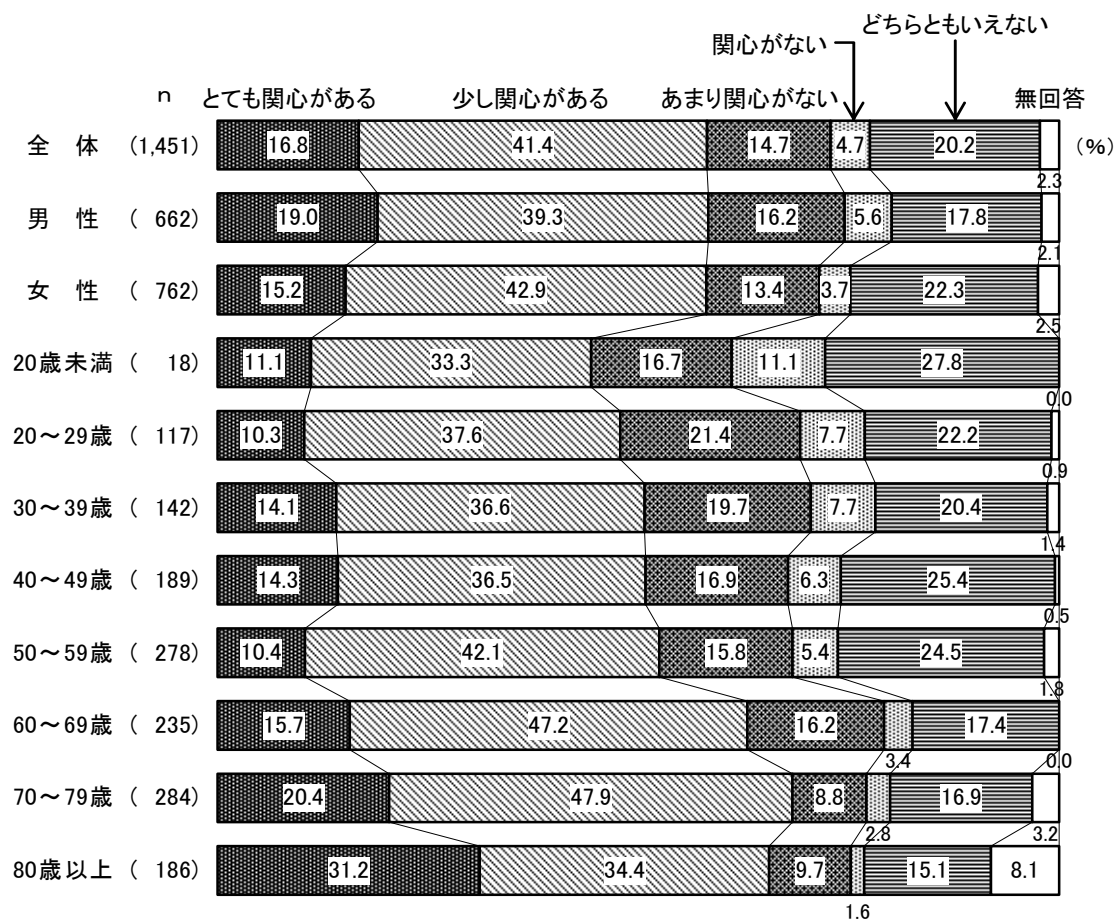
（注）令和3年度調査～平成29年度調査では、「市民協働による交通安全や防犯、けがの予防など、セーフコミュニティの手法を用いて安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に、関心がありますか。」、平成27年度調査～平成23年度調査では、「厚木市は、平成22年11月19日にWHOが推進しているセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯、けがの予防など、安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に関心がありますか。」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では『関心なし』（21.8%）が女性（17.1%）より4.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『関心あり』は70～79歳（68.3%）で7割近くと高くなっている。一方、『関心なし』は20～29歳（29.1%）で約3割と高くなっている。

図4-3-3 セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくり—性別、年齢別

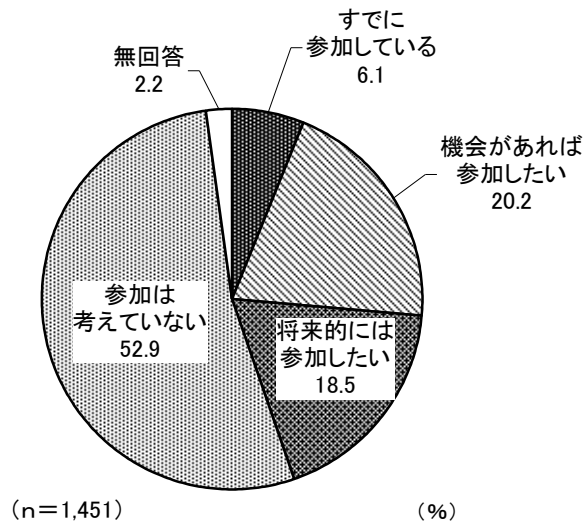


(4) 地域の防犯活動への参加（B：問8）

問. 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動（愛の目運動）」などの活動に参加したいと思いますか。

（1つだけ選んでください）

図4-4-1 地域の防犯活動への参加



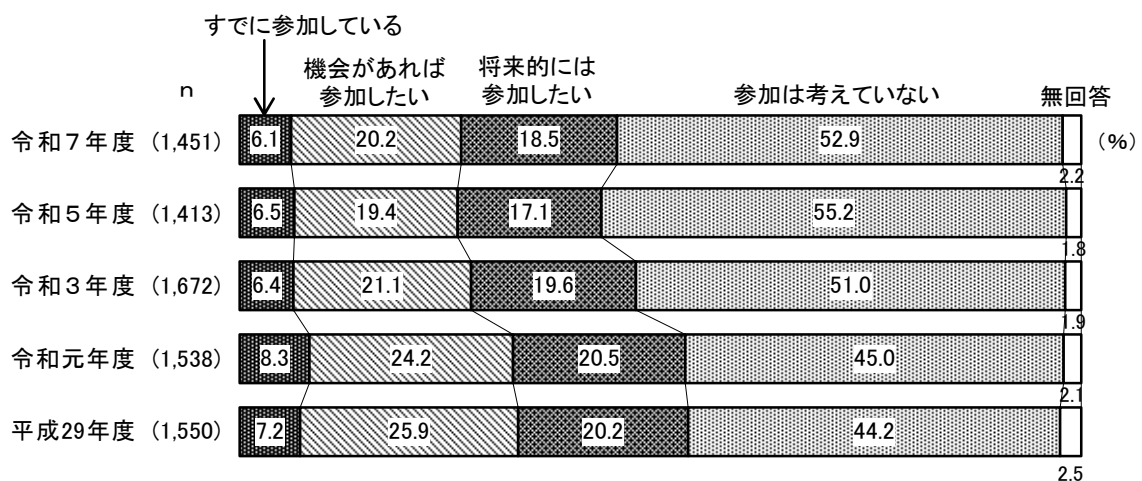
【全体】

地域の防犯活動への参加について聞いたところ、「すでに参加している」（6.1％）は1割未満となっている。「機会があれば参加したい」（20.2％）は約2割、「将来的には参加したい」（18.5％）は2割近く、「参加は考えていない」（52.9％）は5割半ば近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図4-4-2 地域の防犯活動への参加—経年変化

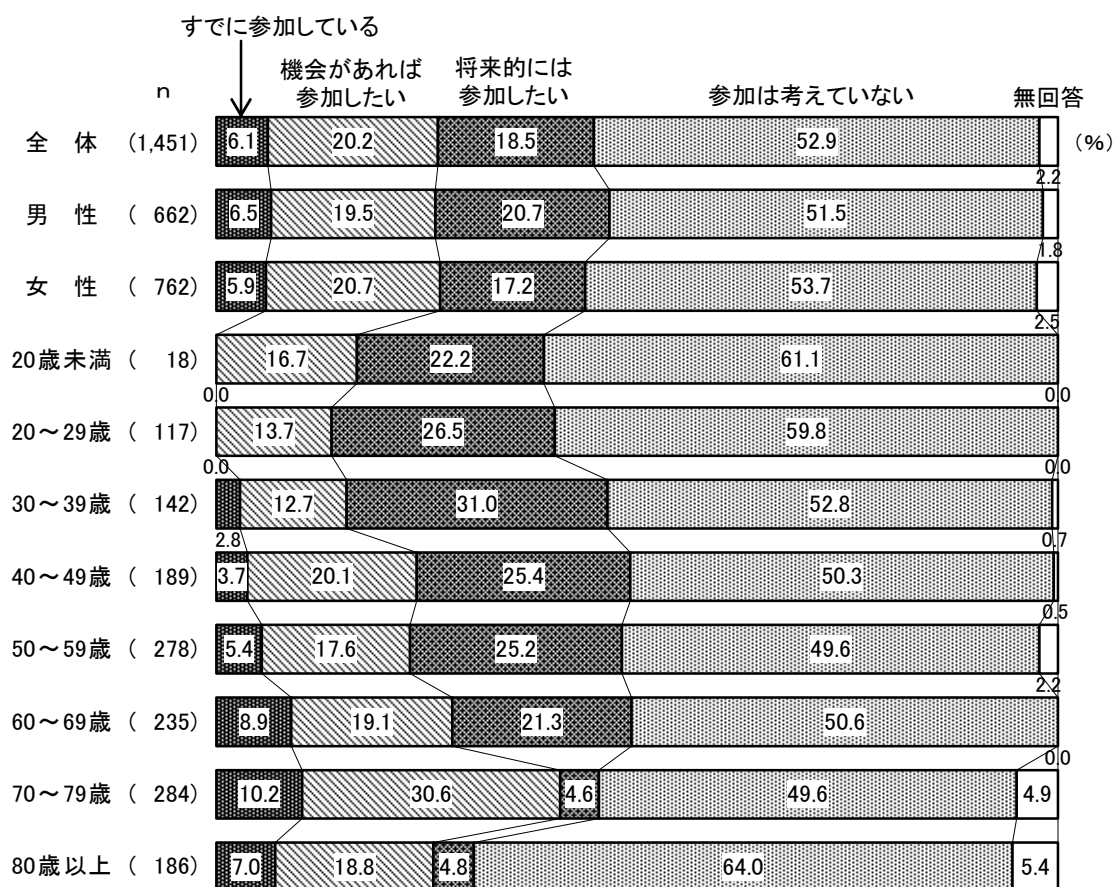


【属性別】

性別で見ると、男性では「将来的には参加したい」（20.7％）が女性（17.2％）より3.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「機会があれば参加したい」は70～79歳（30.6％）で約3割と高くなっている。「将来的には参加したい」は30～39歳（31.0％）で3割を超えて高くなっている。「参加は考えていない」は80歳以上（64.0％）で6割半ばと高くなっている。

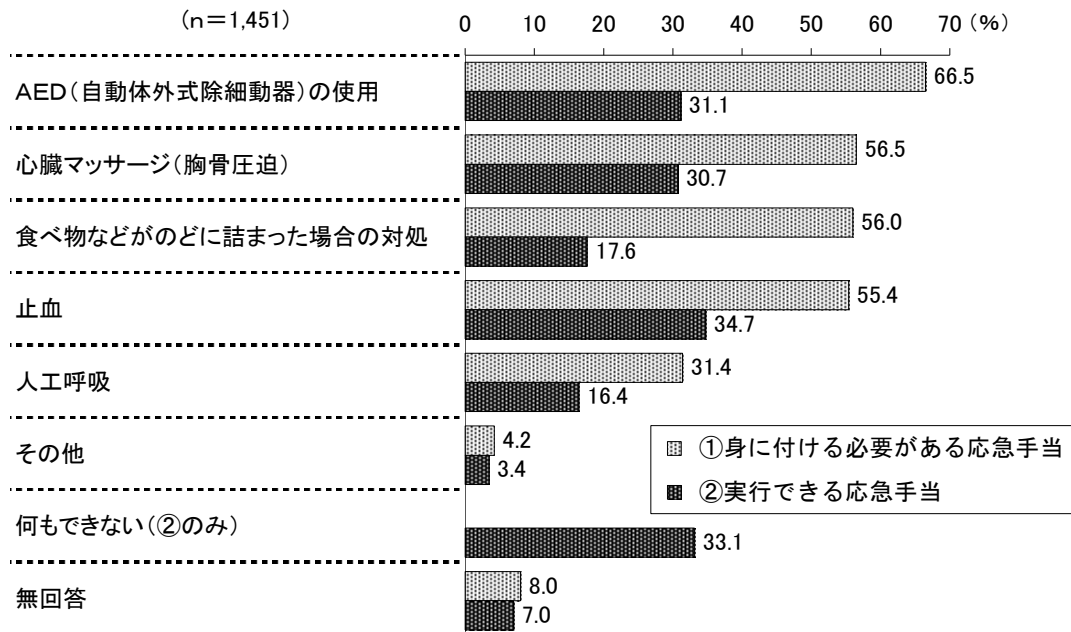
図4-4-3 地域の防犯活動への参加—性別、年齢別



(5) 身に付ける必要がある応急手当・実行可能な応急手当（B：問9）

問. いざという時のために、どのような応急手当を身に付ける必要があると思いますか。また、どのような応急手当ができますか。（①～②について、いくつでも選んでください）

図4-5-1 ①身に付ける必要がある応急手当 ②実行可能な応急手当



【全体】

①身に付ける必要がある応急手当について聞いたところ、「AED（自動体外式除細動器）の使用」（66.5%）が6割半ばを超えて最も高く、次いで「心臓マッサージ（胸骨圧迫）」（56.5%）、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」（56.0%）、「止血」（55.4%）、「人工呼吸」（31.4%）となっている。

②実行可能な応急手当について聞いたところ、「止血」（34.7%）が3割半ばで最も高く、次いで「AED（自動体外式除細動器）の使用」（31.1%）、「心臓マッサージ（胸骨圧迫）」（30.7%）、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」（17.6%）、「人工呼吸」（16.4%）となっている。また、「何もできない」（33.1%）は3割半ば近くとなっている。

【経年変化】

①身に付ける必要がある応急手当について経年による変化を見ると、「AED（自動体外式除細動器）の使用」（66.5%）は令和5年度調査（62.7%）より3.8ポイント増加している。

表4－5－1 ①身に付ける必要がある応急手当－経年変化

(%)

調 査 年	n	AED（自動体外式除細動器）の使用	心臓マッサージ（胸骨圧迫）	食べ物などのどに詰まった場合の対処	止血	人工呼吸	その他	無回答
令和7年度	1,451	66.5	56.5	56.0	55.4	31.4	4.2	8.0
令和5年度	1,413	62.7	55.8	53.9	54.9	32.5	4.7	7.1
令和3年度	1,672	60.2	52.3	53.9	53.8	31.8	4.7	8.9
令和元年度	1,538	60.3	53.3	49.0	55.5	37.3	4.7	10.4
平成29年度	1,550	58.5	51.3	51.1	53.4	37.9	5.9	10.8

【経年変化】

②実行可能な応急手当について経年による変化を見ると、「心臓マッサージ（胸骨圧迫）」（30.7%）は令和5年度調査（26.8%）より3.9ポイント、「AED（自動体外式除細動器）の使用」（31.1%）は令和5年度調査（27.9%）より3.2ポイント増加している。

表4-5-2 ②実行可能な応急手当－経年変化

調査年	n	(%)							
		止血	AED（自動体外式除細動器）の使用	心臓マッサージ（胸骨圧迫）	食べ物などがのどに詰まった場合の対処	人工呼吸	その他	何もできない	無回答
令和7年度	1,451	34.7	31.1	30.7	17.6	16.4	3.4	33.1	7.0
令和5年度	1,413	33.4	27.9	26.8	15.9	15.4	3.5	35.3	7.7
令和3年度	1,672	34.2	28.9	25.7	15.6	17.6	3.9	34.9	8.3
令和元年度	1,538	33.5	26.5	26.9	14.6	18.1	3.2	35.0	8.8
平成29年度	1,550	35.0	25.6	25.0	16.0	19.2	2.8	32.1	10.3
平成27年度	1,445	35.2	25.5	26.7	－	20.1	－	3.0	1.0
平成25年度	1,284	34.0	21.4	26.9	－	21.3	－	5.8	0.9

（注1）平成29年度調査以降では、「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」と「その他」の選択肢を追加している。

（注2）平成27年度調査以前では、「119番に通報する」、「周囲の人に助けを求める」、「車などで近くの病院に運ぶ」の選択肢を追加していた（グラフには非表示）。

【属性別】

①身に付ける必要がある応急手当について性別で見ると、女性では「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」(64.2%)が男性(46.8%)より17.4ポイント、「止血」(57.2%)が男性(53.0%)より4.2ポイント高くなっている。一方、男性では「人工呼吸」(33.1%)が女性(29.5%)より3.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「AED(自動体外式除細動器)の使用」は20～29歳(79.5%)で約8割と高くなっている。「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」は20～29歳(69.2%)で約7割と高くなっている。

②実行可能な応急手当について性別で見ると、男性では「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」(35.0%)が女性(26.6%)より8.4ポイント、「AED(自動体外式除細動器)の使用」(33.8%)が女性(28.3%)より5.5ポイント高くなっている。一方、女性では「食べ物などがのどに詰まった場合の対処」(19.2%)が男性(15.0%)より4.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「AED(自動体外式除細動器)の使用」は20～29歳(53.8%)で5割半ば近くと高くなっている。「心臓マッサージ(胸骨圧迫)」は20～29歳(53.0%)で5割半ば近くと高くなっている。

表4-5-3 ①身に付ける必要がある応急手当 ②実行可能な応急手当一性別、年齢別

(%)

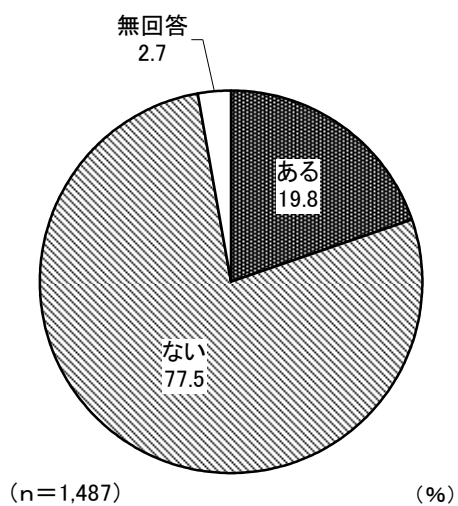
		n	①身に付ける必要がある応急手当							②実行できる応急手当								(%)
			AED (自動体外式除細動器) の使用	心臓マッサージ (胸骨圧迫)	食べ物などがのどに詰まった 場合の対処	止血	人工呼吸	その他	無回答	止血	AED (自動体外式除細動器) の使用	心臓マッサージ (胸骨圧迫)	食べ物などがのどに詰まった 場合の対処	人工呼吸	その他	何もできない	無回答	
全 体		1,451	66.5	56.5	56.0	55.4	31.4	4.2	8.0	34.7	31.1	30.7	17.6	16.4	3.4	33.1	7.0	
性別	男 性	662	67.2	56.8	46.8	53.0	33.1	3.8	7.6	34.9	33.8	35.0	15.0	18.7	2.9	32.9	5.7	
	女 性	762	65.7	56.0	64.2	57.2	29.5	4.3	8.4	34.6	28.3	26.6	19.2	14.0	3.8	33.7	8.0	
年 齢 別	20 歳 未 満	18	94.4	66.7	55.6	66.7	38.9	5.6	0.0	66.7	66.7	61.1	38.9	16.7	0.0	0.0	0.0	
	20 ～ 29 歳	117	79.5	69.2	60.7	53.0	39.3	5.1	3.4	45.3	53.8	53.0	25.6	22.2	5.1	22.2	3.4	
	30 ～ 39 歳	142	75.4	66.2	62.0	57.7	35.2	8.5	3.5	40.1	50.7	41.5	23.9	28.9	4.9	19.7	2.1	
	40 ～ 49 歳	189	78.3	60.3	58.7	54.5	31.2	4.8	3.2	34.9	30.7	32.3	17.5	19.0	4.2	36.5	2.6	
	50 ～ 59 歳	278	76.3	59.4	54.7	62.6	27.3	5.4	6.5	28.1	31.7	27.7	11.2	12.9	1.1	41.7	5.4	
	60 ～ 69 歳	235	70.2	65.5	57.9	58.3	29.8	3.4	4.7	31.1	31.1	31.5	15.7	14.5	3.0	36.2	6.4	
	70 ～ 79 歳	284	53.5	44.0	52.1	52.8	34.5	2.5	13.4	36.6	23.2	24.3	18.0	14.4	3.2	35.6	8.5	
	80 歳 以 上	186	37.6	39.8	52.2	44.6	25.8	1.6	18.3	32.3	10.2	17.7	17.7	10.8	4.3	29.6	18.8	

5 人権

(1) 人権侵害を受けた経験 (A：問10)

問. 自分の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(1つだけ選んでください)

図5-1-1 人権侵害を受けた経験



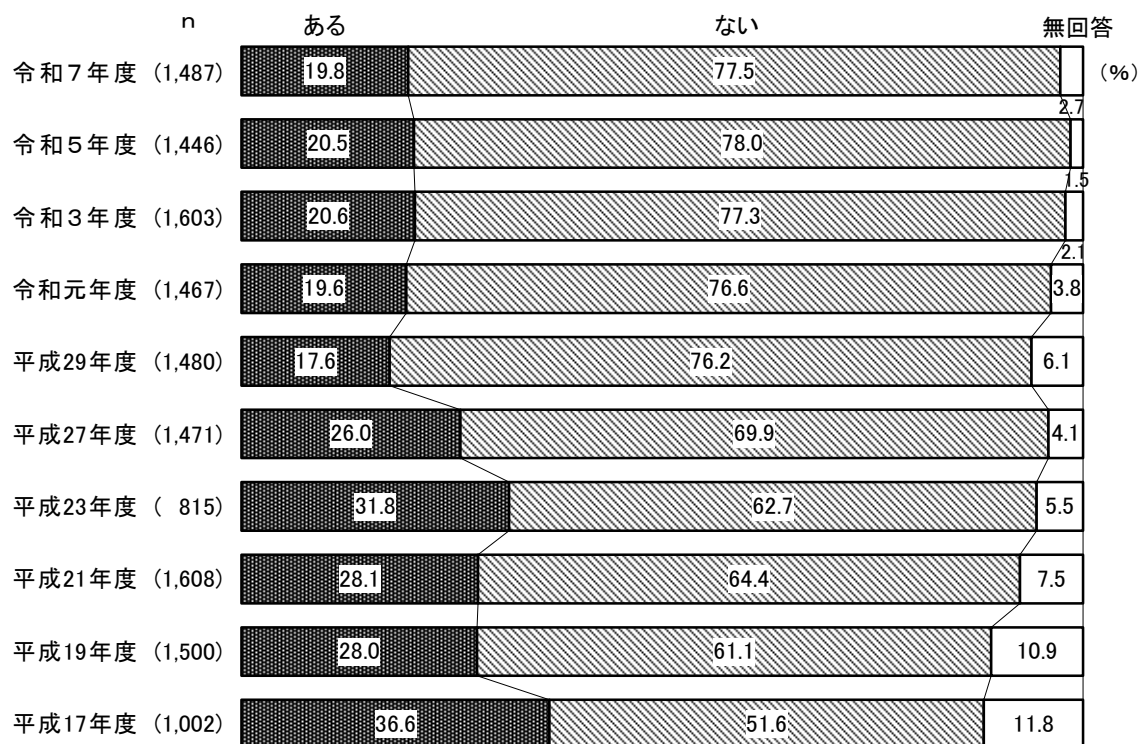
【全体】

人権侵害を受けた経験について聞いたところ、「ある」(19.8%)は約2割で、「ない」(77.5%)は8割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図5－1－2 人権侵害を受けた経験－経年変化

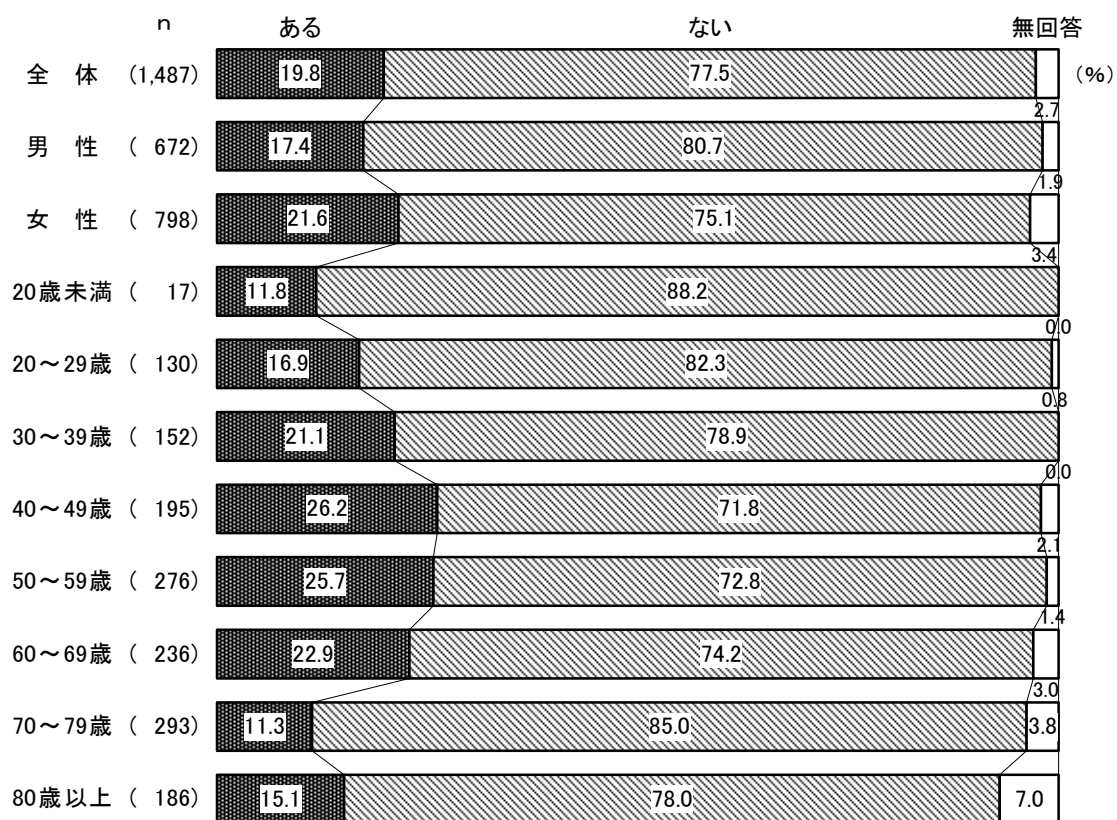


(注) 平成23年度調査以前では、「自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。ある場合、それはどのような人権侵害ですか。(ある場合はいくつでも)」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「ある」(21.6%)が男性(17.4%)より4.2ポイント高くなっている。
 年齢別で見ると、「ある」は40～49歳(26.2%)で2割半ばを超えて高くなっている。一方、「ない」は70～79歳(85.0%)で8割半ばと高くなっている。

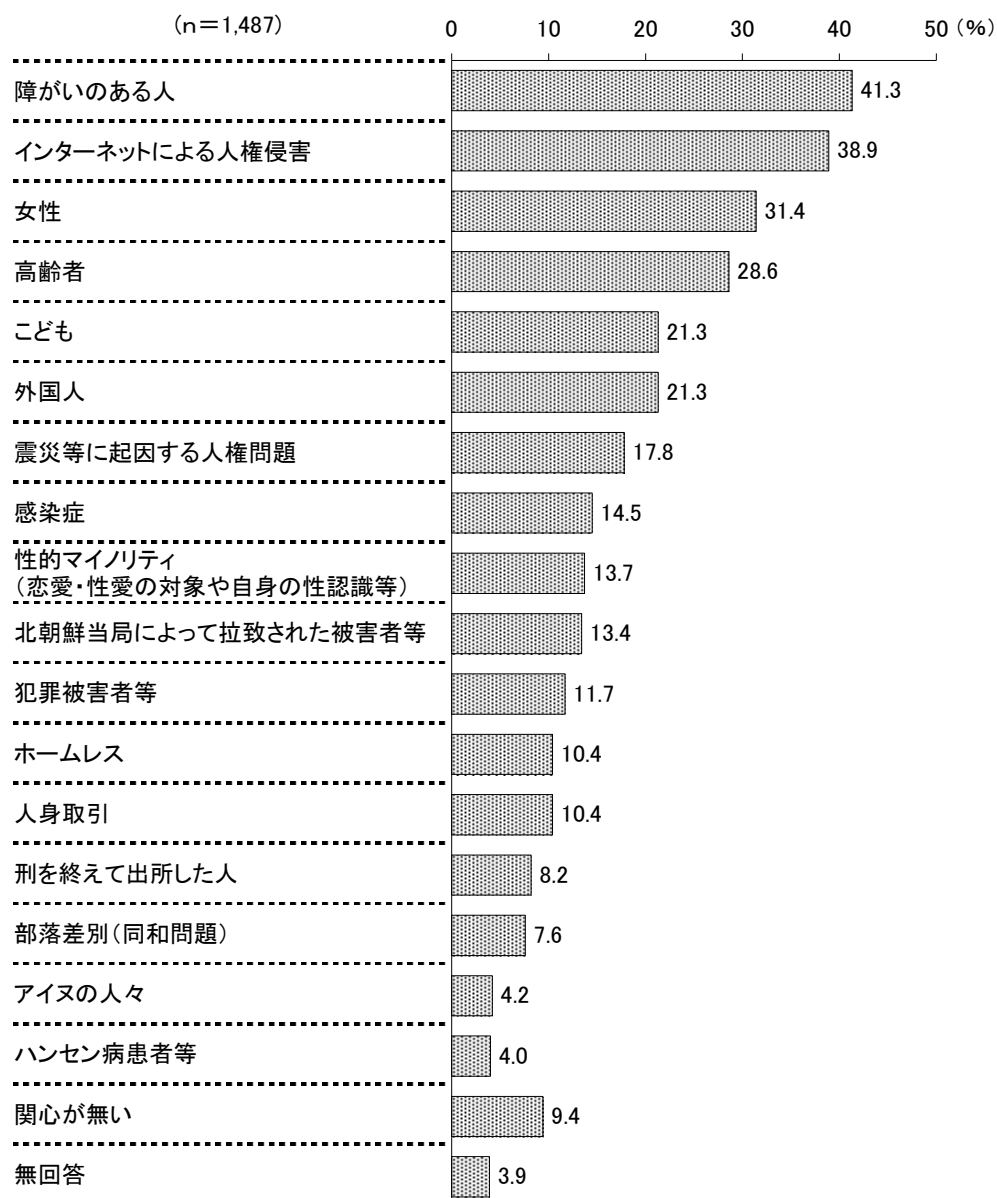
図5-1-3 人権侵害を受けた経験—性別、年齢別



(2) 人権や差別に対する関心 (A：問11)

問. どのような人権問題や差別に対して、関心がありますか。(いくつでも選んでください)

図5-2-1 人権や差別に対する関心



【全体】

人権や差別に対する関心について聞いたところ、「障がいのある人」(41.3%) が4割を超えて最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」(38.9%)、「女性」(31.4%)、「高齢者」(28.6%)、「子ども」と「外国人」(ともに21.3%) となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位2項目は令和5年度調査と同じ順位となっている。「女性」(31.4%)は令和5年度調査(28.4%)より3.0ポイント増加している。

表5-2-1 人権や差別に対する関心—経年変化(上位5項目)

(%)								
順位	令和7年度 (n=1,487)	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,417)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)
1	障がいの ある人 41.3	障がいの ある人 44.2	障がいの ある人 46.5	障がいの ある人 46.4	障がい者 に対する問題 42.3	障がい者 に対する問題 37.3	子ども に対する問題 31.7	高齢者 に対する問題 30.0
2	インターネット による人権 侵害 38.9	インターネット による人権 侵害 39.1	インターネット による人権 侵害 41.8	インターネット による人権 侵害 35.7	インターネット を悪用した 問題 36.1	子ども に対する問題 33.0	障がい者 に対する問題 31.4	障がい者 に対する問題 29.4
3	女性 31.4	高齢者 29.0	女性 28.1	高齢者 29.4	高齢者 に対する問題 36.0	高齢者 に対する問題 /インターネット を悪用した 問題 31.3	インターネット を悪用した 問題 25.3	子ども に対する問題 27.3
4	高齢者 28.6	女性 28.4	高齢者 26.1	女性 27.5	東日本大震災 の被害者 に対する問題 28.9		高齢者 に対する問題 23.8	北朝鮮当局 による人権 侵害問題 25.4
5	子ども/ 外国人 21.3	子ども 20.4	子ども 20.8	子ども 23.4	子ども に対する問題 27.6	女性 に対する 問題 26.0	女性 に対する 問題 16.9	インターネット を悪用した 問題 24.9

(注1) 令和元年度調査から法務省の分類に準じて整理し、「刑を終えて出所した人」「犯罪被害者等」「人身取引」「アイヌの人々」の選択肢を追加した。

(注2) 「インターネットによる人権侵害」は、平成29年度調査以前では「インターネットを悪用した問題」としていた。

(注3) 「震災等に起因する人権問題」は、令和3年度調査～令和元年度調査では「東日本大震災に起因する人権問題」、平成29年度調査では「東日本大震災の被害者に対する問題」としていた。また、平成27年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注4) 「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」は、平成29年度調査以前では「北朝鮮当局による人権侵害問題」としていた。

(注5) 「性的マイノリティ(恋愛・性愛の対象や自身の性認識等)」は、令和5年度調査～令和元年度調査では「性的少数者(恋愛・性愛の対象や自身の性認識等)」、平成29年度調査では「LGBT(性的指向・性同一性障がい等)に関する問題」としていた。また、平成27年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注6) 「ハンセン病患者等」は、令和3年度調査～令和元年度調査では「HIV感染者・ハンセン病患者等」、平成29年度調査以前では「HIV(エイズウイルス)感染者やハンセン病患者などに対する問題」としていた。

(注7) 「部落差別(同和問題)」は、令和5年度調査～令和元年度調査では「同和問題(部落差別)」、平成29年度調査以前では「同和関係者に対する問題」としていた。

(注8) 平成29年度調査では「ヘイトスピーチに関する問題」の選択肢を加えていた。

(注9) 令和5年度調査以降では「感染症」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「女性」（39.3％）が男性（22.0％）より17.3ポイント、「高齢者」（30.7％）が男性（26.5％）より4.2ポイント高くなっている。一方、男性では「外国人」（24.9％）が女性（18.3％）より6.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「障がいのある人」は50～59歳（44.6％）で4割半ばと高くなっている。「インターネットによる人権侵害」は50～59歳（49.3％）で約5割と高くなっている。「女性」は20～29歳（47.7％）で5割近くと高くなっている。

表5－2－2 人権や差別に対する関心－性別、年齢別

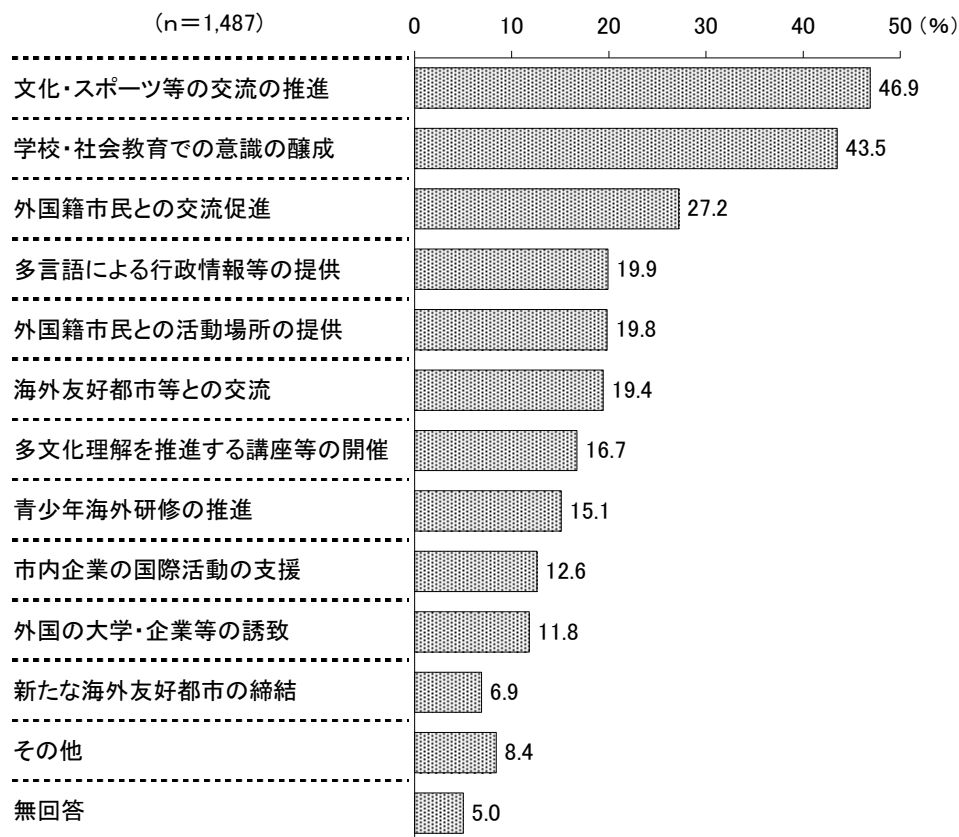
(%)																						
		n	障がいのある人	インターネットによる人権侵害	女性	高齢者	子ども	外国人	震災等に起因する人権問題	感染症	性的マイノリティ（恋愛・性愛の対象や自身の性認識等）	北朝鮮当局によって拉致された被害者等	犯罪被害者等	ホームレス	人身取引	刑を終えて出所した人	部落差別（同和問題）	アイヌの人々	ハンセン病患者等	関心が無い	無回答	
	全	体	1,487	41.3	38.9	31.4	28.6	21.3	21.3	17.8	14.5	13.7	13.4	11.7	10.4	10.4	8.2	7.6	4.2	4.0	9.4	3.9
性別	男	性	672	40.6	38.2	22.0	26.5	20.1	24.9	16.1	13.5	13.2	11.8	10.4	12.1	10.0	7.9	8.6	4.8	4.3	12.4	3.3
	女	性	798	42.2	39.5	39.3	30.7	22.4	18.3	19.3	15.3	14.3	14.7	12.9	8.9	10.4	8.5	6.8	3.9	3.9	7.0	4.5
年齢別	20歳未満	17	47.1	23.5	41.2	5.9	17.6	41.2	35.3	17.6	35.3	23.5	11.8	23.5	17.6	11.8	23.5	11.8	17.6	5.9	0.0	
	20～29歳	130	33.1	30.8	47.7	10.0	26.9	30.8	15.4	10.8	23.8	3.8	8.5	8.5	3.1	8.5	6.9	4.6	1.5	11.5	0.8	
	30～39歳	152	38.2	35.5	42.1	14.5	34.2	27.6	15.1	15.1	17.8	3.9	12.5	12.5	16.4	9.2	5.9	3.9	2.6	11.2	0.7	
	40～49歳	195	39.0	35.4	30.8	17.4	27.2	25.1	13.3	10.8	12.3	9.2	12.3	10.8	10.8	4.6	9.7	5.6	3.6	14.4	2.1	
	50～59歳	276	44.6	49.3	34.8	25.0	23.6	21.0	16.3	11.6	15.9	7.2	12.0	9.8	10.5	7.6	7.6	3.6	4.0	7.2	2.5	
	60～69歳	236	43.6	47.9	35.2	35.6	18.2	16.5	18.2	15.7	13.1	19.5	16.1	10.2	11.9	10.6	8.9	5.5	3.4	7.2	1.7	
	70～79歳	293	41.6	40.3	22.9	39.6	15.0	18.1	24.2	17.4	9.6	21.2	10.2	10.6	10.2	7.5	5.5	3.1	5.5	7.8	8.2	
	80歳以上	186	43.0	22.6	14.5	46.8	10.8	14.5	16.1	18.3	7.0	20.4	8.6	9.1	6.5	9.7	7.5	3.2	4.8	10.2	9.1	

6 国際交流

(1) 国際交流の取組（A：問12）

問. 多文化への理解を深め、国際化に対応するためには、どのような取組が必要であると思いますか。（いくつでも選んでください）

図6-1-1 国際交流の取組



【全体】

国際交流の取組について聴いたところ、「文化・スポーツ等の交流の推進」（46.9％）が4割半ばを超えて最も高く、次いで「学校・社会教育での意識の醸成」（43.5％）、「外国籍市民との交流促進」（27.2％）、「多言語による行政情報等の提供」（19.9％）、「外国籍市民との活動場所の提供」（19.8％）となっている。

【経年変化】

経年による変化は、回答可能個数が令和5年度調査以前とは異なるため、参考記載とする。

表6-1-1 国際交流の取組—経年変化

調 査 年	n	(%)												無 回 答
		文化・スポーツ等の交流の推進	学校・社会教育での意識の醸成	外国籍市民との交流促進	多言語による行政情報等の提供	外国籍市民との活動場所の提供	海外友好都市等との交流	多文化理解を推進する講座等の開催	青少年海外研修の推進	市内企業の国際活動の支援	外国の大学・企業等の誘致	新たな海外友好都市の締結	その他	
令和7年度	1,487	46.9	43.5	27.2	19.9	19.8	19.4	16.7	15.1	12.6	11.8	6.9	8.4	5.0
令和5年度	1,446	33.2	36.2	21.2	11.7	12.9	11.1	6.7	9.0	6.2	7.6	2.5	6.4	5.7
令和3年度	1,603	31.6	36.9	19.7	12.3	11.7	12.5	9.2	10.3	6.3	6.4	3.4	5.8	5.4
令和元年度	1,467	38.1	38.7	20.0	15.8	11.0	11.7	9.8	10.1	6.1	7.3	2.6	4.5	4.4
平成29年度	1,480	38.2	37.6	18.6	11.7	12.6	10.9	6.7	12.6	5.6	6.8	3.6	4.1	6.7
平成27年度	1,445	36.6	—	28.2	14.1	—	10.9	10.4	15.4	6.4	10.8	4.8	4.4	8.2
平成25年度	1,270	30.2	—	24.7	15.6	—	10.1	9.6	17.7	9.2	13.4	3.9	4.0	9.8
平成23年度	815	38.5	—	25.8	11.4	—	12.6	9.1	16.3	7.4	11.4	4.7	4.3	5.2
平成21年度	1,608	44.1	—	22.6	12.3	—	15.0	11.4	15.3	7.2	9.1	—	5.6	5.3
平成19年度	1,500	40.1	—	21.6	13.7	—	11.0	9.7	14.7	4.5	7.5	—	2.9	12.3

(注1)「外国籍市民との交流促進」は、平成29年度調査以前では「市内外国籍市民との交流促進」として
いた。

(注2)「新たな海外友好都市の締結」は、平成29年度調査以前では「新たな友好都市の締結」としていた。
また、平成21年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注3)「多文化理解を推進する講座等の開催」は、平成29年度調査以前では「国際理解を推進する講座等
の開催」としていた。

(注4)平成29年度調査以降では、「学校・社会教育での意識の醸成」、「外国籍市民との活動場所の提供」
の選択肢を追加している。

(注5)「多言語による行政情報等の提供」は、平成27年度調査以前では「市のパンフレット、道路標識等
の外国語表示の整備」としていた。

(注6)「海外友好都市等との交流」は、令和3年度調査以前では「国際友好都市との交流」としていた。

(注7)令和5年度調査以前では、回答可能個数を「2つまで」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「文化・スポーツ等の交流の推進」(50.6%)が女性(44.4%)より6.2ポイント高くなっている。一方、女性では「学校・社会教育での意識の醸成」(46.4%)が男性(40.9%)より5.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「文化・スポーツ等の交流の推進」は20～29歳(52.3%)と70～79歳(51.9%)で5割を超えて高くなっている。「学校・社会教育での意識の醸成」は60～69歳(51.7%)で5割を超えて高くなっている。「外国籍市民との交流促進」は40～49歳(30.3%)と80歳以上(30.1%)で約3割と高くなっている。

表6-1-2 国際交流の取組一性別、年齢別

(%)															
		n	文化・スポーツ等の交流の推進	学校・社会教育での意識の醸成	外国籍市民との交流促進	多言語による行政情報等の提供	外国籍市民との活動場所の提供	海外友好都市等との交流	多文化理解を推進する講座等の開催	青少年海外研修の推進	市内企業の国際活動の支援	外国の大学・企業等の誘致	新たな海外友好都市の締結	その他	無回答
全 体		1,487	46.9	43.5	27.2	19.9	19.8	19.4	16.7	15.1	12.6	11.8	6.9	8.4	5.0
性別	男 性	672	50.6	40.9	25.7	19.5	20.8	18.9	16.1	16.1	13.4	11.9	7.0	10.9	1.9
	女 性	798	44.4	46.4	28.7	20.3	19.4	19.9	17.2	14.5	12.0	11.9	6.6	5.6	7.6
年 齢 別	20 歳 未 満	17	70.6	47.1	29.4	35.3	17.6	29.4	5.9	11.8	23.5	17.6	5.9	5.9	0.0
	20 ～ 29 歳	130	52.3	37.7	20.8	25.4	13.8	22.3	16.2	10.8	20.0	12.3	6.9	8.5	0.8
	30 ～ 39 歳	152	40.8	37.5	27.6	24.3	21.7	19.7	14.5	13.8	13.8	13.2	7.9	11.2	0.0
	40 ～ 49 歳	195	35.4	47.2	30.3	16.4	21.5	20.0	12.3	11.8	8.2	15.4	7.7	10.3	2.6
	50 ～ 59 歳	276	47.1	42.0	26.4	20.7	18.5	17.4	15.6	11.6	10.5	13.4	5.4	11.6	2.2
	60 ～ 69 歳	236	48.7	51.7	26.3	24.2	22.0	17.8	18.6	11.0	9.7	9.3	5.5	6.8	1.3
	70 ～ 79 歳	293	51.9	46.4	27.3	17.7	21.5	19.8	16.7	21.2	13.3	10.9	6.8	6.1	10.2
	80 歳 以 上	186	47.3	36.0	30.1	11.3	17.7	19.9	23.7	24.2	16.1	8.6	9.1	4.8	16.1

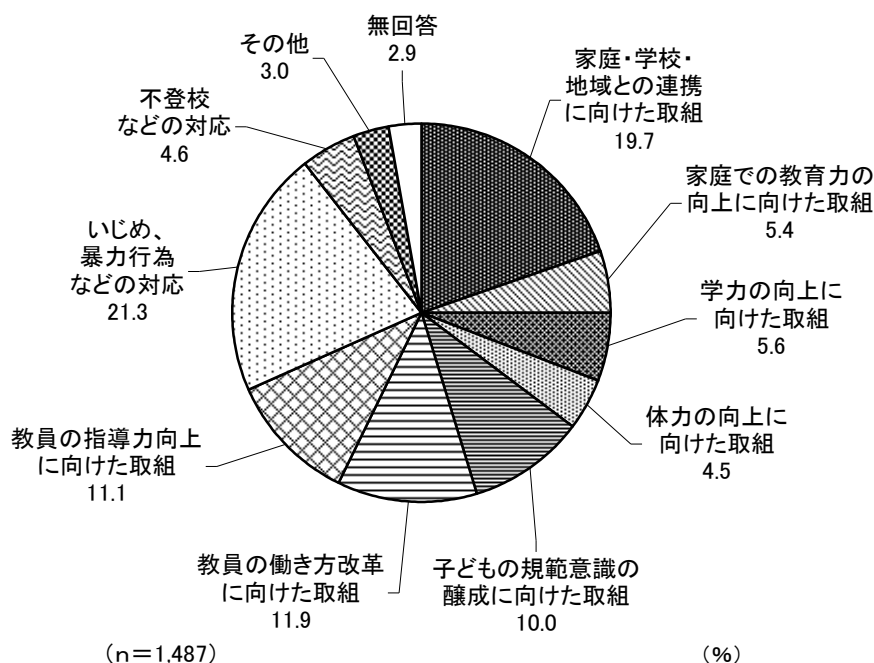
7 教育・生涯学習・文化・スポーツ

(1) 現在の教育への取組 (A: 問13)

問. 現在の教育において、どのような取組が重要であると思いますか。

(1つだけ選んでください)

図7-1-1 現在の教育への取組



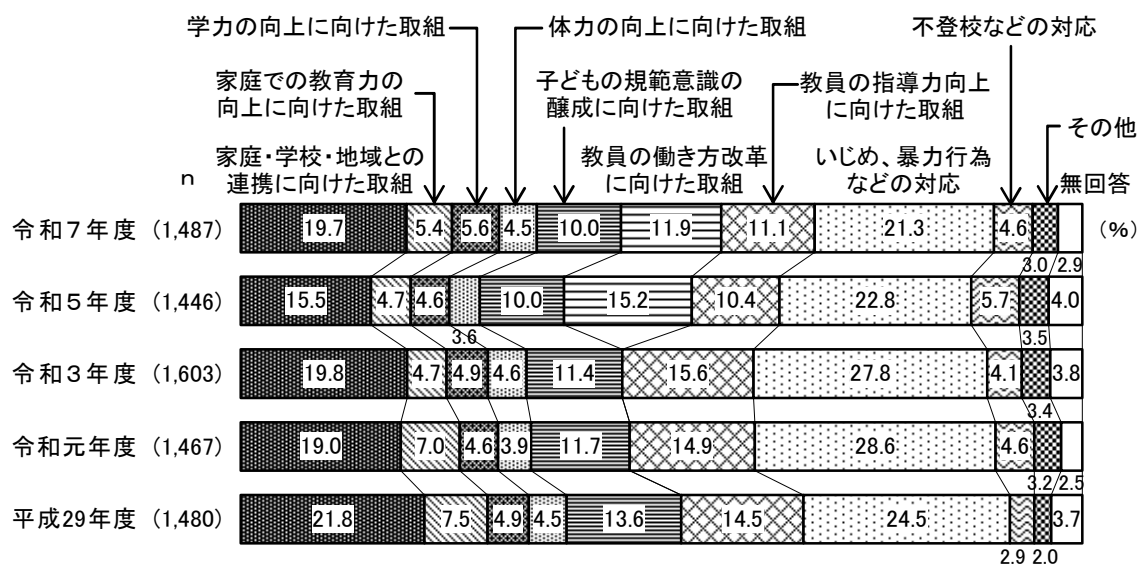
【全体】

現在の教育において、どのような取組が重要であるかについて聞いたところ、「いじめ、暴力行為などの対応」(21.3%)が2割を超えて最も高く、次いで「家庭・学校・地域との連携に向けた取組」(19.7%)、「教員の働き方改革に向けた取組」(11.9%)、「教員の指導力向上に向けた取組」(11.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「家庭・学校・地域との連携に向けた取組」（19.7％）は令和5年度調査（15.5％）より4.2ポイント増加している。一方、「教員の働き方改革に向けた取組」（11.9％）は令和5年度調査（15.2％）より3.3ポイント減少している。

図7－1－2 現在の教育への取組－経年変化



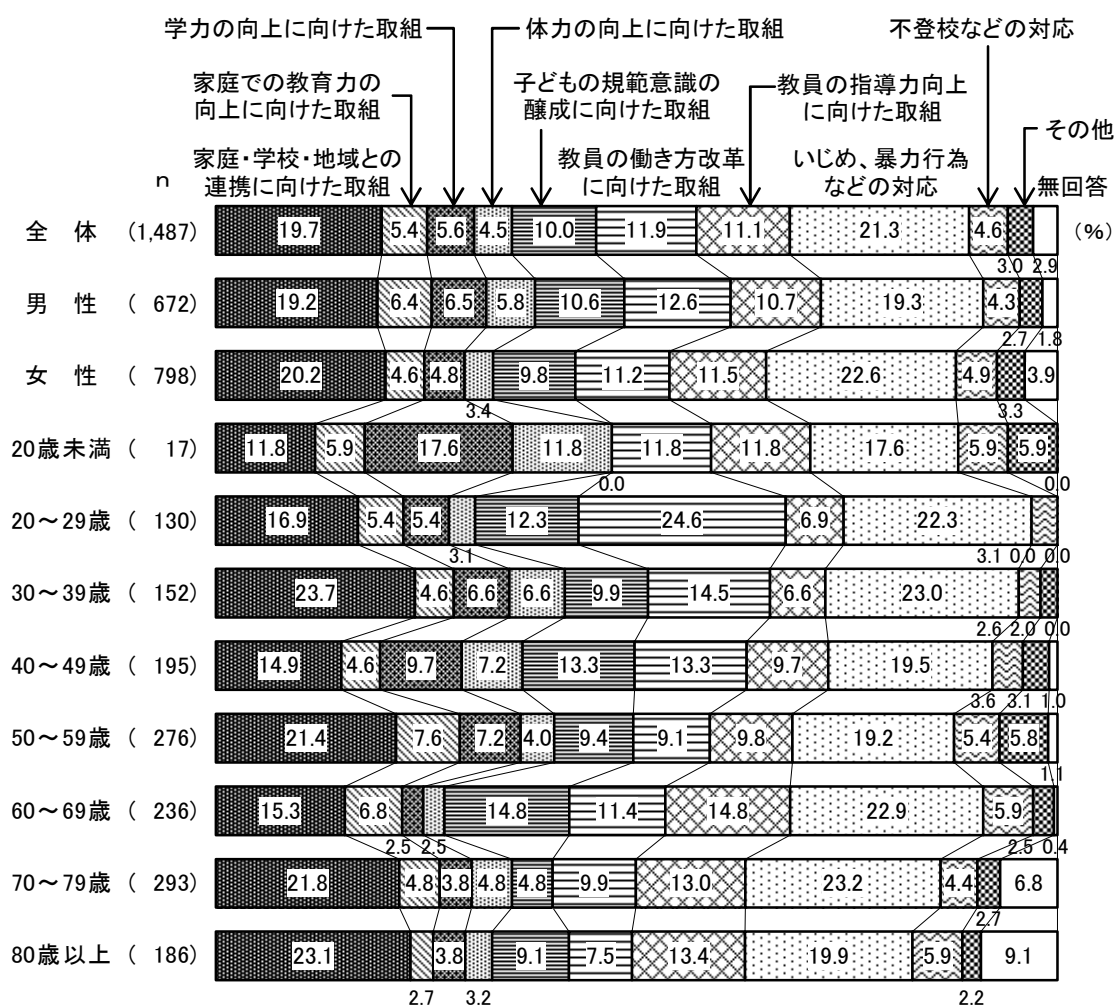
（注）令和5年度調査以降では、「教員の働き方改革に向けた取組」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「いじめ、暴力行為などの対応」（22.6％）が男性（19.3％）より3.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「家庭・学校・地域との連携に向けた取組」は30～39歳（23.7％）と80歳以上（23.1％）で2割半ば近くと高くなっている。「教員の働き方改革に向けた取組」は20～29歳（24.6％）で2割半ばと高くなっている。「いじめ、暴力行為などの対応」は70～79歳（23.2％）、30～39歳（23.0％）、60～69歳（22.9％）で2割半ば近くと高くなっている。

図 7-1-3 現在の教育への取組—性別、年齢別

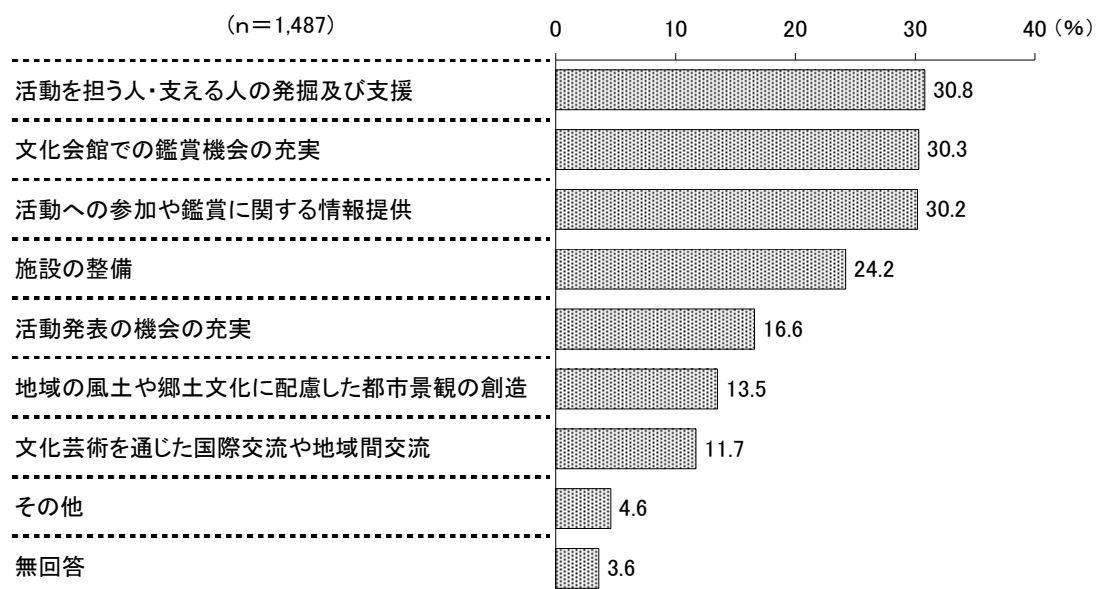


（２）文化芸術活動を充実させる取組（Ａ：問１４）

問．文化芸術活動をより充実させるために、どのような取組が必要であると思いますか。

（２つまで選んでください）

図 7-2-1 文化芸術活動を充実させる取組



【全体】

文化芸術活動を充実させる取組について聞いたところ、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」（30.8%）、「文化会館での鑑賞機会の充実」（30.3%）、「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」（30.2%）がいずれも約３割で高く、次いで「施設の整備」（24.2%）、「活動発表の機会の充実」（16.6%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」は令和5年度調査に引き続き第1位となっている。「文化会館での鑑賞機会の充実」(30.3%)は令和5年度調査(26.6%)より3.7ポイント、「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」(30.2%)は令和5年度調査(27.0%)より3.2ポイント増加している。

なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表7-2-1 文化芸術活動を充実させる取組—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和7年度 (n=1,487)	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=815)
1	活動を担う人・ 支える人の発掘 及び支援 30.8	活動を担う人・ 支える人の発掘 及び支援 31.5	活動を担う人・ 支える人の発掘 及び支援 31.1	活動への参加 や鑑賞に関する 情報提供 32.9	活動への参加 や鑑賞に関する 情報提供 32.6	文化芸術活動 や鑑賞活動など の情報提供 37.0	文化芸術活動 や鑑賞活動など の情報提供 34.3	芸術文化活動 や鑑賞活動など の情報提供 34.5
2	文化会館での 鑑賞機会の充実 30.3	活動への参加 や鑑賞に関する 情報提供 27.0	活動への参加 や鑑賞に関する 情報提供 27.2	活動を担う人・ 支える人の発掘 及び支援 31.1	活動を担う人・ 支える人の発掘 及び支援 32.4	魅力ある都市 景観の創造 33.1	魅力ある都市 景観の創造 32.9	文化会館での 鑑賞機会の充実 30.7
3	活動への参加 や鑑賞に関する 情報提供 30.2	文化会館での 鑑賞機会の充実 26.6	文化会館での 鑑賞機会の充実 23.7	文化会館での 鑑賞機会の充実 26.1	文化会館での 鑑賞機会の充実 24.6	文化会館での 鑑賞機会の充実 31.5	文化会館での 鑑賞機会の充実 30.1	魅力ある都市 景観の創造 29.4
4	施設の整備 24.2	施設の整備 26.5	施設の整備 21.2	施設の整備 23.0	施設の整備 20.7	学校や福祉施設 など、文化会館 以外での鑑賞機 会の充実 27.7	学校や福祉施設 など、文化会館 以外での鑑賞機 会の充実 26.5	学校や福祉施設 など、文化会館 以外での鑑賞機 会の充実 25.3
5	活動発表の 機会の充実 16.6	活動発表の 機会の充実 17.6	活動発表の 機会の充実 18.4	活動発表の 機会の充実 16.1	地域の風土や 郷土文化に配慮 した都市景観の 創造 15.3	市街地での文化 芸術イベントの 充実 26.4	市街地での文化 芸術イベントの 充実 22.8	市街地での文化 芸術イベントの 充実 22.9

(注) 平成29年度調査以降では、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」と「活動発表の機会の充実」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「文化会館での鑑賞機会の充実」(35.5%)が男性(24.3%)より11.2ポイント、「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」(32.8%)が男性(26.9%)より5.9ポイント高くなっている。一方、男性では「施設の整備」(27.8%)が女性(21.2%)より6.6ポイント、「地域の風土や郷土文化に配慮した都市景観の創造」(16.2%)が女性(11.2%)より5.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「活動を担う人・支える人の発掘及び支援」は70～79歳(34.5%)で3割半ばと高くなっている。「文化会館での鑑賞機会の充実」は30～39歳(34.2%)で3割半ばと高くなっている。「活動への参加や鑑賞に関する情報提供」は20～29歳(32.3%)、40～49歳(31.3%)、70～79歳(31.1%)で3割を超えて高くなっている。

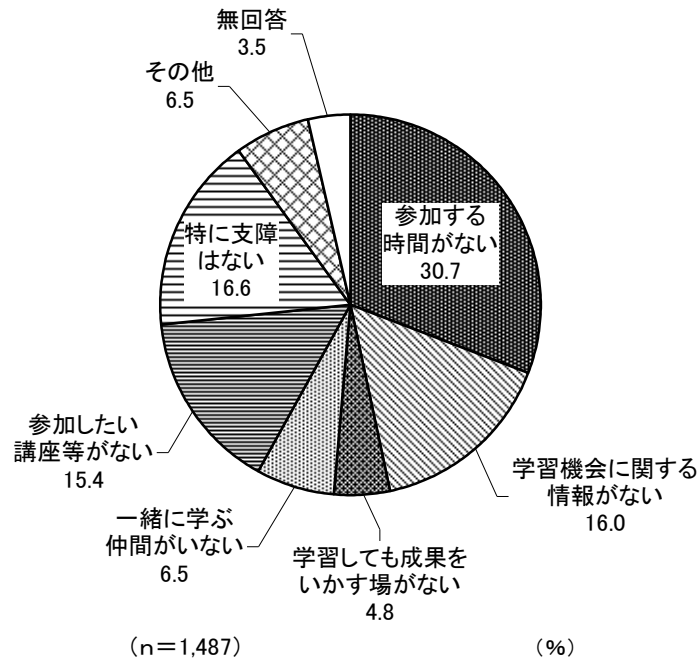
表7-2-2 文化芸術活動を充実させる取組—性別、年齢別

(%)											
		n	活動を担う人・支える人の発掘及び支援	文化会館での鑑賞機会の充実	活動への参加や鑑賞に関する情報提供	施設の整備	活動発表の機会の充実	地域の風土や郷土文化に配慮した都市景観の創造	文化芸術を通じた国際交流や地域間交流	その他	無回答
全 体		1,487	30.8	30.3	30.2	24.2	16.6	13.5	11.7	4.6	3.6
性別	男 性	672	32.9	24.3	26.9	27.8	18.8	16.2	11.9	5.8	2.2
	女 性	798	29.1	35.5	32.8	21.2	14.7	11.2	11.8	3.4	4.9
年 齢 別	20 歳 未 満	17	11.8	23.5	23.5	35.3	5.9	29.4	23.5	5.9	0.0
	20 ～ 29 歳	130	32.3	27.7	32.3	31.5	13.8	10.8	10.8	1.5	0.0
	30 ～ 39 歳	152	30.3	34.2	28.9	25.0	18.4	14.5	7.2	2.0	0.0
	40 ～ 49 歳	195	23.6	27.7	31.3	24.1	21.5	13.3	14.9	4.6	2.1
	50 ～ 59 歳	276	30.4	31.5	29.0	25.0	18.8	13.8	10.1	6.2	1.1
	60 ～ 69 歳	236	33.9	29.2	30.9	27.1	17.8	12.7	12.3	4.2	0.8
	70 ～ 79 歳	293	34.5	32.4	31.1	18.1	13.3	13.3	12.3	5.5	8.2
	80 歳 以 上	186	30.6	28.0	29.0	22.0	13.4	14.0	12.4	5.4	11.3

(3) 生涯学習活動に参加する上で支障になること (A：問15)

問. 講座・教育などの学習活動へ参加を検討する場合、どのような理由が妨げとなりますか。
(1つだけ選んでください)

図7-3-1 生涯学習活動に参加する上で支障になること



【全体】

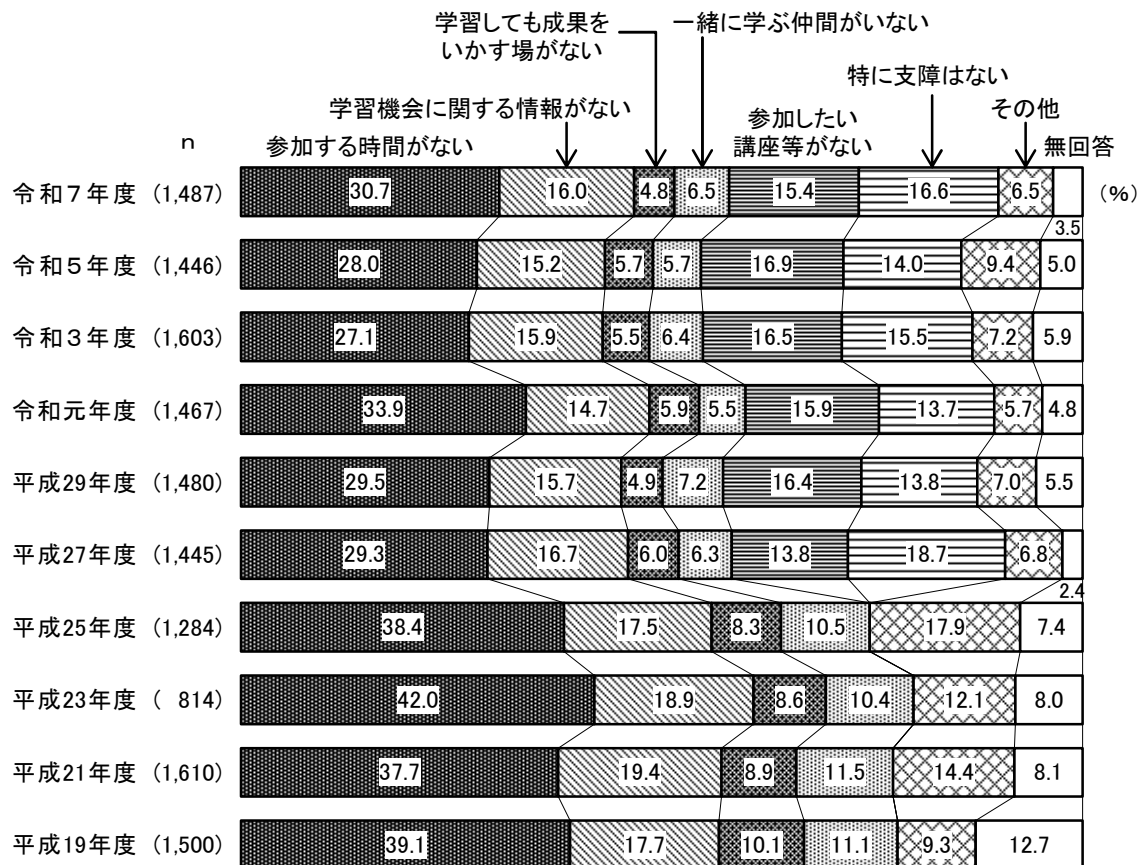
生涯学習活動に参加する上で支障になることについて聞いたところ、「参加する時間がない」(30.7%) が約3割で最も高く、次いで「学習機会に関する情報がない」(16.0%)、「参加したい講座等がない」(15.4%) となっている。一方、「特に支障はない」(16.6%) は1割半ばを超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

なお、平成25年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考掲載とする。

図7-3-2 生涯学習活動に参加する上で支障になること一経年変化



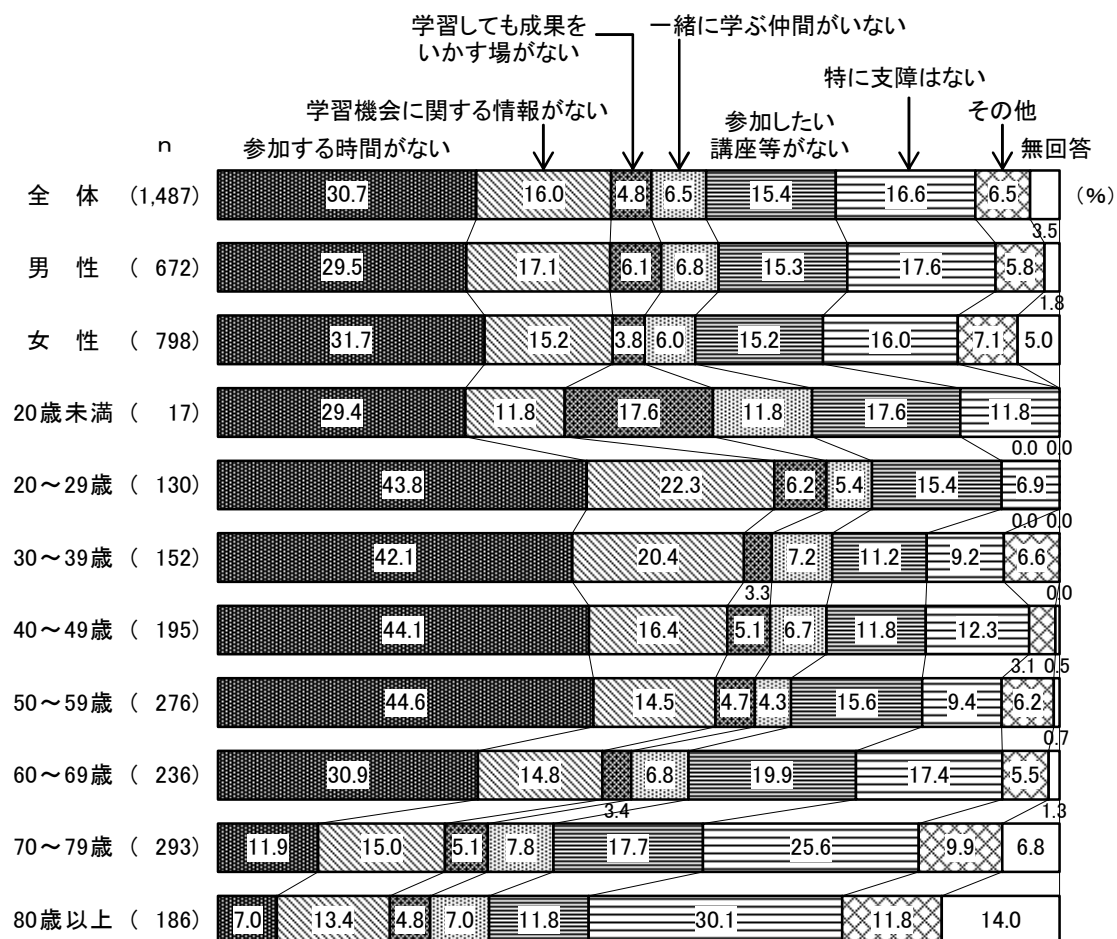
(注) 平成27年度調査以降では、「参加したい講座等がない」と「特に支障はない」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「参加する時間がない」は50～59歳（44.6%）と40～49歳（44.1%）で4割半ばと高くなっている。「学習機会に関する情報がない」は20～29歳（22.3%）で2割を超えて高くなっている。

図7-3-3 生涯学習活動に参加する上で支障になること一性別、年齢別

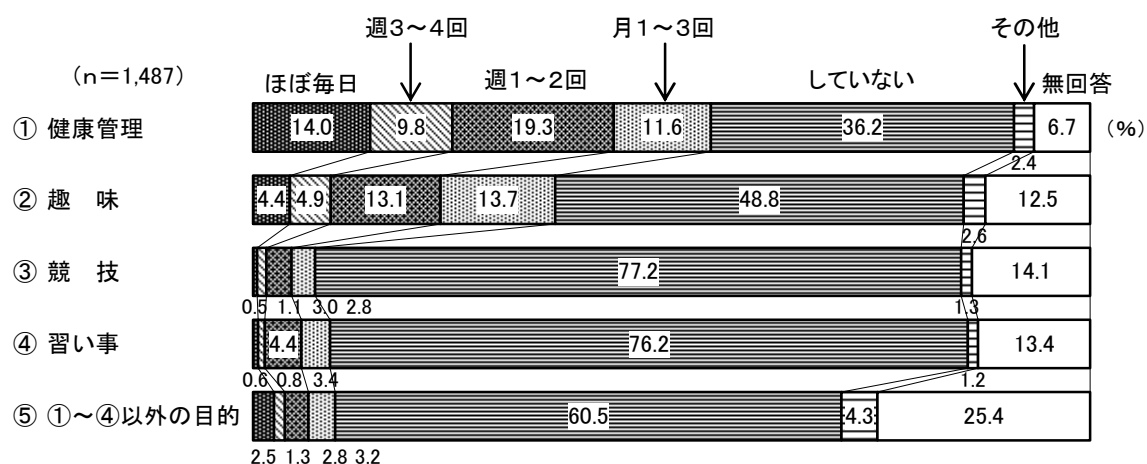


(4) スポーツをする目的・頻度 (A：問16)

問. 運動（スポーツ）をどのような目的で、また、どのくらいの頻度で行っていますか。

(①～⑤について、それぞれ1つだけ選んでください)

図7-4-1 スポーツをする目的・頻度



【全体】

スポーツをする目的・頻度について、5つの目的別に頻度を聞いたところ、①健康管理では、「週1～2回」(19.3%)が約2割で最も高く、次いで「ほぼ毎日」(14.0%)、「月1～3回」(11.6%)、「週3～4回」(9.8%)となっている。

②趣味では、「月1～3回」(13.7%)が1割半ば近くとなっており、次いで「週1～2回」(13.1%)、「週3～4回」(4.9%)、「ほぼ毎日」(4.4%)となっている。

③競技では、「ほぼ毎日」(0.5%)と「週3～4回」(1.1%)、「週1～2回」(3.0%)、「月1～3回」(2.8%)の4つを合わせた『している』(7.4%)は1割未満となっている。

④習い事では、『している』(9.2%)は約1割となっている。

⑤①～④以外の目的では、『している』(9.8%)は約1割となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、全ての目的で『している』の割合は令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図7-4-2 スポーツをする目的・頻度 ①健康管理—経年変化

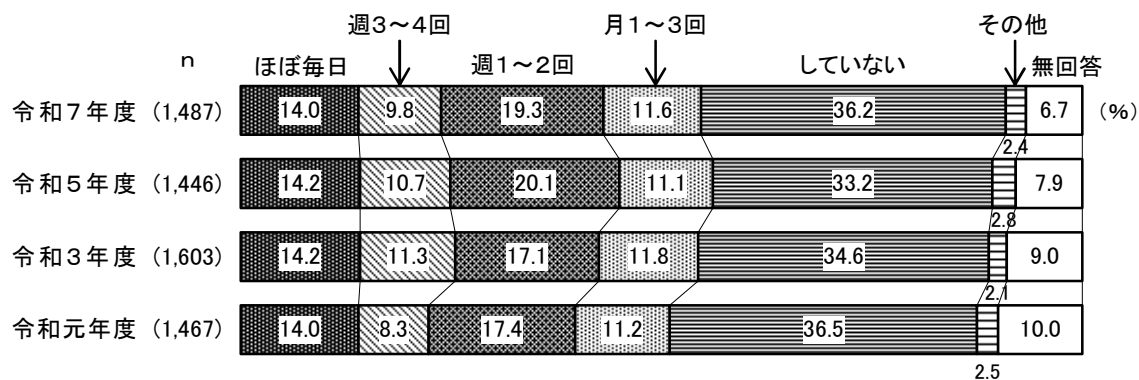


図7-4-3 スポーツをする目的・頻度 ②趣味—経年変化

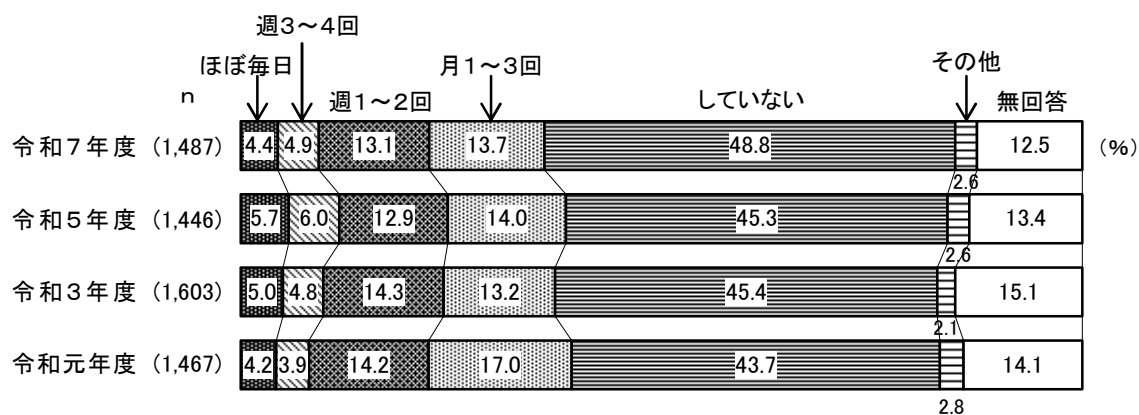


図7-4-4 スポーツをする目的・頻度 ③競技—経年変化

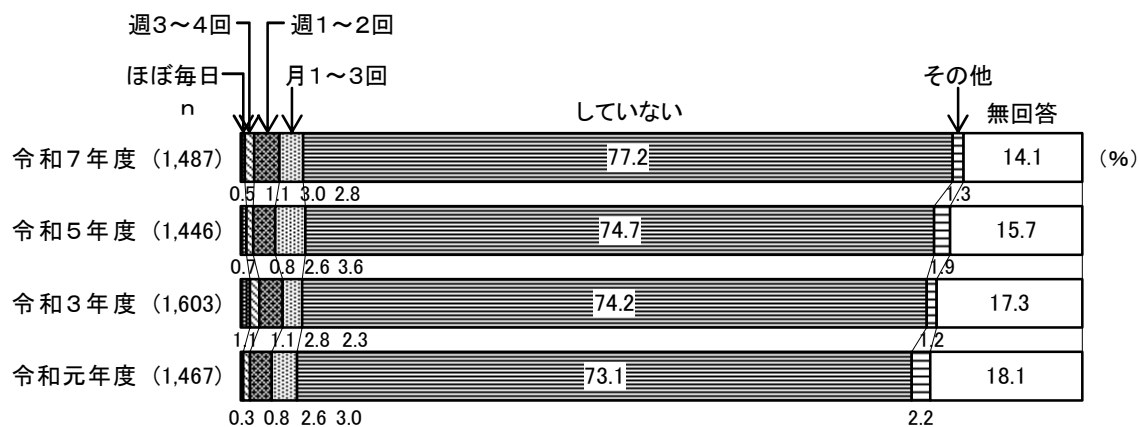


図7-4-5 スポーツをする目的・頻度 ④習い事—経年変化

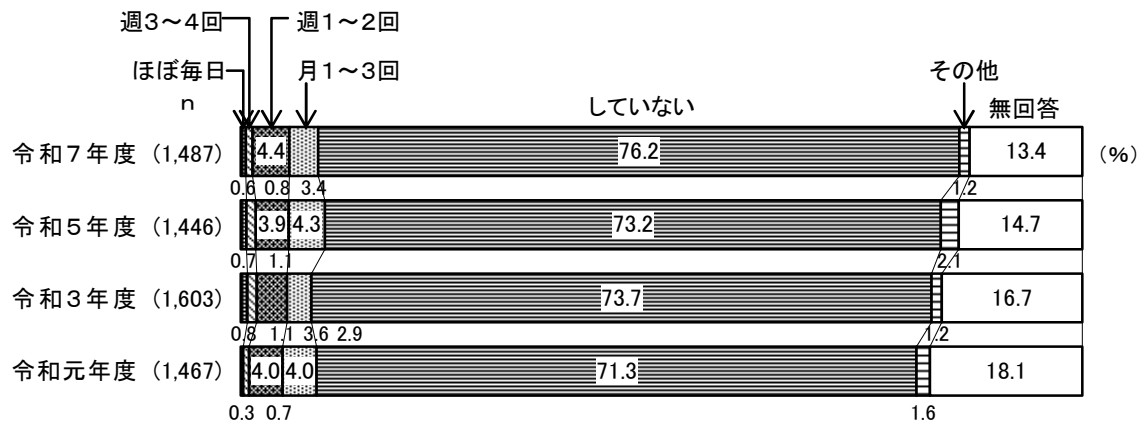
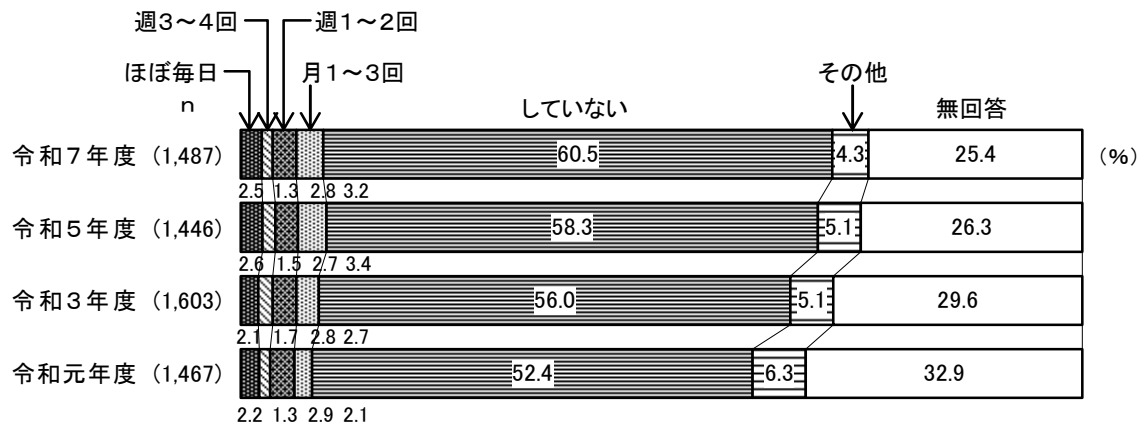


図7-4-6 スポーツをする目的・頻度 ⑤ ①~④以外の目的—経年変化

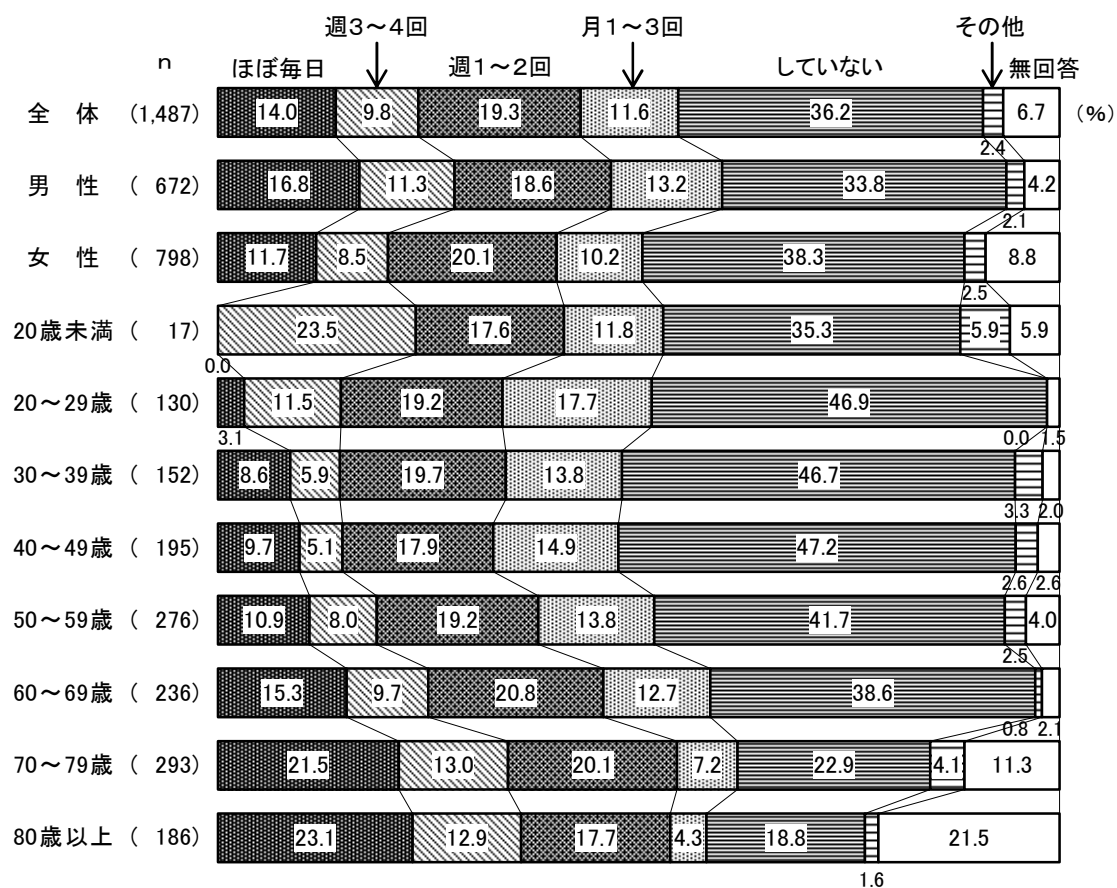


【属性別】①健康管理

①健康管理について性別で見ると、男性では『している』(59.9%)が女性(50.5%)より9.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は70～79歳(61.8%)で6割を超えて高くなっている。一方、「していない」は40～49歳(47.2%)、20～29歳(46.9%)、30～39歳(46.7%)で4割半ばを超えて高くなっている。

図7-4-7 スポーツをする目的・頻度 ①健康管理—性別、年齢別

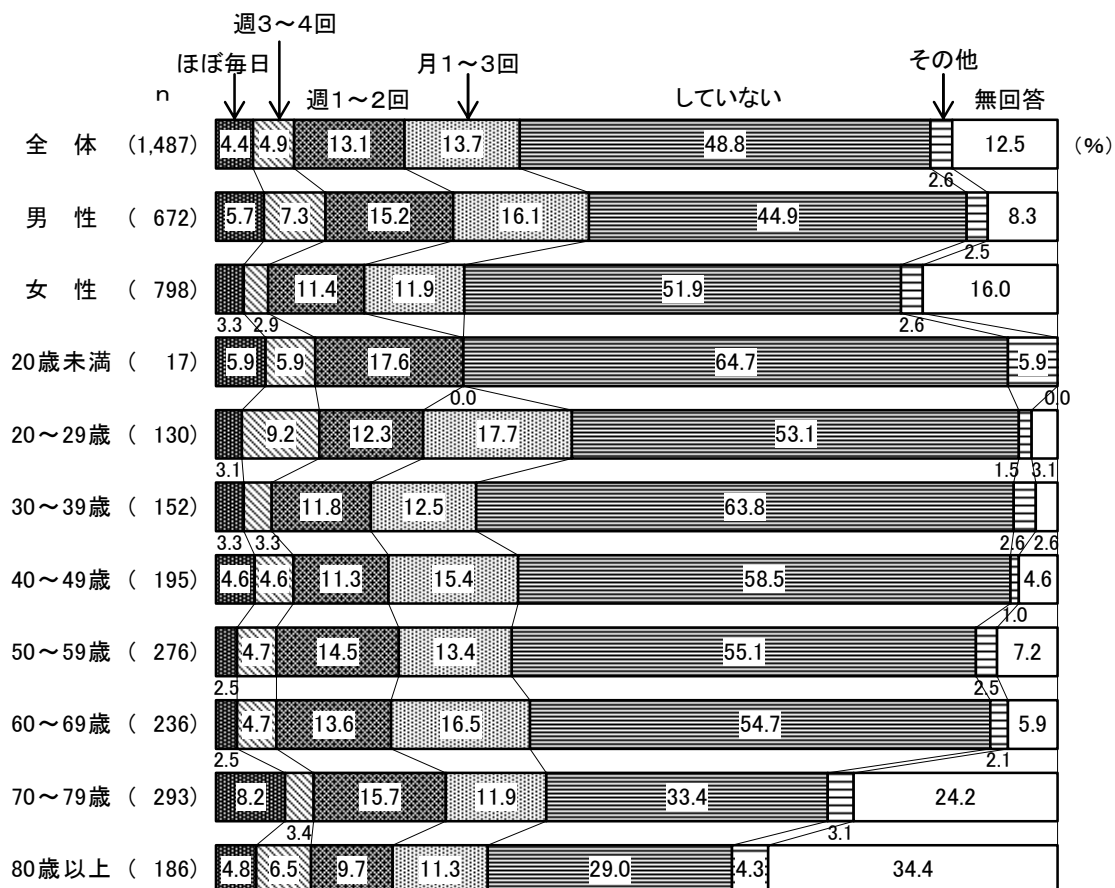


【属性別】②趣味

②趣味について性別で見ると、男性では『している』(44.3%)が女性(29.5%)より14.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20～29歳(42.3%)で4割を超えて高くなっている。一方、『していない』は30～39歳(63.8%)で6割半ば近くと高くなっている。

図7-4-8 スポーツをする目的・頻度 ②趣味—性別、年齢別

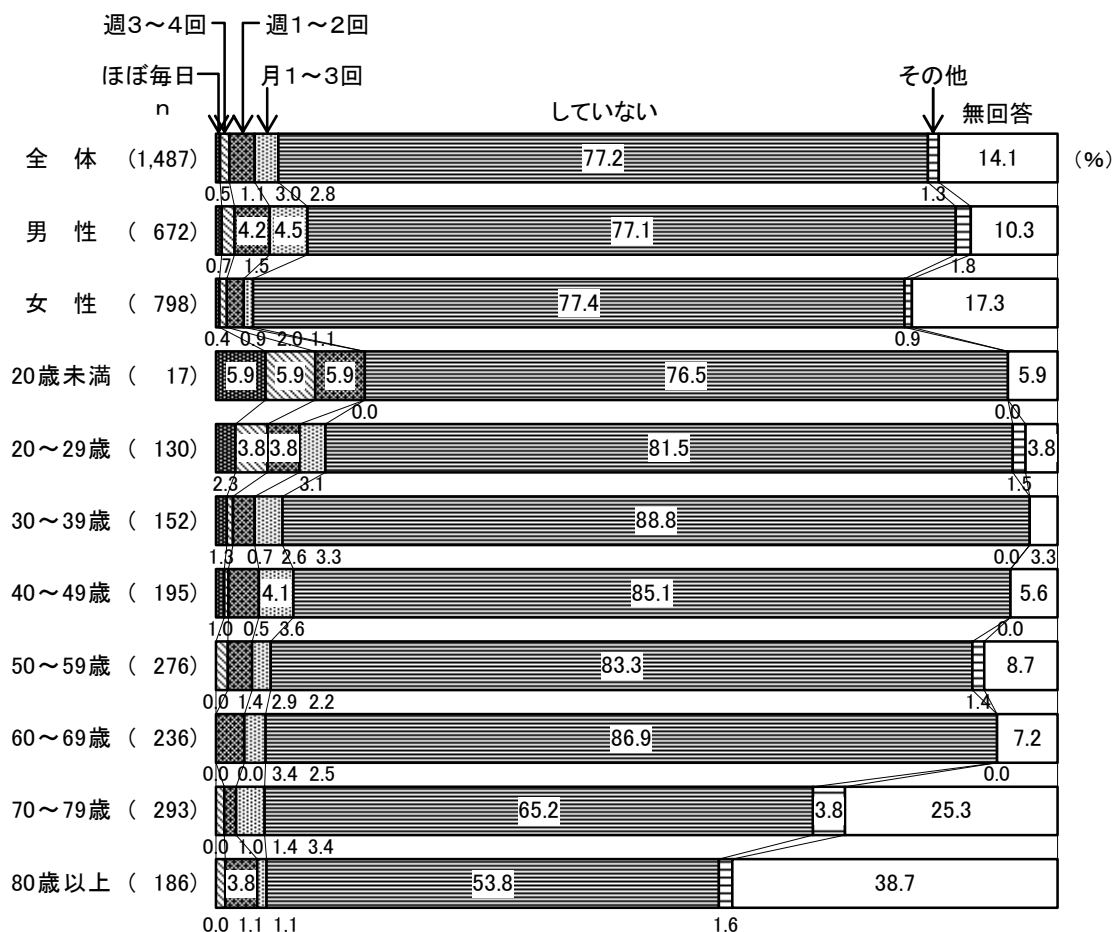


【属性別】③競技

③競技について性別で見ると、男性では『している』（10.9%）が女性（4.4%）より6.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20～29歳（13.0%）で1割半ば近くとなっている。一方、「していない」は30～39歳（88.8%）で9割近くと高くなっている。

図7-4-9 スポーツをする目的・頻度 ③競技—性別、年齢別

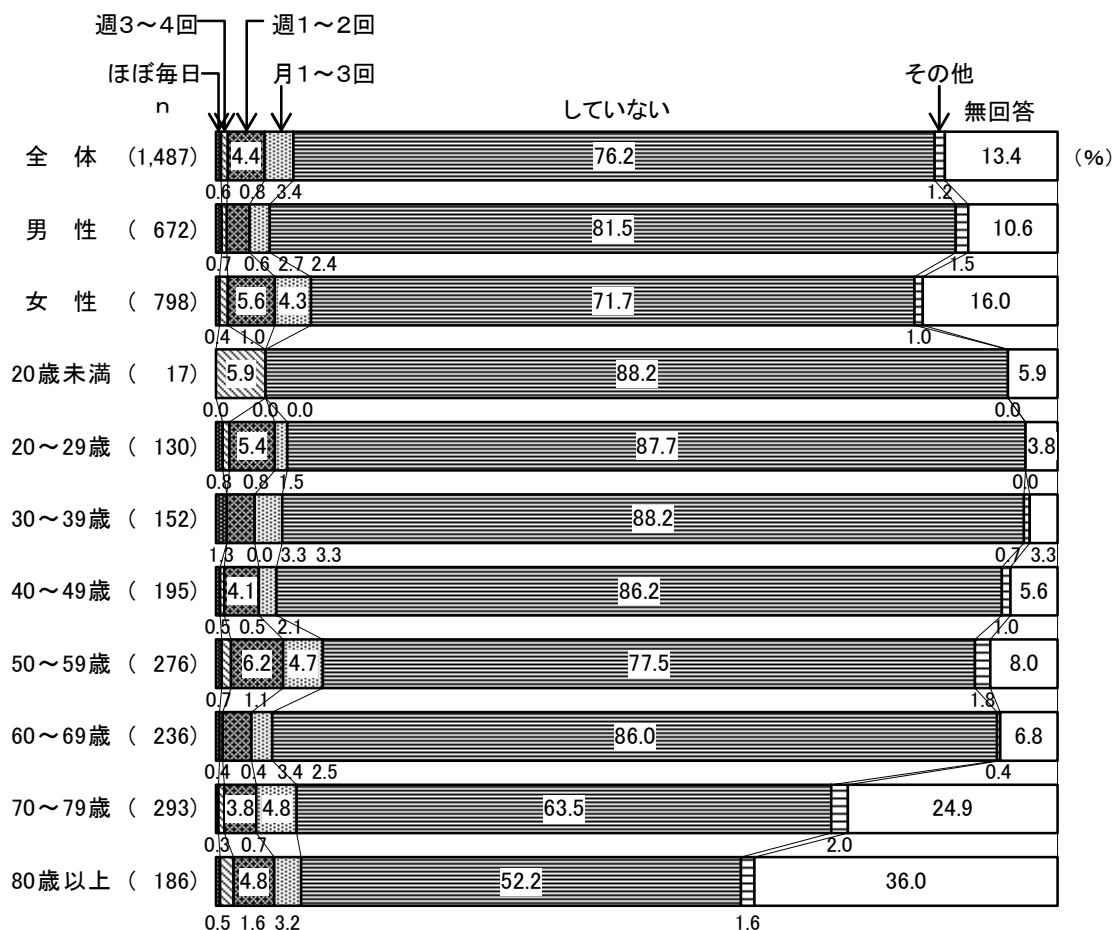


【属性別】④習い事

④習い事について性別で見ると、女性では『している』(11.3%)が男性(6.4%)より4.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は50～59歳(12.7%)で1割半ば近くとなっている。一方、「していない」は30～39歳(88.2%)と20～29歳(87.7%)で9割近くと高くなっている。

図7-4-10 スポーツをする目的・頻度 ④習い事一性別、年齢別

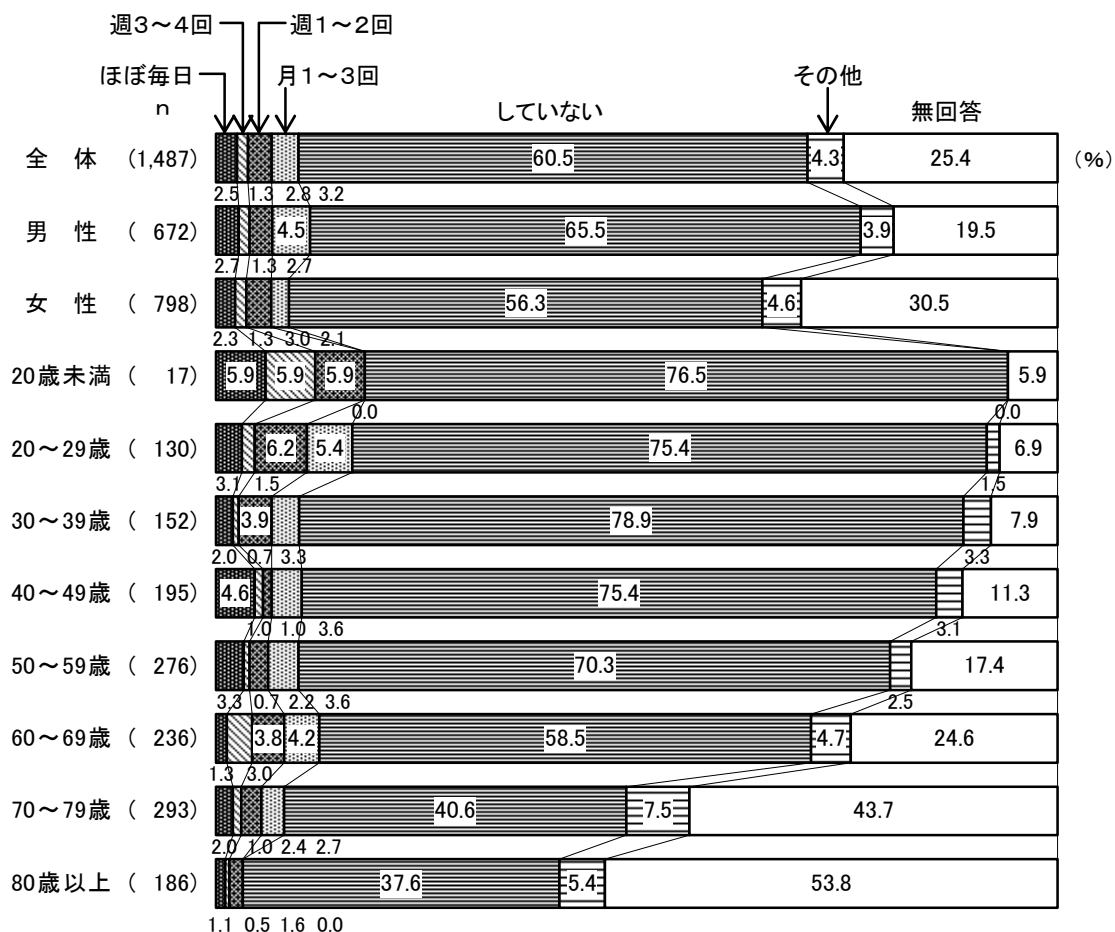


【属性別】⑤ ①～④以外の目的

⑤ ①～④以外の目的について性別で見ると、男性では「していない」(65.5%)が女性(56.3%)より9.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『している』は20～29歳(16.2%)で1割半ばを超えている。一方、「していない」は30～39歳(78.9%)で8割近くと高くなっている。

図7-4-11 スポーツをする目的・頻度 ⑤ ①～④以外の目的一性別、年齢別

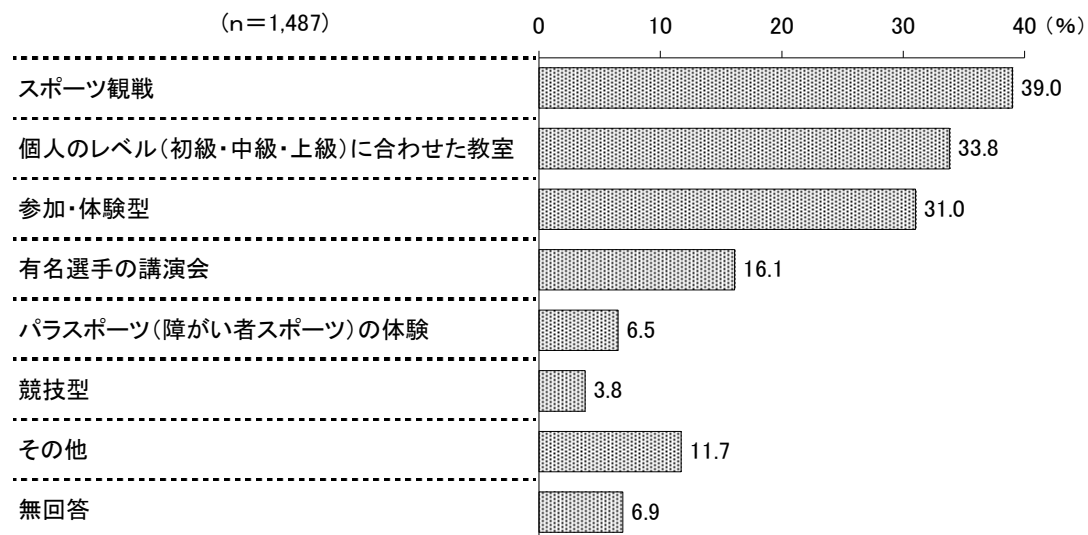


(5) 開催してほしいスポーツイベント（A：問17）

問. 今後、どのようなスポーツイベントを開催してほしいですか。

（いくつでも選んでください）

図7-5-1 開催してほしいスポーツイベント



【全体】

開催してほしいスポーツイベントについて聞いたところ、「スポーツ観戦」（39.0%）が約4割で最も高く、次いで「個人のレベル（初級・中級・上級）に合わせた教室」（33.8%）、「参加・体験型」（31.0%）、「有名選手の講演会」（16.1%）、「パラスポーツ（障がい者スポーツ）の体験」（6.5%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は令和5年度調査と同じ順位となっており、「個人のレベル（初級・中級・上級）に合わせた教室」（33.8%）は令和5年度調査（30.8%）より3.0ポイント増加している。

なお、平成27年度以前の調査は、質問文及び選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表7-5-1 開催してほしいスポーツイベントー経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和7年度 (n=1,487)	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=814)
1	スポーツ観戦 39.0	スポーツ観戦 37.5	スポーツ観戦 33.9	スポーツ観戦 40.8	スポーツ観戦 35.5	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 28.9	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 24.1	参加型の大会 やイベント 24.4
2	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 33.8	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 30.8	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 32.3	参加・体験型 34.2	参加・体験型 33.8	参加型の大会 やイベント 25.9	参加型の大会 やイベント 18.1	初心者向きの スポーツ教室 やイベント 22.5
3	参加・体験型 31.0	参加・体験型 30.6	参加・体験型 31.9	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 29.4	個人のレベル (初級・中級・ 上級)に合わせ た教室 31.7	公民館で実施 する各種 スポーツイベ ントやスポ ーツ教室 20.3	公民館で実施 する各種 スポーツイベ ントやスポ ーツ教室 16.6	有名スポーツ 選手を招いて の講演会や スポーツ教室、 イベント 18.8
4	有名選手の 講演会 16.1	有名選手の 講演会 17.4	有名選手の 講演会 15.9	有名選手の 講演会 18.1	有名選手の 講演会 16.5	有名スポーツ 選手を招いて の講演会や スポーツ教室、 イベント 19.9	有名スポーツ 選手を招いて の講演会や スポーツ教室、 イベント 13.3	公民館で実施 する各種 スポーツイベ ントやスポ ーツ教室 15.0
5	パラスポーツ (障がい者 スポーツ)の 体験 6.5	パラスポーツ (障がい者 スポーツ)の 体験 8.5	パラスポーツ (障がい者 スポーツ)の 体験 7.2	パラスポーツ (障がい者 スポーツ)の 体験 10.0	パラスポーツ (障がい者 スポーツ)の 参加・体験 7.8	順位を競う 大会やイベント 6.6	順位を競う 大会やイベント 4.0	順位を競う 大会やイベント 4.3

（注1）「パラスポーツ（障がい者スポーツ）の体験」は、平成29年度調査では「パラスポーツ（障がい者スポーツ）の参加・体験」としていた。

（注2）平成27年度調査以前では、「今後、参加してみたいと思うスポーツイベントは何ですか。」（複数回答）と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「スポーツ観戦」（44.6%）が女性（34.3%）より10.3ポイント、「有名選手の講演会」（17.9%）が女性（14.7%）より3.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「スポーツ観戦」は40～49歳（45.6%）で4割半ばと高くなっている。「個人のレベル（初級・中級・上級）に合わせた教室」は30～39歳（44.1%）で4割半ばと高くなっている。「参加・体験型」は20～29歳（44.6%）で4割半ばと高くなっている。

表7-5-2 開催してほしいスポーツイベントー性別、年齢別

			(%)							
		n	スポーツ観戦	個人のレベルに合わせた教室（初級・中級・上級）	参加・体験型	有名選手の講演会	パラスポーツ（障がい者スポーツ）の体験	競技型	その他	無回答
全 体		1,487	39.0	33.8	31.0	16.1	6.5	3.8	11.7	6.9
性別	男 性	672	44.6	32.4	29.6	17.9	5.4	5.1	12.9	3.3
	女 性	798	34.3	35.2	32.2	14.7	7.1	2.8	10.0	10.0
年 齢 別	20 歳 未 満	17	70.6	11.8	23.5	11.8	0.0	5.9	17.6	0.0
	20 ～ 29 歳	130	36.2	40.8	44.6	15.4	2.3	8.5	3.8	0.0
	30 ～ 39 歳	152	42.1	44.1	40.8	22.4	7.2	8.6	11.8	1.3
	40 ～ 49 歳	195	45.6	36.4	32.3	13.3	7.2	3.6	11.3	2.6
	50 ～ 59 歳	276	43.1	30.4	34.8	22.1	8.3	3.3	9.4	2.5
	60 ～ 69 歳	236	39.8	37.7	32.6	13.1	7.6	2.5	10.6	3.0
	70 ～ 79 歳	293	36.2	31.1	23.2	13.7	5.1	1.0	14.0	13.0
	80 歳 以 上	186	25.8	24.2	17.2	14.0	5.9	3.8	17.7	23.7

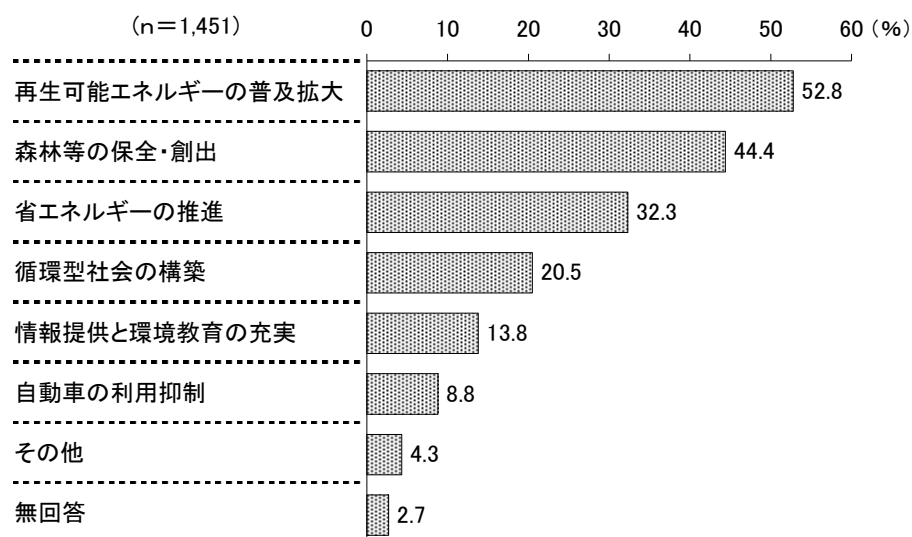
8 環境

(1) 地球温暖化防止への取組（B：問10）

問. 地球温暖化防止には、どのような取組が必要であると思いますか。

（2つまで選んでください）

図8－1－1 地球温暖化防止への取組



【全体】

地球温暖化防止への取組について聞いたところ、「再生可能エネルギーの普及拡大」（52.8%）が5割半ば近くで最も高く、次いで「森林等の保全・創出」（44.4%）、「省エネルギーの推進」（32.3%）、「循環型社会の構築」（20.5%）、「情報提供と環境教育の充実」（13.8%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は令和元年度調査から同じ順位となっており、「森林等の保全・創出」（44.4％）は令和5年度調査（40.9％）より3.5ポイント増加している。

なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表8－1－1 地球温暖化防止への取組－経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和7年度 (n=1,451)	令和5年度 (n=1,413)	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)
1	再生可能エネルギーの普及拡大 52.8	再生可能エネルギーの普及拡大 55.1	再生可能エネルギーの普及拡大 55.6	再生可能エネルギーの普及拡大 52.5	再生可能エネルギーの普及拡大 52.0	各家庭や企業における省エネルギーの推進 67.3	各家庭や企業における省エネルギーの推進 70.1	各家庭や企業における省エネルギーの推進 78.4	各家庭や企業における省エネルギーの推進 81.6
2	森林等の保全・創出 44.4	森林等の保全・創出 40.9	森林等の保全・創出 41.1	森林等の保全・創出 39.6	省エネルギーの推進 40.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 36.5	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 47.7	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 46.9	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 50.3
3	省エネルギーの推進 32.3	省エネルギーの推進 31.5	省エネルギーの推進 31.4	省エネルギーの推進 34.8	森林等の保全・創出 37.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 23.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 22.4	行政による地球温暖化防止のPR活動 16.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 19.4
4	循環型社会の構築 20.5	循環型社会の構築 22.4	循環型社会の構築 19.9	循環型社会の構築 20.9	循環型社会の構築 16.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 23.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 18.5	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 13.7	行政による地球温暖化防止のPR活動 15.7
5	情報提供と環境教育の充実 13.8	情報提供と環境教育の充実 12.0	情報提供と環境教育の充実 13.3	情報提供と環境教育の充実 14.5	情報提供と環境教育の充実 14.6				

（注）平成27年度調査以前では、表8－1－1に示した4つの選択肢と「その他」の合計5つの選択肢で質問していた。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「再生可能エネルギーの普及拡大」は70～79歳（57.7%）で6割近くと高くなっている。「森林等の保全・創出」は70～79歳（50.7%）で約5割と高くなっている。「省エネルギーの推進」は30～39歳（36.6%）で3割半ばを超えて高くなっている。

表8－1－2 地球温暖化防止への取組－性別、年齢別

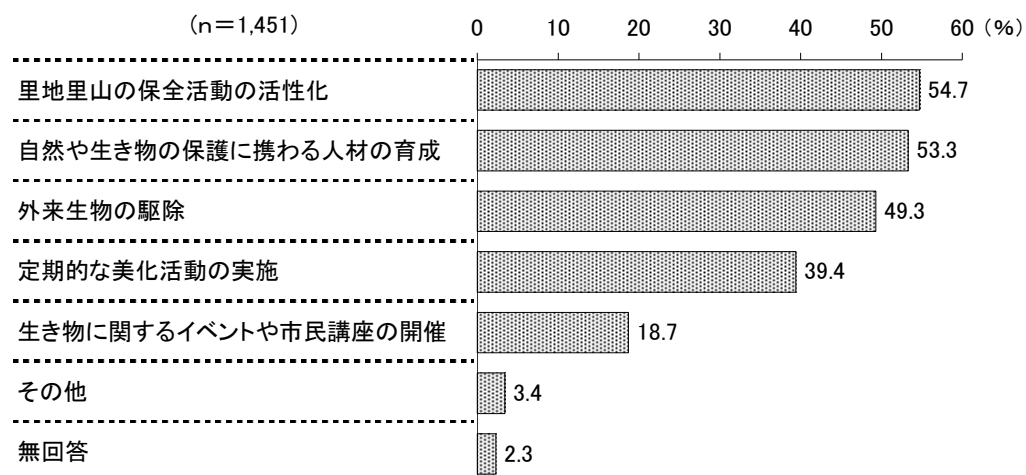
(%)

		n	再生可能エネルギーの普及拡大	森林等の保全・創出	省エネルギーの推進	循環型社会の構築	情報提供と環境教育の充実	自動車の利用抑制	その他	無回答
全 体		1,451	52.8	44.4	32.3	20.5	13.8	8.8	4.3	2.7
性別	男 性	662	51.7	45.5	31.6	19.9	13.1	9.2	5.4	2.0
	女 性	762	54.5	43.2	33.2	20.7	14.3	8.3	3.0	3.4
年 齢 別	20 歳 未 満	18	55.6	72.2	16.7	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0
	20 ～ 29 歳	117	53.8	39.3	35.0	26.5	16.2	6.8	2.6	0.0
	30 ～ 39 歳	142	45.1	45.8	36.6	17.6	16.2	7.0	4.9	0.7
	40 ～ 49 歳	189	52.9	40.2	33.9	21.2	15.3	6.3	7.4	1.1
	50 ～ 59 歳	278	54.0	41.0	34.2	20.9	9.7	8.6	5.8	2.2
	60 ～ 69 歳	235	56.2	43.0	34.9	26.8	14.5	6.8	2.6	1.7
	70 ～ 79 歳	284	57.7	50.7	25.7	16.9	12.0	10.9	2.8	5.6
	80 歳 以 上	186	44.6	45.2	30.6	16.1	16.1	12.4	4.3	5.4

（２）自然環境や生態系を守るための取組（Ｂ：問１１）

問．豊かな自然環境や生態系を守っていくには、どのような取組が必要であると思いますか。
（いくつでも選んでください）

図８－２－１ 自然環境や生態系を守るための取組



【全体】

自然環境や生態系を守るための取組について聞いたところ、「里地里山の保全活動の活性化」（54.7%）が５割半ばで最も高く、次いで「自然や生き物の保護に携わる人材の育成」（53.3%）、「外来生物の駆除」（49.3%）、「定期的な美化活動の実施」（39.4%）、「生き物に関するイベントや市民講座の開催」（18.7%）となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「定期的な美化活動の実施」（42.4％）が男性（35.8％）より6.6ポイント、「自然や生き物の保護に携わる人材の育成」（55.4％）が男性（51.4％）より4.0ポイント高くなっている。一方、男性では「生き物に関するイベントや市民講座の開催」（20.5％）が女性（17.1％）より3.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「里地里山の保全活動の活性化」は70～79歳（59.5％）と40～49歳（59.3％）で約6割と高くなっている。「自然や生き物の保護に携わる人材の育成」は60～69歳（56.6％）と70～79歳（56.3％）で5割半ばを超えて高くなっている。「外来生物の駆除」は70～79歳（52.8％）で5割半ば近くと高くなっている。

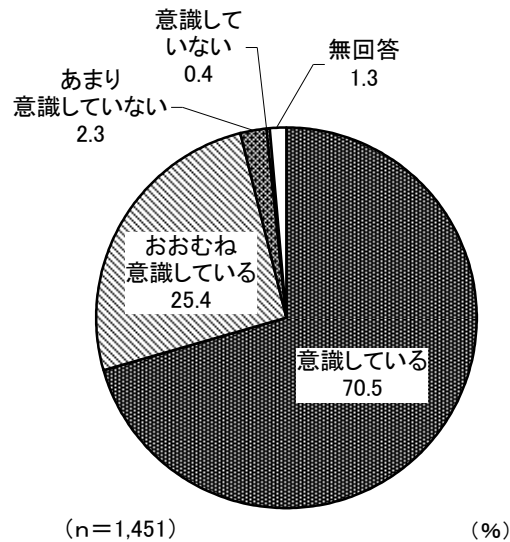
表8－2－1 自然環境や生態系を守るための取組－性別、年齢別

									(%)
		n	里地里山の保全活動の活性化	自然や生き物の保護に携わる人材の育成	外来生物の駆除	定期的な美化活動の実施	生き物に関するイベントや市民講座の開催	その他	無回答
全 体		1,451	54.7	53.3	49.3	39.4	18.7	3.4	2.3
性別	男 性	662	53.9	51.4	47.3	35.8	20.5	4.4	2.1
	女 性	762	55.1	55.4	50.5	42.4	17.1	2.6	2.5
年 齢 別	20 歳 未 満	18	50.0	55.6	50.0	61.1	22.2	0.0	0.0
	20 ～ 29 歳	117	35.9	46.2	42.7	47.0	23.1	4.3	0.9
	30 ～ 39 歳	142	50.0	54.9	44.4	41.5	24.6	4.9	1.4
	40 ～ 49 歳	189	59.3	54.0	48.7	37.6	18.5	3.7	0.5
	50 ～ 59 歳	278	54.0	51.8	50.4	37.4	13.3	5.4	2.2
	60 ～ 69 歳	235	58.7	56.6	48.9	35.7	20.0	3.0	0.9
	70 ～ 79 歳	284	59.5	56.3	52.8	36.3	19.0	1.4	4.9
	80 歳 以 上	186	54.3	49.5	50.5	45.2	16.7	2.7	4.3

(3) 資源とごみの分別（B：問12）

問. 資源とごみの分別を意識していますか。（1つだけ選んでください）

図8-3-1 資源とごみの分別



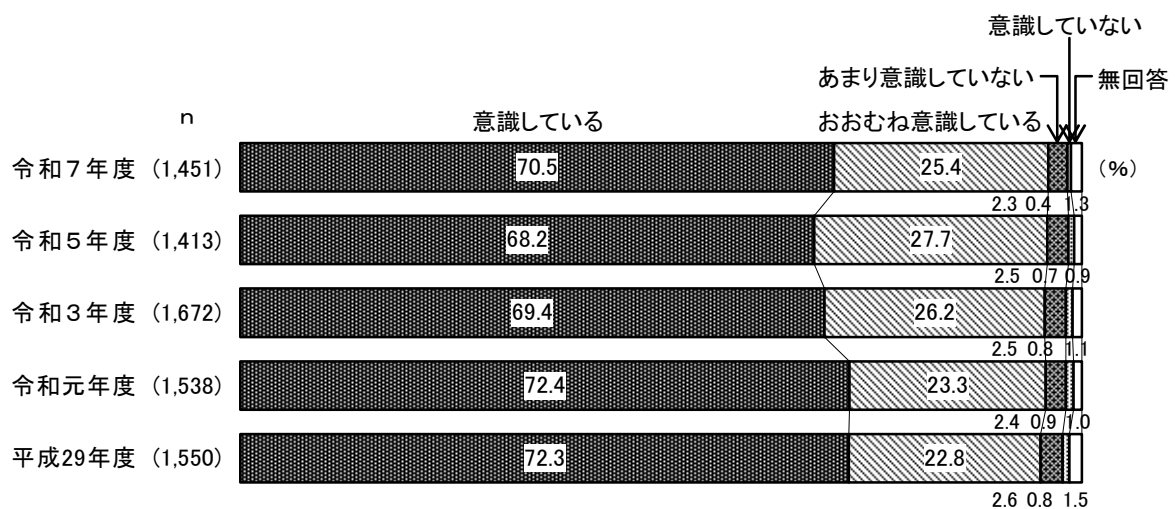
【全体】

資源とごみの分別の意識について聞いたところ、「意識している」（70.5%）と「おおむね意識している」（25.4%）の2つを合わせた『意識あり』（95.9%）が9割半ばと高くなっている。「あまり意識していない」（2.3%）と「意識していない」（0.4%）の2つを合わせた『意識なし』（2.7%）は1割未満となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図8-3-2 資源とごみの分別—経年変化

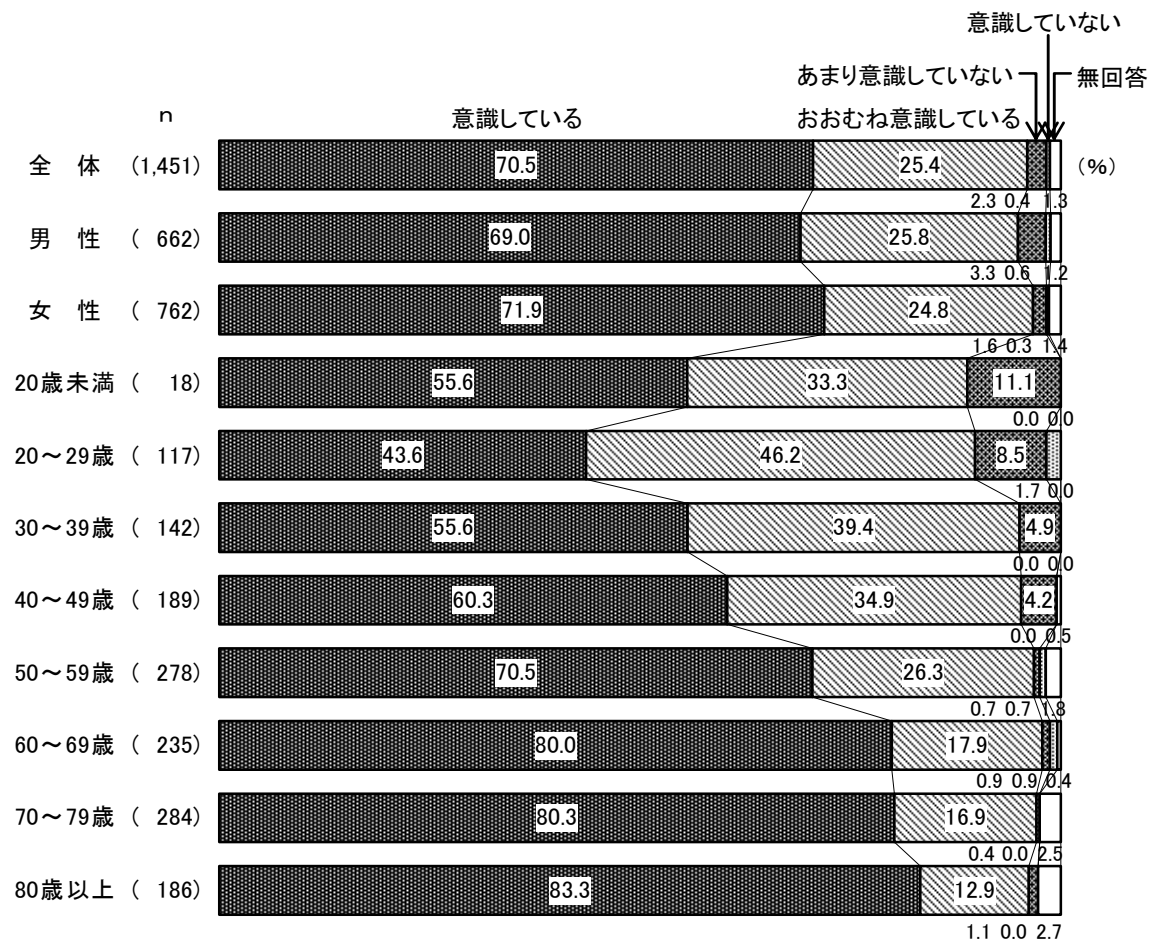


【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、『意識あり』は30～39歳以上の年代で9割台と高くなっている。

図8-3-3 資源とごみの分別—性別、年齢別

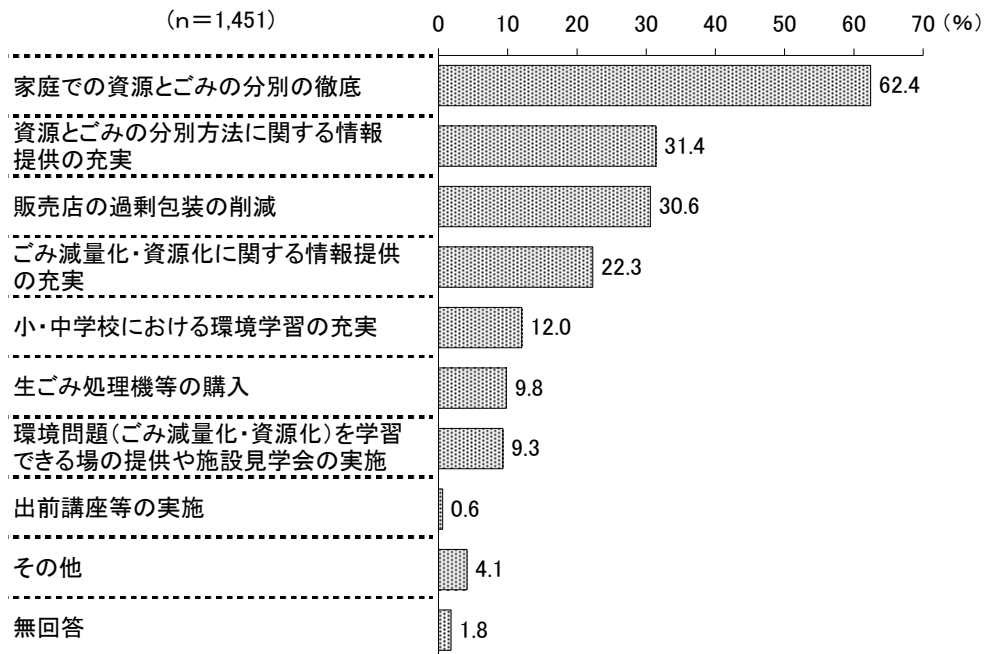


(4) ごみの減量化・資源化の推進（B：問13）

問. ごみの減量化・資源化を推進する上で、どのような取組が重要だと思いますか。

（2つまで選んでください）

図8-4-1 ごみの減量化・資源化の推進



【全体】

ごみの減量化・資源化の推進について聞いたところ、「家庭での資源とごみの分別の徹底」(62.4%)が6割を超えて最も高く、次いで「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(31.4%)、「販売店の過剰包装の削減」(30.6%)、「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(22.3%)、「小・中学校における環境学習の充実」(12.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「家庭での資源とごみの分別の徹底」（62.4％）は令和5年度調査（59.3％）より3.1ポイント増加している。一方、「販売店の過剰包装の削減」（30.6％）は令和5年度調査（35.0％）より4.4ポイント減少している。

表8－4－1 ごみの減量化・資源化の推進－経年変化

（％）

調査年	n	家庭での資源とごみの分別の徹底	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	販売店の過剰包装の削減	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	小・中学校における環境学習の実施	生ごみ処理機等の購入	環境問題（ごみ減量化・資源化）を学習できる場の提供や施設見学会の実施	出前講座等の実施	その他	無回答
令和7年度	1,451	62.4	31.4	30.6	22.3	12.0	9.8	9.3	0.6	4.1	1.8
令和5年度	1,413	59.3	31.1	35.0	20.3	11.1	10.2	7.9	0.6	4.3	2.1
令和3年度	1,672	58.7	24.3	28.9	15.7	9.6	8.1	8.3	－	4.6	2.5
令和元年度	1,538	55.9	20.6	36.6	15.3	11.4	8.4	7.8	－	2.9	1.3
平成29年度	1,550	58.5	21.4	34.6	16.1	13.7	8.6	8.1	－	3.7	1.4
平成27年度	1,471	60.8	28.7	25.5	20.6	15.1	6.7	9.0	－	－	1.6
平成25年度	1,270	50.9	24.4	28.8	20.2	16.7	10.4	13.9	－	－	3.1
平成23年度	815	54.1	24.0	31.8	18.9	13.5	10.2	10.6	－	－	2.8

（注1）平成29年度調査以降では、「その他」の選択肢を追加している。

（注2）令和5年度調査以降では、「出前講座等の実施」の選択肢を追加している。

（注3）令和3年度調査以前では、「買い物袋の持参」の選択肢を追加していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「小・中学校における環境学習の充実」（14.8％）が女性（9.7％）より5.1ポイント高くなっている。一方、女性では「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」（33.5％）が男性（28.7％）より4.8ポイント、「生ごみ処理機等の購入」（11.7％）が男性（7.4％）より4.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「家庭での資源とごみの分別の徹底」は70～79歳（71.8％）で7割を超えて高くなっている。「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」は60～69歳（36.6％）で3割半ばを超えて高くなっている。「販売店の過剰包装の削減」は30～39歳（38.7％）で4割近くと高くなっている。

表8-4-2 ごみの減量化・資源化の推進一性別、年齢別

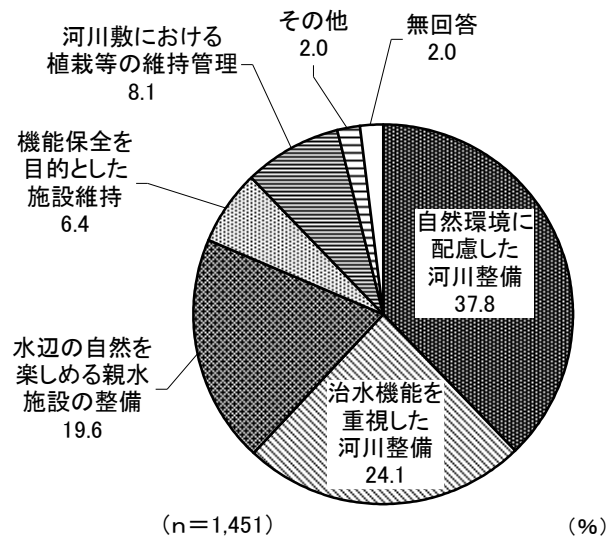
												(%)
		n	家庭での資源とごみの分別の徹底	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	販売店の過剰包装の削減	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	小・中学校における環境学習の充実	生ごみ処理機等の購入	環境問題（ごみ減量化・資源化）を学習できる場の提供や施設見学会の実施	出前講座等の実施	その他	無回答
全 体		1,451	62.4	31.4	30.6	22.3	12.0	9.8	9.3	0.6	4.1	1.8
性別	男 性	662	60.6	28.7	30.5	22.2	14.8	7.4	9.1	0.5	5.7	2.0
	女 性	762	64.3	33.5	30.4	22.6	9.7	11.7	9.4	0.7	2.8	1.7
年 齢 別	20 歳 未 満	18	66.7	16.7	61.1	11.1	5.6	11.1	0.0	0.0	5.6	0.0
	20 ～ 29 歳	117	58.1	33.3	28.2	16.2	17.1	13.7	6.8	0.9	2.6	0.0
	30 ～ 39 歳	142	52.8	35.2	38.7	17.6	10.6	14.1	7.7	0.0	6.3	0.0
	40 ～ 49 歳	189	51.3	34.9	34.4	18.0	16.9	14.3	7.4	0.5	5.8	0.5
	50 ～ 59 歳	278	59.4	32.4	32.0	19.1	9.7	9.0	8.3	0.4	6.1	2.5
	60 ～ 69 歳	235	66.0	36.6	27.7	25.5	9.4	8.1	11.5	0.9	3.0	0.4
	70 ～ 79 歳	284	71.8	26.1	25.7	23.2	13.7	7.7	13.0	0.7	2.5	3.9
	80 歳 以 上	186	69.4	24.7	28.5	34.4	9.7	5.4	7.5	1.1	2.7	3.2

(5) 河川整備への取組（B：問14）

問. 厚木市内の河川整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

（1つだけ選んでください）

図8-5-1 河川整備への取組



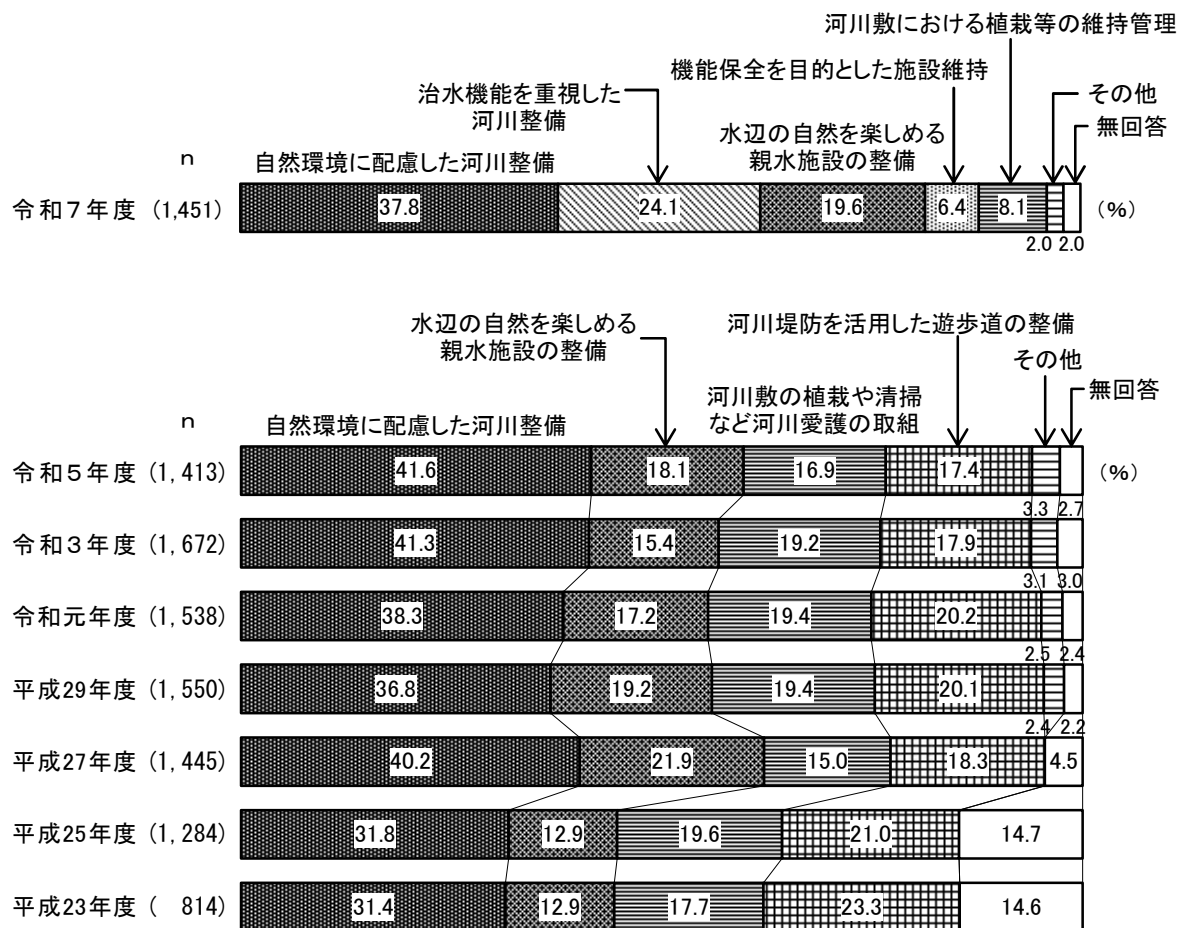
【全体】

河川整備への取組について聞いたところ、「自然環境に配慮した河川整備」（37.8%）が4割近くで最も高く、次いで「治水機能を重視した河川整備」（24.1%）、「水辺の自然を楽しめる親水施設の整備」（19.6%）、「河川敷における植栽等の維持管理」（8.1%）となっている。

【経年変化】

経年による変化は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

図8-5-2 河川整備への取組—経年変化



(注1) 「河川敷における植栽等の維持管理」は、令和5年度調査～平成29年度調査までは「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」、平成27年度調査以前では「河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組」としていた。

(注2) 平成29年度調査以降では、「その他」の選択肢を追加している。

(注3) 平成25年度調査以前では、「河川環境の整備がされていると感じることは何ですか。」と質問していた。

(注4) 今回調査から、「治水機能を重視した河川整備」、「機能保全を目的とした施設維持」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「自然環境に配慮した河川整備」(44.8%)が男性(30.1%)より14.7ポイント高くなっている。一方、男性では「治水機能を重視した河川整備」(28.4%)が女性(20.1%)より8.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自然環境に配慮した河川整備」は50～59歳(42.1%)と20～29歳(41.9%)で4割超えて高くなっている。「治水機能を重視した河川整備」は40～49歳(28.6%)と60～69歳(27.7%)で3割近くと高くなっている。「水辺の自然を楽しめる親水施設の整備」は30～39歳(24.6%)で2割半ばと高くなっている。

図8-5-3 河川整備への取組—性別、年齢別

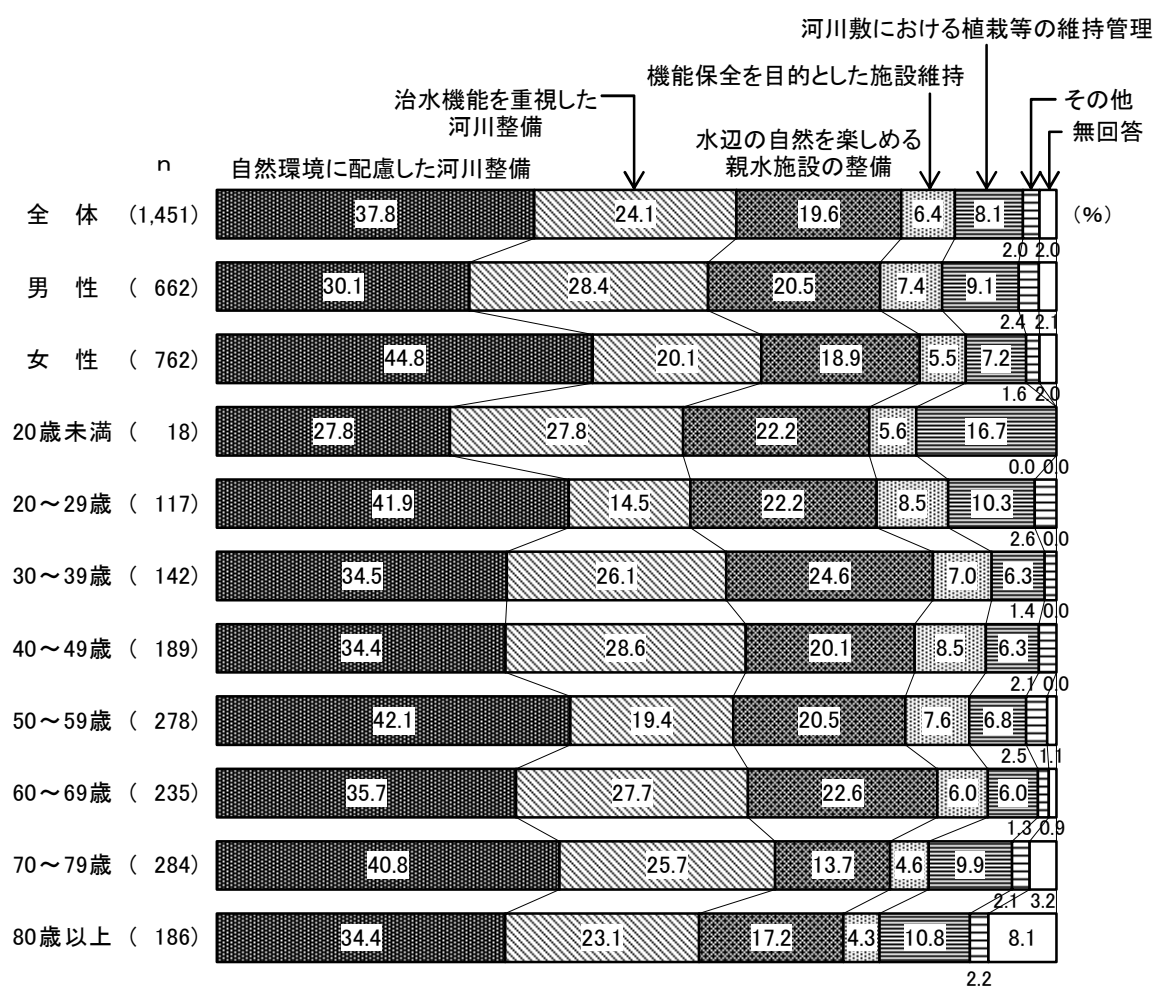
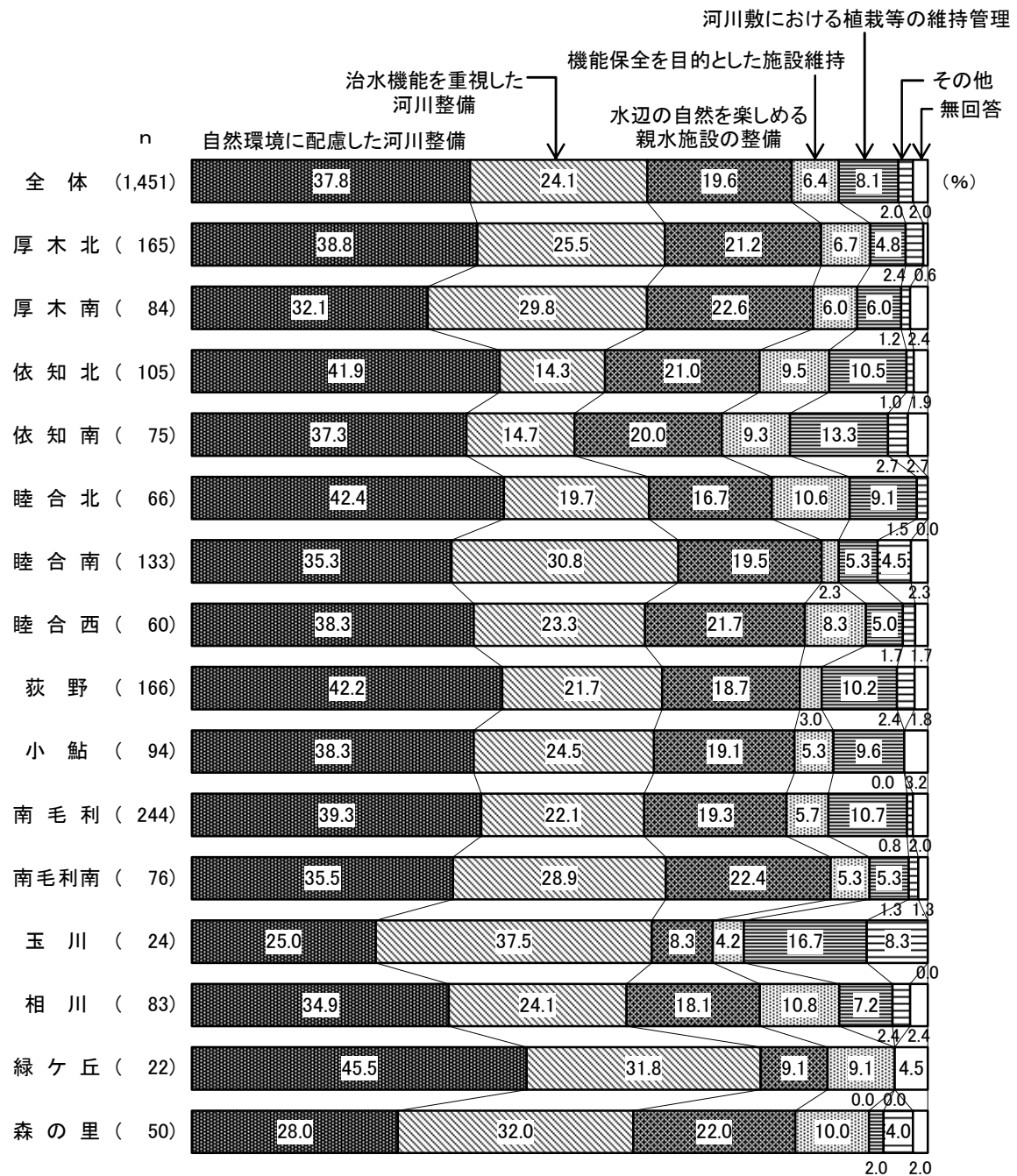


図8-5-4 河川整備への取組－居住地区別



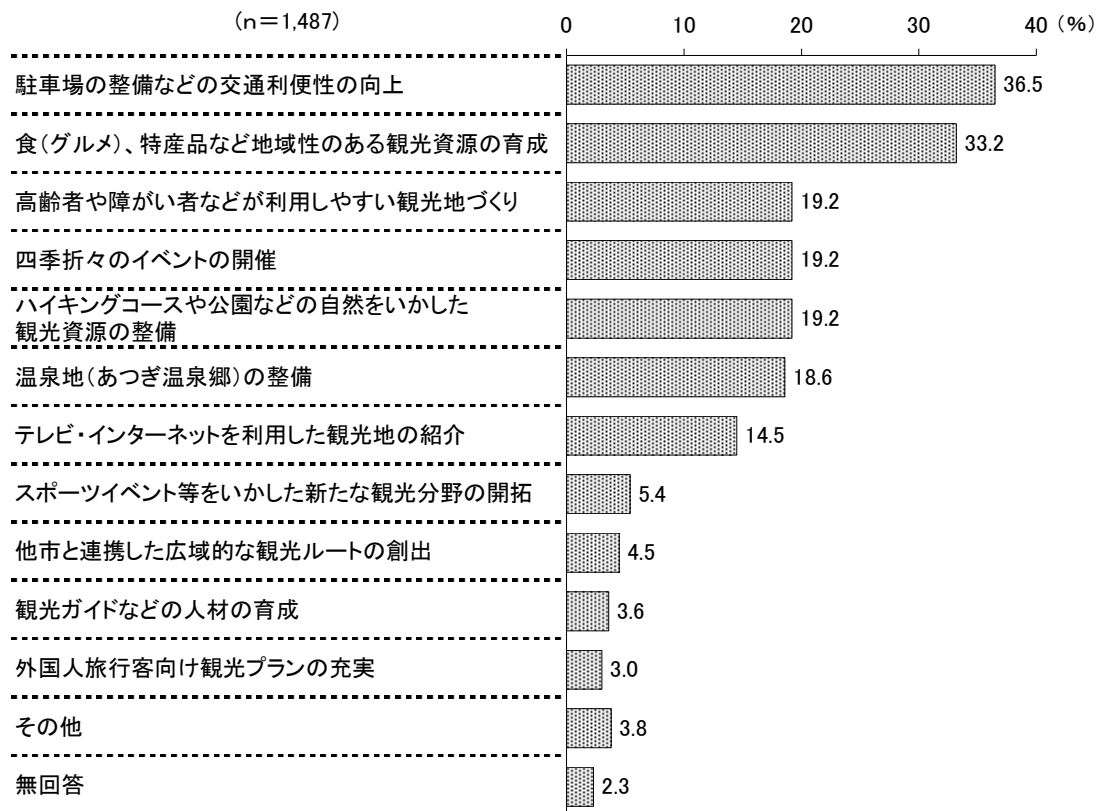
9 観光

(1) 観光の活性化への取組（A：問18）

問. 厚木市の観光の活性化には、どのような取組が重要だと思いますか。

（2つまで選んでください）

図9-1-1 観光の活性化への取組



【全体】

観光の活性化への取組について聞いたところ、「駐車場の整備などの交通利便性の向上」(36.5%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで「食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成」(33.2%)、「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」、「四季折々のイベントの開催」、「ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備」(いずれも19.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「食（グルメ）、特産品など地域性のある観光資源の育成」（33.2%）は令和5年度調査（28.1%）より5.1ポイント増加している。

表9－1－1 観光の活性化への取組－経年変化

調 査 年	n	駐 車 場 の 整 備 な ど の 交 通 利 便 性 の 向 上	食（グルメ）、特産品など地域性のある観光資源の育成	高 齢 者 や 障 が い 者 な ど が 利 用 し や す い 観 光 地 づ く り	四 季 折 々 の イ ベ ン ト の 開 催	ハ イ キ ン グ コ ー ス や 公 園 な ど の 自 然 を い か し た 観 光 資 源 の 整 備	温 泉 地 （ あ つ ぎ 温 泉 郷 ） の 整 備	テ レ ビ ・ イ ン タ ー ネ ッ ト を 利 用 し た 観 光 地 の 紹 介	ス ポ ー ツ イ ベ ン ト 等 を い か し た 新 た な 観 光 分 野 の 開 拓	他 市 と 連 携 し た 広 域 的 な 観 光 ル ー ト の 創 出	観 光 ガ イ ド な ど の 人 材 の 育 成	外 国 人 旅 行 客 向 け 観 光 プ ラ ン の 充 実	そ の 他	無 回 答	(%)
令和7年度	1,487	36.5	33.2	19.2	19.2	19.2	18.6	14.5	5.4	4.5	3.6	3.0	3.8	2.3	
令和5年度	1,446	35.6	28.1	22.1	18.9	20.8	17.4	12.4	5.8	4.7	3.0	5.1	4.0	3.7	
令和3年度	1,603	36.0	26.6	22.0	16.7	23.0	17.2	15.5	4.7	5.6	2.8	3.3	3.7	3.1	
令和元年度	1,467	36.9	23.9	20.2	19.4	19.1	19.8	13.4	7.4	5.8	4.5	6.4	4.4	3.2	
平成29年度	1,480	36.6	23.2	22.0	19.4	22.0	17.8	12.2	7.3	5.7	4.9	5.3	3.1	3.6	
平成27年度	1,471	24.9	23.3	24.1	21.0	19.0	19.7	21.6	7.9	10.0	3.5	5.8	3.1	3.7	
平成25年度	1,270	22.0	20.5	25.8	22.0	23.8	18.3	24.8	6.8	11.8	3.2	4.6	2.1	2.3	

（注）「温泉地（あつぎ温泉郷）の整備」は、令和5年度調査以前では「温泉地（飯山温泉郷、東丹沢七沢温泉郷）の整備」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「駐車場の整備などの交通利便性の向上」(39.1%)が男性(33.5%)より5.6ポイント、「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」(21.2%)が男性(17.1%)より4.1ポイント高くなっている。一方、男性では「ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備」(21.4%)が女性(17.4%)より4.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「駐車場の整備などの交通利便性の向上」は20～29歳(48.5%)で5割近くと高くなっている。「食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成」は20～29歳と40～49歳(ともに41.5%)、30～39歳(41.4%)で4割を超えて高くなっている。「高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり」は80歳以上(39.2%)で約4割と高くなっている。

表9-1-2 観光の活性化への取組—性別、年齢別

		n	の駐車場の整備などの交通利便性の向上	食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成	高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	四季折々のイベントの開催	ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備	温泉地(あつぎ温泉郷)の整備	テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介	新たな観光分野の開拓	スポーツイベント等をいかした観光地の創出	他市と連携した広域的な観光	観光ガイドなどの人材の育成	外国人旅行者向け観光プランの充実	その他	(%) 無回答
全 体		1,487	36.5	33.2	19.2	19.2	19.2	18.6	14.5	5.4	4.5	3.6	3.0	3.8	2.3	
性別	男 性	672	33.5	34.4	17.1	17.1	21.4	19.2	15.8	7.3	4.8	3.1	3.3	5.2	1.5	
	女 性	798	39.1	31.7	21.2	21.1	17.4	18.0	13.4	4.0	4.3	4.0	2.9	2.5	3.0	
年齢別	20歳未満	17	47.1	58.8	5.9	17.6	17.6	17.6	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9	11.8	0.0	
	20～29歳	130	48.5	41.5	3.8	19.2	10.8	24.6	16.2	7.7	6.2	0.8	3.8	3.1	0.0	
	30～39歳	152	44.1	41.4	7.9	17.8	15.8	23.0	17.1	2.6	3.9	1.3	3.3	4.6	0.0	
	40～49歳	195	35.9	41.5	7.2	17.9	15.4	25.6	18.5	7.2	4.6	1.0	7.2	3.6	0.5	
	50～59歳	276	33.7	37.7	19.2	18.8	19.2	16.7	17.8	6.9	4.0	2.5	3.3	4.7	0.4	
	60～69歳	236	39.8	30.9	18.6	19.1	19.9	17.8	15.7	8.1	4.7	5.5	2.5	1.7	1.3	
	70～79歳	293	31.7	25.9	28.7	21.5	25.3	15.4	9.6	4.1	3.8	5.8	1.0	3.8	3.4	
	80歳以上	186	29.6	17.2	39.2	19.4	21.0	12.4	9.7	1.6	4.8	5.9	1.1	4.3	10.2	

10 まちづくり

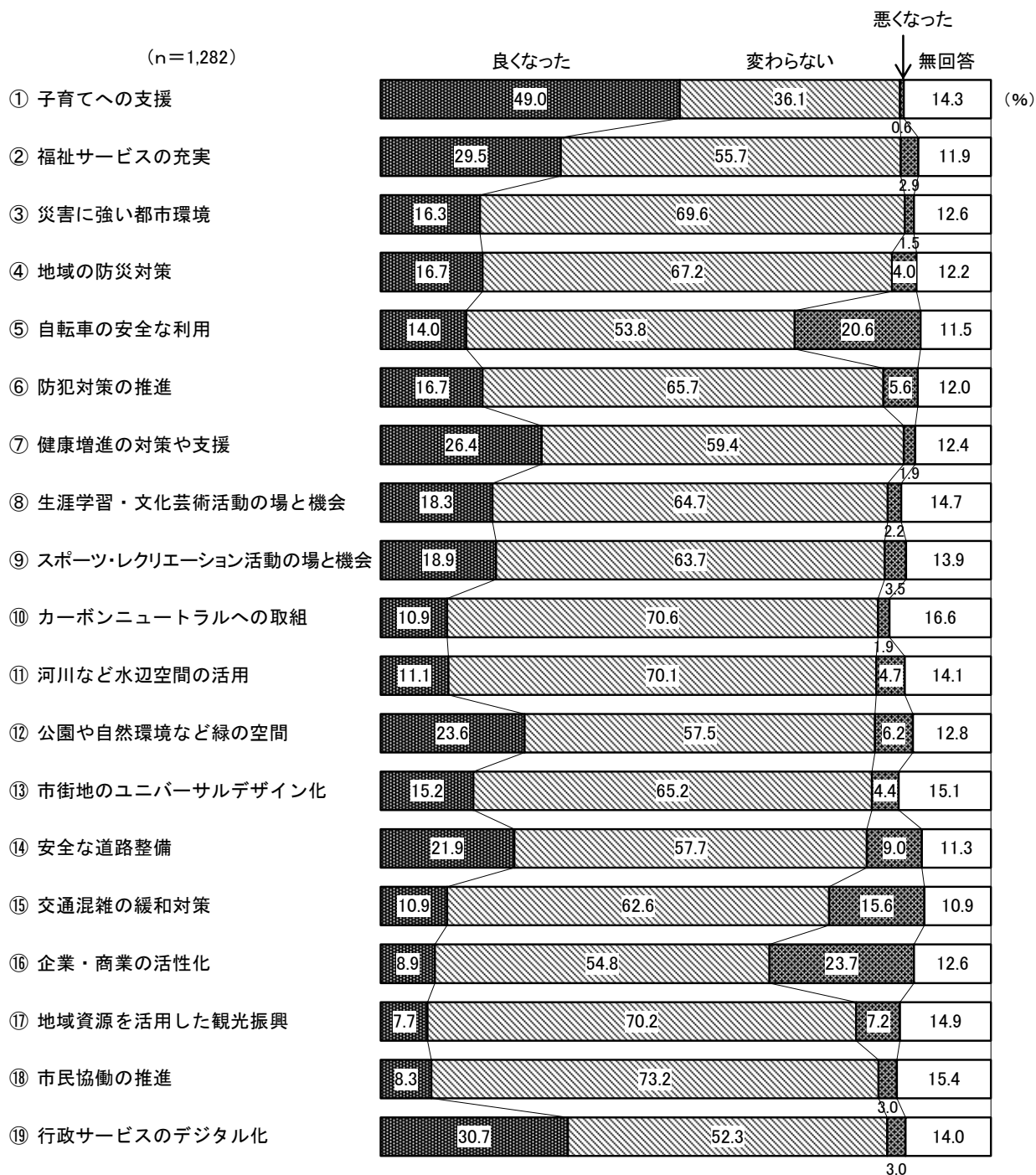
(1) まちづくり全般の変化 (B：問15)

問. まちづくり全般の変化について、おおむね5年前と比べてどう感じますか。

(①～⑲について、それぞれ1つだけ選んでください。)

転入されて5年未満の方は、次の設問へお進みください。

図10-1-1 まちづくり全般の変化



【全体】

厚木市内に5年以上住んでいると答えた1,282人に、5年前と比べたまちづくり全般の変化について19項目に分けて聞いたところ、「良くなった」が最も高いのは「①子育てへの支援」（49.0％）で約5割となっており、次いで「⑯行政サービスのデジタル化」（30.7％）、「②福祉サービスの充実」（29.5％）、「⑦健康増進の対策や支援」（26.4％）、「⑫公園や自然環境など緑の空間」（23.6％）となっている。

一方、「悪くなった」が最も高いのは「⑯企業・商業の活性化」（23.7％）で2割半ば近くとなっており、次いで「⑤自転車の安全な利用」（20.6％）、「⑮交通混雑の緩和対策」（15.6％）、「⑭安全な道路整備」（9.0％）、「⑰地域資源を活用した観光振興」（7.2％）となっている。

また、「変わらない」が最も高いのは「⑱市民協働の推進」（73.2％）が7割半ば近くとなっており、次いで「⑩カーボンニュートラルへの取組」（70.6％）、「⑰地域資源を活用した観光振興」（70.2％）、「⑪河川など水辺空間の活用」（70.1％）、「③災害に強い都市環境」（69.6％）となっている。

表10-1-1 まちづくり全般の変化－良くなったもの、変わらないもの、悪くなったもの
（上位5項目）

（n=1,282）

（％）

順位	良くなった		変わらない		悪くなった	
1	①子育てへの支援	49.0	⑱市民協働の推進	73.2	⑯企業・商業の活性化	23.7
2	⑯行政サービスのデジタル化	30.7	⑩カーボンニュートラルへの取組	70.6	⑤自転車の安全な利用	20.6
3	②福祉サービスの充実	29.5	⑰地域資源を活用した観光振興	70.2	⑮交通混雑の緩和対策	15.6
4	⑦健康増進の対策や支援	26.4	⑪河川など水辺空間の活用	70.1	⑭安全な道路整備	9.0
5	⑫公園や自然環境など緑の空間	23.6	③災害に強い都市環境	69.6	⑰地域資源を活用した観光振興	7.2

【経年変化】

経年による変化を見ると、「良くなった」は、⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会（18.3%）で令和5年度調査（12.1%）より6.2ポイント、⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会（18.9%）で令和5年度調査（13.0%）より5.9ポイント、⑦健康増進の対策や支援（26.4%）で令和5年度調査（21.1%）より5.3ポイント増加している。

図10-1-2 まちづくり全般の変化 ①子育てへの支援—経年変化

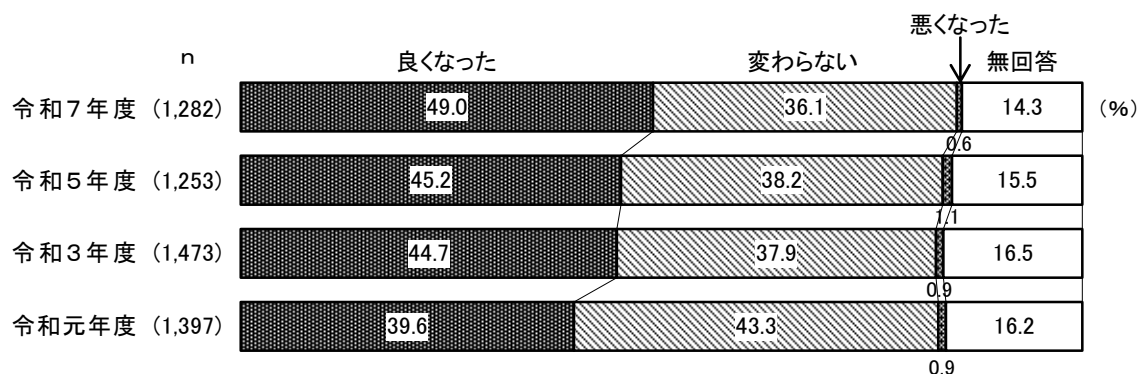


図10-1-3 まちづくり全般の変化 ②福祉サービスの充実—経年変化

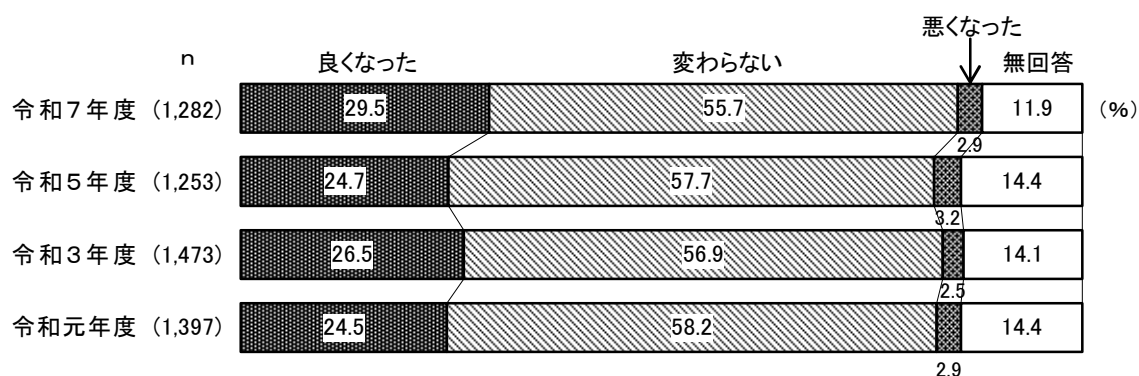


図10-1-4 まちづくり全般の変化 ③災害に強い都市環境—経年変化

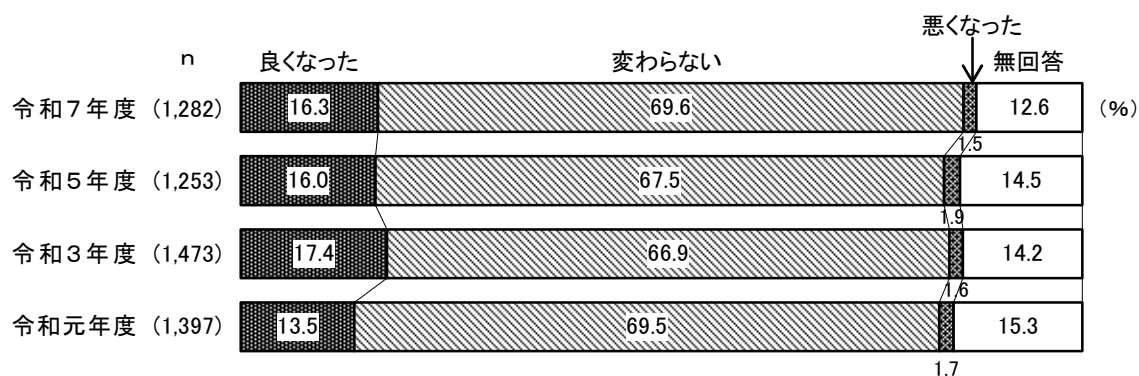


図10-1-5 まちづくり全般の変化 ④地域の防災対策一経年変化

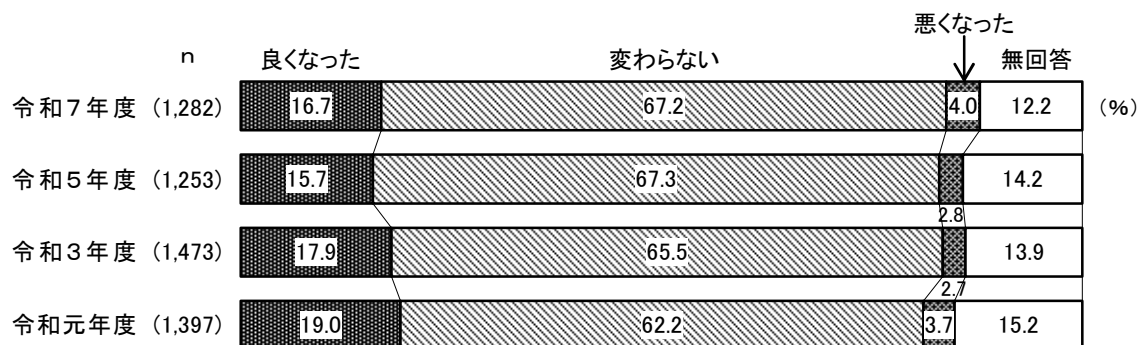
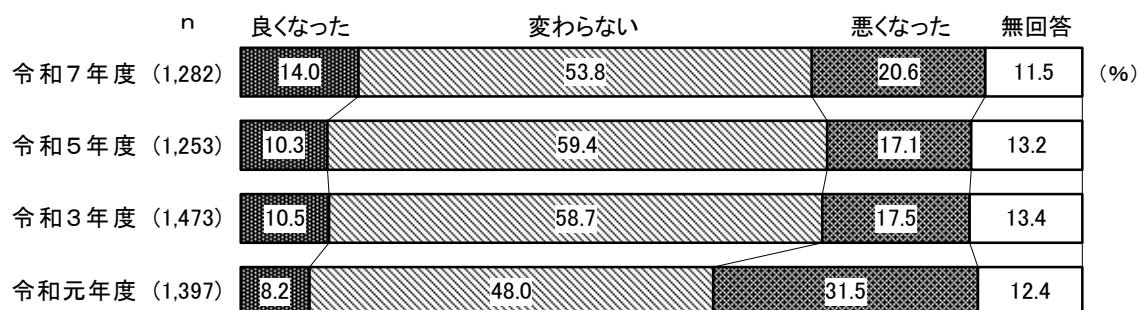
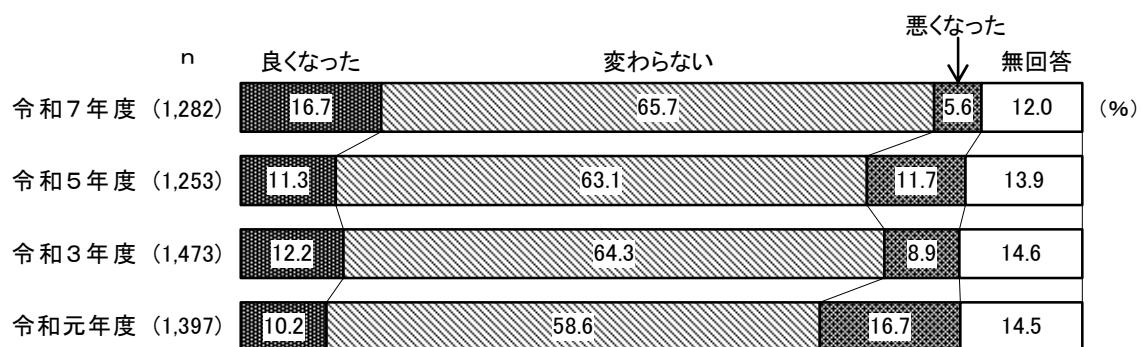


図10-1-6 まちづくり全般の変化 ⑤自転車の安全な利用一経年変化



(注) 令和元年度調査では、「自転車のマナー」として質問していた。

図10-1-7 まちづくり全般の変化 ⑥防犯対策の推進一経年変化



(注) 令和5年度調査以前は、「犯罪や非行の防止」として質問していた。

図10-1-8 まちづくり全般の変化 ⑦健康増進の対策や支援一経年変化

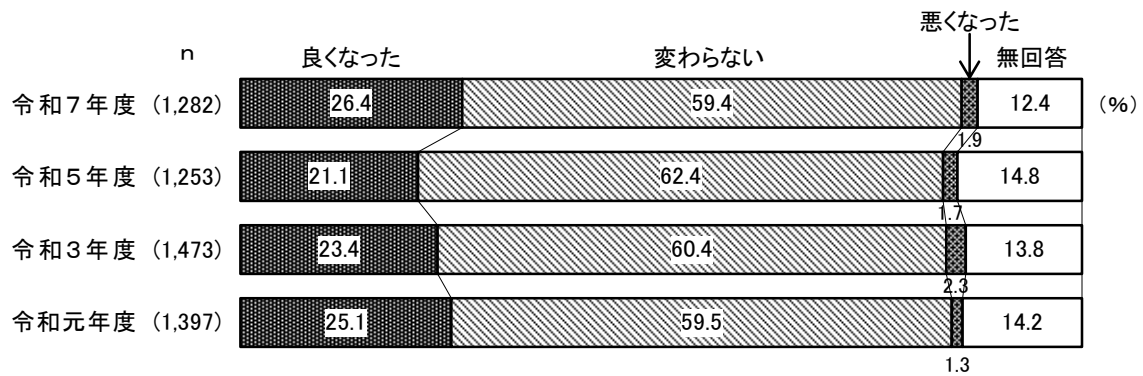


図10-1-9 まちづくり全般の変化 ⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会一経年変化

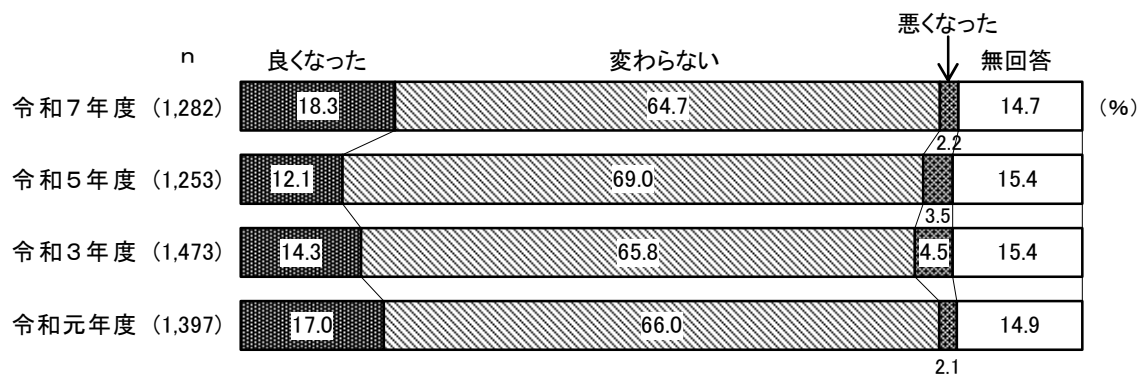


図10-1-10 まちづくり全般の変化 ⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会一経年変化

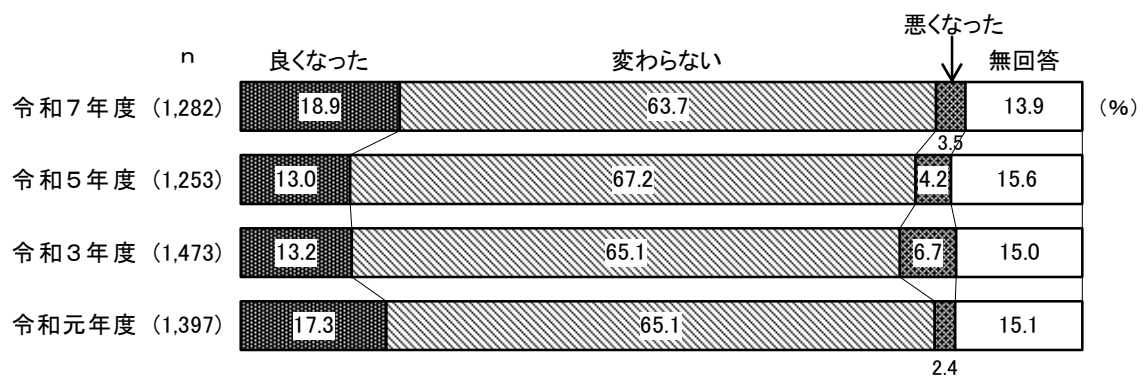


図10-1-11 まちづくり全般の変化 ⑩カーボンニュートラルへの取組一経年変化

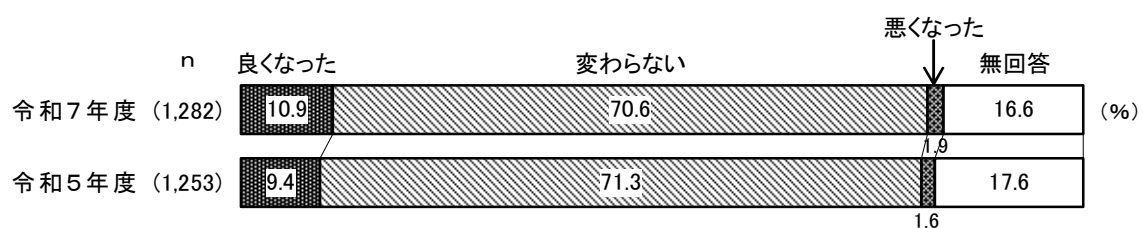


図10-1-12 まちづくり全般の変化 ⑪河川など水辺空間の活用一経年変化

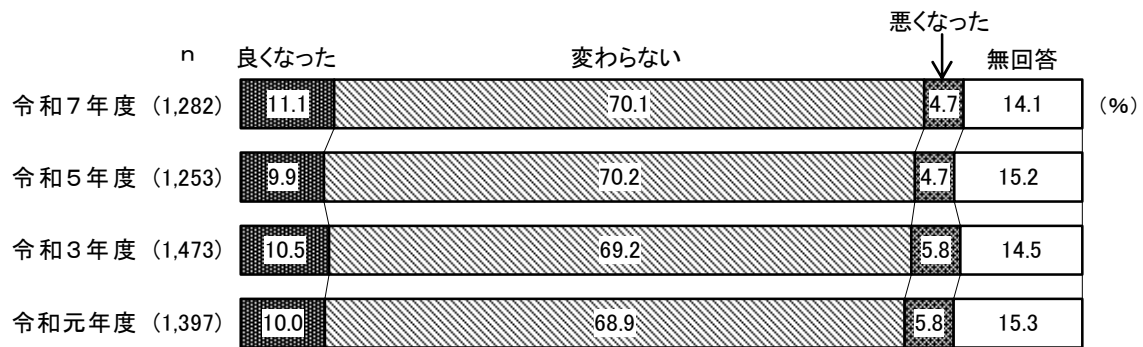


図10-1-13 まちづくり全般の変化 ⑫公園や自然環境など緑の空間一経年変化

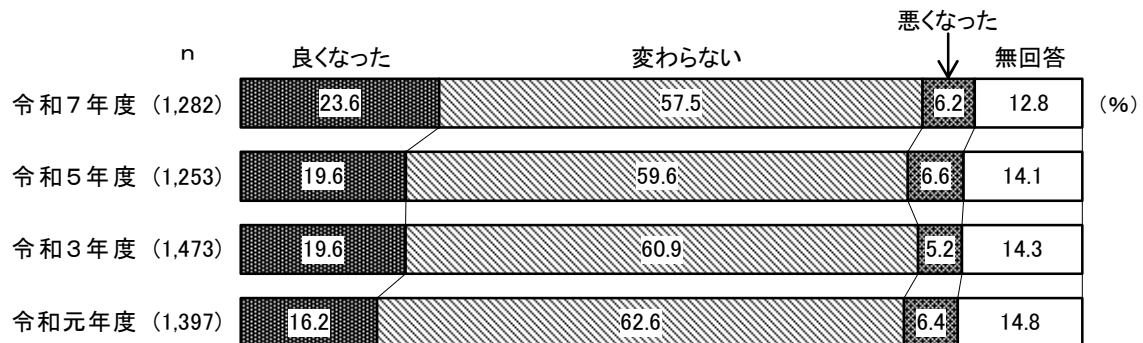


図10-1-14 まちづくり全般の変化 ⑬市街地のユニバーサルデザイン化一経年変化

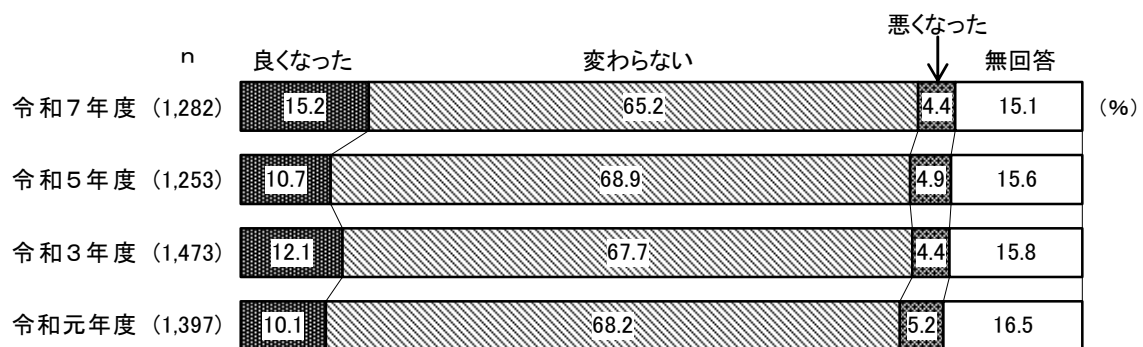


図10-1-15 まちづくり全般の変化 ⑭安全な道路整備一経年変化

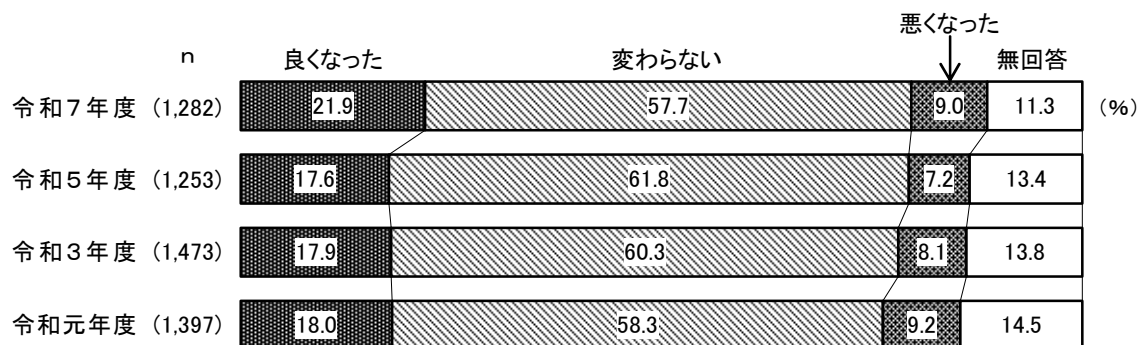
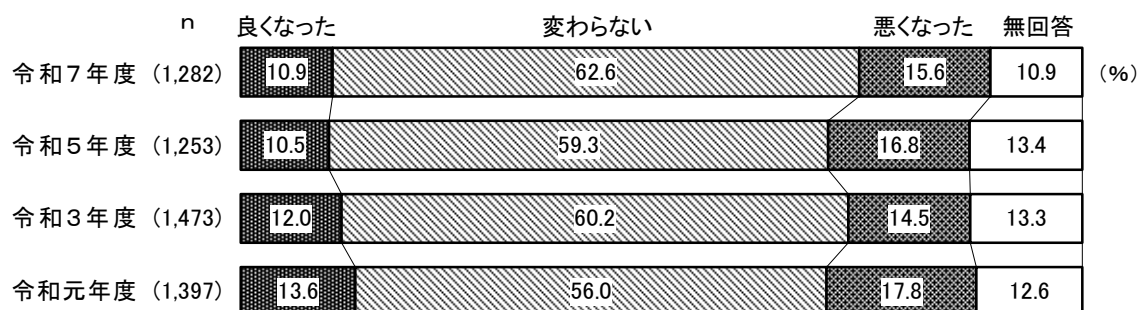


図10-1-16 まちづくり全般の変化 ⑮交通混雑の緩和対策一経年変化



(注) 令和元年度調査では、「交通渋滞の緩和対策」として質問していた。

図10-1-17 まちづくり全般の変化 ⑯企業・商業の活性化一経年変化

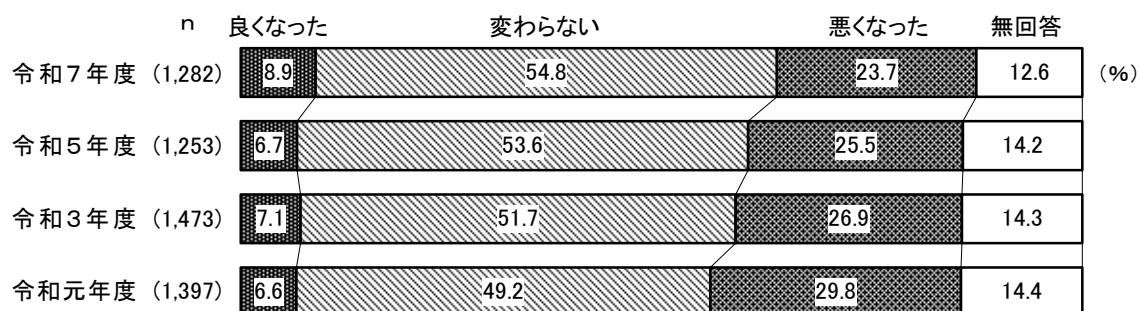


図10-1-18 まちづくり全般の変化 ⑰地域資源を活用した観光振興一経年変化

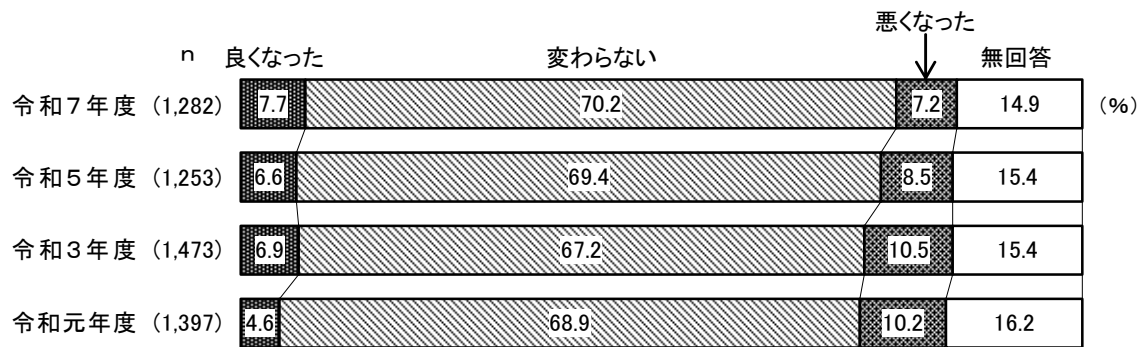


図10-1-19 まちづくり全般の変化 ⑱市民協働の推進一経年変化

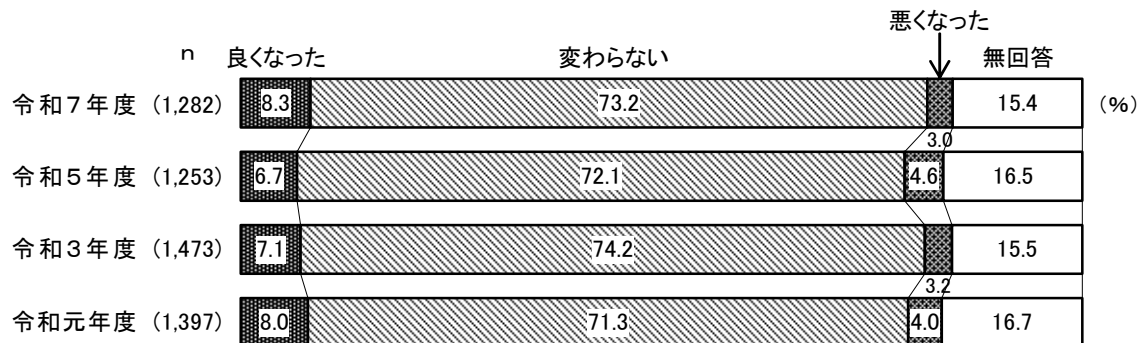
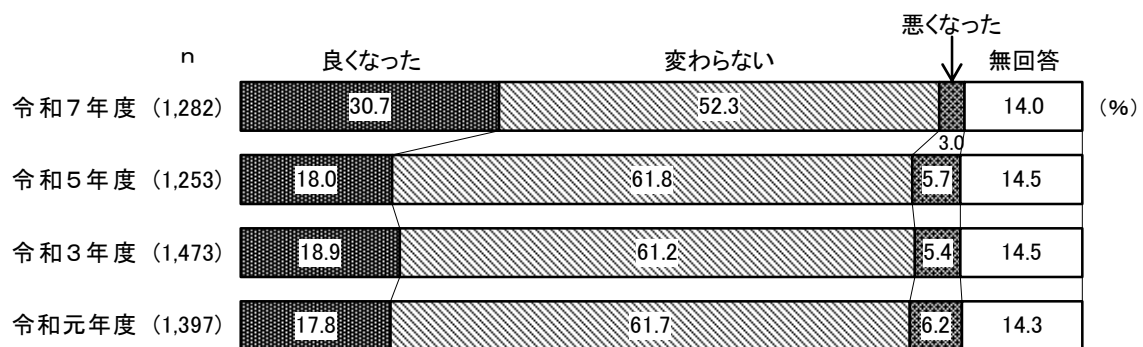


図10-1-20 まちづくり全般の変化 ⑲行政サービスのデジタル化一経年変化



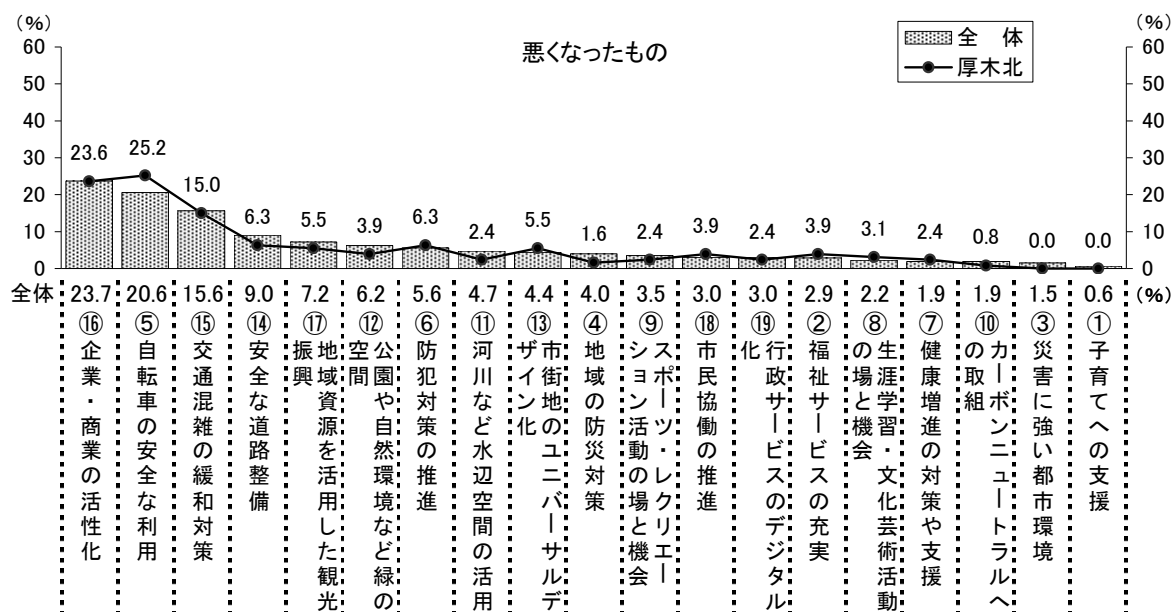
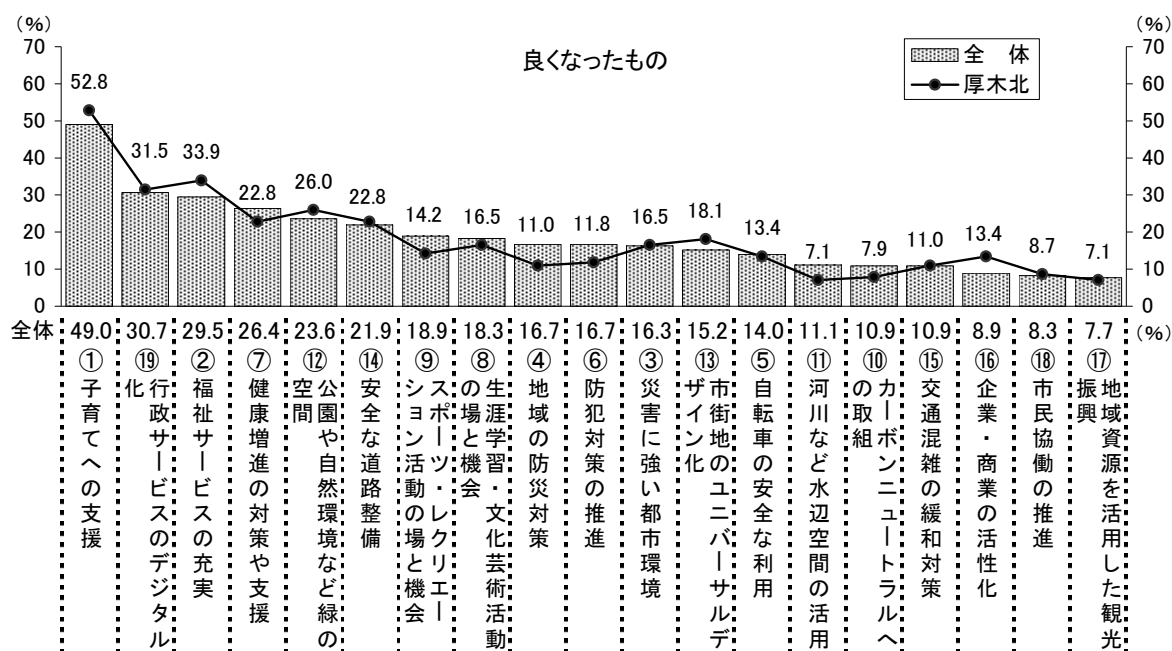
(注) 令和5年度調査以前は、「行政サービスの情報化」として質問していた。

【地区ごとの傾向】〔厚木北地区〕

「良くなったもの」では、「⑩企業・商業の活性化」(13.4%)が全体(8.9%)と比べて4.5ポイント、「②福祉サービスの充実」(33.9%)が全体(29.5%)と比べて4.4ポイント高くなっている。一方、「④地域の防災対策」(11.0%)が全体(16.7%)と比べて5.7ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑤自転車の安全な利用」(25.2%)が全体(20.6%)と比べて4.6ポイント高くなっている。

図10-1-21 まちづくり全般の変化－厚木北地区

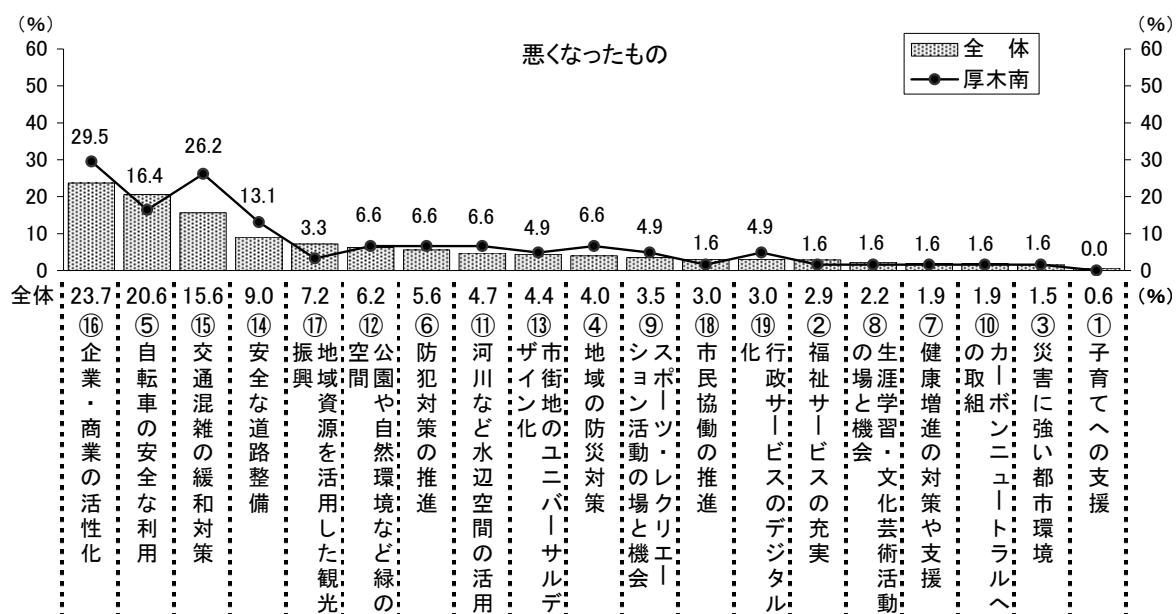
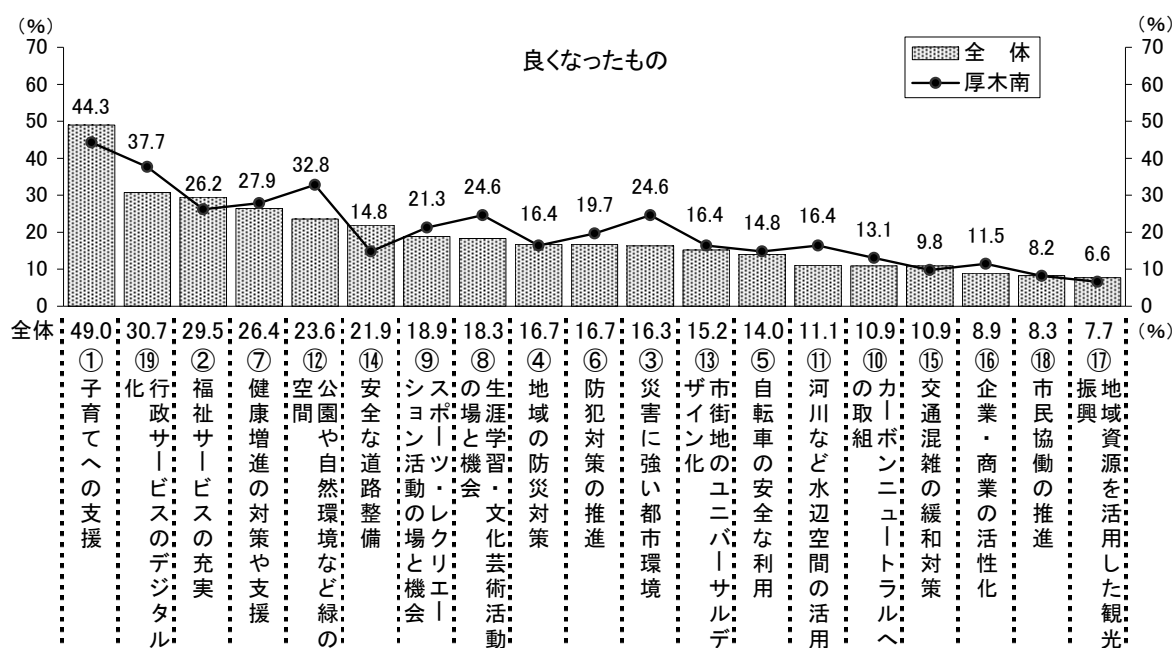


【地区ごとの傾向】〔厚木南地区〕

「良くなったもの」では、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(32.8%)が全体(23.6%)と比べて9.2ポイント、「③災害に強い都市環境」(24.6%)が全体(16.3%)と比べて8.3ポイント、「⑯行政サービスのデジタル化」(37.7%)が全体(30.7%)と比べて7.0ポイント高くなっている。一方、「⑭安全な道路整備」(14.8%)が全体(21.9%)と比べて7.1ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(26.2%)が全体(15.6%)と比べて10.6ポイント、「⑯企業・商業の活性化」(29.5%)が全体(23.7%)と比べて5.8ポイント高くなっている。

図10-1-22 まちづくり全般の変化－厚木南地区

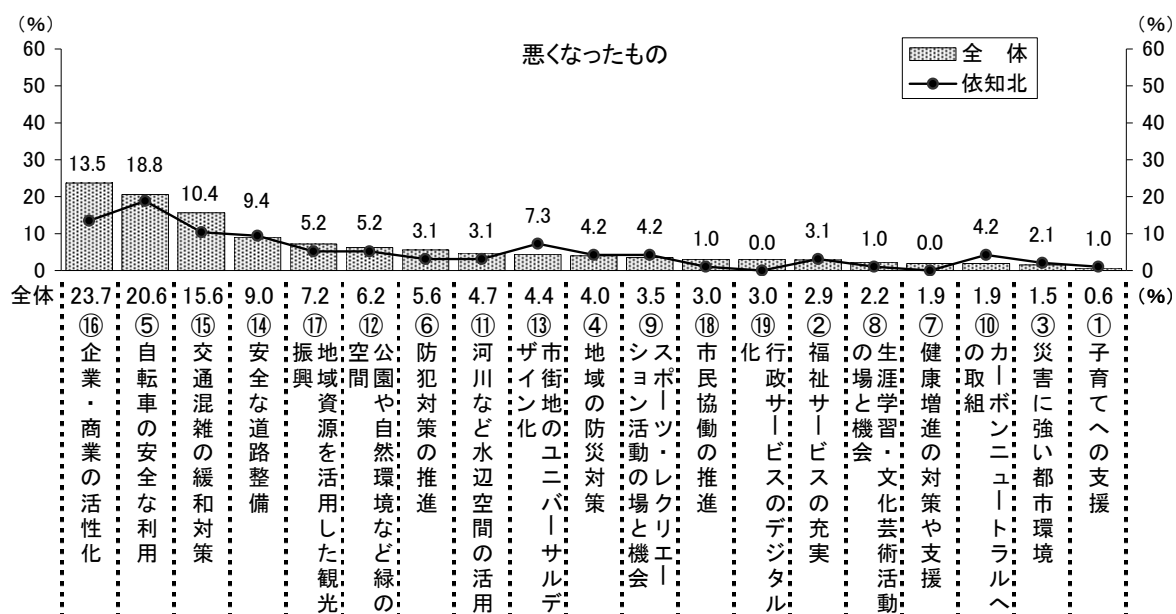
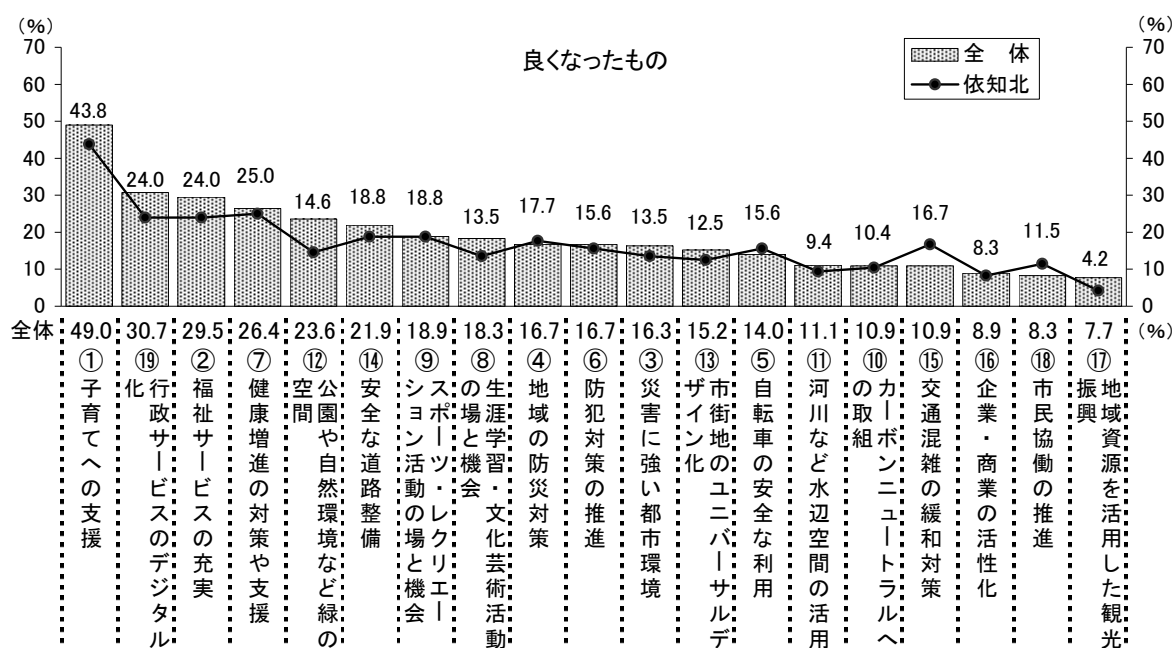


【地区ごとの傾向】〔依知北地区〕

「良くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(16.7%)が全体(10.9%)と比べて5.8ポイント高くなっている。一方、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(14.6%)が全体(23.6%)と比べて9.0ポイント、「⑲行政サービスのデジタル化」(24.0%)が全体(30.7%)と比べて6.7ポイント、「②福祉サービスの充実」(24.0%)が全体(29.5%)と比べて5.5ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑯企業・商業の活性化」(13.5%)が全体(23.7%)と比べて10.2ポイント、「⑮交通混雑の緩和対策」(10.4%)が全体(15.6%)と比べて5.2ポイント低くなっている。

図10-1-23 まちづくり全般の変化―依知北地区

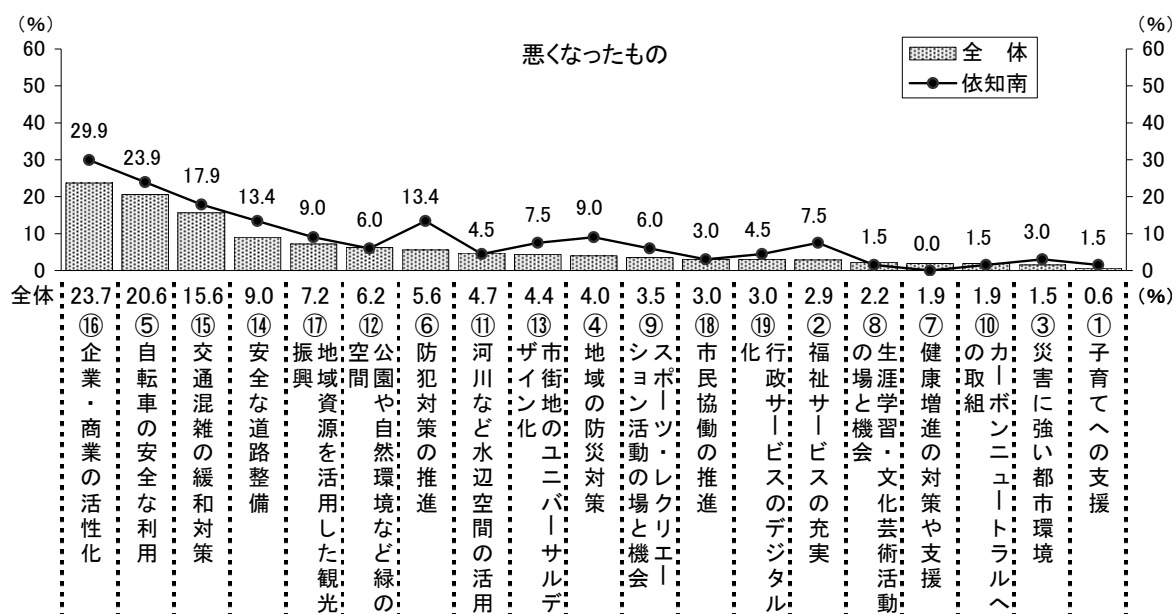
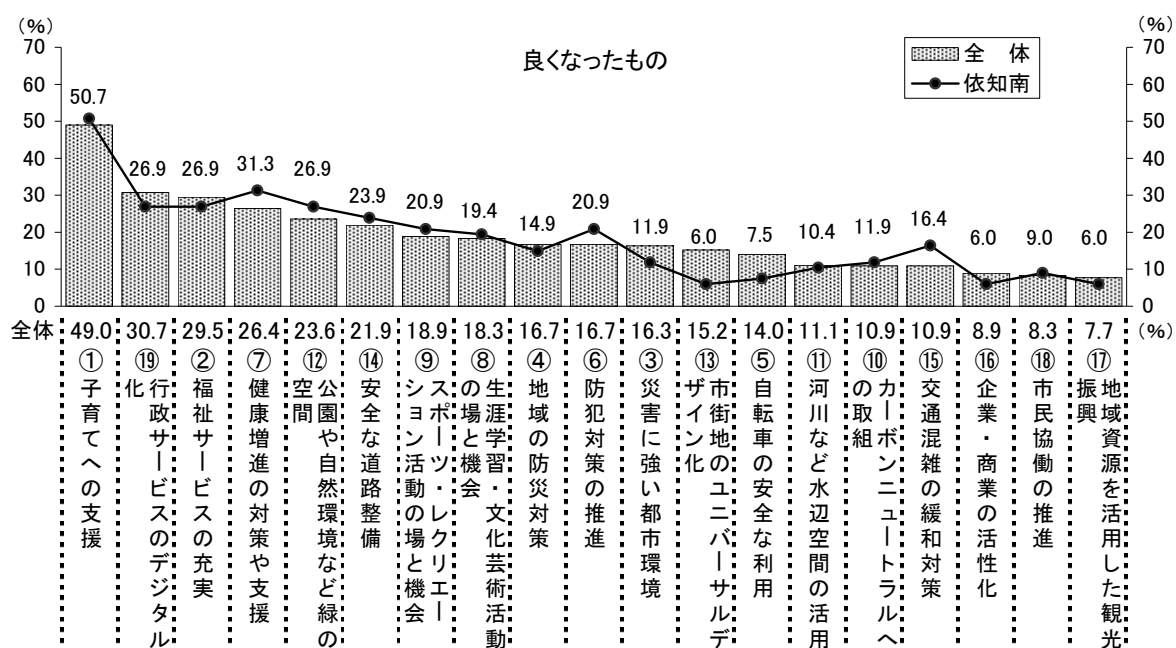


【地区ごとの傾向】〔依知南地区〕

「良くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(16.4%)が全体(10.9%)と比べて5.5ポイント、「⑦健康増進の対策や支援」(31.3%)が全体(26.4%)と比べて4.9ポイント高くなっている。一方、「⑬市街地のユニバーサルデザイン化」(6.0%)が全体(15.2%)と比べて9.2ポイント、「⑤自転車の安全な利用」(7.5%)が全体(14.0%)と比べて6.5ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑥防犯対策の推進」(13.4%)が全体(5.6%)と比べて7.8ポイント、「⑯企業・商業の活性化」(29.9%)が全体(23.7%)と比べて6.2ポイント、「④地域の防災対策」(9.0%)が全体(4.0%)と比べて5.0ポイント高くなっている。

図10-1-24 まちづくり全般の変化－依知南地区

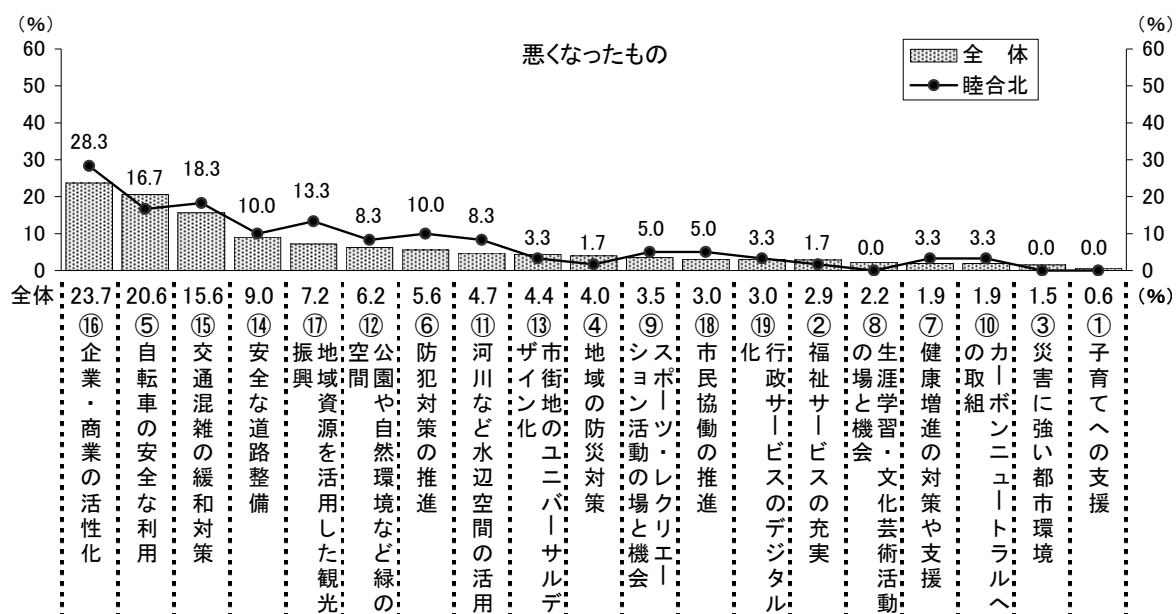
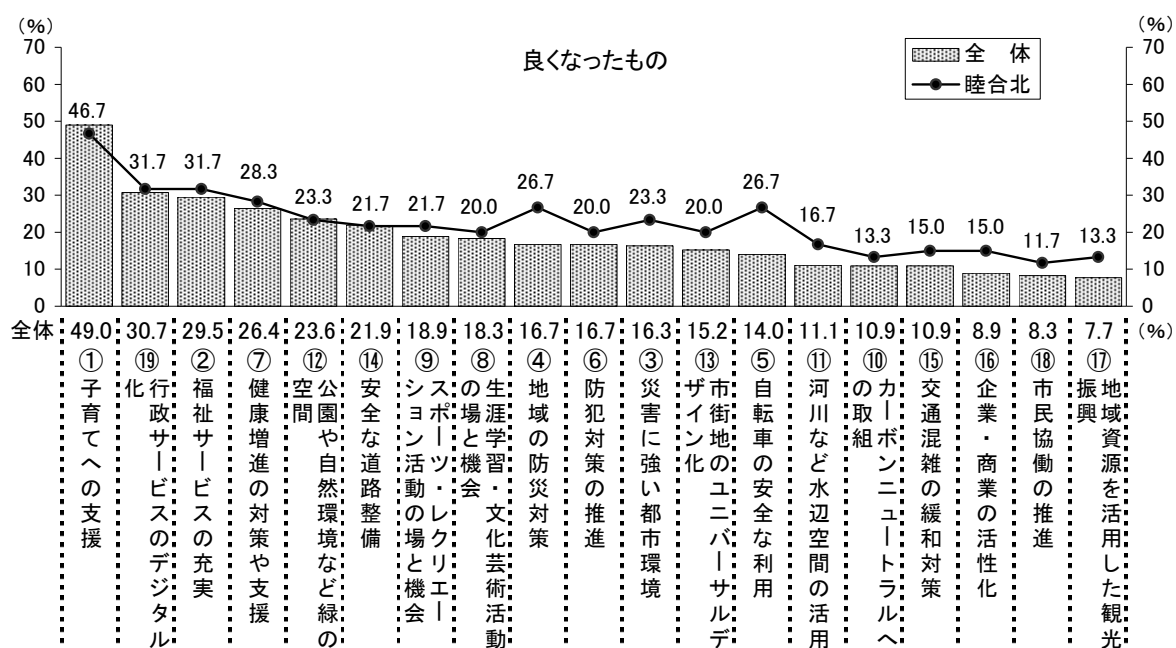


【地区ごとの傾向】〔睦合北地区〕

「良くなったもの」では、「⑤自転車の安全な利用」(26.7%)が全体(14.0%)と比べて12.7ポイント、「④地域の防災対策」(26.7%)が全体(16.7%)と比べて10.0ポイント、「③災害に強い都市環境」(23.3%)が全体(16.3%)と比べて7.0ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「①⑦地域資源を活用した観光振興」(13.3%)が全体(7.2%)と比べて6.1ポイント高くなっている。

図10-1-25 まちづくり全般の変化―睦合北地区

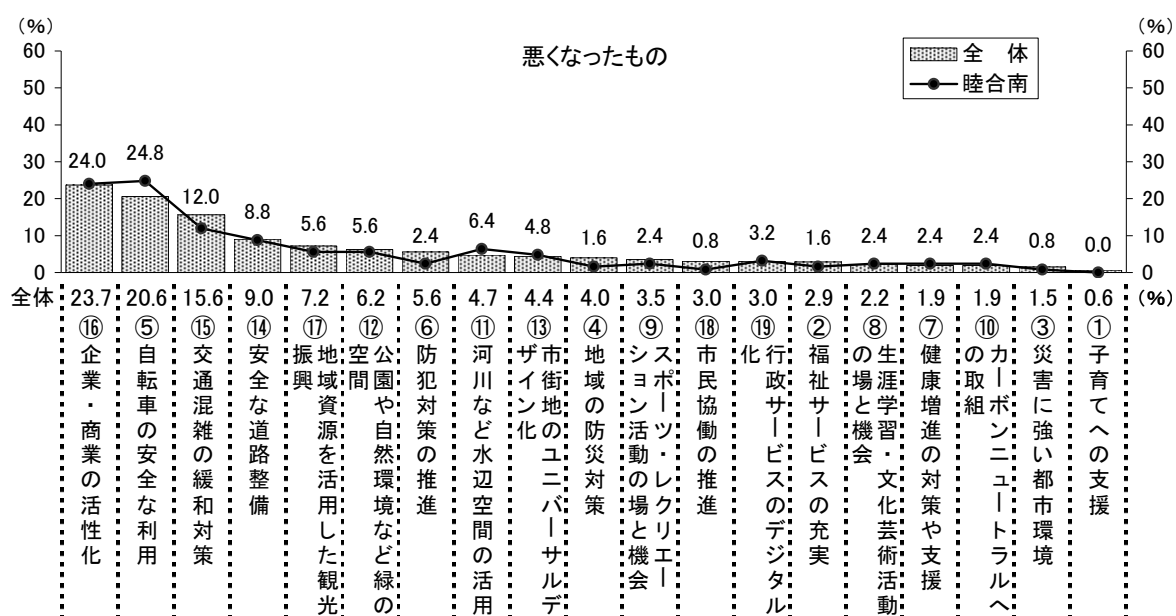
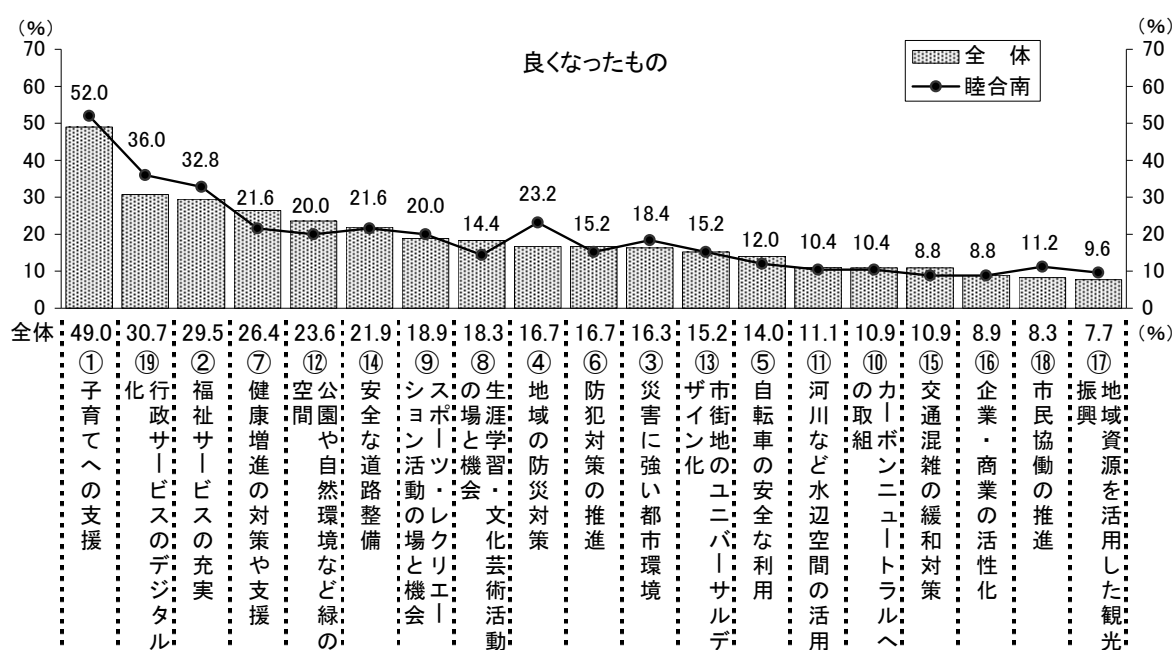


【地区ごとの傾向】〔睦合南地区〕

「良くなったもの」では、「④地域の防災対策」(23.2%)が全体(16.7%)と比べて6.5ポイント、「⑱行政サービスのデジタル化」(36.0%)が全体(30.7%)と比べて5.3ポイント高くなっている。一方、「⑦健康増進の対策や支援」(21.6%)が全体(26.4%)と比べて4.8ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑤自転車の安全な利用」(24.8%)が全体(20.6%)と比べて4.2ポイント高くなっている。

図10-1-26 まちづくり全般の変化―睦合南地区

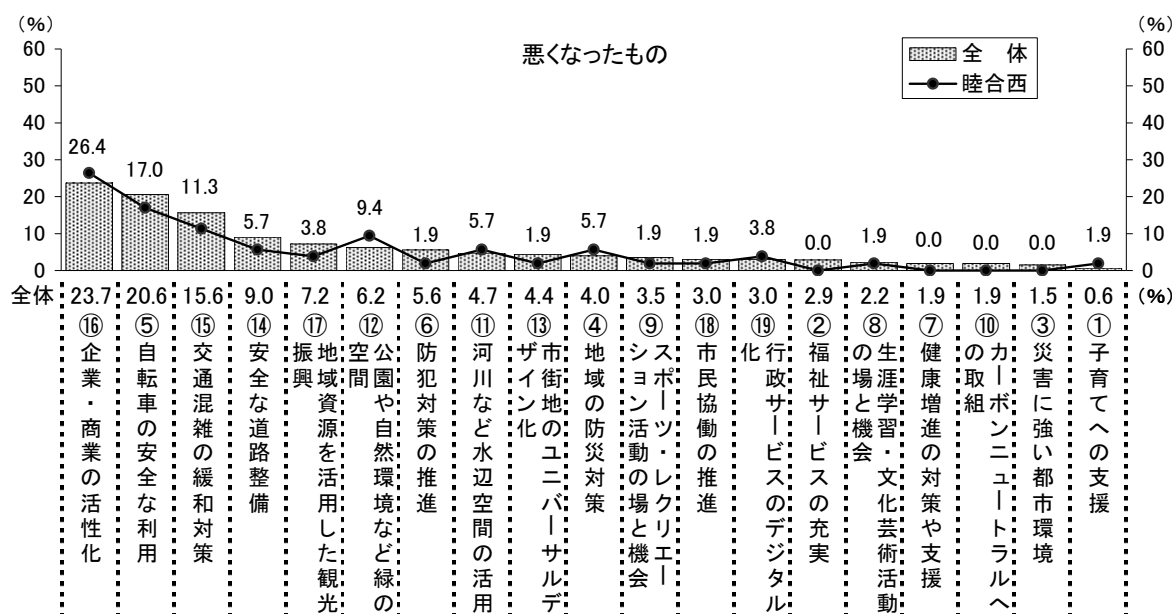
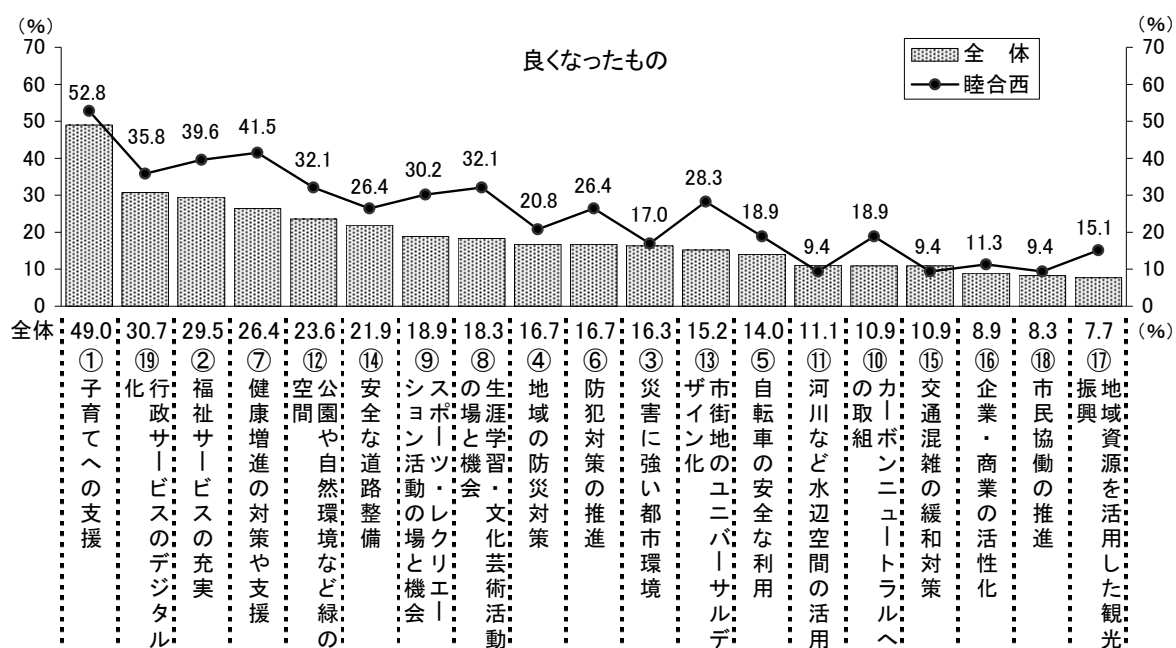


【地区ごとの傾向】〔睦合西地区〕

「良くなったもの」では、「⑦健康増進の対策や支援」(41.5%)が全体(26.4%)と比べて15.1ポイント、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(32.1%)が全体(18.3%)と比べて13.8ポイント、「⑬市街地のユニバーサルデザイン化」(28.3%)が全体(15.2%)と比べて13.1ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(9.4%)が全体(6.2%)と比べて3.2ポイント高くなっている。

図10-1-27 まちづくり全般の変化―睦合西地区

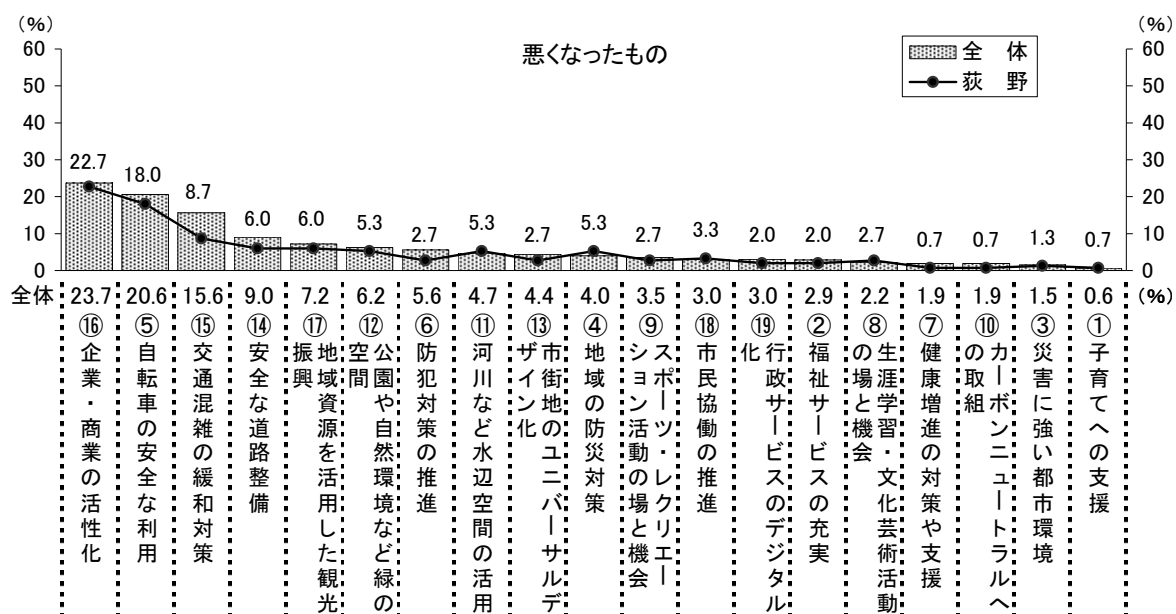
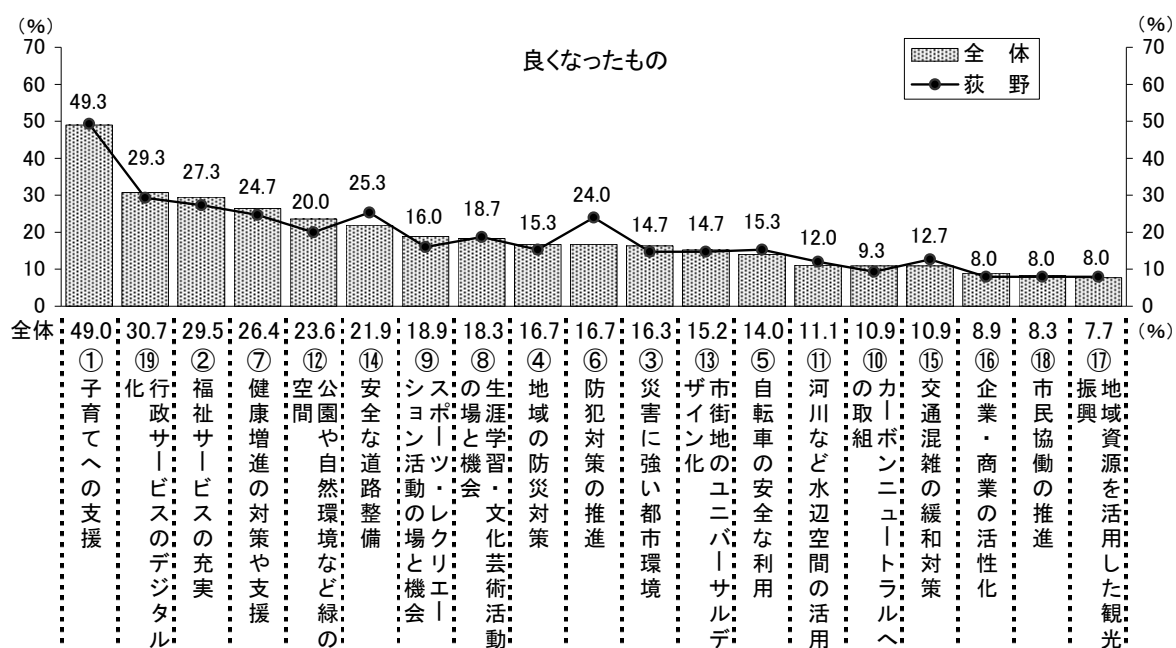


【地区ごとの傾向】〔荻野地区〕

「良くなったもの」では、「⑥防犯対策の推進」(24.0%)が全体(16.7%)と比べて7.3ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(8.7%)が全体(15.6%)と比べて6.9ポイント低くなっている。

図10-1-28 まちづくり全般の変化－荻野地区

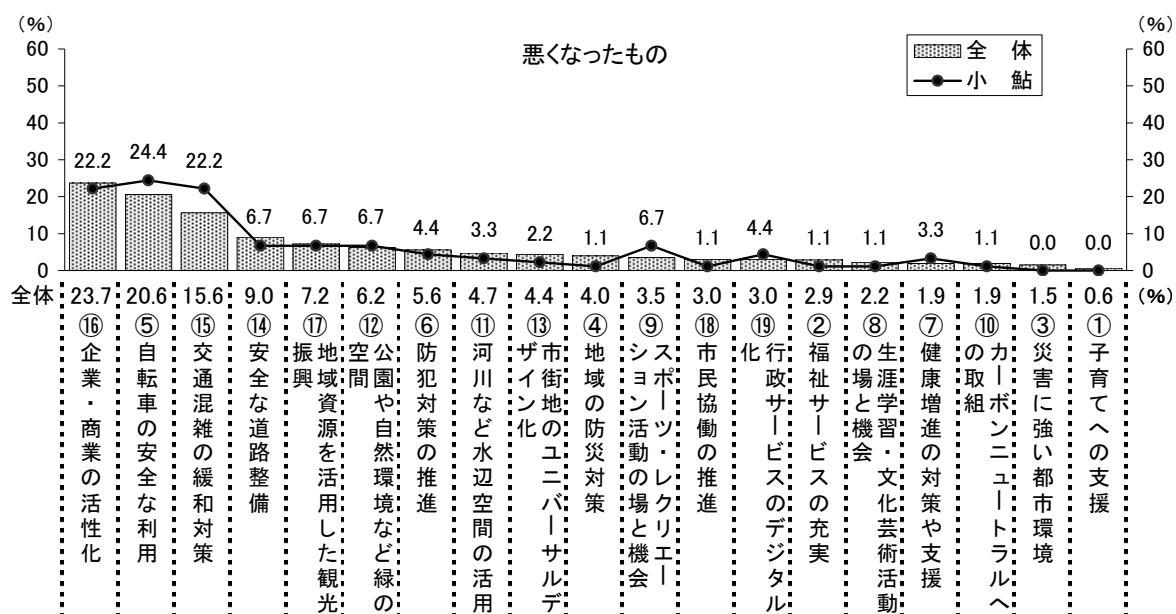
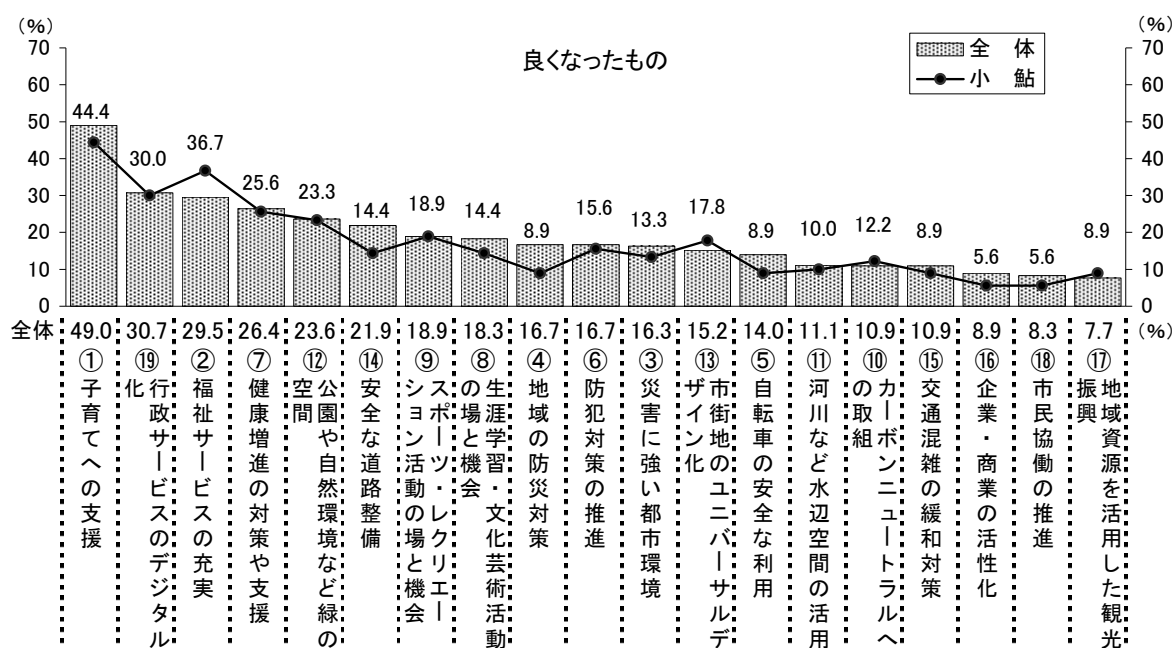


【地区ごとの傾向】〔小鮎地区〕

「良くなったもの」では、「②福祉サービスの充実」(36.7%)が全体(29.5%)と比べて7.2ポイント高くなっている。一方、「④地域の防災対策」(8.9%)が全体(16.7%)と比べて7.8ポイント、「⑭安全な道路整備」(14.4%)が全体(21.9%)と比べて7.5ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(22.2%)が全体(15.6%)と比べて6.6ポイント高くなっている。

図10-1-29 まちづくり全般の変化—小鮎地区

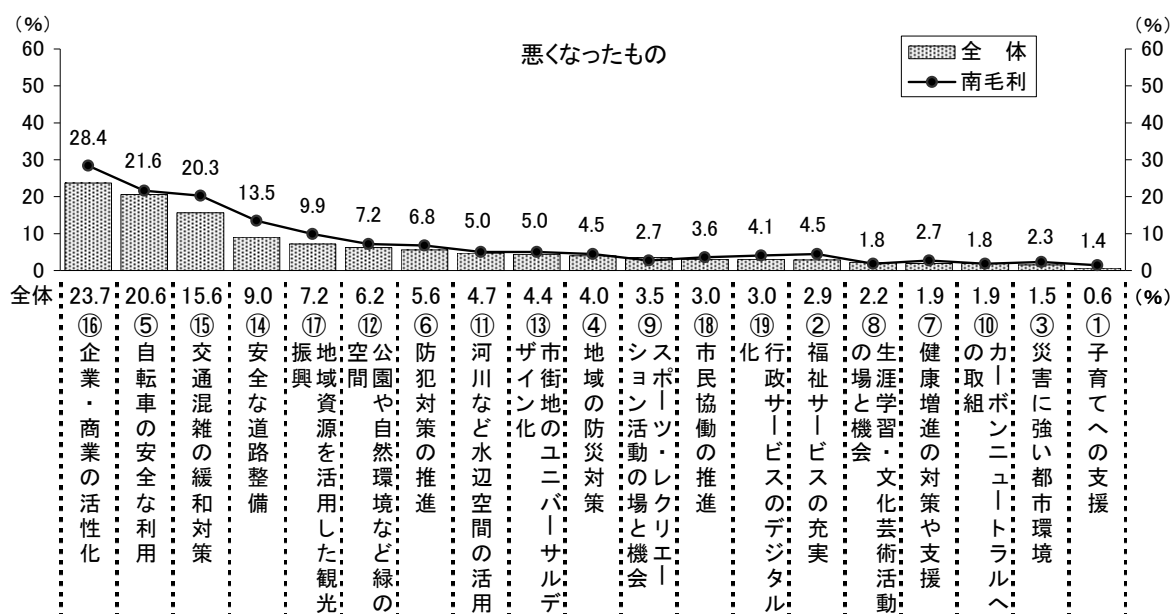
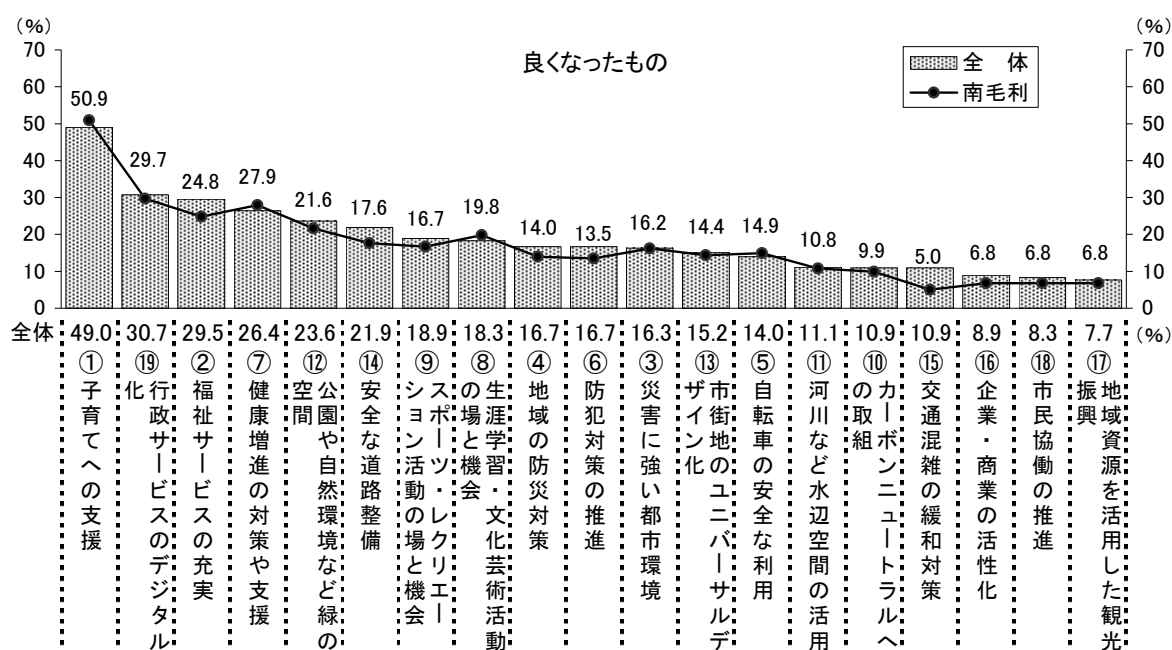


【地区ごとの傾向】〔南毛利地区〕

「良くなったもの」では、「⑮交通混雑の緩和対策」(5.0%)が全体(10.9%)と比べて5.9ポイント、「②福祉サービスの充実」(24.8%)が全体(29.5%)と比べて4.7ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑯企業・商業の活性化」(28.4%)が全体(23.7%)と比べて4.7ポイント、「⑮交通混雑の緩和対策」(20.3%)が全体(15.6%)と比べて4.7ポイント高くなっている。

図10-1-30 まちづくり全般の変化―南毛利地区

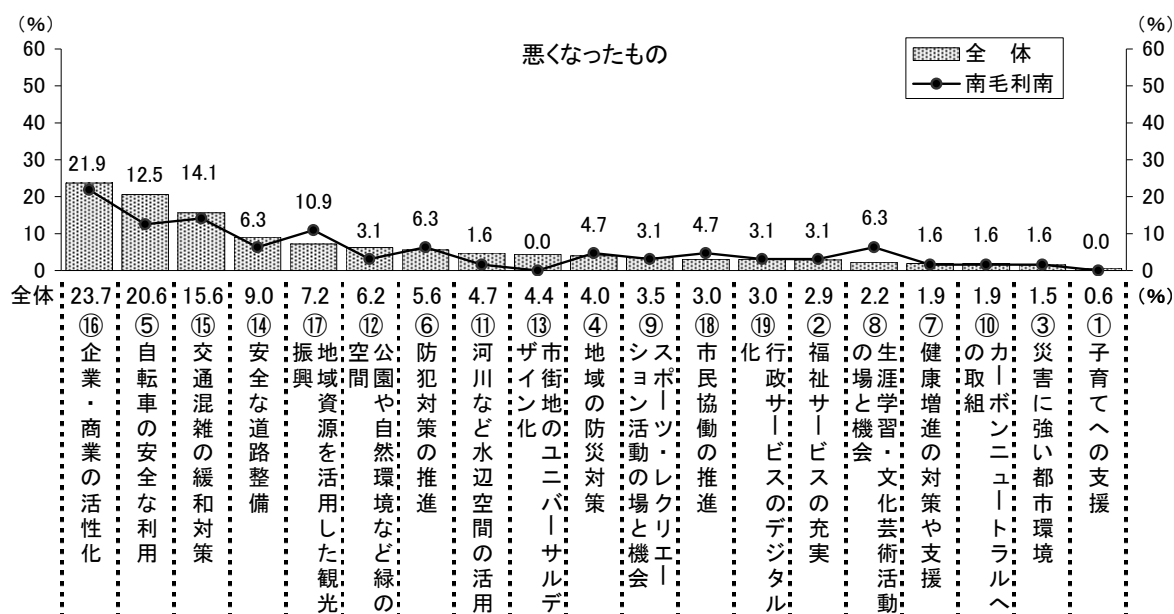
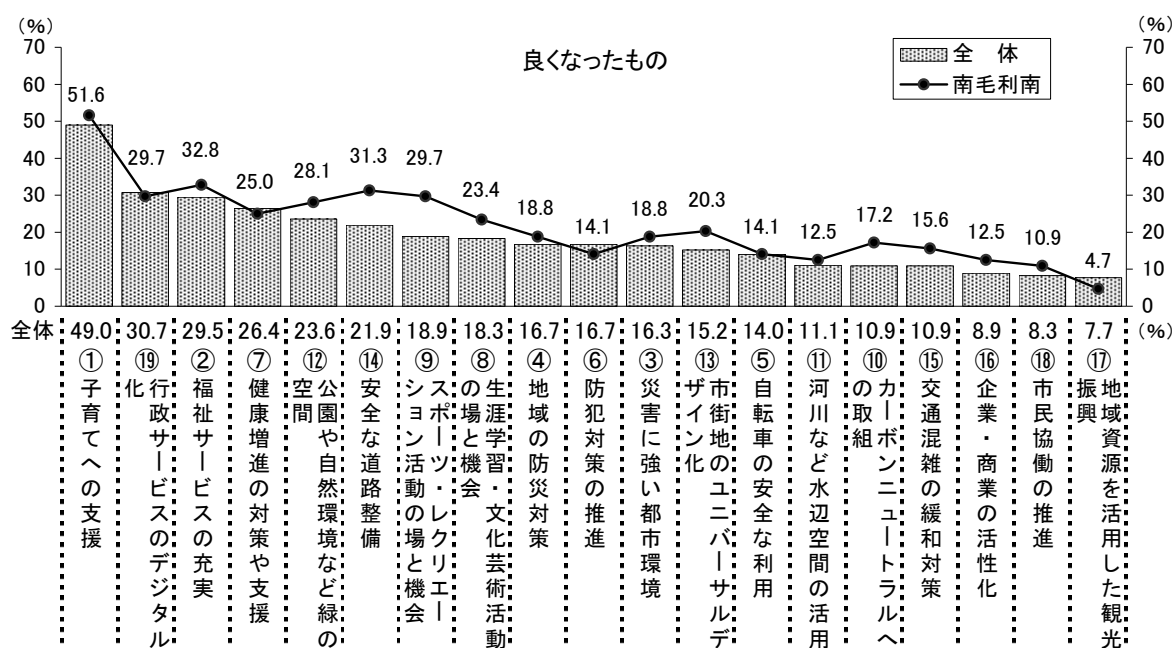


【地区ごとの傾向】〔南毛利南地区〕

「良くなったもの」では、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(29.7%)が全体(18.9%)と比べて10.8ポイント、「⑭安全な道路整備」(31.3%)が全体(21.9%)と比べて9.4ポイント、「⑩カーボンニュートラルへの取組」(17.2%)が全体(10.9%)と比べて6.3ポイント高くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑤自転車の安全な利用」(12.5%)が全体(20.6%)と比べて8.1ポイント、「⑬市街地のユニバーサルデザイン化」(0.0%)が全体(4.4%)と比べて4.4ポイント低くなっている。

図10-1-31 まちづくり全般の変化―南毛利南地区

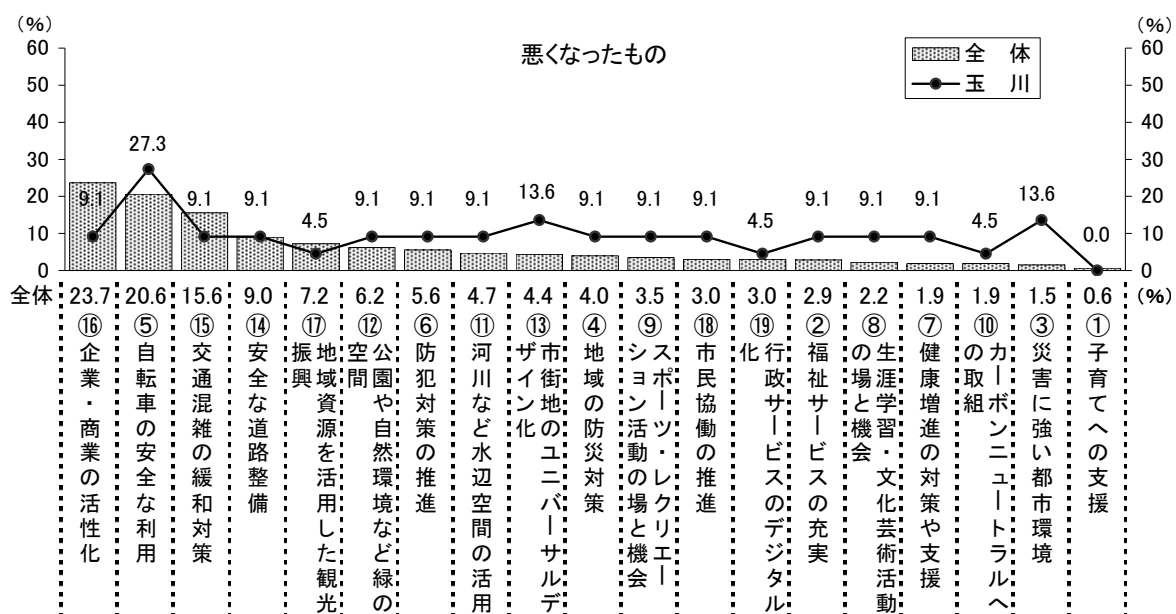
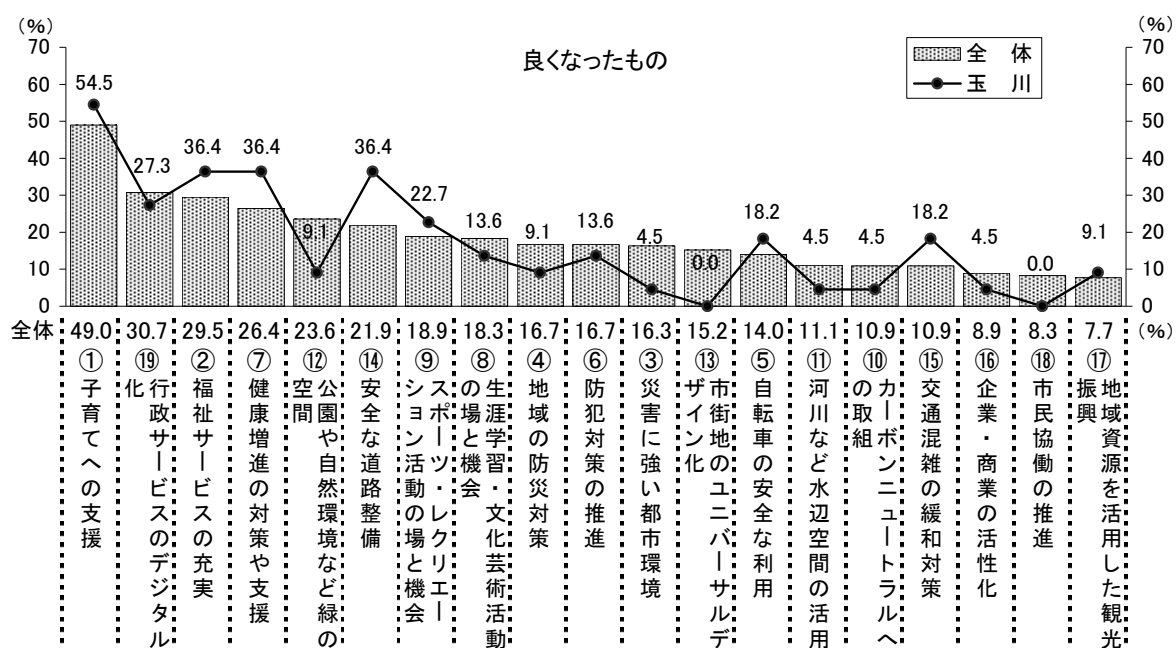


【地区ごとの傾向】〔玉川地区〕

「良くなったもの」では、「⑭安全な道路整備」(36.4%)が全体(21.9%)と比べて14.5ポイント、「⑦健康増進の対策や支援」(36.4%)が全体(26.4%)と比べて10.0ポイント、「⑮交通混雑の緩和対策」(18.2%)が全体(10.9%)と比べて7.3ポイント高くなっている。一方、「⑬市街地のユニバーサルデザイン化」(0.0%)が全体(15.2%)と比べて15.2ポイント、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(9.1%)が全体(23.6%)と比べて14.5ポイント、「③災害に強い都市環境」(4.5%)が全体(16.3%)と比べて11.8ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「③災害に強い都市環境」(13.6%)が全体(1.5%)と比べて12.1ポイント、「⑬市街地のユニバーサルデザイン化」(13.6%)が全体(4.4%)と比べて9.2ポイント、「⑦健康増進の対策や支援」(9.1%)が全体(1.9%)と比べて7.2ポイント高くなっている。

図10-1-32 まちづくり全般の変化―玉川地区

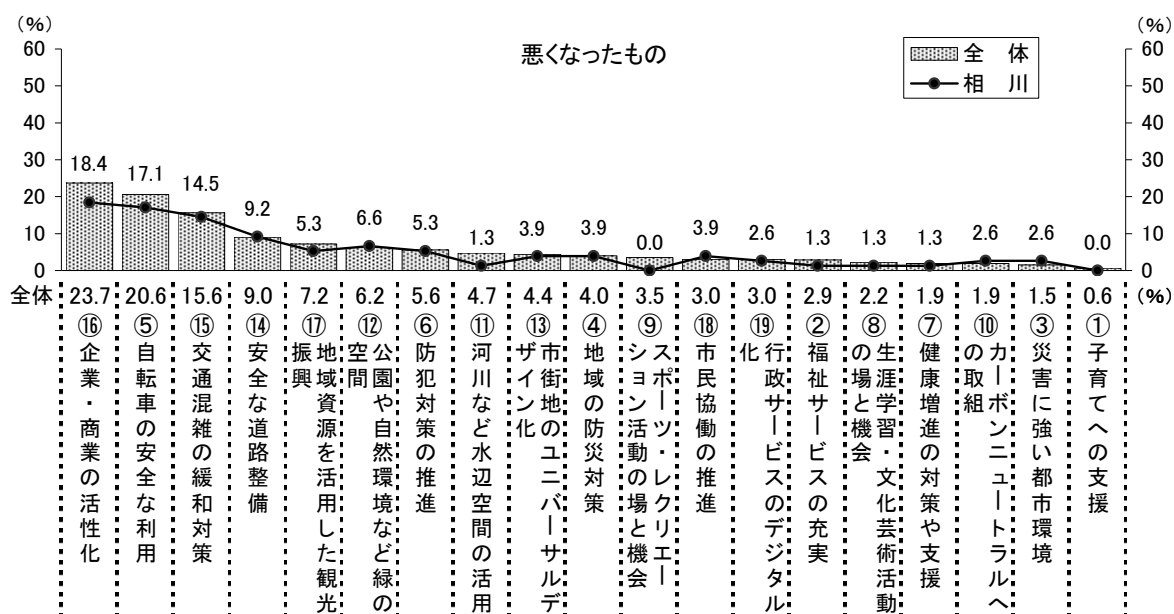
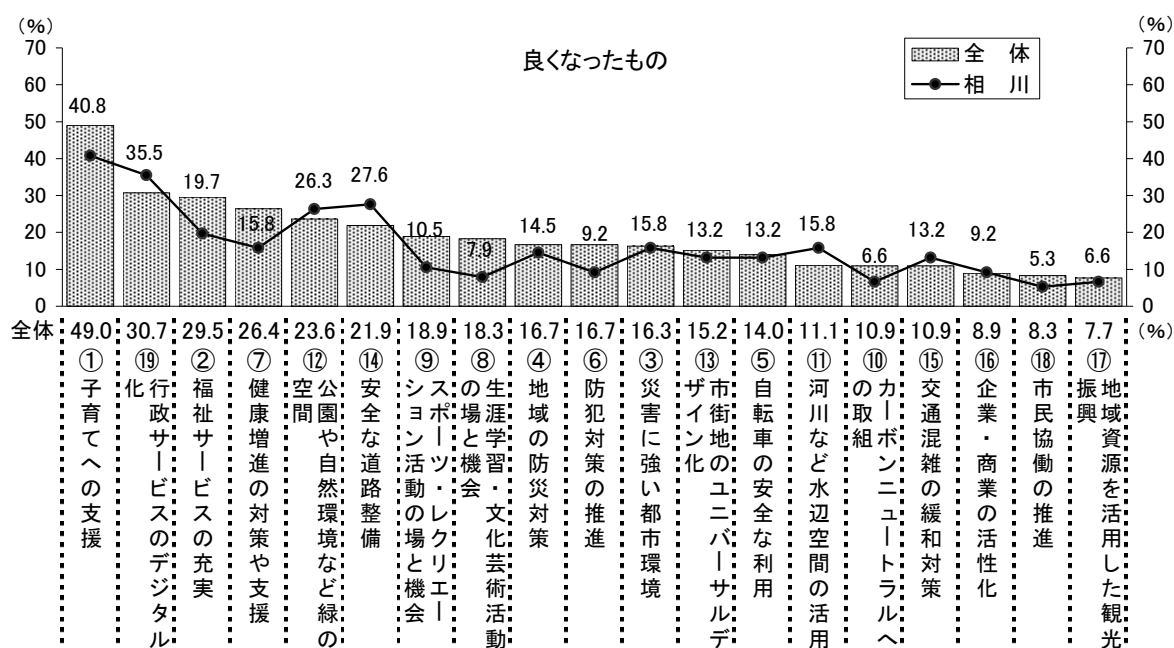


【地区ごとの傾向】〔相川地区〕

「良くなったもの」では、「⑭安全な道路整備」(27.6%)が全体(21.9%)と比べて5.7ポイント、「⑲行政サービスのデジタル化」(35.5%)が全体(30.7%)と比べて4.8ポイント高くなっている。一方、「⑦健康増進の対策や支援」(15.8%)が全体(26.4%)と比べて10.6ポイント、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(7.9%)が全体(18.3%)と比べて10.4ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑯企業・商業の活性化」(18.4%)が全体(23.7%)と比べて5.3ポイント低くなっている。

図10-1-33 まちづくり全般の変化－相川地区

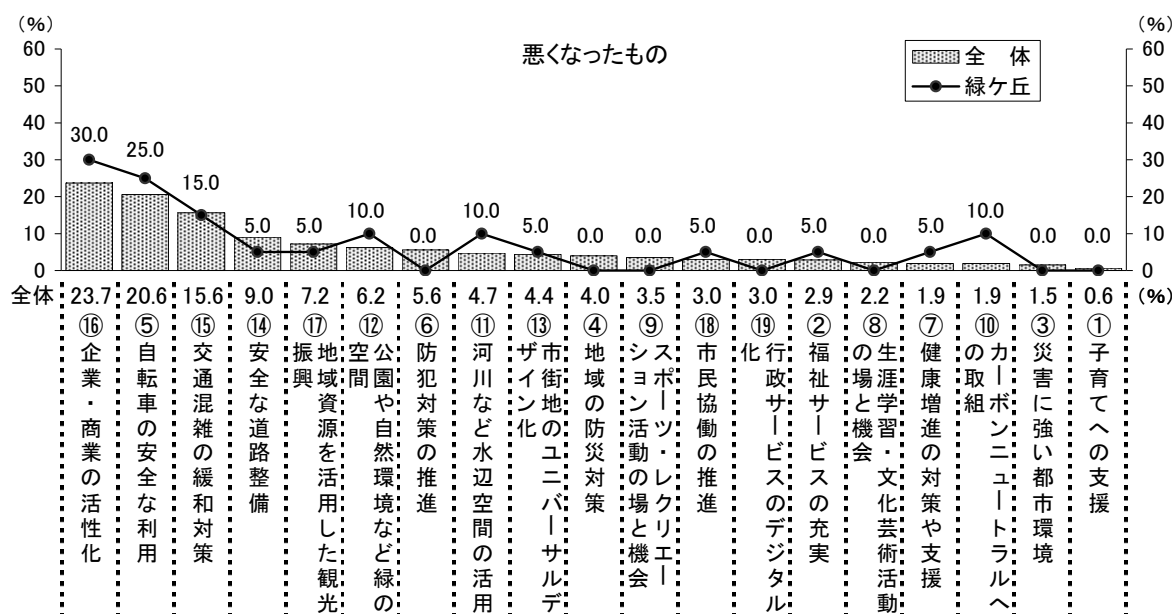
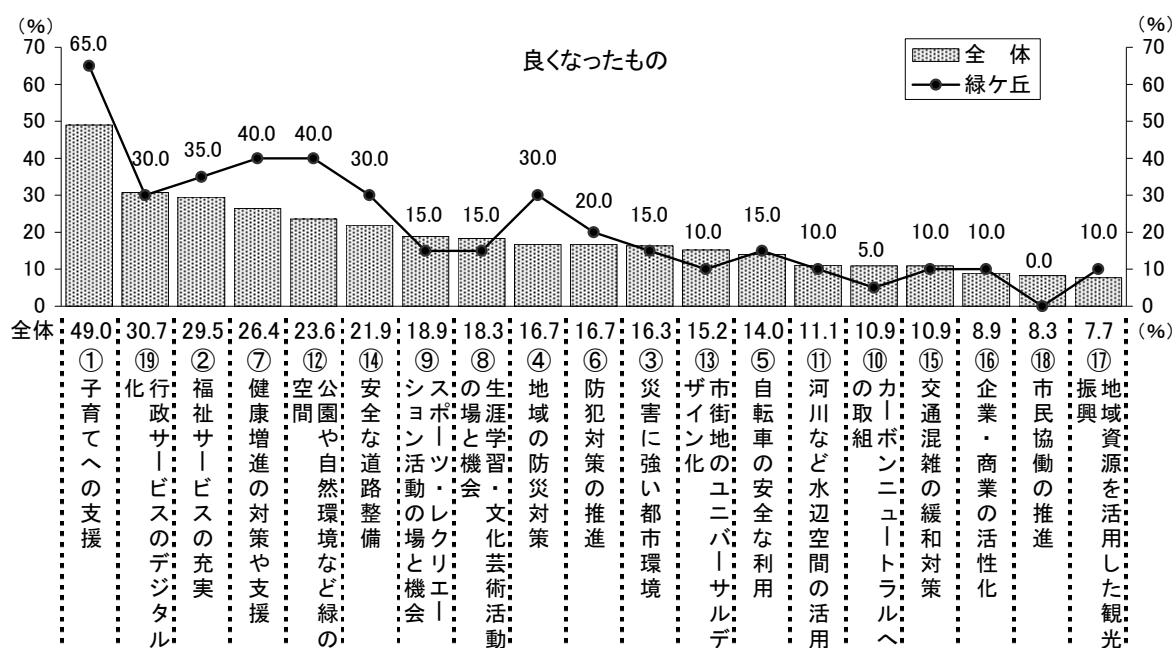


【地区ごとの傾向】〔緑ヶ丘地区〕

「良くなったもの」では、「⑫公園や自然環境など緑の空間」(40.0%)が全体(23.6%)と比べて16.4ポイント、「①子育てへの支援」(65.0%)が全体(49.0%)と比べて16.0ポイント、「⑦健康増進の対策や支援」(40.0%)が全体(26.4%)と比べて13.6ポイント高くなっている。一方、「⑱市民協働の推進」(0.0%)が全体(8.3%)と比べて8.3ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑩カーボンニュートラルへの取組」(10.0%)が全体(1.9%)と比べて8.1ポイント、「⑯企業・商業の活性化」(30.0%)が全体(23.7%)と比べて6.3ポイント、「⑪河川など水辺空間の活用」(10.0%)が全体(4.7%)と比べて5.3ポイント高くなっている。一方、「⑥防犯対策の推進」(0.0%)が全体(5.6%)と比べて5.6ポイント低くなっている。

図10-1-34 まちづくり全般の変化―緑ヶ丘地区

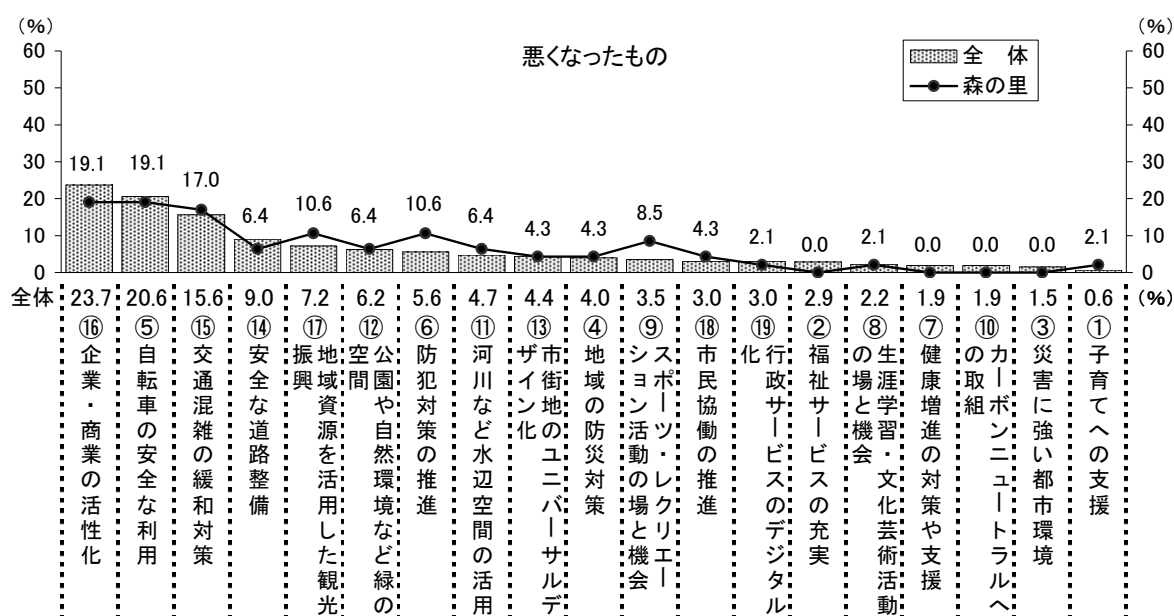
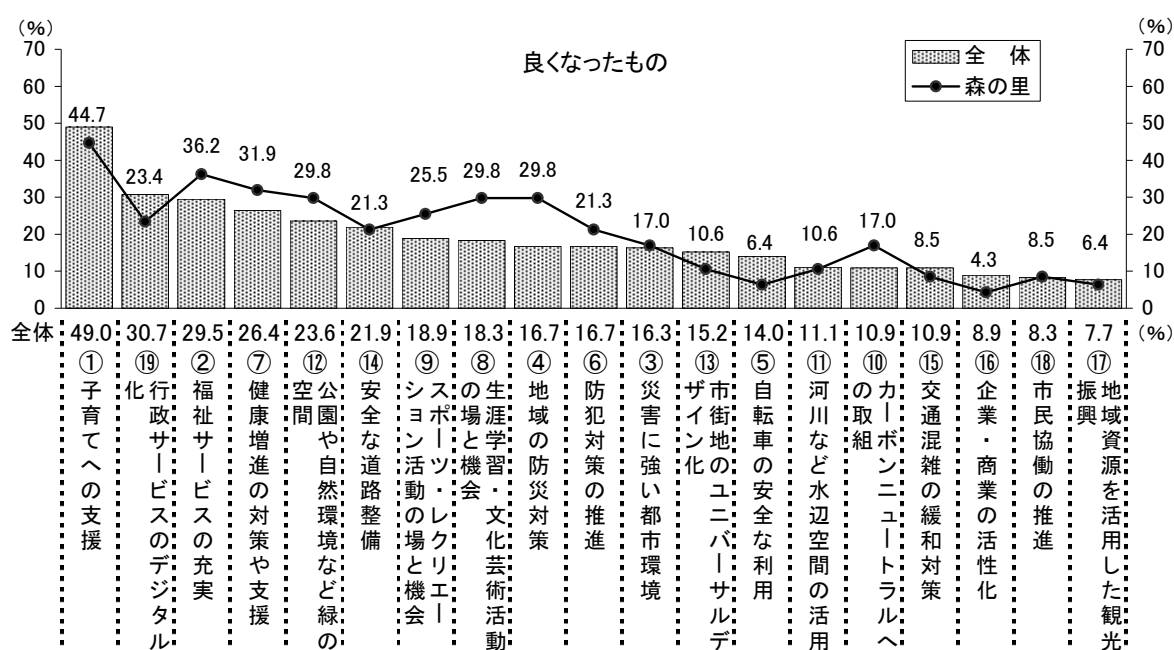


【地区ごとの傾向】〔森の里地区〕

「良くなったもの」では、「④地域の防災対策」(29.8%)が全体(16.7%)と比べて13.1ポイント、「⑧生涯学習・文化芸術活動の場と機会」(29.8%)が全体(18.3%)と比べて11.5ポイント、「②福祉サービスの充実」(36.2%)が全体(29.5%)と比べて6.7ポイント高くなっている。一方、「⑤自転車の安全な利用」(6.4%)が全体(14.0%)と比べて7.6ポイント、「⑱行政サービスのデジタル化」(23.4%)が全体(30.7%)と比べて7.3ポイント低くなっている。

「悪くなったもの」では、「⑥防犯対策の推進」(10.6%)が全体(5.6%)と比べて5.0ポイント、「⑨スポーツ・レクリエーション活動の場と機会」(8.5%)が全体(3.5%)と比べて5.0ポイント高くなっている。

図10-1-35 まちづくり全般の変化―森の里地区

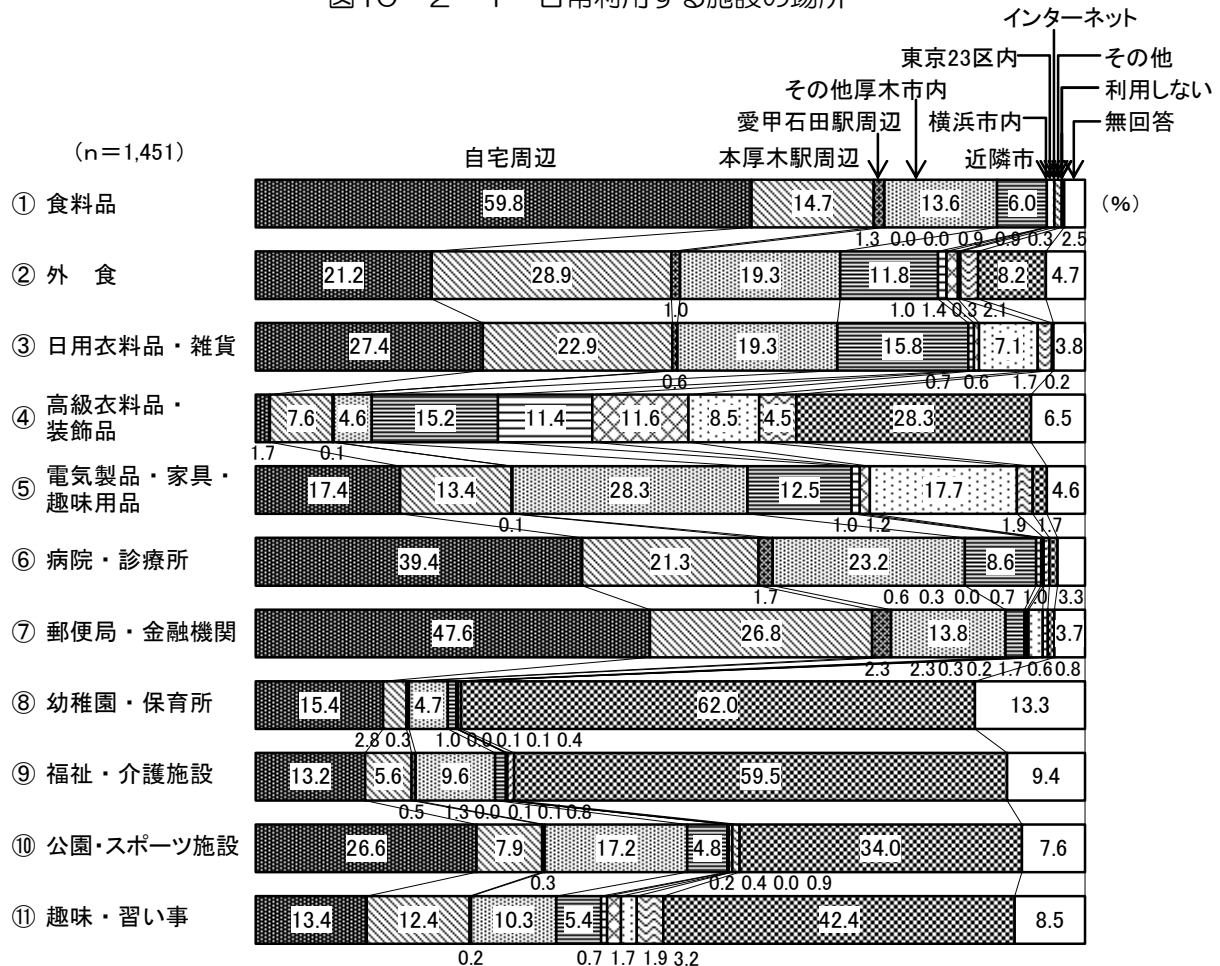


(2) 日常利用する施設の場所 (B: 問16)

問. 日常的に、どこにある店舗・施設を利用していますか。

(①～⑪について、それぞれ1つだけ選んでください)

図10-2-1 日常利用する施設の場所



【全体】

日常利用する施設の場所について聞いたところ、①食料品では「自宅周辺」(59.8%)が約6割で最も高く、次いで「本厚木駅周辺」(14.7%)、「その他厚木市内」(13.6%)となっている。

②外食では「本厚木駅周辺」(28.9%)が3割近くで最も高く、次いで「自宅周辺」(21.2%)、「その他厚木市内」(19.3%)、「近隣市」(11.8%)となっている。

③日用衣料品・雑貨では「自宅周辺」(27.4%)が2割半ばを超えて最も高く、次いで「本厚木駅周辺」(22.9%)、「その他厚木市内」(19.3%)、「近隣市」(15.8%)となっている。

④高級衣料品・装飾品では「近隣市」(15.2%)が1割半ばで最も高く、次いで「東京23区内」(11.6%)、「横浜市」(11.4%)となっている。

⑤電気製品・家具・趣味用品では「その他厚木市内」(28.3%)が3割近くで最も高く、次いで「インターネット」(17.7%)、「自宅周辺」(17.4%)、「本厚木駅周辺」(13.4%)となっている。

⑥病院・診療所、⑦郵便局・金融機関、⑧幼稚園・保育所、⑨福祉・介護施設、⑩公園・スポーツ施設、⑪趣味・習い事の6項目ではいずれも「自宅周辺」が最も高くなっている。

【経年変化】①食料品、②外食、③日用衣料品・雑貨、④高級衣料品・装飾品

経年による変化を見ると、①食料品では令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

②外食では令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

③日用衣料品・雑貨では令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

④高級衣料品・装飾品では令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が過去と異なっているため、参考記載とする。

表10-2-1 日常利用する施設の場所—経年変化（上位5項目）

(%)

順位		令和7年度 (n=1,451)		令和5年度 (n=1,413)		令和3年度 (n=1,672)		令和元年度 (n=1,538)		平成29年度 (n=1,550)		平成27年度 (n=1,417)		平成25年度 (n=1,270)	
① 食料品	1	自宅周辺	59.8	自宅周辺	57.3	自宅周辺	57.7	自宅周辺	55.8	自宅周辺	56.3	その他厚木市内	55.4	その他厚木市内	52.0
	2	本厚木駅周辺	14.7	その他厚木市内	15.8	本厚木駅周辺	16.7	本厚木駅周辺	16.6	その他厚木市内	16.9	本厚木駅周辺	31.1	本厚木駅周辺	37.2
	3	その他厚木市内	13.6	本厚木駅周辺	15.6	その他厚木市内	13.0	その他厚木市内	16.3	本厚木駅周辺	16.1	愛甲石田駅周辺	4.0	愛甲石田駅周辺	2.6
	4	近隣市	6.0	近隣市	5.5	近隣市	6.0	近隣市	5.5	近隣市	4.5	伊勢原駅周辺	1.6	海老名駅周辺	1.8
	5	愛甲石田駅周辺	1.3	愛甲石田駅周辺	0.7	インターネット	1.0	愛甲石田駅周辺	1.3	愛甲石田駅周辺	1.2	相模原市内	1.3	伊勢原駅周辺	1.4
② 外食	1	本厚木駅周辺	28.9	本厚木駅周辺	26.4	本厚木駅周辺	25.4	本厚木駅周辺	28.2	本厚木駅周辺	25.2	その他厚木市内	40.0		
	2	自宅周辺	21.2	その他厚木市内	20.0	自宅周辺	19.9	その他厚木市内	23.2	その他厚木市内	22.0	本厚木駅周辺	31.2		
	3	その他厚木市内	19.3	自宅周辺	19.2	その他厚木市内	18.5	自宅周辺	17.4	自宅周辺	19.6	海老名駅周辺	3.9		
	4	近隣市	11.8	近隣市	12.0	近隣市	11.7	近隣市	11.0	近隣市	12.8	東京23区内	2.6		
	5	東京23区内	1.4	東京23区内	2.0	東京23区内	1.4	東京23区内	3.6	東京23区内	2.5	横浜市内	2.4		
③ 日用衣料品・ 雑貨	1	自宅周辺	27.4	自宅周辺	27.3	自宅周辺	27.6	自宅周辺	24.1	自宅周辺	26.9	その他厚木市内	36.6	本厚木駅周辺	38.8
	2	本厚木駅周辺	22.9	本厚木駅周辺	21.9	本厚木駅周辺	21.9	本厚木駅周辺	22.4	本厚木駅周辺	22.6	本厚木駅周辺	35.1	その他厚木市内	30.0
	3	その他厚木市内	19.3	その他厚木市内	19.0	その他厚木市内	18.5	その他厚木市内	21.2	その他厚木市内	22.1	海老名駅周辺	6.1	海老名駅周辺	8.0
	4	近隣市	15.8	近隣市	16.2	近隣市	16.6	近隣市	17.4	近隣市	13.5	インターネット	2.4	町田市内	5.0
	5	インターネット	7.1	インターネット	7.1	インターネット	6.5	インターネット	3.6	インターネット	3.2	相模原市内	2.2	インターネット	4.3
④ 高級衣料品・ 装飾品	1	近隣市	15.2	近隣市	15.6	近隣市	16.0	近隣市	19.6	近隣市	19.7	東京23区内	18.1	東京23区内	19.8
	2	東京23区内	11.6	東京23区内	12.7	東京23区内	9.9	東京23区内	14.9	東京23区内	13.3	本厚木駅 周辺 /横浜市内	15.6	横浜市内	18.1
	3	横浜市内	11.4	横浜市内	10.5	本厚木駅周辺	9.1	横浜市内	9.6	横浜市内	12.7	本厚木駅周辺		16.1	
	4	インターネット	8.5	本厚木駅周辺	9.7	横浜市内	8.7	本厚木駅周辺	9.3	本厚木駅周辺	10.2	海老名駅周辺	8.0	町田市内	12.3
	5	本厚木駅周辺	7.6	インターネット	7.9	インターネット	8.7	インターネット	5.2	その他厚木市内	6.1	その他厚木市内	7.2	海老名駅周辺	7.4

（注1）「③日用衣料品・雑貨」は、平成27年度調査以前では「日用衣料品」としていた。

（注2）「インターネット」は、平成25年度調査では「インターネットショッピング」としていた。

（注3）平成29年度調査以降では、「近隣市」の選択肢を追加している。

（注4）平成29年度調査以前では、「ふだん、どこにある店舗・施設を利用していますか。」と質問していた。

（注5）平成27年度調査以降では、「②外食」の選択肢を追加している。

（注6）平成27年度調査以前では、「伊勢原駅周辺」、「海老名駅周辺」、「平塚駅周辺」の選択肢を追加していた。

（注7）平成27年度調査では、「相模原市内」の選択肢を追加していた。

（注8）平成25年度調査では、「町田市内」の選択肢を追加していた。

【経年変化】⑤電気製品・家具・趣味用品、⑥病院・診療所、⑦郵便局・金融機関、
⑧幼稚園・保育所

経年による変化を見ると、⑤電気製品・家具・趣味用品では令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

⑥病院・診療所では「本厚木駅周辺」（21.3%）が令和5年度調査（17.3%）より4.0ポイント増加している。

⑦郵便局・金融機関では令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

⑧幼稚園・保育所では令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

表10-2-2 日常利用する施設の場所—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和7年度 (n=1,451)	令和5年度 (n=1,413)	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)
⑤ 電気製品・家具・趣味用品	1 その他厚木市内 28.3	その他厚木市内 28.6	その他厚木市内 28.8	その他厚木市内 36.1	その他厚木市内 33.4
	2 インターネット 17.7	自宅周辺 17.8	自宅周辺 19.3	自宅周辺 15.1	自宅周辺 17.5
	3 自宅周辺 17.4	インターネット 16.8	インターネット 14.8	近隣市 12.7	近隣市 14.5
	4 本厚木駅周辺 13.4	本厚木駅周辺 14.0	近隣市 13.3	本厚木駅周辺 11.8	インターネット 11.1
	5 近隣市 12.5	近隣市 11.9	本厚木駅周辺 11.8	インターネット 10.8	本厚木駅周辺 10.4
⑥ 病院・診療所	1 自宅周辺 39.4	自宅周辺 41.3	自宅周辺 43.2	自宅周辺 38.3	自宅周辺 36.8
	2 その他厚木市内 23.2	その他厚木市内 25.5	その他厚木市内 22.8	その他厚木市内 28.3	その他厚木市内 26.3
	3 本厚木駅周辺 21.3	本厚木駅周辺 17.3	本厚木駅周辺 18.8	本厚木駅周辺 17.9	本厚木駅周辺 17.6
	4 近隣市 8.6	近隣市 6.7	近隣市 6.1	近隣市 6.5	近隣市 9.7
	5 愛甲石田駅周辺 1.7	愛甲石田駅周辺 2.0	愛甲石田駅周辺 1.7	愛甲石田駅周辺 2.1	愛甲石田駅周辺 2.3
⑦ 郵便局・金融機関	1 自宅周辺 47.6	自宅周辺 48.5	自宅周辺 48.1	自宅周辺 42.7	自宅周辺 43.2
	2 本厚木駅周辺 26.8	本厚木駅周辺 25.4	本厚木駅周辺 28.7	本厚木駅周辺 29.5	本厚木駅周辺 30.5
	3 その他厚木市内 13.8	その他厚木市内 14.2	その他厚木市内 12.3	その他厚木市内 16.3	その他厚木市内 15.1
	4 愛甲石田駅周辺 / 近隣市 2.3	愛甲石田駅周辺 / 近隣市 2.3	愛甲石田駅周辺 2.0	愛甲石田駅周辺 2.7	愛甲石田駅周辺 2.7
	5 近隣市 1.9	近隣市 1.9	近隣市 1.9	近隣市 1.9	近隣市 2.3
⑧ 幼稚園・保育所	1 自宅周辺 15.4	自宅周辺 14.4	自宅周辺 15.0	自宅周辺 17.5	自宅周辺 15.6
	2 その他厚木市内 4.7	その他厚木市内 4.5	その他厚木市内 4.2	その他厚木市内 5.9	その他厚木市内 5.7
	3 本厚木駅周辺 2.8	本厚木駅周辺 2.2	本厚木駅周辺 2.9	本厚木駅周辺 2.6	本厚木駅周辺 3.3
	4 近隣市 1.0	近隣市 0.8	近隣市 0.7	近隣市 0.9	近隣市 1.1
	5 愛甲石田駅周辺 0.3	愛甲石田駅周辺 0.4	愛甲石田駅周辺 0.4	愛甲石田駅周辺 0.3	愛甲石田駅周辺 0.3

（注1）「⑦郵便局・金融機関」は、令和3年度調査以前では「⑦郵便局・銀行」としていた。

（注2）令和3年度調査から、⑥病院・診療所、⑦郵便局・金融機関、⑧幼稚園・保育所の項目にも「インターネット」の選択肢を追加している。

【経年変化】⑨福祉・介護施設、⑩公園・スポーツ施設、⑪趣味・習い事

経年による変化を見ると、⑨福祉・介護施設では令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

⑩公園・スポーツ施設では令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

⑪趣味・習い事では令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

表10-2-3 日常利用する施設の場所—経年変化（上位5項目）

(%)

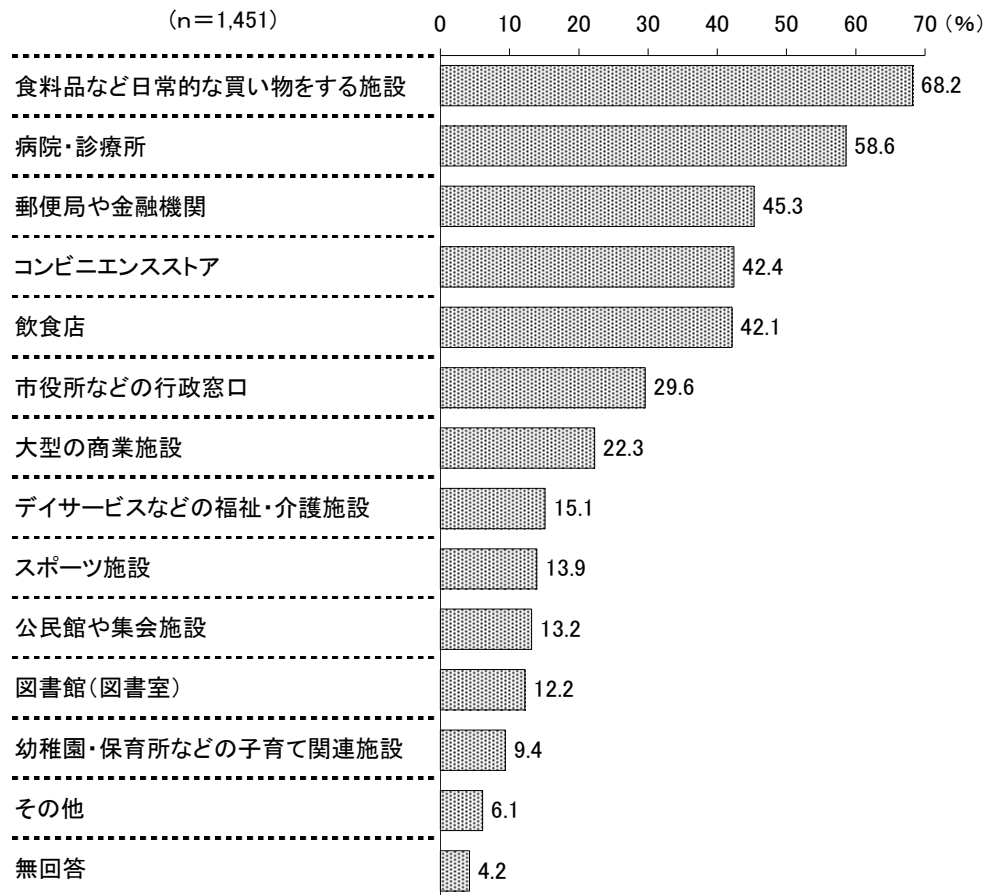
順位		令和7年度 (n=1,451)	令和5年度 (n=1,413)	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)
⑨ 福祉・ 介護 施設	1 自宅周辺	13.2	自宅周辺 12.7	自宅周辺 11.4	自宅周辺 12.4	自宅周辺 11.6
	2 その他厚木市内	9.6	その他厚木市内 8.6	その他厚木市内 8.2	その他厚木市内 9.3	その他厚木市内 10.2
	3 本厚木駅周辺	5.6	本厚木駅周辺 5.2	本厚木駅周辺 5.7	本厚木駅周辺 6.2	本厚木駅周辺 5.9
	4 近隣市	1.3	近隣市 0.6	近隣市 0.5	近隣市 1.1	近隣市 1.0
	5 愛甲石田駅周辺	0.5	愛甲石田駅周辺 0.5	愛甲石田駅周辺 0.4	愛甲石田駅周辺 0.3	愛甲石田駅周辺 0.3
⑩ 公園・ スポーツ 施設	1 自宅周辺	26.6	自宅周辺 26.2	自宅周辺 28.3	自宅周辺 24.1	自宅周辺 25.8
	2 その他厚木市内	17.2	その他厚木市内 17.9	その他厚木市内 14.2	その他厚木市内 20.1	その他厚木市内 20.5
	3 本厚木駅周辺	7.9	本厚木駅周辺 6.2	本厚木駅周辺 6.9	本厚木駅周辺 8.8	本厚木駅周辺 8.6
	4 近隣市	4.8	近隣市 4.0	近隣市 4.2	近隣市 5.0	近隣市 3.9
	5 東京23区内	0.4	東京23区内 0.4	愛甲石田駅周辺 0.4	東京23区内 0.4	愛甲石田駅周辺/横浜市 0.4
⑪ 趣味・ 習い 事	1 自宅周辺	13.4	自宅周辺 12.2	自宅周辺 13.7	自宅周辺 14.0	本厚木駅周辺 13.9
	2 本厚木駅周辺	12.4	その他厚木市内 11.1	本厚木駅周辺 11.7	その他厚木市内 13.7	自宅周辺 13.2
	3 その他厚木市内	10.3	本厚木駅周辺 11.0	その他厚木市内 9.1	本厚木駅周辺 12.4	その他厚木市内 13.1
	4 近隣市	5.4	近隣市 5.1	近隣市 3.8	近隣市 6.2	近隣市 5.2
	5 インターネット	1.9	インターネット 2.1	インターネット 2.4	東京23区内 2.5	東京23区内 2.0

（注）令和3年度調査から、⑨福祉・介護施設、⑩公園・スポーツ施設の項目にも「インターネット」の選択肢を追加している。

(3) 自宅周辺に必要な施設 (B: 問17)

問. 徒歩や自転車で移動できる自宅周辺に、どのような施設が必要であると思いますか。
(5つまで選んでください)

図10-3-1 自宅周辺に必要な施設



【全体】

自宅周辺に必要な施設について聞いたところ、「食料品など日常的な買い物をする施設」(68.2%)が7割近くで最も高く、次いで「病院・診療所」(58.6%)、「郵便局や金融機関」(45.3%)、「コンビニエンスストア」(42.4%)、「飲食店」(42.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「郵便局や金融機関」（45.3％）は令和5年度調査（49.8％）より4.5ポイント減少している。

表10－3－1 自宅周辺に必要な施設－経年変化

調 査 年	n	食料品など日常的な買い物をする施設	病院・診療所	郵便局や金融機関	コンビニエンスストア	飲食店	市役所などの行政窓口	大型の商業施設	介護施設 ・ デイサービスなどの福祉施設	スポーツ施設	公民館や集会施設	図書館（図書室）	幼稚園・保育所などの子育て関連施設	その他	無回答	(%)
令和7年度	1,451	68.2	58.6	45.3	42.4	42.1	29.6	22.3	15.1	13.9	13.2	12.2	9.4	6.1	4.2	
令和5年度	1,413	70.8	60.2	49.8	44.4	42.7	28.9	22.9	15.0	12.6	12.0	13.8	10.0	5.4	3.2	
令和3年度	1,672	67.4	58.3	47.9	42.5	38.8	30.4	23.2	13.9	14.2	12.8	14.1	11.1	6.3	4.1	
令和元年度	1,538	70.4	64.0	54.5	40.8	38.8	32.8	23.9	17.2	16.9	15.7	16.9	12.1	5.6	3.1	
平成29年度	1,550	58.7	48.1	42.8	30.5	37.0	27.5	26.5	18.3	20.7	10.9	16.5	10.8	8.6	5.0	

（注）「郵便局や金融機関」は、令和5年度調査以前では「郵便局や銀行」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「病院・診療所」（63.1％）が男性（53.3％）より9.8ポイント、「郵便局や金融機関」（49.5％）が男性（40.5％）より9.0ポイント、「食料品など日常的な買い物をする施設」（70.9％）が男性（65.1％）より5.8ポイント高くなっている。一方、男性では「スポーツ施設」（16.6％）が女性（11.7％）より4.9ポイント、「飲食店」（44.4％）が女性（40.3％）より4.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「食料品など日常的な買い物をする施設」は40～49歳（72.0％）と50～59歳（71.9％）で7割を超えて高くなっている。「病院・診療所」は70～79歳（63.7％）と60～69歳（63.0％）で6割半ば近くと高くなっている。「コンビニエンスストア」は20～29歳（57.3％）で5割半ばを超えて高くなっている。

表10-3-2 自宅周辺に必要な施設－性別、年齢別

(%)																	
				食料品など日常的な買い物をする施設	病院・診療所	郵便局や金融機関	コンビニエンスストア	飲食店	市役所などの行政窓口	大型の商業施設	デイサービスなどの福祉・介護施設	スポーツ施設	公民館や集会施設	図書館（図書室）	幼稚園・保育所などの子育て関連施設	その他	無回答
全 体		1,451	68.2	58.6	45.3	42.4	42.1	29.6	22.3	15.1	13.9	13.2	12.2	9.4	6.1	4.2	
性別	男 性	662	65.1	53.3	40.5	42.3	44.4	29.2	21.9	13.0	16.6	12.5	10.6	9.2	6.9	5.0	
	女 性	762	70.9	63.1	49.5	42.7	40.3	30.2	22.8	16.9	11.7	13.6	13.1	9.8	5.0	3.4	
年 齢 別	20 歳 未 満	18	61.1	55.6	33.3	61.1	50.0	11.1	27.8	5.6	11.1	5.6	11.1	33.3	11.1	5.6	
	20 ～ 29 歳	117	70.1	53.0	31.6	57.3	47.0	24.8	25.6	3.4	22.2	6.0	17.1	20.5	7.7	0.0	
	30 ～ 39 歳	142	68.3	54.2	37.3	46.5	45.8	23.2	24.6	4.9	15.5	7.7	14.8	23.9	5.6	0.0	
	40 ～ 49 歳	189	72.0	56.6	40.7	47.1	43.9	24.9	22.8	10.1	17.5	11.6	11.6	16.4	7.9	1.6	
	50 ～ 59 歳	278	71.9	58.6	49.3	45.3	42.4	33.1	22.3	10.4	11.5	7.9	7.9	5.4	4.7	2.5	
	60 ～ 69 歳	235	67.2	63.0	49.4	41.3	42.6	29.8	25.1	16.6	12.8	12.3	16.6	4.3	6.4	3.0	
	70 ～ 79 歳	284	65.5	63.7	50.0	34.9	41.2	34.5	20.8	24.3	13.4	20.1	13.0	3.9	6.3	6.3	
	80 歳 以 上	186	64.0	54.8	46.8	32.3	34.4	31.2	16.7	26.9	9.7	22.0	7.5	3.2	4.3	13.4	

〔居住地区別の結果〕

表10－3－3 自宅周辺に必要な施設－居住地区別

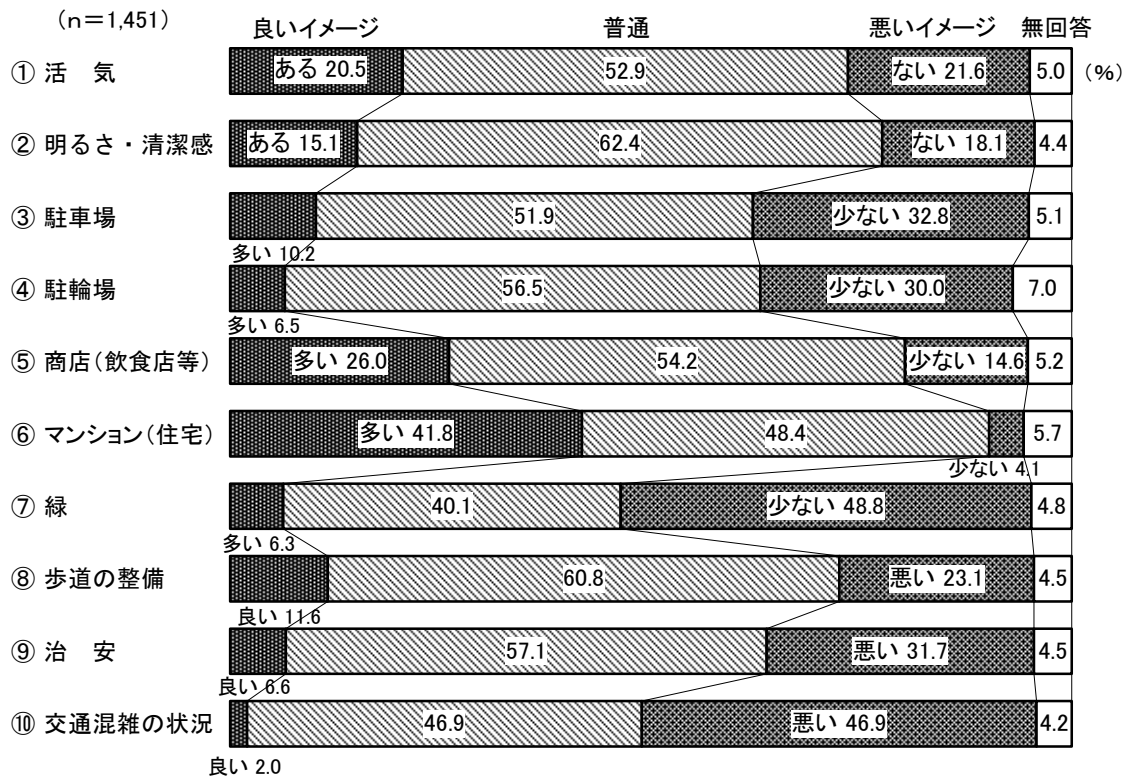
		(%)														
		n	食料品など日常的な買い物をする施設	病院・診療所	郵便局や金融機関	コンビニエンスストア	飲食店	市役所などの行政窓口	大型の商業施設	デイサービスなどの福祉・介護施設	スポーツ施設	公民館や集会施設	図書館（図書室）	幼稚園・保育所などの子育て関連施設	その他	無回答
全 体		1,451	68.2	58.6	45.3	42.4	42.1	29.6	22.3	15.1	13.9	13.2	12.2	9.4	6.1	4.2
居住地区別	厚 木 北	165	67.3	58.8	46.1	41.8	40.6	39.4	27.3	9.1	17.6	3.6	8.5	13.3	7.3	3.6
	厚 木 南	84	63.1	60.7	51.2	29.8	44.0	42.9	17.9	19.0	16.7	10.7	17.9	6.0	8.3	4.8
	依 知 北	105	68.6	57.1	37.1	32.4	41.0	28.6	27.6	19.0	18.1	13.3	10.5	8.6	6.7	3.8
	依 知 南	75	86.7	62.7	34.7	40.0	45.3	22.7	32.0	14.7	12.0	8.0	10.7	12.0	4.0	2.7
	睦 合 北	66	65.2	54.5	42.4	50.0	39.4	22.7	24.2	10.6	19.7	22.7	21.2	10.6	0.0	6.1
	睦 合 南	133	70.7	60.2	49.6	46.6	42.1	28.6	21.1	18.8	12.0	15.8	8.3	9.0	5.3	2.3
	睦 合 西	60	70.0	63.3	41.7	48.3	36.7	30.0	21.7	15.0	11.7	16.7	10.0	15.0	6.7	5.0
	荻 野	166	66.9	59.6	50.0	37.3	40.4	30.1	20.5	16.9	13.9	13.9	13.9	9.6	7.2	3.0
	小 鮎	94	70.2	57.4	48.9	52.1	44.7	29.8	16.0	13.8	8.5	14.9	6.4	7.4	6.4	3.2
	南 毛 利	244	70.5	57.0	45.5	46.3	40.2	26.2	20.9	13.5	10.2	11.1	13.5	7.8	3.7	4.5
	南毛利南	76	71.1	53.9	42.1	40.8	52.6	23.7	26.3	19.7	13.2	15.8	23.7	13.2	6.6	3.9
	玉 川	24	75.0	62.5	37.5	50.0	29.2	16.7	8.3	25.0	8.3	29.2	0.0	12.5	4.2	8.3
	相 川	83	63.9	62.7	38.6	43.4	47.0	28.9	28.9	12.0	15.7	15.7	9.6	9.6	10.8	3.6
	緑 ケ 丘	22	50.0	59.1	54.5	31.8	59.1	22.7	13.6	22.7	18.2	4.5	13.6	0.0	4.5	4.5
	森 の 里	50	48.0	56.0	54.0	46.0	40.0	34.0	10.0	10.0	18.0	24.0	14.0	2.0	10.0	10.0

(4) 本厚木駅周辺のイメージ (B: 問18)

問. 現在の本厚木駅周辺(中心市街地)のイメージについて、どのように感じますか。

(①～⑩について、それぞれ1つだけ選んでください)

図10-4-1 本厚木駅周辺のイメージ



【全体】

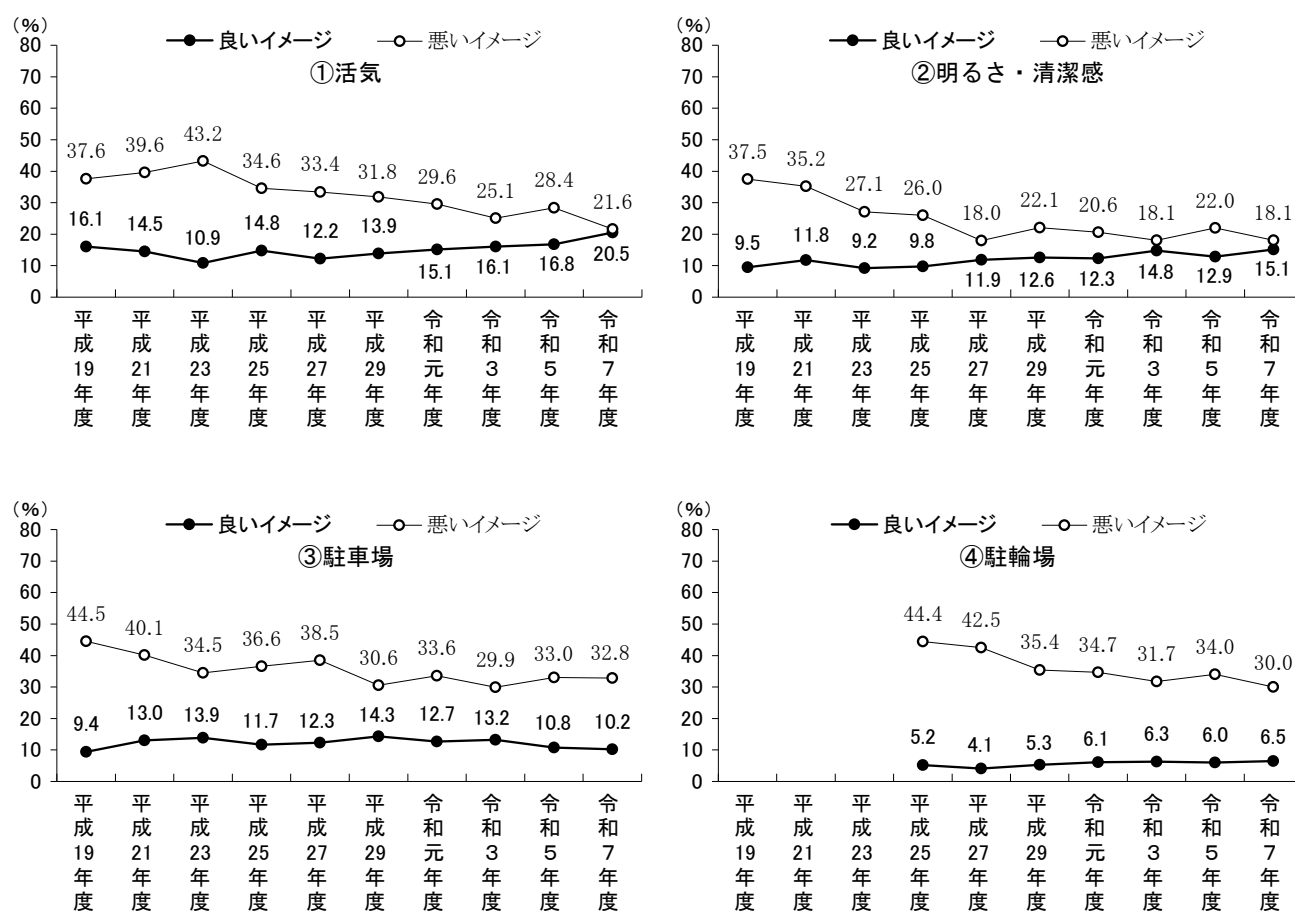
本厚木駅周辺のイメージについて10項目に分けて聞いたところ、良いイメージが最も高いのは「⑥マンション(住宅)」(41.8%)で4割を超えており、次いで「⑤商店(飲食店等)」(26.0%)、「①活気」(20.5%)となっている。一方、悪いイメージが最も高いのは「⑦緑」(48.8%)で5割近くとなっており、次いで「⑩交通混雑の状況」(46.9%)、「③駐車場」(32.8%)、「⑨治安」(31.7%)、「④駐輪場」(30.0%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、良いイメージは、「⑤商店（飲食店等）」（26.0％）が令和5年度調査（21.2％）より4.8ポイント、「①活気」（20.5％）が令和5年度調査（16.8％）より3.7ポイント、「⑥マンション（住宅）」（41.8％）が令和5年度調査（38.1％）より3.7ポイント増加している。

悪いイメージは、「⑩交通混雑の状況」（46.9％）が令和5年度調査（42.2％）より4.7ポイント、「⑨治安」（31.7％）が令和5年度調査（28.1％）より3.6ポイント増加している。一方、「①活気」（21.6％）が令和5年度調査（28.4％）より6.8ポイント、「④駐輪場」（30.0％）が令和5年度調査（34.0％）より4.0ポイント減少している。

図10-4-2 本厚木駅周辺のイメージ経年変化

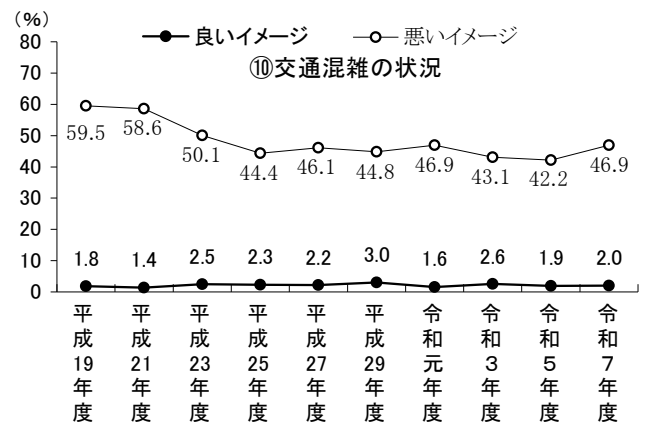
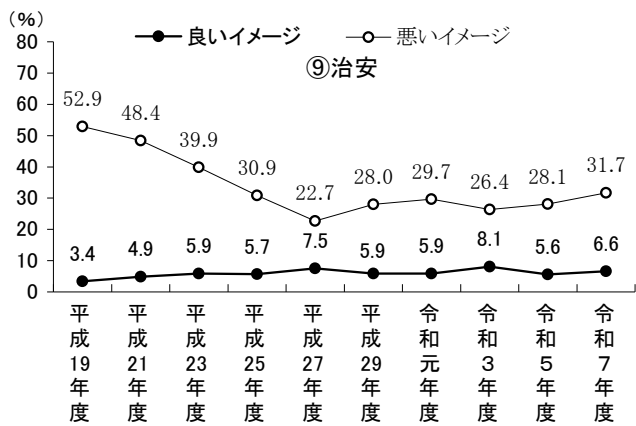
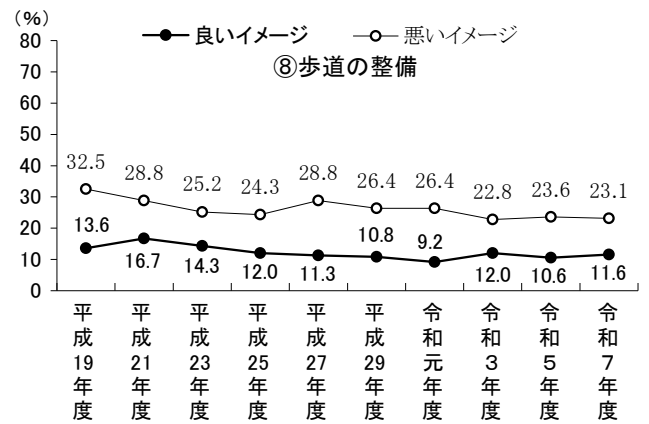
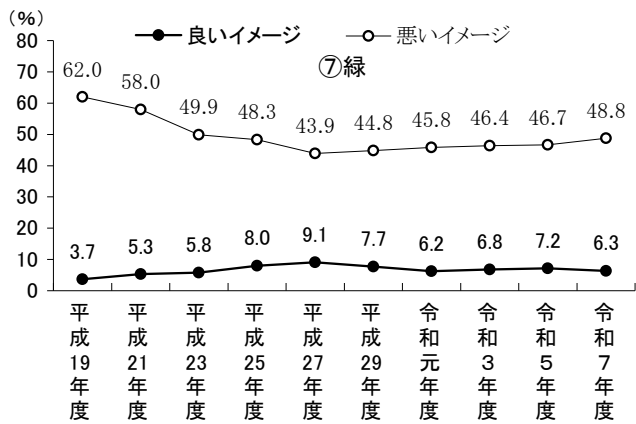
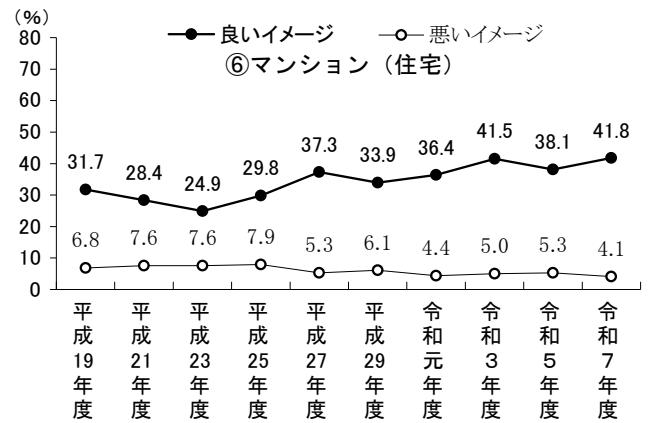
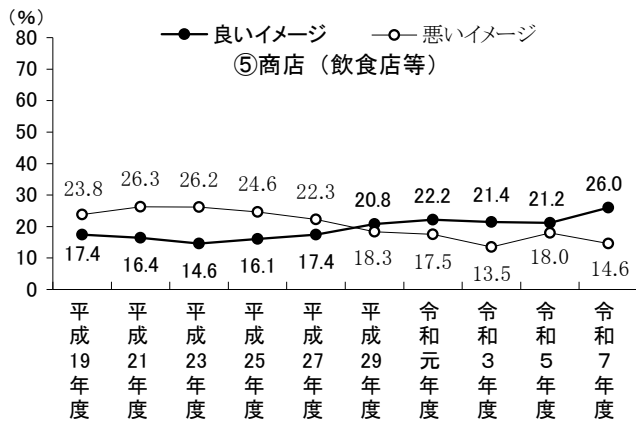


（注1）平成25年度調査以降では、「④駐輪場」の項目を追加している。

（注2）「⑩交通混雑の状況」は、令和元年度調査以前は「⑩交通渋滞の状況」としていた。

令和7年度（n=1,451）
 令和5年度（n=1,413）
 令和3年度（n=1,672）
 令和元年度（n=1,538）
 平成29年度（n=1,550）
 平成27年度（n=1,471）
 平成25年度（n=1,270）
 平成23年度（n=814）
 平成21年度（n=1,610）
 平成19年度（n=1,506）

図10-4-2 本厚木駅周辺のイメージ経年変化

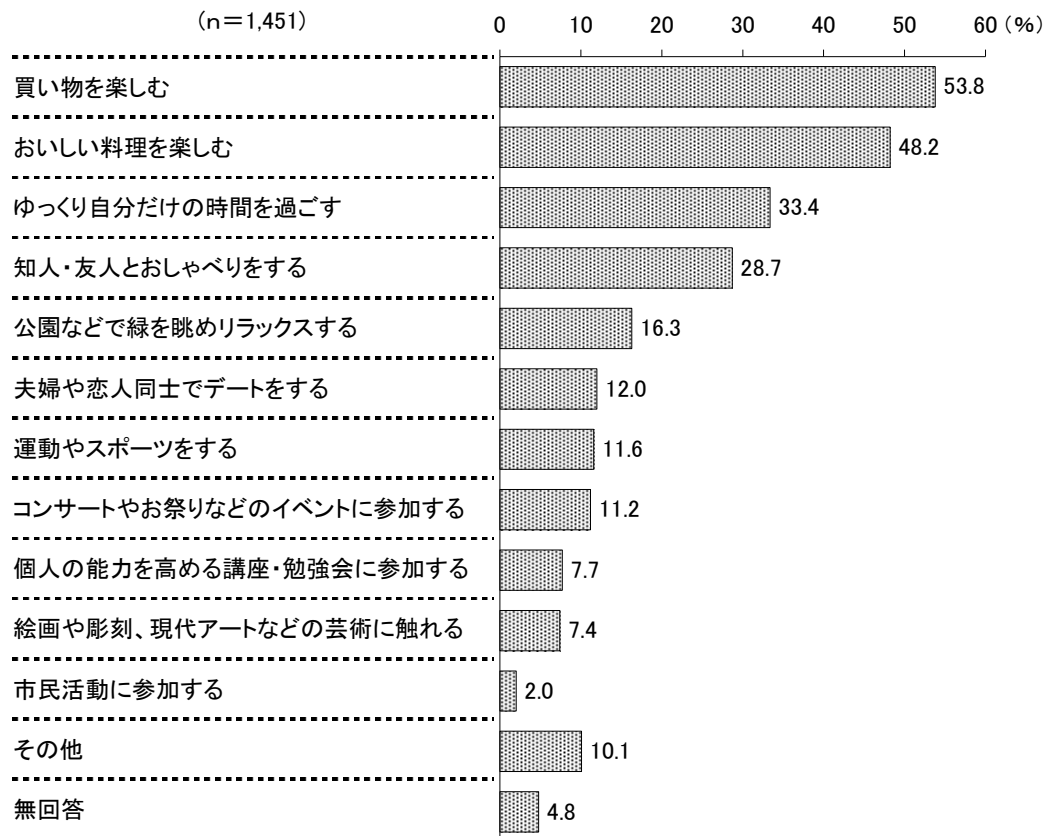


(5) 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと (B：問19)

問. 本厚木駅周辺で、仕事・学校帰りや休みの日にどのようなことをしたいですか。

(3つまで選んでください)

図10-5-1 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと



【全体】

仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいことについて聞いたところ、「買い物を楽しむ」(53.8%)が5割半ば近くで最も高く、次いで「おいしい料理を楽しむ」(48.2%)、「ゆっくり自分だけの時間を過ごす」(33.4%)、「知人・友人とおしゃべりをする」(28.7%)、「公園などで緑を眺めリラックスする」(16.3%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

表10－5－1 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと一経年変化

(%)

調査年	n	買い物を楽しむ	おいしい料理を楽しむ	ゆっくり自分だけの時間を過ごす	知人・友人とおしゃべりをする	公園などで緑を眺めリラックスする	夫婦や恋人同士でデートをする	運動やスポーツをする	コンサートやお祭りなどのイベントに参加する	個人の能力を高める講座・勉強会に参加する	絵画や彫刻、現代アートなどの芸術に触れる	市民活動に参加する	その他	無回答
令和7年度	1,451	53.8	48.2	33.4	28.7	16.3	12.0	11.6	11.2	7.7	7.4	2.0	10.1	4.8
令和5年度	1,413	52.5	47.6	33.5	29.7	17.6	11.3	10.3	10.6	6.5	9.3	1.3	10.3	4.7
令和3年度	1,672	54.7	42.9	31.1	31.6	17.3	11.1	11.5	10.0	7.0	9.2	2.1	9.6	5.5
令和元年度	1,538	54.6	43.3	34.5	27.5	18.2	10.6	16.3	11.1	9.3	10.5	2.3	9.5	6.8
平成29年度	1,550	－	47.7	35.3	35.3	26.3	11.8	18.0	17.7	13.3	12.8	3.1	12.4	7.7

(注1) 令和元年度調査から「買い物を楽しむ」の選択肢を追加している。

(注2) 「ゆっくり自分だけの時間を過ごす」は、平成29年度調査では「一人でゆっくり自分だけの時間を過ごす」としていた。

(注3) 「市民活動に参加する」は、平成29年度調査では「ボランティア活動をする」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「知人・友人とおしゃべりをする」(40.6%)が男性(15.4%)より25.2ポイント、「買い物を楽しむ」(59.8%)が男性(47.4%)より12.4ポイント高くなっている。一方、男性では「運動やスポーツをする」(14.7%)が女性(8.9%)より5.8ポイント、「ゆっくり自分だけの時間を過ごす」(36.0%)が女性(31.1%)より4.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「買い物を楽しむ」は20～29歳(59.0%)で約6割と高くなっている。「おいしい料理を楽しむ」は40～49歳(65.6%)で6割半ばと高くなっている。「ゆっくり自分だけの時間を過ごす」は30～39歳(44.4%)で4割半ばと高くなっている。

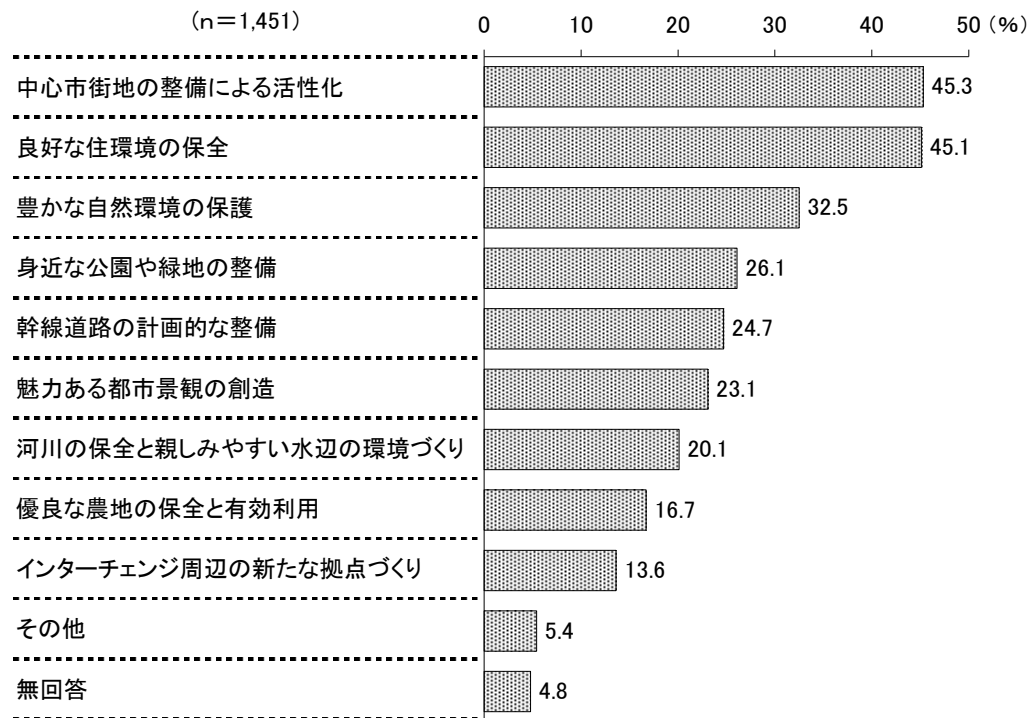
表10-5-2 仕事・学校帰りや休みの日に本厚木駅周辺でしたいこと一性別、年齢別

(%)															
		n	買い物を楽しむ	おいしい料理を楽しむ	ゆっくり自分だけの時間を過ごす	知人・友人とおしゃべりをする	公園などで緑を眺めリラックスする	夫婦や恋人同士でデートをする	運動やスポーツをする	コンサートやお祭りなどのイベントに参加する	個人の能力を高める講座・勉強会に参加する	絵画や彫刻、現代アートなどの芸術に触れる	市民活動に参加する	その他	無回答
全 体		1,451	53.8	48.2	33.4	28.7	16.3	12.0	11.6	11.2	7.7	7.4	2.0	10.1	4.8
性別	男 性	662	47.4	47.1	36.0	15.4	18.1	13.3	14.7	11.5	6.5	6.6	2.1	13.0	5.9
	女 性	762	59.8	49.9	31.1	40.6	15.0	10.9	8.9	10.9	8.7	7.9	1.7	7.1	3.5
年 齢 別	20 歳 未 満	18	27.8	44.4	38.9	55.6	16.7	16.7	16.7	22.2	0.0	5.6	0.0	5.6	0.0
	20 ～ 29 歳	117	59.0	46.2	41.9	36.8	12.0	23.1	16.2	12.8	3.4	3.4	0.9	5.1	0.0
	30 ～ 39 歳	142	53.5	47.9	44.4	25.4	12.7	19.7	14.8	13.4	8.5	5.6	1.4	9.2	0.0
	40 ～ 49 歳	189	58.2	65.6	34.9	29.6	10.6	18.5	13.2	11.1	7.4	3.7	1.1	7.9	0.5
	50 ～ 59 歳	278	55.0	52.2	30.9	23.4	13.3	12.6	11.5	9.0	7.2	5.8	1.4	11.9	3.2
	60 ～ 69 歳	235	55.7	51.5	31.9	27.2	14.5	11.5	13.6	13.2	5.5	8.5	2.1	10.6	3.0
	70 ～ 79 歳	284	54.6	38.4	30.3	31.0	25.7	4.2	8.8	10.6	9.5	9.9	1.8	10.9	7.0
	80 歳 以上	186	43.5	38.2	28.0	28.5	19.9	3.8	6.5	9.7	11.8	12.4	4.8	11.8	17.2

(6) 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組（B：問20）

問. 厚木市の将来的なまちづくりについて、優先的にどのような取組が必要であると思いますか。（3つまで選んでください）

図10-6-1 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組



【全体】

将来的なまちづくりで優先的に必要な取組について聞いたところ、「中心市街地の整備による活性化」（45.3%）と「良好な住環境の保全」（45.1%）がともに4割半ばで高く、次いで「豊かな自然環境の保護」（32.5%）、「身近な公園や緑地の整備」（26.1%）、「幹線道路の計画的な整備」（24.7%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「豊かな自然環境の保護」（32.5％）は令和5年度調査（27.9％）より4.6ポイント、「優良な農地の保全と有効利用」（16.7％）は令和5年度調査（12.2％）より4.5ポイント増加している。一方、「中心市街地の整備による活性化」（45.3％）は令和5年度調査（51.0％）より5.7ポイント減少している。

表10－6－1 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組－経年変化

調 査 年	n	中心市街地の整備による活性化	良好な住環境の保全	豊かな自然環境の保護	身近な公園や緑地の整備	幹線道路の計画的な整備	魅力ある都市景観の創造	河川の保全と親しみやすい水辺環境づくり	優良な農地の保全と有効利用	インターネット・チェンジ周辺の新たな拠点づくり	その他	(%)
												無回答
令和7年度	1,451	45.3	45.1	32.5	26.1	24.7	23.1	20.1	16.7	13.6	5.4	4.8
令和5年度	1,413	51.0	42.1	27.9	27.7	20.9	26.6	21.6	12.2	13.4	4.7	5.0
令和3年度	1,672	45.5	44.3	32.7	28.6	21.5	24.3	23.9	11.8	14.4	4.1	4.5
令和元年度	1,538	54.0	42.7	27.8	28.0	23.9	26.5	20.8	10.6	16.7	4.3	5.0
平成29年度	1,550	53.7	40.1	28.5	24.7	26.5	28.0	19.3	10.3	17.5	5.4	4.6

【属性別】

性別で見ると、男性では「幹線道路の計画的な整備」(30.2%)が女性(20.3%)より9.9ポイント、「河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり」(24.8%)が女性(16.0%)より8.8ポイント高くなっている。一方、女性では「中心市街地の整備による活性化」(49.1%)が男性(41.4%)より7.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「中心市街地の整備による活性化」は50～59歳(51.1%)で5割を超えて高くなっている。「良好な住環境の保全」は20～29歳(53.0%)で5割半ば近くと高くなっている。「豊かな自然環境の保護」は80歳以上(39.2%)で約4割と高くなっている。

表10-6-2 将来的なまちづくりで優先的に必要な取組一性別、年齢別

(%)													
		n	中心市街地の整備による活性化	良好な住環境の保全	豊かな自然環境の保護	身近な公園や緑地の整備	幹線道路の計画的な整備	魅力ある都市景観の創造	河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり	優良な農地の保全と有効利用	インターネット・エンジン周辺の新たな拠点づくり	その他	無回答
全 体		1,451	45.3	45.1	32.5	26.1	24.7	23.1	20.1	16.7	13.6	5.4	4.8
性別	男 性	662	41.4	42.4	33.7	23.7	30.2	22.8	24.8	13.7	16.6	4.8	4.4
	女 性	762	49.1	47.6	31.4	27.6	20.3	23.9	16.0	18.9	11.2	5.5	5.1
年齢別	20 歳 未 満	18	55.6	55.6	27.8	27.8	16.7	38.9	11.1	5.6	11.1	5.6	0.0
	20 ～ 29 歳	117	42.7	53.0	36.8	26.5	24.8	27.4	14.5	17.9	10.3	5.1	0.9
	30 ～ 39 歳	142	42.3	49.3	30.3	23.9	28.9	21.8	19.0	19.7	16.2	8.5	0.0
	40 ～ 49 歳	189	47.1	50.3	27.5	24.3	24.3	24.9	20.1	17.5	22.2	7.4	0.0
	50 ～ 59 歳	278	51.1	44.2	29.5	20.9	24.1	19.1	20.1	14.7	17.3	7.2	4.7
	60 ～ 69 歳	235	48.9	43.0	28.9	28.1	27.7	27.2	19.1	17.4	15.3	3.0	2.1
	70 ～ 79 歳	284	43.7	43.7	37.0	29.6	21.8	22.9	25.7	16.5	9.2	3.2	7.7
	80 歳 以 上	186	35.5	37.1	39.2	28.5	24.7	19.4	17.7	16.1	4.8	4.8	15.1

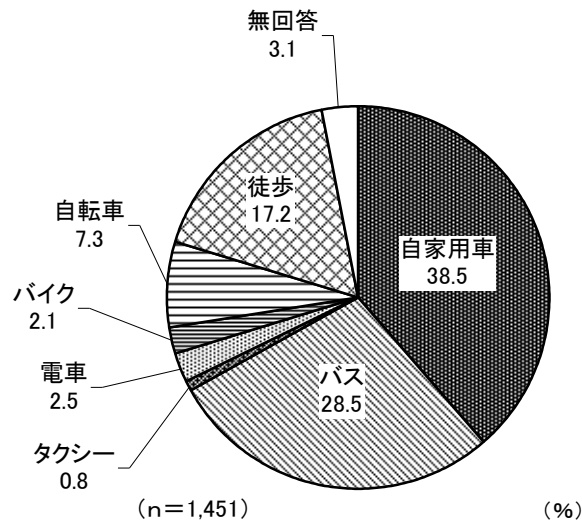
11 交通・道路

(1) 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段（B：問21）

問. 本厚木駅周辺を訪れるとき、自宅からはどのような交通手段を利用されますか。

（1つだけ選んでください）

図11－1－1 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段



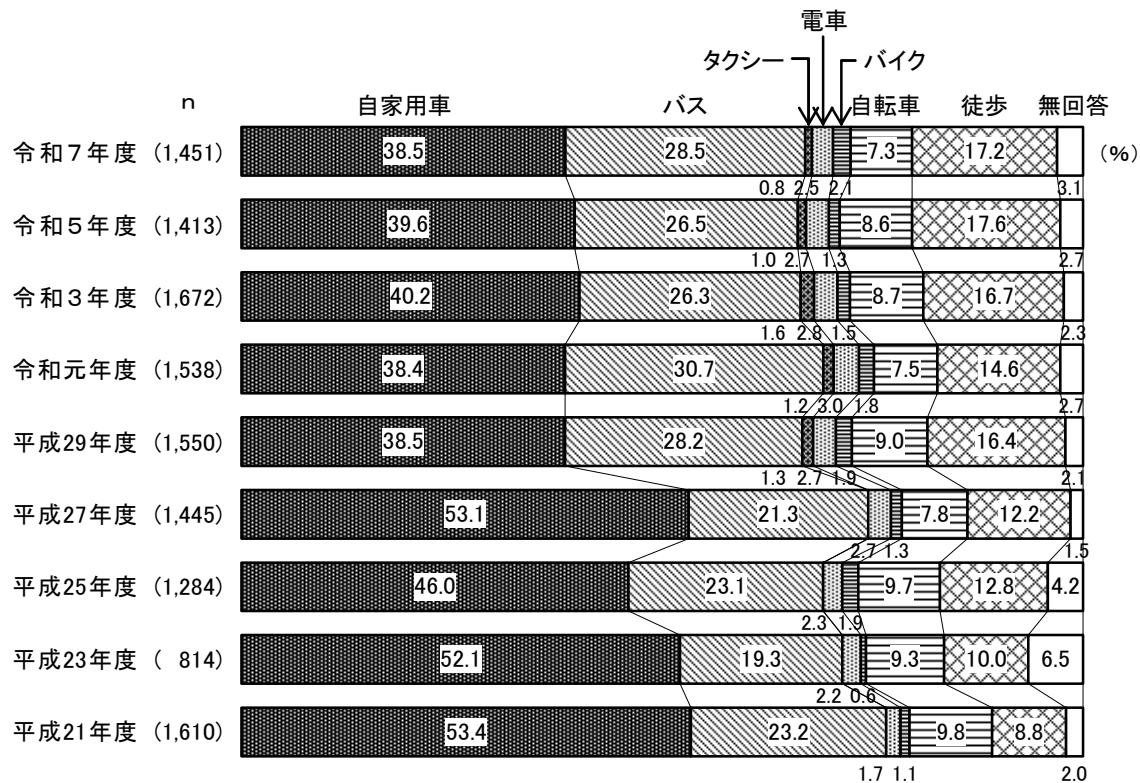
【全体】

本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段について聞いたところ、「自家用車」（38.5%）が4割近くで最も高く、次いで「バス」（28.5%）、「徒歩」（17.2%）、「自転車」（7.3%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図11－1－2 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段－経年変化



(注1) 平成29年度調査以降では、「タクシー」の選択肢を追加している。

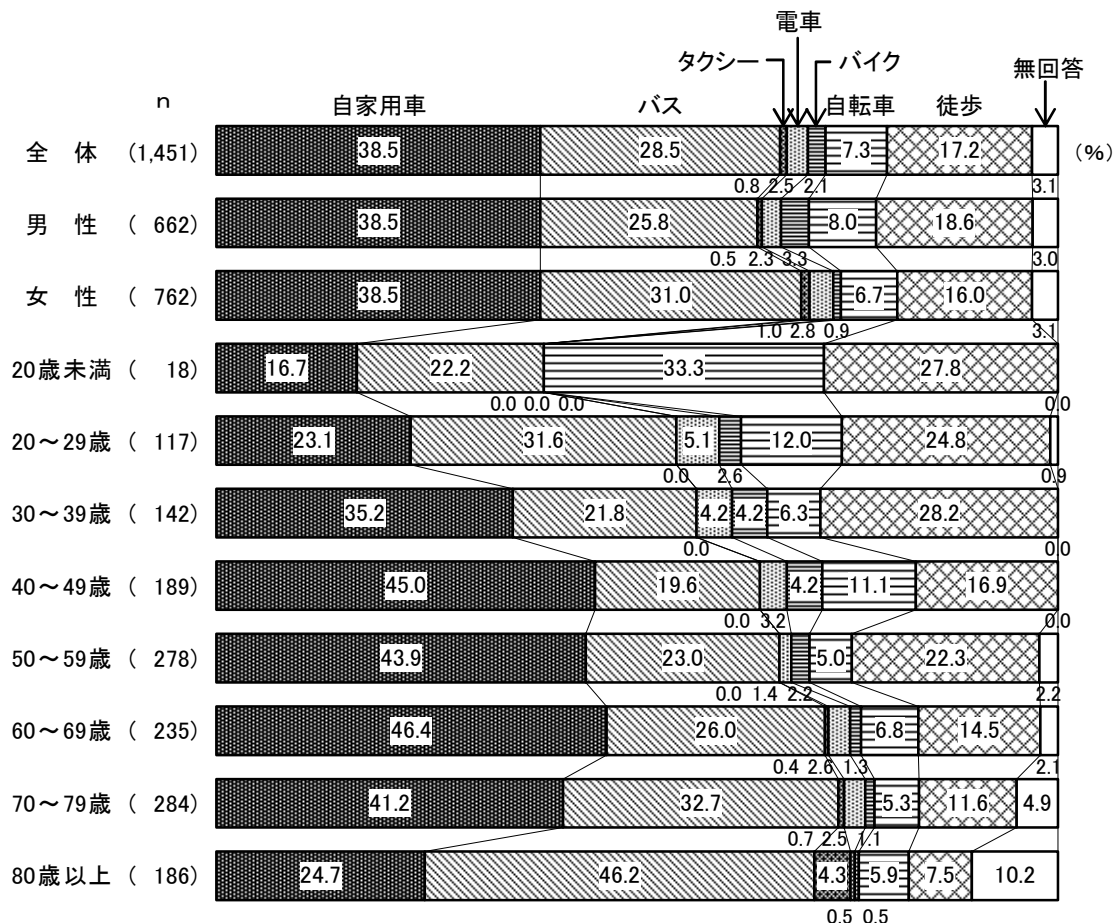
(注2) 平成27年度調査以前では、「本厚木周辺で買物をするとき、自宅からの主な交通手段は何ですか。」
(1つだけ選んでください)と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「バス」(31.0%)が男性(25.8%)より5.2ポイント高くなっている。

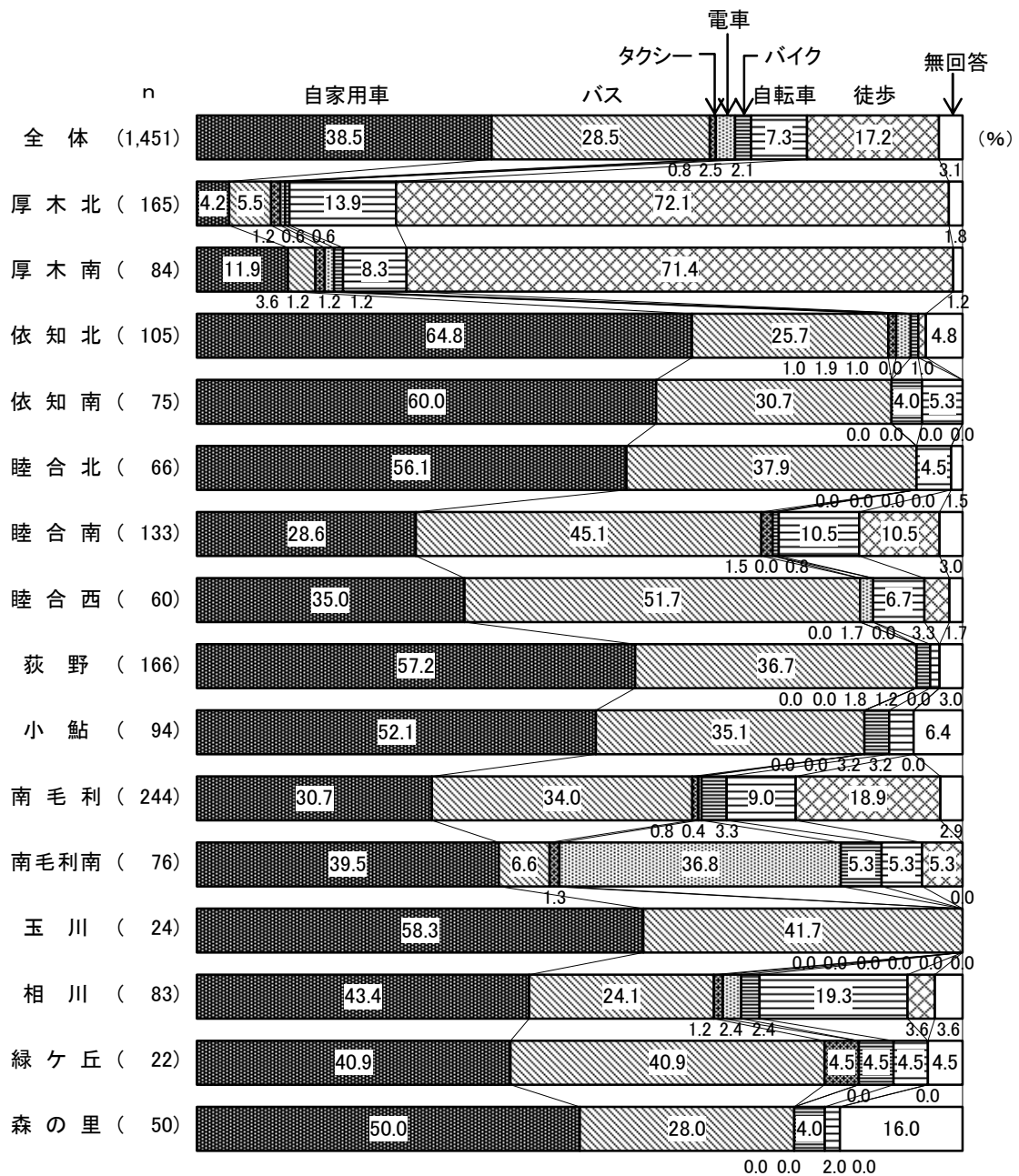
年齢別で見ると、「自家用車」は60～69歳(46.4%)で4割半ばを超えて高くなっている。「バス」は80歳以上(46.2%)で4割半ばを超えて高くなっている。「徒歩」は30～39歳(28.2%)で3割近くと高くなっている。

図11-1-3 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段—性別、年齢別



〔居住地区別の結果〕

図11-1-4 本厚木駅周辺を訪れるときの交通手段－居住地区別

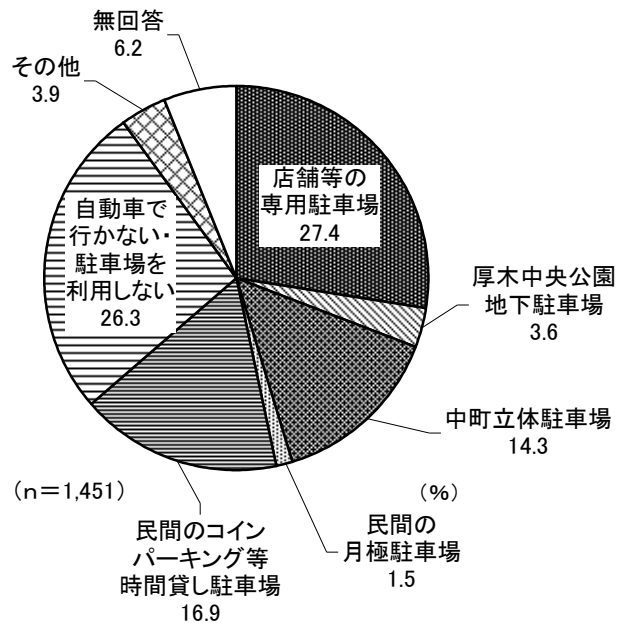


(2) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場（B：問22）

問. 本厚木駅周辺を訪れるとき、主にどちらの駐車場を利用されますか。

（1つだけ選んでください）

図11-2-1 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場



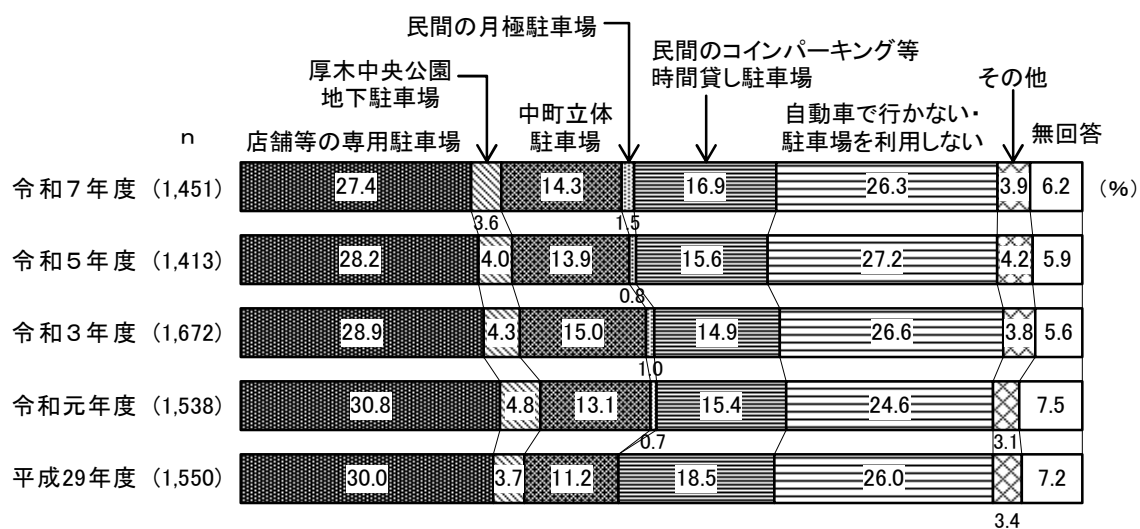
【全体】

本厚木駅周辺で主に利用する駐車場について聞いたところ、「店舗等の専用駐車場」（27.4%）が2割半ばを超えて最も高く、次いで「民間のコインパーキング等時間貸し駐車場」（16.9%）、「中町立体駐車場」（14.3%）、「厚木中央公園地下駐車場」（3.6%）となっている。また、「自動車で行かない・駐車場を利用しない」（26.3%）は2割半ばを超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図11-2-2 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場—経年変化



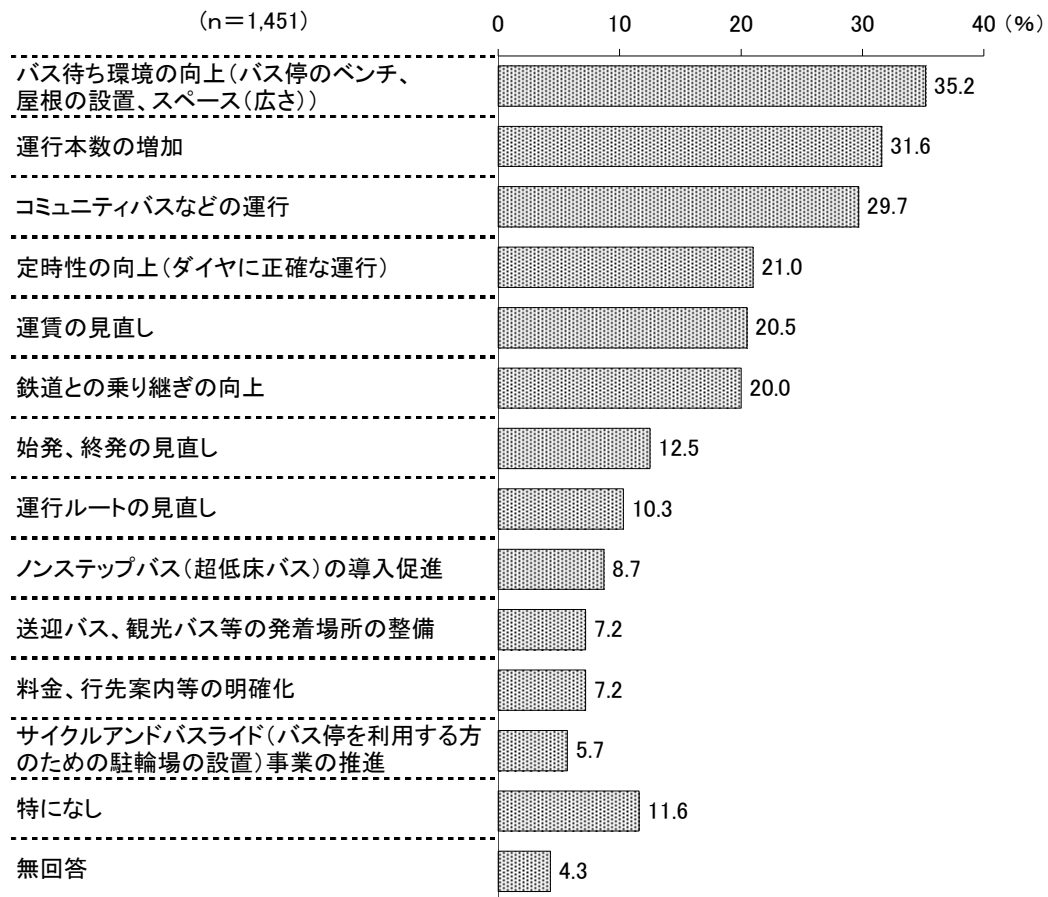
(注)「民間の月極駐車場」と「民間のコインパーキング等時間貸し駐車場」の2つの選択肢は、平成29年度調査では1つの選択肢「本厚木駅周辺の民間駐車場」としていた。

(3) 市内のバス交通への取組（B：問23）

問. 厚木市内のバス交通について、どのような取組が必要であると思いますか。

（3つまで選んでください）

図11-3-1 市内のバス交通への取組



【全体】

市内のバス交通への取組について聞いたところ、「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))」(35.2%)が3割半ばで最も高く、次いで「運行本数の増加」(31.6%)、「コミュニティバスなどの運行」(29.7%)、「定時性の向上(ダイヤに正確な運行)」(21.0%)、「運賃の見直し」(20.5%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

表11-3-1 市内のバス交通への取組—経年変化

(%)

調 査 年	n	バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置、スペース（広さ））	運行本数の増加	コミュニティバスなどの運行	定時性の向上（ダイヤに正確な運行）	運賃の見直し	鉄道との乗り継ぎの向上	始発、終発の見直し	運行ルートの見直し	ノンステップバス（超低床バス）の導入促進	送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	料金、行先案内等の明確化	サイクルアンドバスライド（バス停を利用する方のための駐輪場の設置）事業の推進	特になし	無回答
令和7年度	1,451	35.2	31.6	29.7	21.0	20.5	20.0	12.5	10.3	8.7	7.2	7.2	5.7	11.6	4.3
令和5年度	1,413	34.0	29.4	29.4	22.5	19.4	20.2	11.2	11.9	11.0	7.1	8.5	6.4	11.1	4.2
令和3年度	1,672	43.8	28.6	28.8	16.4	18.1	11.9	7.9	11.1	13.4	7.1	8.6	6.6	12.6	3.6
令和元年度	1,538	44.0	35.2	31.8	19.6	19.9	11.6	11.8	12.9	13.3	10.1	9.1	8.8	8.3	3.8
平成29年度	1,550	41.6	29.6	28.4	19.2	19.4	11.0	14.8	12.6	12.5	13.8	9.4	10.5	8.9	3.5
平成27年度	1,445	36.2	35.7	30.5	21.4	17.2	12.9	12.2	12.2	16.5	12.1	8.2	6.5	8.2	3.3

（注）「バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置、スペース（広さ））」の選択肢は、平成29年度調査では「バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置）」としていた。

【属性別】

性別で見ると、女性では「コミュニティバスなどの運行」(35.2%)が男性(23.3%)より11.9ポイント、「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))」(39.0%)が男性(31.0%)より8.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「バス待ち環境の向上(バス停のベンチ、屋根の設置、スペース(広さ))」は80歳以上(44.1%)で4割半ばと高くなっている。「運行本数の増加」は60～69歳(36.2%)で3割半ばを超えて高くなっている。「コミュニティバスなどの運行」は70～79歳(39.8%)で約4割と高くなっている。

表11-3-2 市内のバス交通への取組—性別、年齢別

(%)																
																無回答
		n	バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置、スペース（広さ））	運行本数の増加	コミュニティバスなどの運行	定時性の向上（ダイヤに正確な運行）	運賃の見直し	鉄道との乗り継ぎの向上	始発、終発の見直し	運行ルートの見直し	ノンステップバス（超低床バス）の導入促進	備送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	料金、行先案内等の明確化	利用する方のための駐輪場の設置（バス停を業の推進）	特になし	
全 体		1,451	35.2	31.6	29.7	21.0	20.5	20.0	12.5	10.3	8.7	7.2	7.2	5.7	11.6	4.3
性別	男 性	662	31.0	30.5	23.3	18.9	19.9	19.9	13.4	10.6	6.9	6.6	8.5	5.7	16.0	4.2
	女 性	762	39.0	32.8	35.2	22.8	20.7	19.4	11.8	10.5	10.4	7.7	6.2	5.6	8.1	4.1
年 齢 別	20 歳 未 満	18	38.9	50.0	11.1	33.3	50.0	22.2	5.6	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0	5.6	0.0
	20 ～ 29 歳	117	28.2	31.6	12.0	34.2	24.8	23.9	16.2	7.7	6.0	4.3	9.4	6.0	16.2	1.7
	30 ～ 39 歳	142	35.2	34.5	16.9	21.1	16.9	25.4	9.9	7.7	6.3	5.6	9.2	4.9	16.2	1.4
	40 ～ 49 歳	189	37.0	29.1	21.2	23.3	20.1	26.5	15.9	16.4	4.8	4.8	9.5	6.9	13.2	0.0
	50 ～ 59 歳	278	32.0	30.9	28.1	23.4	20.1	24.5	15.5	11.5	5.4	4.7	7.6	6.1	14.4	2.5
	60 ～ 69 歳	235	27.7	36.2	38.3	20.0	20.9	17.9	17.4	11.1	7.7	8.9	5.5	6.8	9.4	2.6
	70 ～ 79 歳	284	40.1	26.8	39.8	15.8	19.4	13.0	7.7	8.8	12.3	12.0	7.4	6.3	10.2	7.7
	80 歳 以 上	186	44.1	32.3	37.1	14.5	19.9	13.4	5.9	8.6	17.7	7.5	3.2	2.2	4.8	12.9

〔居住地区別の結果〕

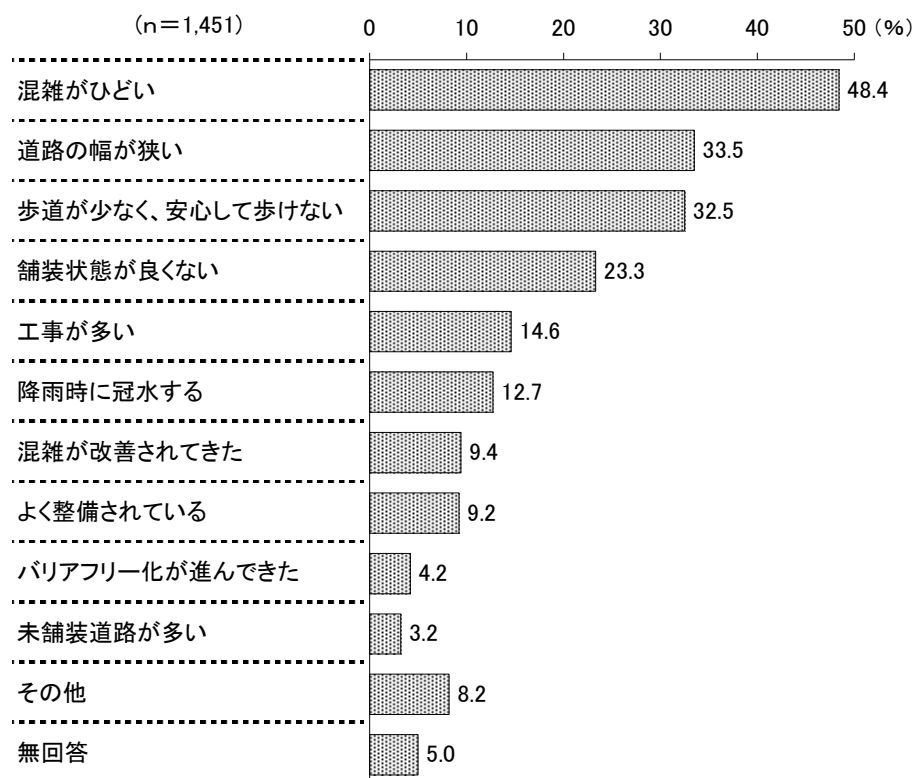
表11－3－3 市内のバス交通への取組－居住地区別

(%)																
		n	バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置、スペース（広さ））	運行本数の増加	コミュニティバスなどの運行	定時性の向上（ダイヤに正確な運行）	運賃の見直し	鉄道との乗り継ぎの向上	始発、終発の見直し	運行ルートの見直し	ノンステップバス（超低床バス）の導入促進	送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	料金、行先案内等の明確化	サイクルアンドバスライド（バス停を利用する方のための駐輪場の設置）事業の推進	特になし	無回答
全 体		1,451	35.2	31.6	29.7	21.0	20.5	20.0	12.5	10.3	8.7	7.2	7.2	5.7	11.6	4.3
居 住 地 区 別	厚 木 北	165	33.3	20.0	21.8	19.4	12.1	20.0	4.8	6.7	9.7	10.9	7.9	6.1	24.8	2.4
	厚 木 南	84	33.3	17.9	29.8	10.7	11.9	21.4	10.7	9.5	2.4	13.1	10.7	7.1	23.8	6.0
	依 知 北	105	29.5	40.0	33.3	18.1	21.0	20.0	18.1	15.2	6.7	3.8	5.7	6.7	7.6	7.6
	依 知 南	75	37.3	22.7	46.7	41.3	21.3	6.7	14.7	10.7	4.0	2.7	9.3	5.3	8.0	1.3
	睦 合 北	66	36.4	39.4	24.2	24.2	22.7	24.2	18.2	16.7	1.5	0.0	9.1	3.0	13.6	1.5
	睦 合 南	133	43.6	26.3	23.3	26.3	21.8	21.8	13.5	3.8	18.0	4.5	7.5	9.0	5.3	4.5
	睦 合 西	60	38.3	30.0	31.7	31.7	16.7	21.7	13.3	6.7	13.3	8.3	5.0	6.7	5.0	5.0
	荻 野	166	46.4	28.3	26.5	21.7	36.7	19.9	9.0	12.7	6.6	4.8	7.2	7.8	4.2	3.6
	小 鮎	94	30.9	45.7	39.4	16.0	22.3	17.0	21.3	9.6	8.5	11.7	7.4	2.1	3.2	6.4
	南 毛 利	244	32.0	36.9	30.7	20.9	18.9	17.6	13.9	9.0	11.5	6.1	7.4	5.3	11.5	2.9
	南毛利南	76	26.3	28.9	34.2	13.2	10.5	27.6	10.5	13.2	6.6	9.2	5.3	1.3	25.0	1.3
	玉 川	24	33.3	58.3	16.7	16.7	16.7	29.2	12.5	12.5	4.2	0.0	4.2	0.0	8.3	4.2
	相 川	83	43.4	22.9	28.9	20.5	21.7	20.5	6.0	16.9	8.4	13.3	6.0	8.4	10.8	3.6
	緑 ケ 丘	22	22.7	40.9	40.9	27.3	13.6	18.2	13.6	0.0	4.5	13.6	4.5	0.0	13.6	9.1
	森 の 里	50	20.0	54.0	28.0	8.0	28.0	26.0	16.0	16.0	8.0	8.0	4.0	2.0	6.0	16.0

（４）市内の道路の現状（Ｂ：問24）

問．厚木市の道路の現状について、どのように感じますか。（いくつでも選んでください）

図11－4－1 市内の道路の現状



【全体】

市内の道路の現状について聞いたところ、「混雑がひどい」（48.4％）が５割近くで最も高く、次いで「道路の幅が狭い」（33.5％）、「歩道が少なく、安心して歩けない」（32.5％）、「舗装状態が良くない」（23.3％）、「工事が多い」（14.6％）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「道路の幅が狭い」（33.5％）は令和5年度調査（36.6％）より3.1ポイント減少している。

表11－4－1 市内の道路の現状－経年変化

													(%)
調 査 年	n	混雑がひどい	道路の幅が狭い	歩道が少なく、安心して歩けない	舗装状態が良くない	工事が多い	降雨時に冠水する	混雑が改善されてきた	よく整備されている	バリアフリー化が進んできた	未舗装道路が多い	その他	無回答
令和7年度	1,451	48.4	33.5	32.5	23.3	14.6	12.7	9.4	9.2	4.2	3.2	8.2	5.0
令和5年度	1,413	47.5	36.6	32.8	23.1	14.0	11.5	10.0	8.3	3.8	5.5	6.4	5.9
令和3年度	1,672	47.4	37.3	33.8	23.0	14.5	15.8	11.5	7.4	3.6	4.2	8.2	4.4
令和元年度	1,538	48.4	40.8	40.8	26.9	18.9	17.2	12.2	6.5	5.3	4.4	6.4	4.2
平成29年度	1,550	45.2	41.0	40.8	26.4	18.0	18.3	14.4	5.9	5.1	5.0	6.1	3.9
平成27年度	1,445	45.1	35.7	39.3	21.6	19.4	17.0	12.9	4.8	6.7	2.8	7.2	4.4
平成25年度	1,284	43.0	33.2	31.6	17.5	19.9	14.5	17.6	6.5	10.0	3.7	6.5	6.9
平成23年度	814	44.7	32.9	32.6	17.8	28.5	16.2	18.6	4.9	16.2	2.6	6.0	5.3
平成21年度	1,610	51.1	31.3	35.2	18.6	29.0	18.4	14.7	5.3	15.9	3.7	5.0	5.3
平成19年度	1,506	52.7	33.9	31.5	17.9	32.0	19.7	12.9	4.3	17.3	3.7	4.4	5.8

（注1）「道路の幅が狭い」は、平成27年度調査以前では「道路幅員が狭い」としていた。

（注2）「降雨時に冠水する」は、平成25年度調査以前では「側溝が整備されていないため、降雨時に冠水する」としていた。

（注3）「混雑がひどい」は、令和元年度調査以前では「渋滞がひどい」としていた。

（注4）「混雑が改善されてきた」は、令和元年度調査以前では「渋滞が改善されてきた」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「混雑がひどい」(52.4%)が女性(44.9%)より7.5ポイント、「よく整備されている」(11.0%)が女性(7.6%)より3.4ポイント高くなっている。一方、女性では「工事が多い」(17.5%)が男性(10.9%)より6.6ポイント、「降雨時に冠水する」(14.2%)が男性(10.4%)より3.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「混雑がひどい」は30～39歳(61.3%)で6割を超えて高くなっている。「道路の幅が狭い」は70～79歳(39.4%)で約4割と高くなっている。「歩道が少なく、安心して歩けない」は80歳以上(42.5%)で4割半ば近くと高くなっている。

表11-4-2 市内の道路の現状－性別、年齢別

(%)														
		n	混雑がひどい	道路の幅が狭い	歩道が少なく、安心して歩けない	舗装状態が良くない	工事が多い	降雨時に冠水する	混雑が改善されてきた	よく整備されている	バリアフリー化が進んできた	未舗装道路が多い	その他	無回答
全 体		1,451	48.4	33.5	32.5	23.3	14.6	12.7	9.4	9.2	4.2	3.2	8.2	5.0
性別	男 性	662	52.4	33.8	31.4	23.1	10.9	10.4	10.1	11.0	3.8	1.5	7.7	4.7
	女 性	762	44.9	32.7	33.6	23.5	17.5	14.2	8.8	7.6	4.7	4.5	8.5	5.2
年 齢 別	20 歳 未 満	18	55.6	38.9	33.3	5.6	16.7	11.1	11.1	11.1	0.0	5.6	11.1	0.0
	20 ～ 29 歳	117	55.6	28.2	20.5	17.9	7.7	14.5	6.8	11.1	4.3	3.4	6.8	0.9
	30 ～ 39 歳	142	61.3	27.5	28.2	23.2	16.9	9.2	3.5	12.7	3.5	4.9	7.7	0.7
	40 ～ 49 歳	189	59.8	35.4	31.7	18.5	11.6	12.7	6.9	11.1	1.6	4.8	10.6	0.0
	50 ～ 59 歳	278	49.6	28.8	29.9	23.7	17.6	15.1	8.3	7.2	2.5	2.9	11.2	2.5
	60 ～ 69 歳	235	50.2	34.5	33.2	29.8	14.0	14.9	11.5	7.7	4.3	1.7	7.7	3.4
	70 ～ 79 歳	284	37.3	39.4	35.9	23.2	17.3	13.0	12.7	9.5	7.0	2.5	6.7	7.7
	80 歳 以 上	186	35.5	35.5	42.5	24.2	12.4	8.1	11.3	7.0	5.9	3.2	5.4	18.3

〔居住地区別の結果〕

表11－4－3 市内の道路の現状－居住地区別

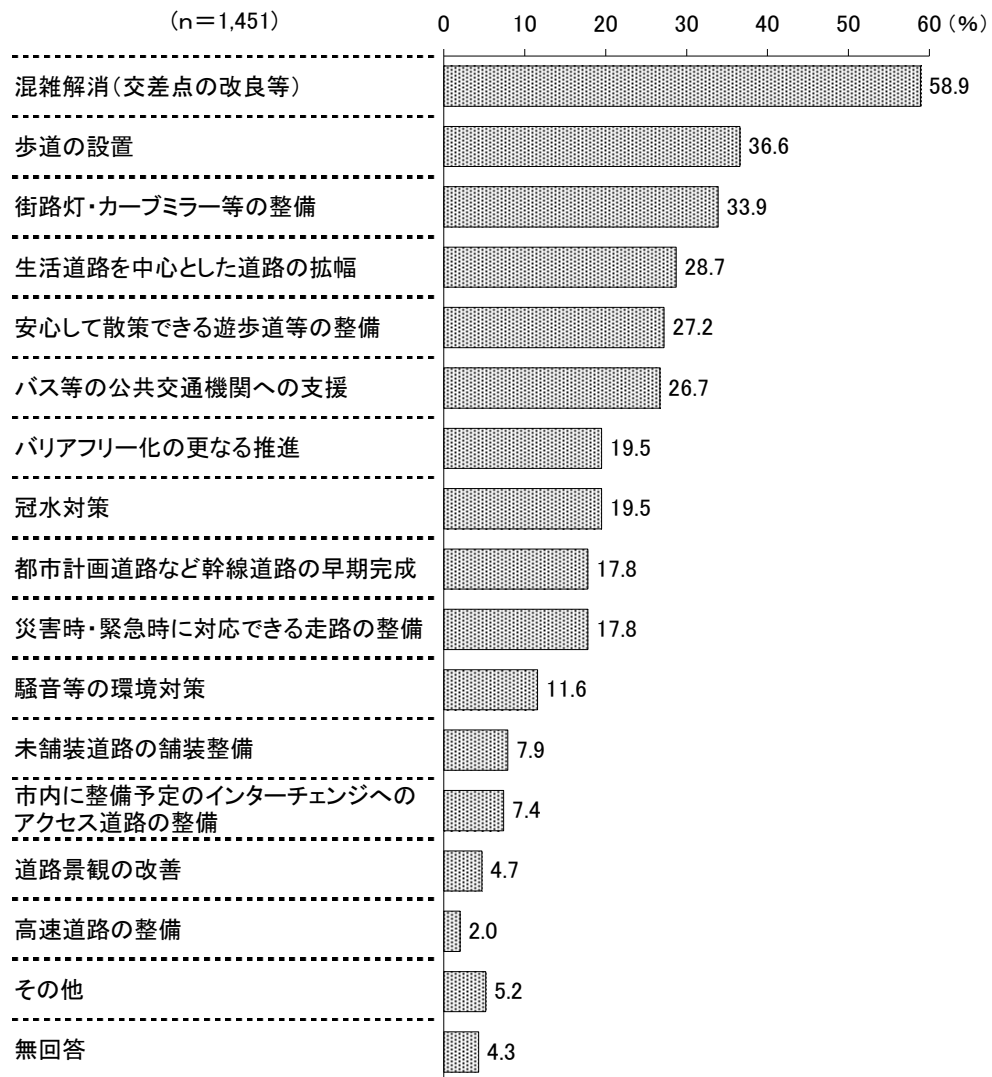
(%)														
		n	混雑がひどい	道路の幅が狭い	歩道が少なく、安心して歩けない	舗装状態が良くない	工事が多い	降雨時に冠水する	混雑が改善されてきた	よく整備されている	バリアフリー化が進んできた	未舗装道路が多い	その他	無回答
全 体		1,451	48.4	33.5	32.5	23.3	14.6	12.7	9.4	9.2	4.2	3.2	8.2	5.0
居 住 地 区 別	厚 木 北	165	40.6	26.7	21.2	19.4	7.3	15.8	10.3	10.9	3.0	3.6	10.3	3.6
	厚 木 南	84	46.4	27.4	31.0	20.2	17.9	8.3	7.1	7.1	6.0	0.0	10.7	6.0
	依 知 北	105	59.0	39.0	34.3	27.6	15.2	14.3	7.6	7.6	1.9	4.8	12.4	8.6
	依 知 南	75	62.7	46.7	34.7	25.3	14.7	5.3	14.7	6.7	2.7	6.7	8.0	0.0
	睦 合 北	66	50.0	36.4	30.3	36.4	16.7	13.6	10.6	4.5	3.0	1.5	6.1	1.5
	睦 合 南	133	45.9	42.1	45.1	22.6	15.8	12.8	9.0	9.8	6.0	5.3	9.0	3.0
	睦 合 西	60	46.7	36.7	36.7	13.3	15.0	16.7	6.7	11.7	8.3	1.7	8.3	3.3
	荻 野	166	40.4	31.9	33.7	21.7	16.9	9.0	12.0	10.2	6.6	1.8	8.4	6.6
	小 鮎	94	48.9	33.0	29.8	18.1	21.3	11.7	7.4	9.6	0.0	2.1	5.3	6.4
	南 毛 利	244	55.7	33.6	35.2	25.8	13.9	16.4	6.1	8.6	2.0	4.1	5.7	3.7
	南毛利南	76	40.8	27.6	23.7	26.3	13.2	13.2	14.5	11.8	6.6	1.3	11.8	3.9
	玉 川	24	50.0	33.3	37.5	16.7	25.0	12.5	12.5	12.5	16.7	4.2	0.0	4.2
	相 川	83	45.8	30.1	38.6	27.7	12.0	12.0	10.8	8.4	6.0	3.6	10.8	4.8
	緑 ケ 丘	22	72.7	31.8	27.3	13.6	0.0	9.1	4.5	4.5	9.1	0.0	4.5	4.5
	森 の 里	50	38.0	26.0	24.0	24.0	18.0	12.0	8.0	10.0	0.0	2.0	2.0	20.0

(5) 道路整備への取組（B：問25）

問. 厚木市の道路整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

（いくつでも選んでください）

図11-5-1 道路整備への取組



【全体】

道路整備への取組について聞いたところ、「混雑解消（交差点の改良等）」（58.9%）が6割近くで最も高く、次いで「歩道の設置」（36.6%）、「街路灯・カーブミラー等の整備」（33.9%）、「生活道路を中心とした道路の拡幅」（28.7%）、「安心して散策できる遊歩道等の整備」（27.2%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位5項目は令和3年度調査から同じ順位となっており、「生活道路を中心とした道路の拡幅」(28.7%)は令和5年度調査(34.1%)より5.4ポイント、「歩道の設置」(36.6%)は令和5年度調査(39.9%)より3.3ポイント減少している。

表11-5-1 道路整備への取組一経年変化(上位8項目)

(%)

順位	令和7年度 (n=1,451)	令和5年度 (n=1,413)	令和3年度 (n=1,672)	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=814)
1	混雑解消 (交差点の改良等) 58.9	混雑解消 (交差点の改良等) 56.8	混雑解消 (交差点の改良等) 58.1	渋滞解消 (交差点の改良等) 60.3	渋滞解消 (交差点の改良等) 58.1	渋滞解消 (交差点の改良等) 55.4	渋滞解消 (交差点の改良等) 55.9	渋滞解消 (交差点の改良等) 54.9
2	歩道の設置 36.6	歩道の設置 39.9	歩道の設置 41.8	街路灯・ カーブミラー等 の整備 /歩道の設置	歩道の設置 43.9	歩道の設置 45.0	歩道の設置 39.3	街路灯・ カーブミラー等 整備 36.7
3	街路灯・ カーブミラー 等の整備 33.9	街路灯・ カーブミラー等 の整備 34.9	街路灯・ カーブミラー等 の整備 37.5		街路灯・ カーブミラー等 整備 40.1	街路灯・ カーブミラー等 整備 33.2	街路灯・ カーブミラー等 整備 35.0	歩道の設置 34.3
4	生活道路を 中心とした 道路の拡幅 28.7	生活道路を 中心とした 道路拡幅 34.1	生活道路を 中心とした 道路拡幅 35.2	生活道路を 中心とした 道路拡幅 35.7	生活道路を 中心とした 道路拡幅 35.4	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 33.1	生活道路を 中心とした 道路拡幅 31.5	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 32.6
5	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 27.2	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 28.2	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 29.5	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 31.7	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 30.5	生活道路を 中心とした 道路拡幅 32.5	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 31.4	安心して散策 できる遊歩道 等の整備 32.3
6	バス等の 公共交通機関 への支援 26.7	バス等の 公共交通機関 への支援 25.1	冠水対策 21.3	バス等の 公共交通機関 への支援 28.2	バス等の 公共交通機関 への支援 24.5	バス等の 公共交通機関 への支援 22.2	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 29.7	バス等の 公共交通機関 への支援 28.4
7	バリアフリー化 の更なる推進 /冠水対策	バリアフリー化 の更なる推進 19.7	バリアフリー化 の更なる推進 /バス等の 公共交通機関 への支援	バリアフリー化 の更なる推進 22.5	バリアフリー化 の更なる推進 23.5	バリアフリー化 の更なる推進 21.9	バス等の 公共交通機関 への支援 25.9	生活道路を 中心とした 道路拡幅 26.9
8		冠水対策 16.8		災害時・緊急 時に対応でき る走路の整備 22.2	災害時・緊急 時に対応でき る走路の整備 21.4	災害時・緊急 時に対応でき る道路整備 21.1	バリアフリー化 の更なる推進 22.0	バリアフリー化 の更なる推進 25.4

(注1)「冠水対策」は、平成27年度調査では「道路冠水対策」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注2)「混雑解消(交差点の改良等)」は、令和元年度調査以前では「渋滞解消(交差点の改良等)」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「都市計画道路など幹線道路の早期完成」（24.2％）が女性（12.5％）より11.7ポイント、「市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備」（10.1％）が女性（4.7％）より5.4ポイント高くなっている。一方、女性では「街路灯・カーブミラー等の整備」（38.1％）が男性（29.0％）より9.1ポイント、「バス等の公共交通機関への支援」（30.4％）が男性（22.5％）より7.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「混雑解消（交差点の改良等）」は40～49歳（72.5％）で7割半ば近くと高くなっている。「歩道の設置」は40～49歳（40.2％）、70～79歳（40.1％）、60～69歳（39.6％）で約4割と高くなっている。「街路灯・カーブミラー等の整備」は50～59歳（36.3％）で3割半ばを超えて高くなっている。

表11－5－2 道路整備への取組－性別、年齢別

(%)																				
				混雑解消（交差点の改良等）	歩道の設置	街路灯・カーブミラー等の整備	生活道路を中心とした道路の拡幅	安心して散策できる遊歩道等の整備	バス等の公共交通機関への支援	バリアフリー化の更なる推進	冠水対策	都市計画道路など幹線道路の早期完成	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	騒音等の環境対策	未舗装道路の舗装整備	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	道路景観の改善	高速道路の整備	その他	無回答
全 体		1,451	58.9	36.6	33.9	28.7	27.2	26.7	19.5	19.5	17.8	17.8	11.6	7.9	7.4	4.7	2.0	5.2	4.3	
性別	男 性	662	61.8	33.7	29.0	30.1	24.8	22.5	15.3	16.2	24.2	14.8	12.4	6.6	10.1	5.4	2.6	5.9	3.5	
	女 性	762	56.7	38.8	38.1	27.2	29.4	30.4	23.1	21.4	12.5	20.2	10.2	8.8	4.7	4.2	1.6	4.5	5.0	
年 齢 別	20 歳 未 満	18	72.2	44.4	50.0	16.7	55.6	27.8	11.1	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	
	20 ～ 29 歳	117	70.1	30.8	33.3	25.6	24.8	26.5	10.3	16.2	15.4	16.2	15.4	10.3	4.3	6.0	3.4	6.0	0.9	
	30 ～ 39 歳	142	69.7	31.7	33.8	27.5	31.0	23.9	10.6	19.0	11.3	16.2	21.1	13.4	6.3	4.9	2.8	3.5	1.4	
	40 ～ 49 歳	189	72.5	40.2	35.4	30.7	18.0	26.5	12.7	20.1	17.5	11.1	13.2	12.7	10.1	4.2	2.6	5.8	0.0	
	50 ～ 59 歳	278	61.2	33.5	36.3	25.2	20.5	19.1	19.8	23.0	19.4	20.5	13.3	5.8	9.0	3.6	2.9	9.0	2.5	
	60 ～ 69 歳	235	60.4	39.6	31.9	30.6	29.4	24.3	26.8	23.8	19.1	19.1	7.2	6.4	8.5	7.2	0.4	4.7	3.0	
	70 ～ 79 歳	284	47.2	40.1	34.5	30.3	31.3	33.1	25.7	17.6	17.3	19.4	7.7	6.3	5.3	3.5	1.1	4.2	7.4	
	80 歳 以 上	186	41.9	34.9	29.6	30.6	33.3	34.4	21.0	13.4	22.6	19.9	8.1	4.8	6.5	3.8	1.1	2.7	13.4	

〔居住地区別の結果〕

表11－5－3 道路整備への取組－居住地区別

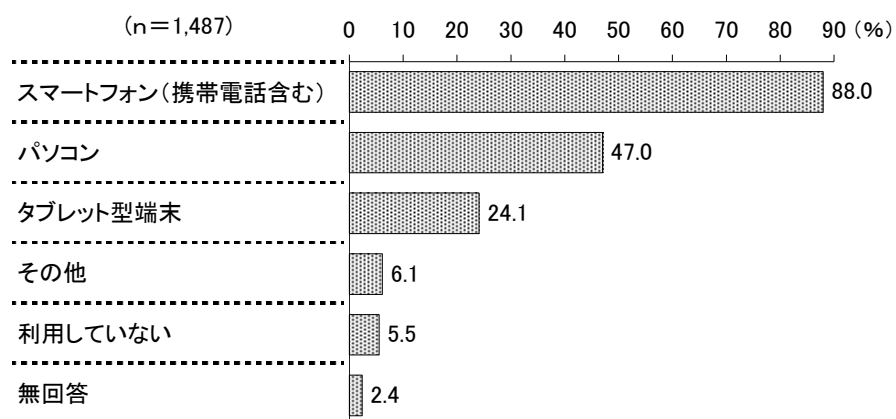
		(%)																	
		n	混雑解消（交差点の改良等）	歩道の設置	街路灯・カーブミラー等の整備	生活道路を中心とした道路の拡幅	安心して散策できる遊歩道等の整備	バス等の公共交通機関への支援	バリアフリー化の更なる推進	冠水対策	都市計画道路など幹線道路の早期完成	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	騒音等の環境対策	未舗装道路の舗装整備	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	道路景観の改善	高速道路の整備	その他	無回答
全 体		1,451	58.9	36.6	33.9	28.7	27.2	26.7	19.5	19.5	17.8	17.8	11.6	7.9	7.4	4.7	2.0	5.2	4.3
居 住 地 区 別	厚 木 北	165	50.3	31.5	26.7	26.1	26.7	17.0	17.6	17.0	12.1	15.2	17.6	8.5	7.9	4.8	2.4	6.7	3.0
	厚 木 南	84	53.6	36.9	22.6	19.0	33.3	14.3	23.8	23.8	15.5	26.2	13.1	9.5	9.5	7.1	2.4	7.1	3.6
	依 知 北	105	66.7	33.3	37.1	36.2	26.7	31.4	16.2	20.0	15.2	23.8	14.3	8.6	4.8	2.9	0.0	7.6	4.8
	依 知 南	75	69.3	30.7	46.7	34.7	34.7	30.7	24.0	13.3	28.0	18.7	24.0	10.7	8.0	1.3	4.0	4.0	1.3
	睦 合 北	66	66.7	43.9	34.8	24.2	30.3	34.8	19.7	21.2	28.8	16.7	10.6	10.6	10.6	7.6	1.5	4.5	1.5
	睦 合 南	133	50.4	36.8	30.8	34.6	30.8	28.6	21.8	19.5	18.0	15.8	7.5	5.3	5.3	5.3	2.3	7.5	3.8
	睦 合 西	60	68.3	33.3	26.7	26.7	30.0	31.7	18.3	16.7	15.0	15.0	6.7	3.3	8.3	3.3	5.0	5.0	6.7
	荻 野	166	54.8	38.6	31.9	25.3	27.7	28.3	19.3	12.0	23.5	20.5	7.2	5.4	9.6	3.0	1.8	4.2	5.4
	小 鮎	94	60.6	38.3	36.2	34.0	22.3	39.4	13.8	17.0	29.8	10.6	6.4	9.6	8.5	3.2	5.3	2.1	6.4
	南 毛 利	244	66.8	42.2	42.2	28.7	24.2	22.5	18.4	24.2	13.1	15.6	11.9	9.4	6.6	6.1	1.6	5.7	3.3
	南毛利南	76	56.6	31.6	31.6	25.0	31.6	17.1	26.3	17.1	14.5	21.1	13.2	7.9	3.9	3.9	0.0	5.3	1.3
	玉 川	24	62.5	58.3	33.3	37.5	20.8	33.3	29.2	25.0	20.8	41.7	16.7	4.2	8.3	4.2	0.0	0.0	0.0
	相 川	83	54.2	38.6	38.6	30.1	25.3	26.5	21.7	28.9	14.5	15.7	13.3	8.4	7.2	7.2	0.0	4.8	3.6
	緑 ケ 丘	22	68.2	18.2	31.8	18.2	22.7	36.4	27.3	27.3	13.6	22.7	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	4.5
	森 の 里	50	48.0	28.0	28.0	26.0	16.0	44.0	10.0	20.0	14.0	12.0	4.0	8.0	8.0	6.0	2.0	2.0	18.0

12 広報

(1) 家庭で利用する情報機器 (A: 問19)

問. 家庭では、どのような情報機器を利用していますか。(いくつでも選んでください)

図12-1-1 家庭で利用する情報機器



【全体】

家庭で利用する情報機器について聴いたところ、「スマートフォン(携帯電話含む)」(88.0%)が9割近くで最も高く、次いで「パソコン」(47.0%)、「タブレット型端末」(24.1%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「パソコン」(47.0%)は令和5年度調査(50.6%)より3.6ポイント減少している。

表12-1-1 家庭で利用する情報機器—経年変化

(%)

調査年	n	スマートフォン (携帯電話含む)	パソコン	タブレット型端末	その他	利用していない	無回答
令和7年度	1,487	88.0	47.0	24.1	6.1	5.5	2.4
令和5年度	1,446	85.5	50.6	24.1	5.3	6.8	2.2
令和3年度	1,603	81.5	51.7	19.1	5.1	9.2	2.6
令和元年度	1,467	79.0	56.2	19.6	6.2	8.7	1.8
平成29年度	1,480	66.9	52.9	17.9	8.0	12.4	2.9
平成27年度	1,445	68.9	54.5	12.7	3.5	—	2.4
平成25年度	1,284	65.0	60.2	8.7	2.6	—	5.1

(注1)「タブレット型端末」は、令和3年度調査～令和元年度調査、平成27年度調査～平成25年度調査では「タブレット型パソコン」、平成29年度調査では「タブレット」としていた。

(注2)平成29年度調査以降では、「利用していない」の選択肢を追加している。

(注3)平成27年度調査以前では、「テレビ」、「インターネット」、「ラジオ」、「電子メール」、「ゲーム機」の選択肢を追加していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「パソコン」(57.7%)が女性(37.7%)より20.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「スマートフォン(携帯電話含む)」は30～39歳(98.7%)、20～29歳と40～49歳(ともに98.5%)で10割近くと高くなっている。「パソコン」は20～29歳(59.2%)で約6割と高くなっている。「タブレット型端末」は30～39歳(36.8%)と20～29歳(36.2%)で3割半ばを超えて高くなっている。

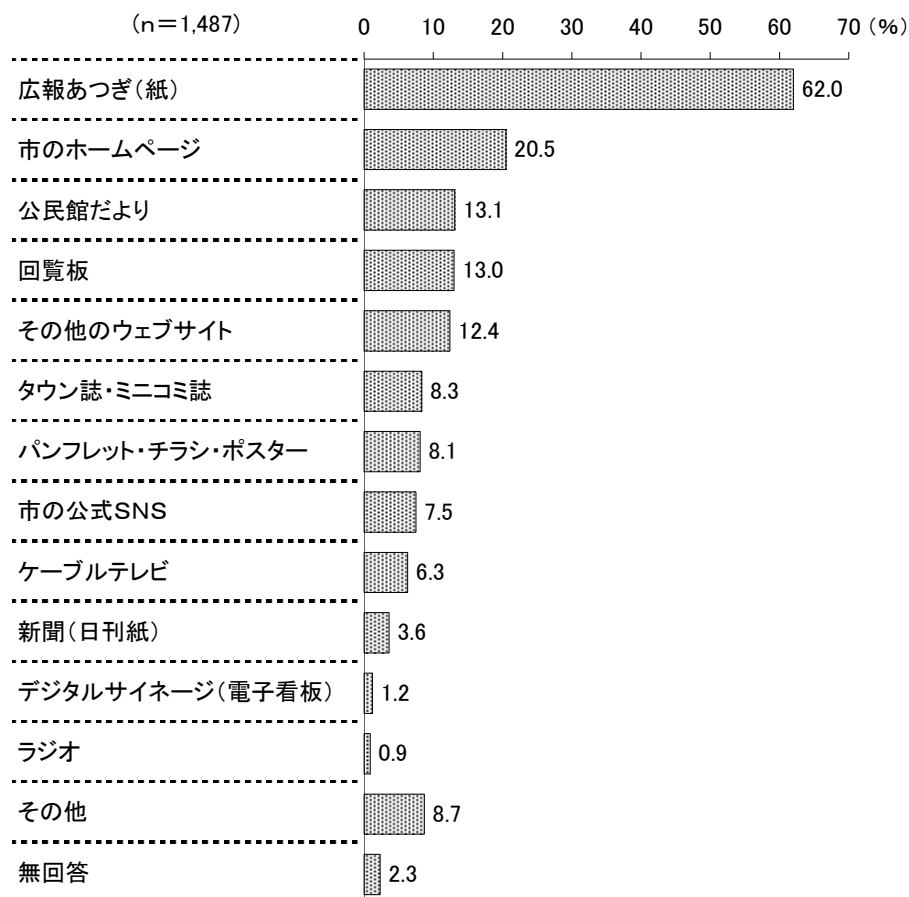
表12-1-2 家庭で利用する情報機器一性別、年齢別

								(%)
		n	スマートフォン (携帯電話含む)	パソコン	タブレット型 端末	その他	利用して いない	無 回 答
全 体		1,487	88.0	47.0	24.1	6.1	5.5	2.4
性 別	男 性	672	89.0	57.7	24.9	5.5	4.2	2.2
	女 性	798	87.0	37.7	23.7	6.5	6.6	2.5
年 齢 別	20 歳 未 満	17	94.1	94.1	41.2	5.9	0.0	0.0
	20 ～ 29 歳	130	98.5	59.2	36.2	4.6	0.0	0.8
	30 ～ 39 歳	152	98.7	55.9	36.8	0.0	0.7	0.0
	40 ～ 49 歳	195	98.5	54.9	33.3	4.1	0.5	0.0
	50 ～ 59 歳	276	96.0	50.7	31.9	1.8	0.4	1.4
	60 ～ 69 歳	236	90.7	50.8	23.7	4.7	3.0	2.5
	70 ～ 79 歳	293	78.2	38.9	9.6	11.3	10.2	3.1
	80 歳 以 上	186	60.2	21.5	6.5	14.5	22.6	8.1

（２）市の情報の入手方法（Ａ：問20）

問．厚木市の情報を主に何から入手していますか。（２つまで選んでください）

図12－２－１ 市の情報の入手方法



【全体】

市の情報の入手方法について聞いたところ、「広報あつぎ（紙）」（62.0％）が6割を超えて最も高く、次いで「市のホームページ」（20.5％）、「公民館だより」（13.1％）、「回覧板」（13.0％）、「その他のウェブサイト」（12.4％）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「回覧板」（13.0％）が令和5年度調査（17.2％）より4.2ポイント、「タウン誌・ミニコミ誌」（8.3％）が令和5年度調査（12.0％）より3.7ポイント減少している。

表12－2－1 市の情報の入手方法－経年変化

調 査 年	n	広報あつぎ（紙）	市のホームページ	公民館だより	回覧板	その他のウェブサイト	タウン誌・ミニコミ誌	パンフレット・チラシ・ポスター	市の公式SNS	ケーブルテレビ	新聞（日刊紙）	デジタルサイネージ（電子看板）	ラジオ	その他	無回答	本厚木駅前大型映像装置（あつぎビジョン）	市の携帯版ウェブサイト
令和7年度	1,487	62.0	20.5	13.1	13.0	12.4	8.3	8.1	7.5	6.3	3.6	1.2	0.9	8.7	2.3	－	－
令和5年度	1,446	64.7	20.8	12.2	17.2	10.4	12.0	7.6	4.9	6.1	3.5	0.3	0.8	8.1	2.4	－	－
令和3年度	1,603	67.3	24.0	13.3	17.2	7.6	12.0	5.9	－	6.4	5.4	0.8	0.9	7.2	2.6	－	－
令和元年度	1,467	70.1	16.7	16.4	20.7	5.5	14.0	10.2	－	5.5	4.0	1.9	1.4	5.1	3.6	－	－
平成29年度	1,480	75.4	13.0	19.7	19.6	2.2	16.0	7.0	－	4.8	5.8	－	1.3	5.5	2.7	4.3	－
平成27年度	1,471	85.9	20.9	38.4	10.0	－	22.6	15.5	－	6.9	8.8	－	0.5	5.7	1.3	9.6	2.2
平成25年度	1,270	82.0	22.8	33.1	10.8	－	21.7	6.6	－	8.7	11.6	－	0.7	5.6	3.3	7.8	2.4
平成23年度	814	77.8	22.5	21.6	4.5	－	12.0	2.5	－	3.8	8.2	－	0.1	3.6	4.1	4.7	1.6
平成21年度	1,610	83.7	13.1	27.1	4.0	－	15.8	2.4	－	6.0	8.6	－	0.6	1.5	1.7	－	1.0
平成19年度	1,506	83.2	11.0	25.6	3.1	－	13.1	2.3	－	8.6	11.5	－	0.4	7.0	2.1	－	0.7

（注1）「デジタルサイネージ（電子看板）」は、令和元年度調査では「駅前電子看板（デジタルサイネージ）」としており、令和元年度調査から選択肢を追加している。

（注2）平成29年度調査以降では、「その他のウェブサイト」の選択肢を追加している。

（注3）平成29年度調査～平成23年度調査では、「本厚木駅前大型映像装置（あつぎビジョン）」の選択肢を追加していた。

（注4）平成27年度調査～平成23年度調査では、選択可能数を3つまでとしていた。

（注5）「広報あつぎ（紙）」は、平成27年度調査以前では「広報あつぎ」としていた。

（注6）「市のホームページ」は、令和3年度調査～平成29年度調査では「市のホームページ（携帯サイト含む）」、平成27年度調査以前では2つの選択肢「市のホームページ」、「市の携帯版ウェブサイト」としていた。

（注7）「パンフレット・チラシ・ポスター」は、平成27年度調査以前では「パンフレット・チラシ」としていた。

（注8）「回覧板」は、令和3年度調査～平成29年度調査では「広報板・回覧板」、平成27年度調査以前では「掲示板やポスター」としていた。

（注9）令和5年度調査以降では、「市の公式SNS」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「公民館だより」（16.7%）が男性（9.1%）より7.6ポイント、「広報あつぎ（紙）」（64.2%）が男性（59.5%）より4.7ポイント高くなっている。一方、男性では「市のホームページ」（24.1%）が女性（17.5%）より6.6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「広報あつぎ（紙）」は80歳以上（85.5%）で8割半ばと高くなっている。「市のホームページ」は40～49歳と60～69歳（ともに26.7%）、50～59歳（26.1%）で2割半ばを超えて高くなっている。「公民館だより」は70～79歳（27.0%）で2割半ばを超えて高くなっている。

表12-2-2 市の情報の入手方法－性別、年齢別

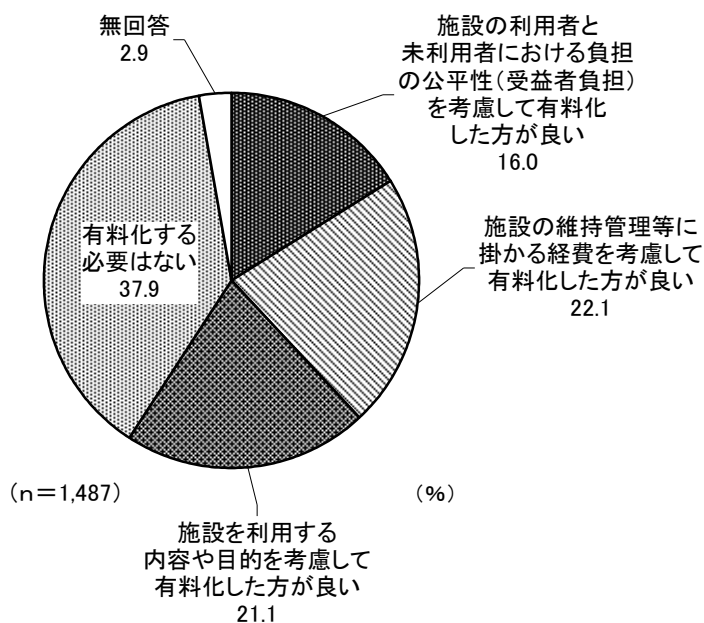
(%)																
		n	広報あつぎ（紙）	市のホームページ	公民館だより	回覧板	その他のウェブサイト	タウン誌・ミニコミ誌	パンフレット・チラシ・ポスター	市の公式SNS	ケーブルテレビ	新聞（日刊紙）	デジタルサイネージ（電子看板）	ラジオ	その他	無回答
全 体		1,487	62.0	20.5	13.1	13.0	12.4	8.3	8.1	7.5	6.3	3.6	1.2	0.9	8.7	2.3
性別	男 性	672	59.5	24.1	9.1	12.8	13.8	9.4	7.1	6.7	6.7	4.9	1.5	1.2	9.2	1.8
	女 性	798	64.2	17.5	16.7	13.2	11.3	7.3	8.9	8.1	6.0	2.6	1.0	0.6	8.0	2.8
年 齢 別	20 歳 未 満	17	23.5	17.6	0.0	23.5	11.8	0.0	5.9	23.5	11.8	0.0	5.9	5.9	17.6	0.0
	20 ～ 29 歳	130	25.4	20.8	3.1	10.8	17.7	3.1	13.1	6.9	8.5	0.8	3.1	0.0	25.4	0.8
	30 ～ 39 歳	152	36.8	21.7	5.3	9.9	21.7	3.3	13.2	11.2	3.9	0.7	4.6	1.3	15.8	0.7
	40 ～ 49 歳	195	53.3	26.7	9.2	7.7	23.1	4.6	7.2	15.4	5.1	1.5	1.0	1.5	7.7	0.5
	50 ～ 59 歳	276	59.4	26.1	6.5	9.1	17.0	8.0	8.0	11.6	5.1	2.9	0.7	1.4	7.2	2.2
	60 ～ 69 歳	236	65.7	26.7	14.4	9.3	12.7	8.5	6.8	4.7	7.2	4.2	0.4	1.3	6.4	3.0
	70 ～ 79 歳	293	83.6	11.6	27.0	19.1	1.0	12.3	6.8	2.0	7.2	6.5	0.3	0.0	3.4	3.4
	80 歳 以 上	186	85.5	11.3	18.3	22.0	1.1	14.5	5.9	1.1	6.5	6.5	0.0	0.0	4.8	4.3

13 行政

(1) 市の施設の利用料（A：問21）

問. 現在、厚木市には使用料が有料の施設と無料の施設（公民館など）がありますが、無料の施設の有料化についてどのように思いますか。（1つだけ選んでください）

図13-1-1 市の施設の利用料



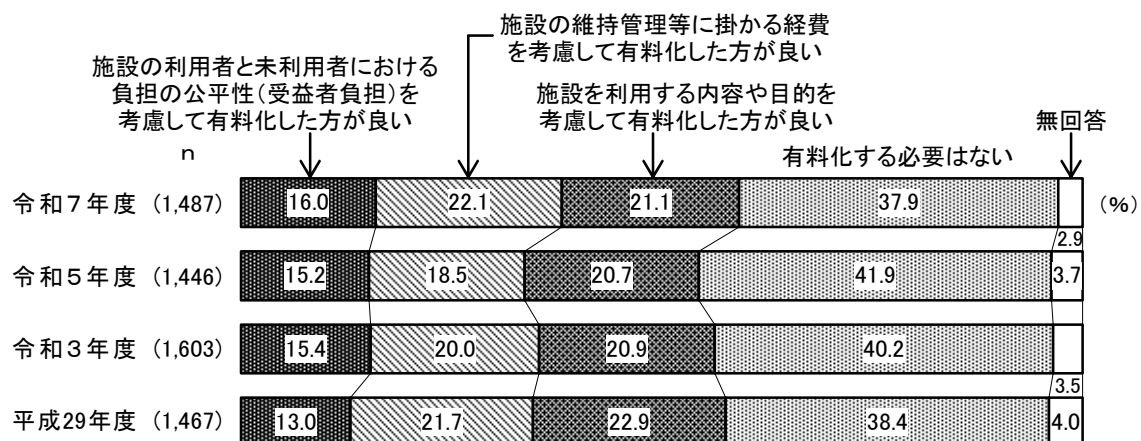
【全体】

使用料が無料の市の施設の利用料について聞いたところ、「施設の利用者と未利用者における負担の公平性（受益者負担）を考慮して有料化した方が良い」（16.0％）と「施設の維持管理等に掛かる経費を考慮して有料化した方が良い」（22.1％）、「施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方が良い」（21.1％）の3つを合わせた『有料化した方が良い』（59.2％）が約6割となっている。一方、「有料化する必要はない」（37.9％）は4割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「施設の維持管理等に掛かる経費を考慮して有料化した方が良い」(22.1%)は令和5年度調査(18.5%)より3.6ポイント増加している。一方、「有料化する必要はない」(37.9%)は令和5年度調査(41.9%)より4.0ポイント減少している。

図13-1-2 市の施設の利用料—経年変化

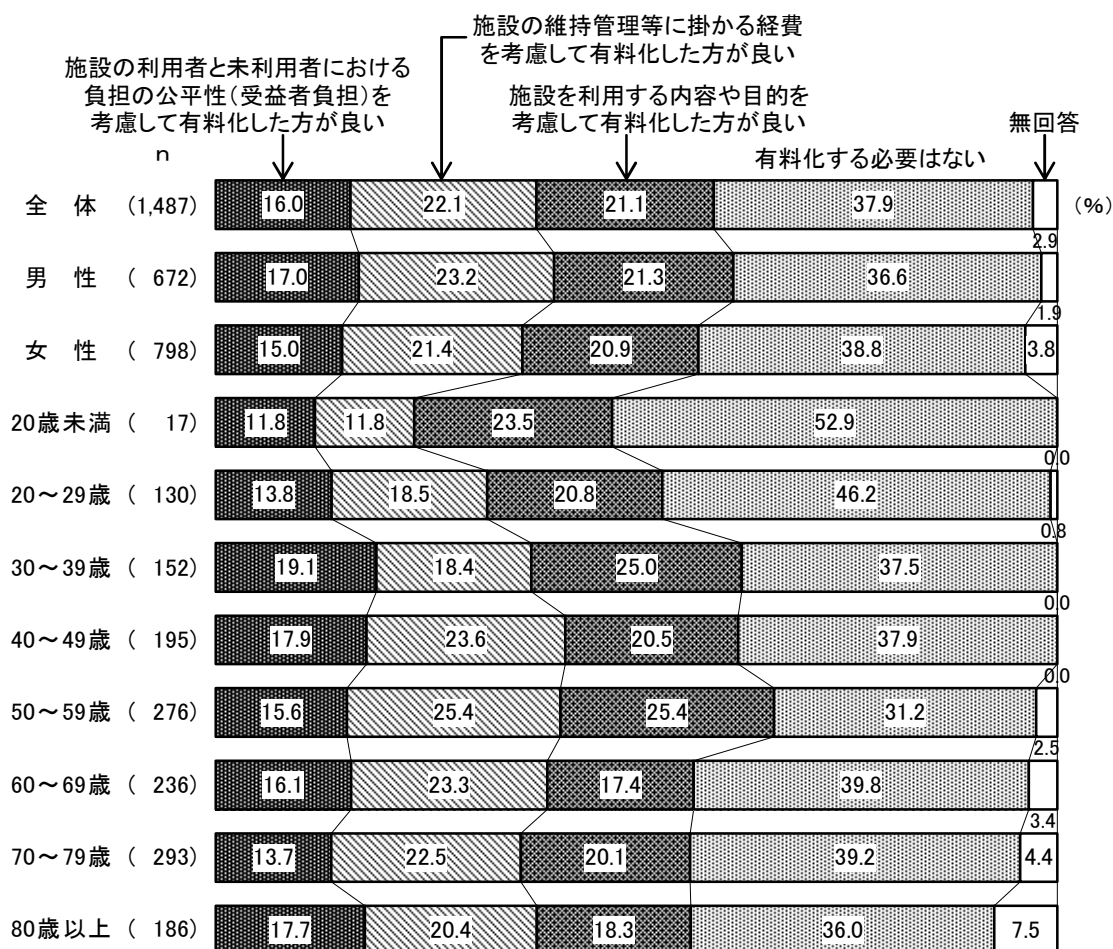


【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「施設の維持管理等に掛かる経費を考慮して有料化した方が良い」は50～59歳（25.4％）で2割半ばと高くなっている。「施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方が良い」は50～59歳（25.4％）と30～39歳（25.0％）で2割半ばと高くなっている。「有料化する必要はない」は20～29歳（46.2％）で4割半ばを超えて高くなっている。

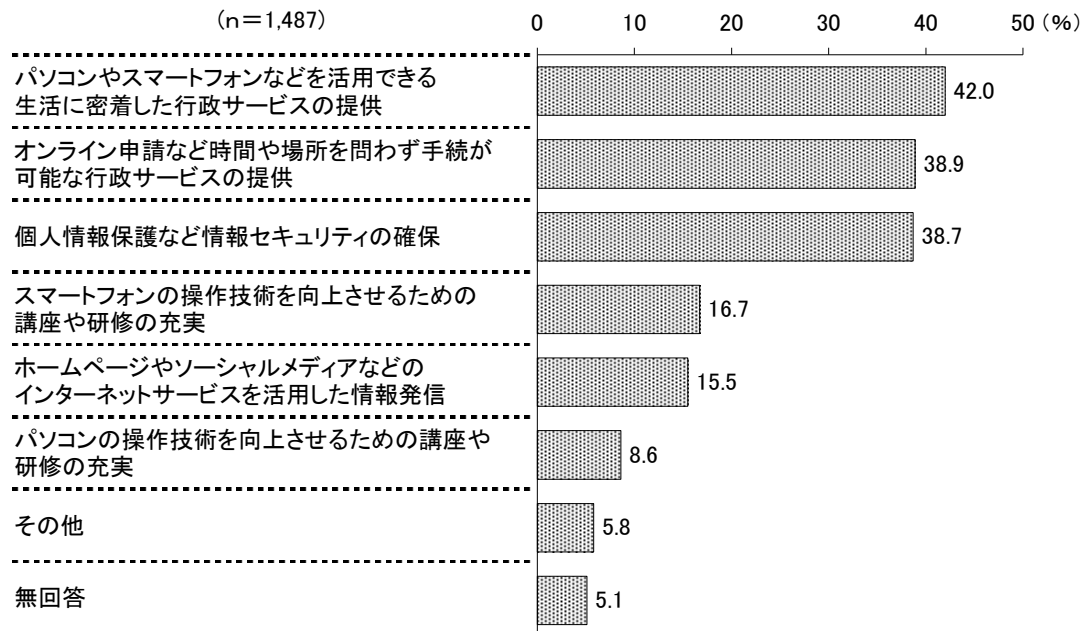
図13-1-3 市の施設の利用料—性別、年齢別



（２）行政サービスのデジタル化推進への取組（Ａ：問22）

問. 様々な行政サービスのデジタル化を推進するためには、どのような取組が必要であると思いますか。（２つまで選んでください）

図13-2-1 行政サービスのデジタル化推進への取組



【全体】

行政サービスのデジタル化推進への取組について聞いたところ、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した行政サービスの提供」（42.0%）が4割を超えて最も高く、次いで「オンライン申請など時間や場所を問わず手続が可能な行政サービスの提供」（38.9%）、「個人情報保護など情報セキュリティの確保」（38.7%）、「スマートフォンの操作技術向上のための講座や研修の充実」（16.7%）、「ホームページやソーシャルメディアなどのインターネットサービスを活用した情報発信」（15.5%）となっている。

【経年変化】

経年による変化は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表13－2－1 行政サービスのデジタル化推進への取組－経年変化

(%)

調査年	n	パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した行政サービスの提供	オンライン申請など可能な行政サービスの提供	個人情報の保護など情報セキュリティの確保	スマートフォンなどの講座や研修の向上させるための講座や研修の充実	ホームページやソーシャルメディアなどの活用した情報発信	パソコンの操作技術の向上させるための講座や研修の充実	その他	無回答
令和7年度	1,487	42.0	38.9	38.7	16.7	15.5	8.6	5.8	5.1
令和5年度	1,446	47.0	19.3	43.3	17.2	17.6	7.5	7.7	5.5
令和3年度	1,603	52.2	18.5	41.9	－	19.8	14.7	8.6	6.2
令和元年度	1,467	49.4	15.5	43.0	－	25.4	14.5	10.1	6.7
平成29年度	1,480	50.6	13.9	42.9	－	12.6	17.1	10.1	11.2
平成27年度	1,445	42.8	9.8	41.6	－	10.7	12.0	7.7	8.4
平成25年度	1,284	36.8	12.7	35.9	－	11.0	14.9	7.6	11.4
平成23年度	814	22.0	17.0	34.0	－	9.1	17.7	9.5	13.3
平成21年度	1,610	8.0	23.1	29.4	－	－	13.4	3.2	15.7
平成19年度	1,506	7.1	16.4	26.6	－	－	14.3	2.7	18.6

(注1)「ホームページやソーシャルメディアなどのインターネットサービスを活用した情報発信」は、令和5年度調査～令和元年度調査では「インターネットなどを活用した地域活性化の促進」、平成29年度調査～平成23年度調査では「ポータルサイト、地域SNSなどを活用した地域活性化の促進」としていた。また、平成21年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注2)「パソコンの操作技術を向上させるための講座や研修の充実」は、令和5年度調査では「パソコンの技術を向上させるための講座や研修の充実」、令和3年度調査～平成29年度調査では「パソコンなどの技術を向上させるための講座や研修の充実」、平成27年度調査以前では「パソコン等に習熟するための講座や研修の充実」としていた。

(注3) 令和5年度調査以降では、「スマートフォンの操作技術を向上させるための講座や研修の充実」の選択肢を追加している。

(注4)「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した行政サービスの提供」は、令和5年度調査以前では「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した環境の整備」としていた。

(注5)「オンライン申請など時間や場所を問わず手続きが可能な行政サービスの提供」は、令和5年度調査以前では「ワンストップサービス、電子申請などを活用した行政サービスの提供」としていた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した行政サービスの提供」（47.8％）が女性（37.2％）より10.6ポイント、「オンライン申請など時間や場所を問わず手続きが可能な行政サービスの提供」（41.7％）が女性（36.6％）より5.1ポイント高くなっている。一方、女性では「個人情報保護など情報セキュリティの確保」（42.9％）が男性（33.6％）より9.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した行政サービスの提供」は50～59歳（51.1％）で5割を超えて高くなっている。「オンライン申請など時間や場所を問わず手続きが可能な行政サービスの提供」は20～29歳（57.7％）で6割近くと高くなっている。「個人情報保護など情報セキュリティの確保」は60～69歳（46.6％）で4割半ばを超えて高くなっている。

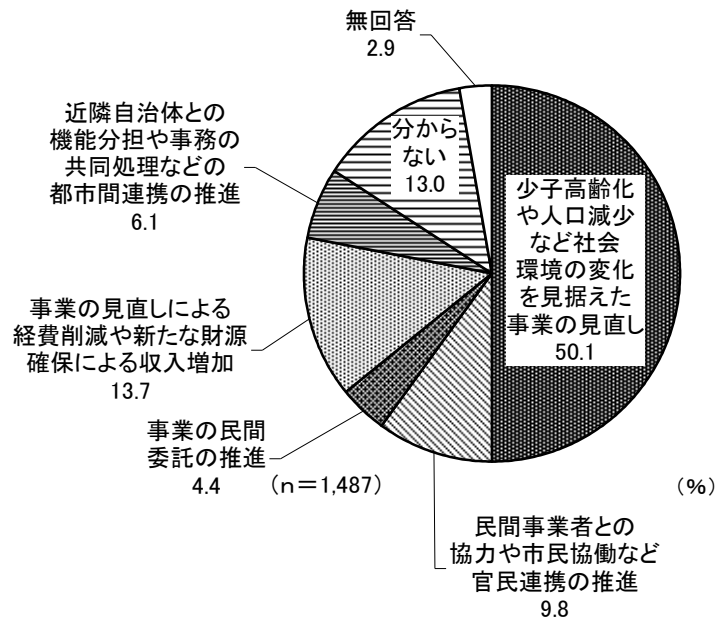
表13-2-2 行政サービスのデジタル化推進への取組—性別、年齢別

		(%)								
		n	パソコンやスマートフォンを生活に密着した行政サービスの提供	オンラインサービスの提供	個人情報の保護など情報セキュリティの確保	スマートフォンなどの講座や技術研修の向上実施	ホームページなどの活用した情報発信	パソコンの講座や技術研修の向上実施	その他	無回答
全 体		1,487	42.0	38.9	38.7	16.7	15.5	8.6	5.8	5.1
性別	男 性	672	47.8	41.7	33.6	15.9	16.8	8.8	5.8	3.3
	女 性	798	37.2	36.6	42.9	17.3	14.5	8.4	5.9	6.8
年 齢 別	20 歳 未 満	17	52.9	41.2	29.4	11.8	17.6	0.0	11.8	0.0
	20 ～ 29 歳	130	41.5	57.7	38.5	8.5	18.5	10.0	1.5	0.8
	30 ～ 39 歳	152	49.3	50.0	39.5	2.6	24.3	8.6	2.0	0.0
	40 ～ 49 歳	195	49.2	49.7	42.1	12.3	21.5	4.6	3.1	0.0
	50 ～ 59 歳	276	51.1	46.7	33.3	13.4	15.9	7.6	5.1	1.8
	60 ～ 69 歳	236	41.9	41.5	46.6	17.4	14.8	6.8	5.5	3.4
	70 ～ 79 歳	293	36.2	23.5	38.6	27.0	8.5	9.9	8.5	9.9
	80 歳 以 上	186	23.7	15.1	32.8	26.9	11.3	14.5	11.3	17.7

(3) より良い市民サービスを維持していく取組（A：問23）

問. 今後もより良い市民サービスを維持していくため、どのような取組が必要であると思いますか。（1つだけ選んでください）

図13-3-1 より良い市民サービスを維持していく取組



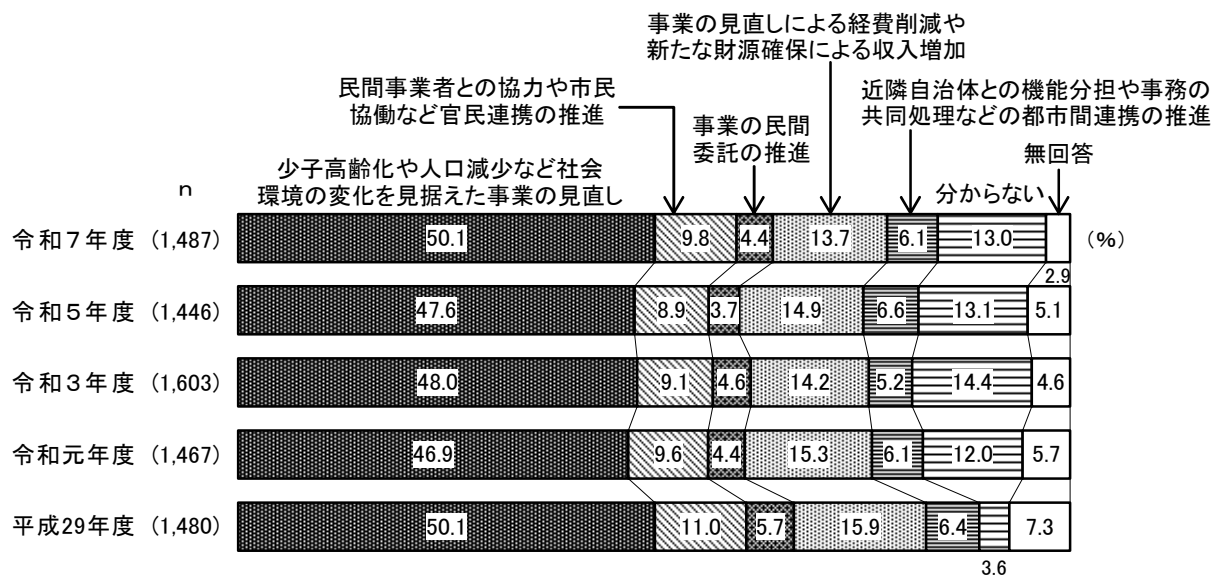
【全体】

より良い市民サービスを維持していく取組について聞いたところ、「少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し」（50.1%）が約5割で最も高く、次いで「事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加」（13.7%）、「民間事業者との協力や市民協働など官民連携の推進」（9.8%）、「近隣自治体との機能分担や事務の共同処理などの都市間連携の推進」（6.1%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和5年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図13-3-2 より良い市民サービスを維持していく取組—経年変化



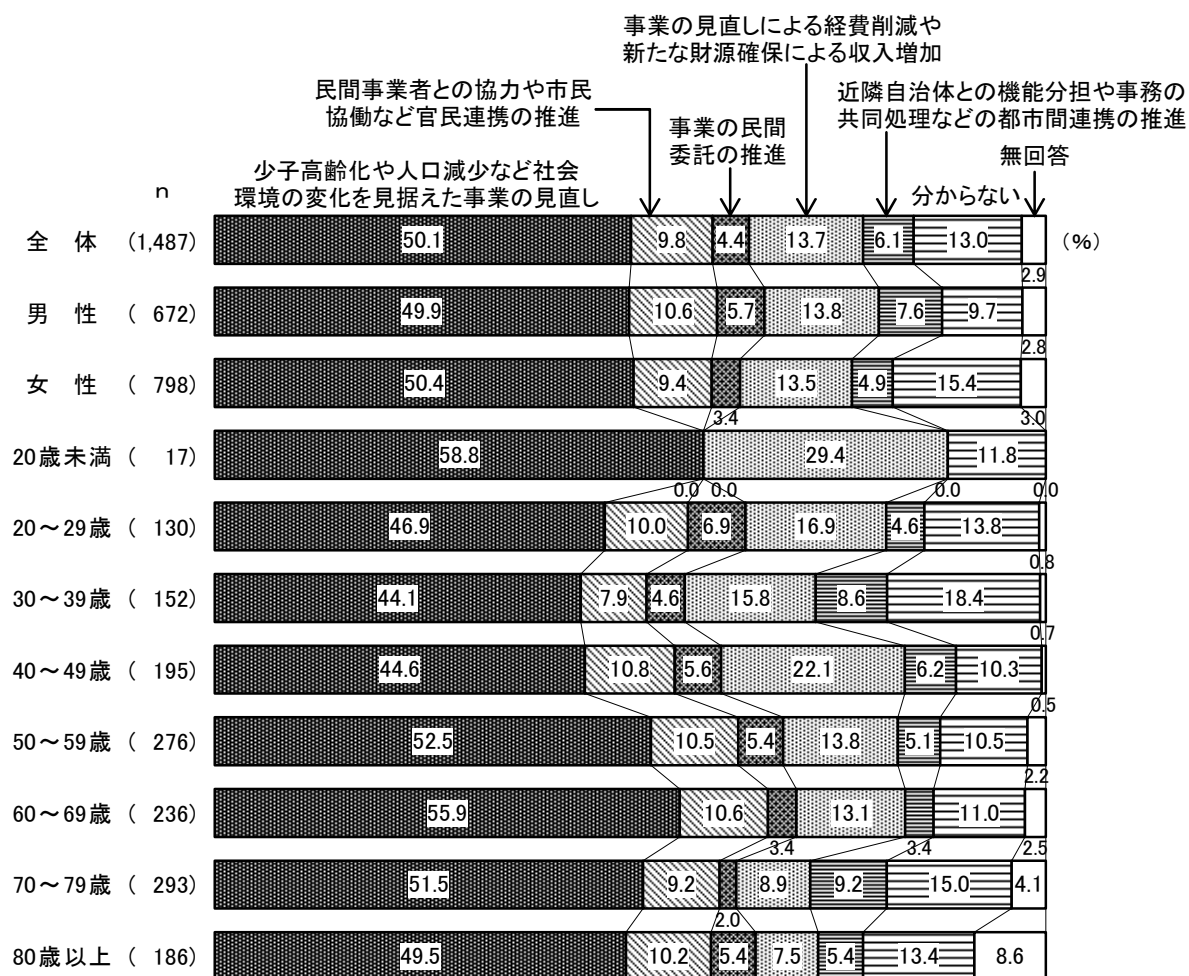
(注)「分からない」は、平成29年度調査では「その他」の選択肢であった。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し」は60～69歳（55.9%）で5割半ばと高くなっている。「事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加」は40～49歳（22.1%）で2割を超えて高くなっている。

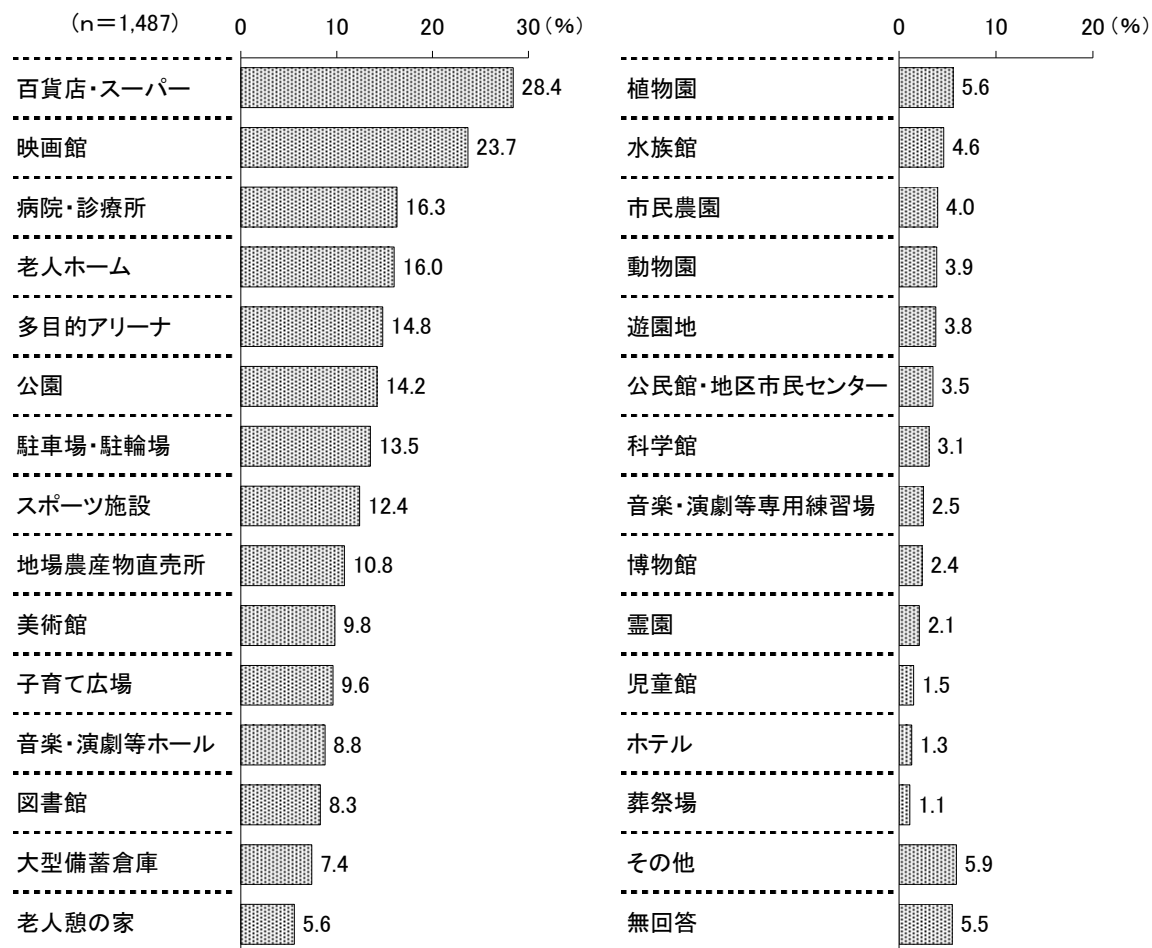
図13-3-3 より良い市民サービスを維持していく取組一性別、年齢別



(4) 市に必要な施設（A：問24）

問. 今後厚木市には、どのような施設が必要であると思いますか。（3つまで選んでください）

図13-4-1 市に必要な施設



【全体】

市に必要な施設について聞いたところ、「百貨店・スーパー」（28.4%）が3割近くで最も高く、次いで「映画館」（23.7%）、「病院・診療所」（16.3%）、「老人ホーム」（16.0%）、「多目的アリーナ」（14.8%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位2項目は令和5年度調査と同じ順位になっている。

なお、平成27年度以前の調査は、「生活をする上で、特に必要な施設」について聴いていたため、参考記載とする。

表13-4-1 市に必要な施設—経年変化（上位5項目）

(%)

順位	令和7年度 (n=1,487)	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,471)	平成25年度 (n=1,270)	平成23年度 (n=814)	平成21年度 (n=1,610)
1	百貨店・スーパー 28.4	百貨店・スーパー 28.0	百貨店・スーパー 28.8	百貨店・スーパー 30.4	百貨店・スーパー 32.8	病院・診療所 64.9	病院・診療所 60.7	病院・診療所 66.6	病院・診療所 54.7
2	映画館 23.7	映画館 24.5	映画館 24.0	映画館 22.6	映画館 24.3	百貨店・スーパー 58.7	百貨店・スーパー 54.8	百貨店・スーパー 57.7	百貨店・スーパー 35.7
3	病院・診療所 16.3	老人ホーム 15.4	公園 16.7	老人ホーム 18.0	老人ホーム 16.1	公園 20.9	公園 22.8	公園 25.1	公園 30.4
4	老人ホーム 16.0	スポーツ施設 15.2	駐車場・駐輪場 14.7	駐車場・駐輪場 16.8	スポーツ施設 15.7	駐車場・駐輪場 19.1	駐車場・駐輪場 19.1	駐車場・駐輪場 21.9	駐車場・駐輪場 17.5
5	多目的アリーナ 14.8	駐車場・駐輪場／公園 15.1	老人ホーム 14.5	スポーツ施設 14.7	駐車場・駐輪場 15.6	公民館・地区市民センター 16.4	公民館・地区市民センター 13.7	公民館・地区市民センター 15.5	公民館・地区市民センター 17.1

（注1）平成27年度調査以前では、「生活をする上で、特に必要な施設は何だと思いますか。（3つまで選んでください）」と質問していた。

（注2）今年度調査から「多目的アリーナ」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、男女ともに「百貨店・スーパー」が第1位、「映画館」が第2位となっている。

年齢別で見ると、「映画館」は20～29歳と30～39歳で第1位、40～49歳から60～69歳までの年代で第2位となっている。「百貨店・スーパー」は40～49歳から70～79歳の年代で第1位、20～29歳、30～39歳、80歳以上で第2位となっている。「老人ホーム」は80歳以上で第1位、70～79歳で第2位となっている。

表13-4-2 市に必要な施設－性別、年齢別（上位3項目）

(%)

順位	男 性 (n=672)		女 性 (n=798)	
1	百貨店・スーパー	25.1	百貨店・スーパー	31.1
2	映画館	21.1	映画館	26.1
3	多目的アリーナ	17.0	老人ホーム	17.3

(%)

順位	20歳未満(n=17)		20～29歳(n=130)		30～39歳(n=152)		40～49歳(n=195)	
1	映画館	41.2	映画館	40.8	映画館	31.6	百貨店・スーパー	34.9
2	百貨店・スーパー	35.3	百貨店・スーパー	35.4	百貨店・スーパー	28.3	映画館	27.2
3	病院・診療所	23.5	子育て広場	20.8	公園	22.4	多目的アリーナ	19.5

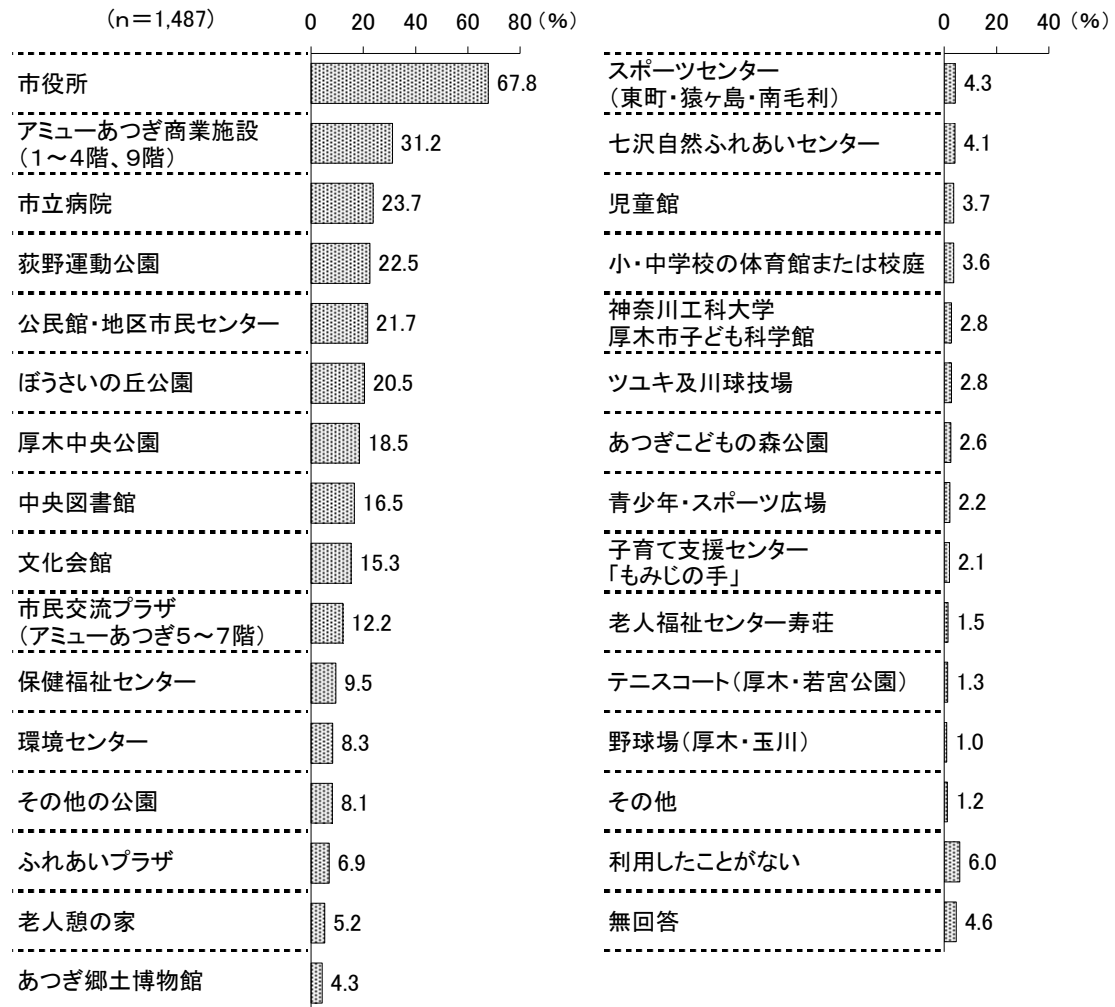
(%)

順位	50～59歳(n=276)		60～69歳(n=236)		70～79歳(n=293)		80歳以上(n=186)	
1	百貨店・スーパー	28.3	百貨店・スーパー	28.4	百貨店・スーパー	25.6	老人ホーム	27.4
2	映画館	25.4	映画館	20.3	老人ホーム	20.5	百貨店・スーパー	21.0
3	病院・診療所	18.5	多目的アリーナ	19.9	病院・診療所	19.1	病院・診療所	15.6

(5) 市の施設の利用状況 (A: 問25)

問. この1年間に、利用された「市の施設」を教えてください。(いくつでも選んでください)

図13-5-1 市の施設の利用状況



【全体】

市の施設の利用状況について聞いたところ、「市役所」(67.8%)が7割近くで最も高く、次いで「アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階)」(31.2%)、「市立病院」(23.7%)、「荻野運動公園」(22.5%)、「公民館・地区市民センター」(21.7%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、上位2項目は令和5年度調査と同じ順位となっており、「市役所」(67.8%)は令和5年度調査(71.2%)より3.4ポイント減少している。

表13-5-1 市の施設の利用状況—経年変化(上位5項目と「利用したことがない」)

(%)									
順位	令和7年度 (n=1,487)	令和5年度 (n=1,446)	令和3年度 (n=1,603)	令和元年度 (n=1,467)	平成29年度 (n=1,480)	平成27年度 (n=1,471)	平成25年度 (n=1,270)	平成23年度 (n=814)	平成21年度 (n=1,610)
1	市役所 67.8	市役所 71.2	市役所 62.9	市役所 63.0	市役所 62.7	市役所 67.5	市役所 62.8	ぼうさいの丘公園 33.5	中央図書館 31.4
2	アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階) 31.2	アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階) 32.4	アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階) 29.3	アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階) 41.1	アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階) 42.9	アミューあつぎ 市民交流プラザ 37.7	中央図書館 29.1	中央図書館 29.2	文化会館 31.1
3	市立病院 23.7	公民館・地区市民センター 24.5	公民館・地区市民センター 24.3	公民館・地区市民センター 31.0	荻野運動公園 30.1	公民館・地区市民センター 34.4	ぼうさいの丘公園 26.8	文化会館 26.8	ぼうさいの丘公園 30.7
4	荻野運動公園 22.5	荻野運動公園 24.3	荻野運動公園 21.1	文化会館 26.0	文化会館 27.2	ぼうさいの丘公園 29.2	荻野運動公園 25.7	荻野運動公園 26.3	荻野運動公園 25.7
5	公民館・地区市民センター 21.7	ぼうさいの丘公園 23.0	ぼうさいの丘公園 20.3	荻野運動公園 24.9	厚木中央公園 26.4	文化会館 28.2	文化会館 25.6	厚木中央公園 24.0	市立公民館・地区市民センター 22.4
	利用したことがない 6.0	利用したことがない 7.1	利用したことがない 9.0	利用したことがない 5.7	利用したことがない 5.9	利用したことがない 6.3	利用したことがない 7.6	利用したことがない 15.6	利用したことがない 16.6

(注1)「保健福祉センター」は、平成29年度調査では「保健福祉センター(旧総合福祉センター・保健センター)」としていた。また、平成27年度調査以前では2つの選択肢「総合福祉センター」と「保健センター」としていた。

(注2)「スポーツセンター(東町・猿ヶ島・南毛利)」は、平成29年度調査以前では3つの選択肢「東町スポーツセンター」、「猿ヶ島スポーツセンター」、「南毛利スポーツセンター」としていた。

(注3)「野球場(厚木・玉川)」は、平成29年度調査以前では2つの選択肢「厚木野球場」と「玉川野球場」としていた。

(注4)「青少年・スポーツ広場」は、平成29年度調査以前では2つの選択肢「青少年広場」と「スポーツ広場」としていた。

(注5)「小・中学校の体育館または校庭」は、平成29年度調査以前では2つの選択肢「小・中学校の体育館」と「小・中学校の校庭」としていた。

(注6)「テニスコート(厚木・若宮公園)」は、平成29年度調査以前は2つの選択肢「厚木テニスコート」と「若宮公園テニスコート」としていた。

(注7)「市民交流プラザ(アミューあつぎ5～7階)」は、平成27年度調査では「アミューあつぎ 市民交流プラザ」としていた。また、平成25年度調査以前では選択肢に加えていない。

(注8)平成29年調査では「ちびっこ広場」の選択肢を追加していた。

(注9)平成29年度調査以降では「アミューあつぎ商業施設(1～4階、9階)」、「市立病院」、「環境センター」、「あつぎこどもの森公園」、「その他の公園」の選択肢を追加している。

(注10)平成25年度調査以降では「市役所」の選択肢を追加している。

14 自由意見

(1) 本調査や市に関する意見

最後に、本調査や市に関するご意見等がありましたら、お書きください。

市民の皆様からいただいた貴重な御意見を、できる限り掲載しました。

内容については原文を重視しておりますが、文意を損なわない範囲で、個人的な内容などを一部削除・修正しています。

【暮らしの状況】

- ・厚木市は自然と都市のバランスが取れていて、とても住みやすいと感じています。
- ・厚木は、都心への交通の便が良く自然環境へのアクセスもしやすく、住むのに良い地域だと思っています。
- ・厚木市はとても住みやすく自然豊かで温泉もあり、利便性もあるすてきな所なので、この環境をぜひ守ってほしいです。

【市の現状と将来】

- ・田園風景を残しながら、もう少し文化の充実を図ってほしい。
- ・厚木市は魅力ある街だと思います。自然環境も活かしつつ道路環境の整備も行い、より楽しく便利な良い街にしてほしいです。
- ・現在の厚木市の施策は概ね良いと思います。住んでいることを自慢できるふるさとだと感じています。今後も市民が厚木市民である事を、誇れるような市政を続けてほしいと思います。

【子育て・福祉・健康】

- ・高齢化社会になり、車を手放した後の買い物や病院通いができるように考えてほしい。ひとり暮らしの人に対する見守りや支援をもっと充実してほしい。
- ・かなちゃん手形の料金やシステムが変更されているようなので今までと同じように助成してほしい。高齢者が元気に外出したい、できると思えるような市政運営をお願いします。
- ・子育てに対する支援が増えると有り難いです。
- ・結婚、出産に関する補助を手厚くしてほしい。
- ・おむつの支援や子育て支援は他の市区町村より手厚く助かっています。これからも続けてほしい。
- ・保育園入所の手続きをもっと簡単にしてほしいです。あまり厳しいとこどもを作りたくなくなると思います。
- ・少子高齢化が進む中でセルフメディケーションの取組が、ますます大切になってくると思います。例えば、太極拳や薬膳、中医学などの教室や講座を増やしてほしい。
- ・コロナにかかった際に検査キットが置いてある薬局が近くに無く、駅前には薬局が複数あるが、車移動が前提の郊外に住んでいると不便。24時間営業の薬局の設置を希望します。
- ・単身世帯の対象者も助成をしてほしい。
- ・障がい者にやさしいまちになってほしい。

【安全・防災】

- ・防犯カメラ等を多く設置してほしい。
- ・将来のこどものために治安の良い市にしてほしいです。
- ・夜間の客引きの取締りは今後も続けてほしいです。
- ・夜遅い時間でも本厚木駅周辺等を安心して歩ける街にほしい。
- ・街灯が少ないので、一度、転んだことがあります。裏道でも、明るい道にほしいです。
- ・防災に力を入れてほしい。
- ・防災行政無線が聞こえにくいので、改善してほしい。
- ・浸水想定エリアに住んでいるので河川堤防の強化が必要だと思います。
- ・地震など自然災害が多くなってくると感じるので、対策を具体化してほしい。
- ・ペットの防災に強く関心があります。市内の同行避難が可能な施設の拡充をお願いします。
- ・近くに防災センターや消防学校があるにも関わらず、大雨の際に冠水してしまう道路があるので、道路の冠水対策を早急に対応してほしいです。

【教育・生涯学習・文化・スポーツ】

- ・市外から移住した人が、厚木で活躍できる居場所の提供を期待します。
- ・外国人居住者が増加しているが、地域になじめるように日本人の市民と交流の機会を作り、調和できるような環境を整えてほしい。
- ・バスやスーパーにおいて、外国人を見ない日はないので外国人の方々と公民館を介して交流できたら良いと思います。公民館が交流の場になれば便利だと思います。
- ・市長に地域の公民館などに来てもらい、市議会議員の方も一緒に市長と市民が対話する企画を考えてほしい。
- ・医療、給食費、保育料などのこどもたちへの無償化はとても助かっています。
- ・こどもがいるので厚木市の教育環境に強い関心があります。いじめがない、こどもたちが元気にいきいきと生活できる学校の環境を整備してほしいです。
- ・小・中学生のいじめ、不登校に対する対応の強化、知的障害者へのインクルーシブな視点で中学・高校の多様な受け入れが可能な体制を整備する必要があると思います。
- ・文化会館のイベント参加補助の回数を増やしてほしいです。
- ・厚木市のシンボルとなる遠くから見えるデザイン性のある建築物がほしい。
- ・高校野球やプロ野球が見られる野球場を作してほしい。

【環境】

- ・駅前の道は木の下に大量の鳥の糞が落ちているなど景観が悪いので道をきれいにしてほしい。
- ・市内の路上喫煙を禁止する取組の強化をお願いします。駅前で路上喫煙者が多すぎると感じます。
- ・以前、駅周辺を喫煙区域にした時はきれいになったが、最近ステッカーも見にくくなったせいか、吸い殻や、歩きタバコの人が増えています。外国人の方も見掛けます。こどものいる公園でのタバコはやめてほしいです。

- 家から駅までの道は花壇に花が美しく植えられています。信号を待つ時間も花を見かけると地元に応援されているような気分になります。仕事や外出の際に癒されます。花の整備、駐輪場や道路をいつも整えてもらい、感謝しています。
- 厚木市は山や川が多いので、もっと活用したら良いと思います。
- 厚木市は緑豊かな市で、七沢森林公園等良く整備されていると思います。出来れば高松山の桜の復活・整備を希望します。
- 道路沿いの樹木は伐採の傾向にありますが、温暖化に対応できるような木陰がほしいです。厚木高校の前のイチヨウ並木が理想的です。人だけでなく野生生物や虫なども住みやすい環境でいられる街であってほしい。
- 田園風景を壊して駐車場や住宅にするのが目立ちます。長谷地区も再開発整備計画があるようですが、田んぼの上に家が建つのは地盤の観点からも良くないし、なによりこの風景を壊してほしくない。後継者がいないなら農地の集積・集約化するなど活用してほしい。
- 小さい公園にも公衆トイレを設置してほしい。
- こどもたちが安全に遊べるように公園をきれいにしてほしい。
- 公園には、夏場の日除けとなる樹木・屋根の設置を進めてほしいです。
- ウォーキングが気持ち良い川沿いの道や小さな公園にトイレやベンチがほしいです。
- 空き地や河川敷を利用して犬を訓練するための広場やドッグランを作してほしい。
- 集積所の柵やカゴを丈夫な物にしてほしい。
- 生活ごみ処理の分かりやすさや、市民負担の少なさは厚木市の大きな魅力です。
- ごみ処理による問題は他の地域より優れていると思います。ごみ回収の日にちが多い。ゴミ袋が有料化されていないのも良心的です。
- 燃えるごみの戸別収集の地区に住んでいます。以前は集積所がきれいに保たれていました。戸別収集になってから燃えるごみが集積所に放置されることが増え、汚れて困っています。早く市内全域を戸別収集にしてほしいと思います。

【観光】

- 他の都市に買い物に行かなくて済むような市にほしい。
- ペットと一緒に入れるカフェ等が増えたり、農家の野菜が駅近等で安く買えると良いです。
- 鮎まつりの花火が来年から秋になると聞きました。今の気候や世の中の動きや変化に沿って開催するように希望します。
- 相模川、大山、飯山等の豊かな自然の資源を生かし、市民や観光に訪れる方が心を癒やし、食でも満足できるような施設や企業の後押しを市はしてほしい。

【まちづくり】

- 市民が利用できる宿泊施設、温泉がある保養施設を整備してほしい。
- 荻野運動公園や文化会館だけでなくアイドルを呼べるような大きな施設を作してほしい。
- 中央図書館以外で、中高生以上の人が午後9時頃まで使える学習室を備えた図書館がほしい。
- 市の施設については、中途半端なものを作らず、厚木が日本や世界に誇れるものがあって良いと思います。

- ・公民館にコンシェルジュ機能を持たせたらどうかと思います。医療や福祉を始めとする厚木市や周辺の情報が分かるように、困ったら公民館へ行くことで次の支援につながると便利だと思います。
- ・商業施設や大型ショッピングセンターを増やして若者が集まる街にしてほしい。
- ・郊外型の大規模商業施設、アウトレット、アミューズメント施設等、こどもも含めて半日楽しめる施設があれば、流入人口が増えると思います。
- ・アミューあつぎに映画館はありますが、もっと若い人も観に行くような作品を増やしてもらえると有り難いです。
- ・本厚木駅周辺の再開発事業を加速してほしい。
- ・本厚木駅、愛甲石田駅周辺の整備をもっと考えてほしい。
- ・駅周辺における店舗の誘致と活性化にもっと力を入れてほしい。
- ・一番街をアーケードにする。本厚木駅から新庁舎まで地下街を整備し、雨の日でも傘が不要な道を整備してください。
- ・本厚木駅の自家用車ロータリーが小さすぎます。まったく利用できず、はみ出して駐車する人もいてとても危険です。早急に改善してほしいです。
- ・豊かな自然は残しつつ、暮らしやすく整備して美しい街になると良いと思います。
- ・少子高齢化で衰退傾向を打開する強力な取組を希望します。明確な目指す姿が必要で『夢なき者に成功なし』です。
- ・立地に恵まれた厚木をもっと外部の方々の意見を聞き、活性化してください。ブランディングをして、緑豊かな湘南ブランドのようなまちづくりをお願いします。
- ・新庁舎の駅前移転について、市役所は必要な施設ですが、中心市街地の回復には、若者・家族・観光客が訪れたいくなる商業施設や広場、交流拠点の整備こそが必要だと思います。

【交通・道路】

- ・自転車マナー向上のために、交通公園を整備してほしい。
- ・自動車・自転車の交通マナーを改善し歩行者にも安全な街を作してほしい。
- ・自転車用の通路を安全に走行できるよう整備してほしいです。車に乗っていても、自転車の車道走行に危険を感じます。
- ・サイクルロードの自動二輪車侵入防止の徹底。自転車のルールやマナーを警察だけに頼らず市でも徹底的に指導してほしい。
- ・歩道を自転車で逆走したり、スマホを見ながらの人を多く見掛けます。自転車のルールを守ってもらうための取組をしてほしいです。
- ・厚木秦野道路の早期開通をお願いします。
- ・高齢者が安心して歩けるように、歩道を広くしてほしいです。
- ・特に本厚木駅周辺において、歩行者が安心して歩ける道路整備をしてほしい。
- ・健康増進や二酸化炭素削減、交通事故防止のため、自転車専用の道路を新設してほしい。
- ・駅周辺と国道246号に出る道路の渋滞を解消してほしい。自転車が安全に通行できる道路を確保してほしい。
- ・駅周辺は道路（歩道等）が比較的充実しているが、少し駅から離れると歩道等が無かったり、危険だったりすると思います。

- ・止まれの道路標識が薄いので書き直してほしいです。見通しの悪い道路のミラーについても、もう少し見やすくしてください。
- ・歩道を歩いていると雑草が伸びていて歩きにくく、バス停も木が邪魔をして待ちづらいです。歩道の整備に力を入れてほしい。
- ・歩道と車道間に雑草が生い茂り、通ろうとすると自動車側にはみ出すことになってしまいます。草刈りや道路の整備を早急に行ってほしいです。
- ・相模川沿いの遊歩道を拡張してほしいです。
- ・河川敷にサイクルロードを整備してほしい。
- ・最近、バイク乗りが増えているので時間貸しのバイク駐輪場を増やしてほしいです。
- ・駅前の駐車場をもっと増やしてほしい。こどもがいたり荷物が多くなったり、寝てしまうことを考えると車移動が優先になる。交通的にバス利用してほしいのだろうが、生活を考えるとバス利用は気乗りしない。
- ・サイクルアンドバスライドは良いと思います。
- ・相鉄線、本厚木駅乗り入れの検討をお願いします。
- ・近隣市のように住宅街にコミュニティバスが通ってほしい。
- ・バスなどの公共交通機関の利便性が良い、高齢になっても住みやすい街にしてください。
- ・路線バスは毎日使うので今の本数は維持してほしい。乗務員の確保については、現状維持も大変だと思うので、行政とバス会社が連携した乗務員の確保が必要だと思います。

【広報】

- ・広報紙は、自治会に加入していないため、公民館などに行かないともらえないので、各家庭に配布してほしい。
- ・厚木市に転入してきたばかりです。地域のイベント情報が入手しにくいのでもっとSNSで発信してほしいです。観光場所や美味しいお店など厚木市の魅力をたくさん知りたいです。

【行政・その他】

- ・健全な財政を継続してください。
- ・デジタル化については、オンライン申請のユーザーインターフェース、Web上の動線が使いやすいデザインであることが非常に重要です。
- ・市民サービスにおいて、良いサービスであれば多少の負担があっても仕方がない。お金を必要とすることもあるので、税収や市の財産を有効に活用できるよう工夫してほしい。
- ・様々な課題解決へ向けて、事業の見直しをタイムリーにスピード感をもって行ってほしい。新規事業や既存事業の内容見直しの参考には、他市の良質な事業を知ること大切だと思います。
- ・税金を安くしてほしい。
- ・住民税をもう少し下げてほしい。
- ・選挙の投票率について、高齢者の投票率を上げるには各ブロック毎に車を用意し、高齢者の希望をとって巡回すれば投票率も上がると思います。
- ・市役所を利用させていただいた際に職員の方の対応が非常に丁寧で、引っ越してきたばかりで不安な気持ちが晴れました。ありがとうございました。

- 厚木市役所へ行くと手厚い対応ができない方がいます。毎日多くの方への対応で大変さは分かりますが、相手は分からないから尋ねているので、丁寧な対応をお願いします。
- 自治会役員の負担軽減をお願いします。自治会費の集金など、高齢化により負担に感じる事が多くなったので、改められないでしょうか。広報の配布も月2回から1回にしてほしいです。
- 年々、自治会の加入世帯が減少しており、地域の中での交流の機会が減って活気がなくなっているように感じています。特に、防災訓練や年末の美化清掃には自治会に入っていない世帯の参加がありません。自治会加入率が上がるのが望ましいのですが、自治会加入の有無に関わらず、同じ市民として近隣の方々とふれあえる機会が増えることを望んでいます。
- 市長はやる気があって、市民目線を感じられて良いです。
- きめ細かいサービスを行っている厚木市を誇りに思います。
- 移住者ですが、市の環境は良いと思います。市政に関わる皆様に応援しています。
- 長年住み慣れた厚木市が、今後も安全で住みやすい街になるように、がんばってほしいです。応援しています。
- 私は外国人なので設問は全て英語での文章にしてほしい。
- その他の選択をした際、自由記載ができると意見が書きやすいです。
- 調査に回答した人には100円分くらいで良いと思うのでギフトコードプレゼント等にすれば回答する人が増えると思います。
- 厚木市は、子育てに関するサービスが大変充実していますが、その分、青年世代への補助が充実していないように感じます。他の都市では、結婚祝い金や市内への転居に補助があり、青年世代をサポートするサービスがあります。いつか厚木市に引っ越しをして来て良かったと思えるような、若い世代の方にも還元されるような補助やサービスができることを期待しています。

IV. 調査票と集計結果

厚木市民意識調査 調査票（A）

■最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

① 性別を教えてください。（n = 1, 487）

1 男性	45.2	3 その他	0.2		
2 女性	53.7	4 答えたくない	0.7	無回答	0.2

② 年齢を教えてください。（n = 1, 487）

1 20歳未満	1.1	4 40～49歳	13.1	7 70～79歳	19.7
2 20～29歳	8.7	5 50～59歳	18.6	8 80歳以上	12.5
3 30～39歳	10.2	6 60～69歳	15.9	無回答	0.1

③ 家族構成を教えてください。（n = 1, 487）

1 夫婦	28.8	4 親子孫（三世代）	4.4		
2 親子（親との二世代）	14.3	5 単身	25.0		
3 親子（子との二世代）	23.3	6 その他	3.8	無回答	0.5

④ お住まいの地区はどちらですか。（n = 1, 487）

1 厚木北（松枝、元町、東町、寿町、水引、厚木町、中町、栄町、田村町、吾妻町）	11.5
2 厚木南（幸町、泉町、旭町、南町、温水68～105番地、船子607～734番地、岡田1丁目8番）	5.9
3 依知北（上依知、猿ヶ島、山際、関口808～829番地、下川入）	7.5
4 依知南（関口、中依知、下依知、金田）	5.0
5 睦合北（棚沢、三田、三田南）	4.0
6 睦合南（三田南1丁目1～14番、妻田北、妻田南、妻田東、妻田西）	9.6
7 睦合西（及川、林、王子1丁目）	4.1
8 荻野（上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾）	11.5
9 小 鮎（飯山、飯山南、上古沢、下古沢、宮の里）	7.2
10 南毛利（戸室、恩名、愛名、温水、温水西、長谷、毛利台）	16.5
11 南毛利南（船子、愛甲、愛甲東、愛甲西）	4.7
12 玉 川（七沢、小野、岡津古久）	1.1
13 相 川（岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼）	5.2
14 緑ヶ丘（王子2丁目、王子3丁目、緑ヶ丘）	2.4
15 森の里	3.3
	無回答 0.3

⑤ お住まいの形態を教えてください。(n=1,487)

1 持ち家(分譲マンション含む)	71.1	5 社宅・寮・官舎	2.2
2 民営借家	2.0	6 間借り	0.7
3 民営アパート(賃貸マンション含む)	20.2	7 その他	1.9
4 公営住宅	1.6	無回答	0.4

⑥ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n=1,487)

1 20年以上(生まれてからずっと)	24.5	5 5~9年	7.1
2 20年以上(移り住んで以来)	43.9	6 3~4年	6.1
3 10~19年(生まれてからずっと)	0.9	7 2年以下	6.5
4 10~19年(移り住んで以来)	10.8	無回答	0.3

⑦ 職業を教えてください。(n=1,487)

1 会社員・公務員	36.5	4 パート・アルバイトなど	14.1	7 無職	24.8
2 自営業	6.2	5 学生	2.5	8 その他	2.2
3 農林業	0.1	6 専業主婦(主夫)	13.2	無回答	0.3

⑧ ⑦で1~5とお答えの方にお聴きします。通勤(通学)先はどこですか。(n=883)

1 厚木市内	53.0	4 東京23区内	8.2	7 その他	5.1
2 横浜・川崎市内	5.4	5 その他の都内	2.2	無回答	2.2
3 その他の県内	21.1	6 自宅	2.9		

⑨ 日頃、鉄道を利用する際の最寄駅はどちらですか。

(1つだけ選んでください)(n=1,487)

1 本厚木駅	78.8	3 海老名駅	6.5	5 その他	2.0
2 愛甲石田駅	10.1	4 厚木駅	0.6	無回答	2.0

■ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

問1 厚木市に住み続けたいですか。

(1つだけ選んでください) (n=1,487)

1	住み続けたい	46.3		
2	できれば住み続けたい	31.7		
3	できれば市外に移りたい	6.0		
4	市外に移りたい	1.7		
5	どちらともいえない ⇒ 問4へ	12.6	無回答	1.6

問2 問1で「住み続けたい」または「できれば住み続けたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=1,160)

1	自然環境が良い	25.3	8	交通の便が良い	17.1
2	教育環境が良い	0.8	9	人間関係が良い	3.6
3	子育て環境が充実している	4.1	10	生まれ育ったところである	11.2
4	保健福祉施策が充実している	3.9	11	住み慣れて愛着がある	34.2
5	自分の家や土地がある	46.2	12	通勤・通学に便利である	6.5
6	仕事や学校の関係がある	12.0	13	その他	2.9
7	買物が便利である	14.2		無回答	0.4

問3 問1で「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=115)

1	自然環境が良くない	5.2	7	買物が不便	38.3
2	教育環境が不十分	7.0	8	交通の便が悪い	34.8
3	子育て環境が不十分	3.5	9	人間関係が希薄である	6.1
4	保健福祉施策が不十分	7.8	10	通勤・通学に不便である	20.0
5	自分の家や土地でない	13.0	11	その他	22.6
6	仕事や学校の関係がない	5.2			

問4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(①～②について、それぞれ該当するものを3つまで選んでください) (n=1,487)

	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性が高いまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	研究所・大学等のある研究学園都市	若者が多い活気のあるまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	インターネットをいかした流通機能の高いまち	無回答
(記入例)	1	2	3	④	5	⑥	7	8	9	⑩	11	
①現在の厚木市のイメージ	40.5	36.6	28.3	34.1	4.2	22.7	7.1	3.6	14.9	4.2	27.5	5.0
②あなたが望む将来の厚木市	16.2	29.5	36.5	9.0	37.3	31.4	4.8	17.6	46.7	10.0	8.5	7.3

問5 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、どのような取組が必要であると思いますか。(5つまで選んでください) (n=1,487)

1	産前産後の育児や家事などの支援の充実	53.9
2	親のリフレッシュの場や機会の提供	27.6
3	サロン(児童館等における子育て支援活動)の充実	15.3
4	子育て支援センター「もみじの手」の充実	15.7
5	子育て相談体制の充実	30.6
6	延長保育、休日保育など保育サービスの充実	46.7
7	新たな認可保育所の整備	17.4
8	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	35.5
9	特別支援教育・保育の充実	18.5
10	事業主などへの仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	30.6
11	放課後児童クラブ(学童保育)の充実	30.9
12	子どもの貧困対策の充実	33.2
13	その他	7.5
	無回答	7.1

問 6 誰もが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる社会（地域包括ケア社会）の実現について、どのような取組が必要であると思いますか。
（5つまで選んでください）（n = 1, 487）

1	住民の理解を促進するための学習機会・広報・普及啓発の充実	10.6
2	住民がお互いに助け合える地域社会づくり	30.7
3	住民が気軽に集える居場所づくり	21.4
4	住民が地域で活躍できる機会・場所の充実	12.2
5	一人暮らし、高齢者、障がい者、ひとり親などの世帯を見守る体制の充実	63.1
6	医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅で生活できる周辺環境の整備	47.7
7	介護や福祉の公的サービスの充実	45.8
8	買物やごみ出しなどの生活支援サービスの充実	25.2
9	医療・介護・生活支援サービスの情報一元化	25.4
10	医療や介護の専門職の人材の確保及び育成	21.6
11	医療や介護などに関して気軽に相談できる窓口の充実	25.8
12	病院や介護施設などの充実	37.3
13	生活習慣病予防や介護予防・認知症予防の取組の充実	14.9
14	医療・介護・介護予防などに充当するための財源確保	35.7
15	その他	2.7
	無回答	2.0

問 7 がん検診を受診していますか。

（1つだけ選んでください）（n = 1, 487）

1	厚木市のがん検診を受診している	28.6
2	人間ドックで「がん検診」を受診している	9.1
3	職場や学校の健康診査で「がん検診」を受診している	15.8
4	受診していない	44.9
	無回答	1.6

問 8 自殺を予防するために、どのような対策が必要であると思いますか。

（1つだけ選んでください）（n = 1, 487）

1	積極的な相談事業の展開	29.9
2	啓発事業の推進（広報・キャンペーン）	6.9
3	自殺のサインに気付く役割を担う人材（ゲートキーパー）の育成	23.0
4	関係機関等との連携の強化	18.0
5	特に有効な対策はない	18.6
	無回答	3.6

問 9 風邪などにかかったとき、通院する医療機関は決まっていますか。

(1つだけ選んでください) (n = 1, 487)

1	かかりつけの医院や診療所	65.0	3	特に決まっていない	27.1
2	総合病院などの大きな病院	6.4	4	その他	0.5
					無回答 1.0

問 10 自分の人権が侵害されたと感じたことはありますか。

(1つだけ選んでください) (n = 1, 487)

1	ある	19.8	2	ない	77.5	無回答	2.7
---	----	------	---	----	------	-----	-----

問 11 どのような人権問題や差別に対して、関心がありますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 487)

1	女性	31.4
2	子ども	21.3
3	高齢者	28.6
4	障がいのある人	41.3
5	部落差別(同和問題)	7.6
6	アイヌの人々	4.2
7	外国人	21.3
8	感染症	14.5
9	ハンセン病患者等	4.0
10	刑を終えて出所した人	8.2
11	犯罪被害者等	11.7
12	インターネットによる人権侵害	38.9
13	北朝鮮当局によって拉致された被害者等	13.4
14	ホームレス	10.4
15	性的マイノリティ(恋愛・性愛の対象や自身の性認識等)	13.7
16	人身取引	10.4
17	震災等に起因する人権問題	17.8
18	関心が無い	9.4
		無回答 3.9

問 12 多文化への理解を深め、国際化に対応するためには、どのような取組が必要であると思いますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 487)

1	文化・スポーツ等の交流の推進	46.9	7	海外友好都市等との交流	19.4
2	外国籍市民との交流促進	27.2	8	外国の大学・企業等の誘致	11.8
3	青少年海外研修の推進	15.1	9	多文化理解を推進する講座等の開催	16.7
4	学校・社会教育での意識の醸成	43.5	10	市内企業の国際活動の支援	12.6
5	多言語による行政情報等の提供	19.9	11	新たな海外友好都市の締結	6.9
6	外国籍市民との活動場所の提供	19.8	12	その他	8.4
				無回答	5.0

問 13 現在の教育において、どのような取組が重要であると思いますか。

(1つだけ選んでください) (n = 1, 487)

1	家庭・学校・地域との連携に向けた取組	19.7	6	教員の働き方改革に向けた取組	11.9
2	家庭での教育力の向上に向けた取組	5.4	7	教員の指導力向上に向けた取組	11.1
3	学力の向上に向けた取組	5.6	8	いじめ、暴力行為などの対応	21.3
4	体力の向上に向けた取組	4.5	9	不登校などの対応	4.6
5	子どもの規範意識の醸成に向けた取組	10.0	10	その他	3.0
				無回答	2.9

問 14 文化芸術活動をより充実させるために、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n = 1, 487)

1	文化会館での鑑賞機会の充実	30.3
2	活動発表の機会の充実	16.6
3	活動を担う人・支える人の発掘及び支援	30.8
4	施設の整備	24.2
5	活動への参加や鑑賞に関する情報提供	30.2
6	文化芸術を通じた国際交流や地域間交流	11.7
7	地域の風土や郷土文化に配慮した都市景観の創造	13.5
8	その他	4.6
		無回答 3.6

問 15 講座・教育などの学習活動へ参加を検討する場合、どのような理由が妨げとなりますか。
(1つだけ選んでください) (n = 1, 487)

1 参加する時間がない	30.7	5 参加したい講座等がない	15.4
2 学習機会に関する情報がない	16.0	6 特に支障はない	16.6
3 学習しても成果をいかす場がない	4.8	7 その他	6.5
4 一緒に学ぶ仲間がいない	6.5	無回答	3.5

問 16 運動（スポーツ）をどのような目的で、また、どのくらいの頻度で行っていますか。
(①～⑤について、それぞれ1つだけ選んでください) (n = 1, 487)

	ほぼ毎日	週 3～4回	週 1～2回	月 1～3回	して いない	その他	無回答
(記入例) ① 健康管理	1	2	③	4	5	6	
① 健康管理	14.0	9.8	19.3	11.6	36.2	2.4	6.7
② 趣味	4.4	4.9	13.1	13.7	48.8	2.6	12.5
③ 競技	0.5	1.1	3.0	2.8	77.2	1.3	14.1
④ 習い事	0.6	0.8	4.4	3.4	76.2	1.2	13.4
⑤ ①～④以外の目的	2.5	1.3	2.8	3.2	60.5	4.3	25.4

問 17 今後、どのようなスポーツイベントを開催してほしいですか。
(いくつでも選んでください) (n = 1, 487)

1 個人のレベル（初級・中級・上級）に合わせた教室	33.8
2 有名選手の講演会	16.1
3 スポーツ観戦	39.0
4 参加・体験型	31.0
5 競技型	3.8
6 パラスポーツ（障がい者スポーツ）の体験	6.5
7 その他	11.7
無回答	6.9

問 18 厚木市の観光の活性化には、どのような取組が重要だと思いますか。

(2つまで選んでください) (n = 1, 487)

1	駐車場の整備などの交通利便性の向上	36.5
2	高齢者や障がい者などが利用しやすい観光地づくり	19.2
3	食(グルメ)、特産品など地域性のある観光資源の育成	33.2
4	テレビ・インターネットを利用した観光地の紹介	14.5
5	四季折々のイベントの開催	19.2
6	温泉地(あつぎ温泉郷)の整備	18.6
7	ハイキングコースや公園などの自然をいかした観光資源の整備	19.2
8	他市と連携した広域的な観光ルートの創出	4.5
9	スポーツイベント等をいかした新たな観光分野の開拓	5.4
10	外国人旅行客向け観光プランの充実	3.0
11	観光ガイドなどの人材の育成	3.6
12	その他	3.8
	無回答	2.3

問 19 家庭では、どのような情報機器を利用していますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 487)

1	パソコン	47.0	4	その他	6.1
2	スマートフォン(携帯電話含む)	88.0	5	利用していない	5.5
3	タブレット型端末	24.1		無回答	2.4

問 20 厚木市の情報を主に何から入手していますか。

(2つまで選んでください) (n = 1, 487)

1	広報あつぎ(紙)	62.0	8	回覧板	13.0
2	市のホームページ	20.5	9	ラジオ	0.9
3	その他のウェブサイト	12.4	10	ケーブルテレビ	6.3
4	市の公式 SNS	7.5	11	新聞(日刊紙)	3.6
5	デジタルサイネージ(電子看板)	1.2	12	タウン誌・ミニコミ誌	8.3
6	公民館だより	13.1	13	その他	8.7
7	パンフレット・チラシ・ポスター	8.1		無回答	2.3

問 21 現在、厚木市には使用料が有料の施設と無料の施設（公民館など）がありますが、無料の施設の有料化についてどのように思いますか。

（1つだけ選んでください）（n = 1, 487）

1 施設の利用者と未利用者における負担の公平性（受益者負担）を考慮して有料化した方が良い	16.0
2 施設の維持管理等に掛かる経費を考慮して有料化した方が良い	22.1
3 施設を利用する内容や目的を考慮して有料化した方が良い	21.1
4 有料化する必要はない	37.9
無回答	2.9

問 22 様々な行政サービスのデジタル化を推進するためには、どのような取組が必要であると思いますか。

（2つまで選んでください）（n = 1, 487）

1 パソコンやスマートフォンなどを活用できる生活に密着した行政サービスの提供	42.0
2 個人情報保護など情報セキュリティの確保	38.7
3 パソコンの操作技術を向上させるための講座や研修の充実	8.6
4 スマートフォンの操作技術を向上させるための講座や研修の充実	16.7
5 ホームページやソーシャルメディアなどのインターネットサービスを活用した情報発信	15.5
6 オンライン申請など時間や場所を問わず手続きが可能な行政サービスの提供	38.9
7 その他	5.8
無回答	5.1

問 23 今後もより良い市民サービスを維持していくため、どのような取組が必要であると思いますか。

（1つだけ選んでください）（n = 1, 487）

1 少子高齢化や人口減少など社会環境の変化を見据えた事業の見直し	50.1
2 民間事業者との協力や市民協働など官民連携の推進	9.8
3 事業の民間委託の推進	4.4
4 事業の見直しによる経費削減や新たな財源確保による収入増加	13.7
5 近隣自治体との機能分担や事務の共同処理などの都市間連携の推進	6.1
6 分からない	13.0
無回答	2.9

問 24 今後厚木市には、どのような施設が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください) (n = 1,487)

1	公園	14.2	16	美術館	9.8
2	子育て広場	9.6	17	博物館	2.4
3	スポーツ施設	12.4	18	科学館	3.1
4	公民館・地区市民センター	3.5	19	植物園	5.6
5	児童館	1.5	20	動物園	3.9
6	図書館	8.3	21	水族館	4.6
7	老人憩の家	5.6	22	遊園地	3.8
8	老人ホーム	16.0	23	市民農園	4.0
9	病院・診療所	16.3	24	地場農産物直売所	10.8
10	霊園	2.1	25	百貨店・スーパー	28.4
11	葬祭場	1.1	26	ホテル	1.3
12	多目的アリーナ	14.8	27	駐車場・駐輪場	13.5
13	音楽・演劇等ホール	8.8	28	大型備蓄倉庫	7.4
14	音楽・演劇等専用練習場	2.5	29	その他	5.9
15	映画館	23.7		無回答	5.5

問 25 この1年間に、利用された「市の施設」を教えてください。

(いくつでも選んでください) (n = 1,487)

1	市役所	67.8	16	ぼうさいの丘公園	20.5
2	文化会館	15.3	17	厚木中央公園	18.5
3	アミューあつぎ商業施設(1~4階、9階)	31.2	18	荻野運動公園	22.5
4	市民交流プラザ(アミューあつぎ5~7階)	12.2	19	あつぎこどもの森公園	2.6
5	子育て支援センター「もみじの手」	2.1	20	その他の公園	8.1
6	市立病院	23.7	21	スポーツセンター(東町・猿ヶ島・南毛利)	4.3
7	保健福祉センター	9.5	22	野球場(厚木・玉川)	1.0
8	神奈川工科大学厚木市子ども科学館	2.8	23	ツユキ及川球技場	2.8
9	中央図書館	16.5	24	青少年・スポーツ広場	2.2
10	老人福祉センター寿荘	1.5	25	小・中学校の体育館または校庭	3.6
11	あつぎ郷土博物館	4.3	26	テニスコート(厚木・若宮公園)	1.3
12	公民館・地区市民センター	21.7	27	環境センター	8.3
13	老人憩の家	5.2	28	ふれあいプラザ	6.9
14	児童館	3.7	29	その他	1.2
15	七沢自然ふれあいセンター	4.1	30	利用したことがない	6.0
				無回答	4.6

ご協力ありがとうございました。

最後に、本調査や市に関するご意見等がありましたら、お書きください。

厚木市民意識調査 調査票（B）

■最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

① 性別を教えてください。（n = 1, 451）

1	男性	45.6	3	その他	0.0		
2	女性	52.5	4	答えたくない	1.4	無回答	0.5

② 年齢を教えてください。（n = 1, 451）

1	20歳未満	1.2	4	40～49歳	13.0	7	70～79歳	19.6
2	20～29歳	8.1	5	50～59歳	19.2	8	80歳以上	12.8
3	30～39歳	9.8	6	60～69歳	16.2		無回答	0.1

③ 家族構成を教えてください。（n = 1, 451）

1	夫婦	30.0	4	親子孫（三世代）	4.5		
2	親子（親との二世代）	15.0	5	単身	24.1		
3	親子（子との二世代）	22.6	6	その他	3.2	無回答	0.6

④ お住まいの地区はどちらですか。（n = 1, 451）

1	厚木北（松枝、元町、東町、寿町、水引、厚木町、中町、栄町、田村町、吾妻町）	11.4
2	厚木南（幸町、泉町、旭町、南町、温水68～105番地、船子607～734番地、岡田1丁目8番）	5.8
3	依知北（上依知、猿ヶ島、山際、関口808～829番地、下川入）	7.2
4	依知南（関口、中依知、下依知、金田）	5.2
5	睦合北（棚沢、三田、三田南）	4.5
6	睦合南（三田南1丁目1～14番、妻田北、妻田南、妻田東、妻田西）	9.2
7	睦合西（及川、林、王子1丁目）	4.1
8	荻野（上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾）	11.4
9	小鮎（飯山、飯山南、上古沢、下古沢、宮の里）	6.5
10	南毛利（戸室、恩名、愛名、温水、温水西、長谷、毛利台）	16.8
11	南毛利南（船子、愛甲、愛甲東、愛甲西）	5.2
12	玉川（七沢、小野、岡津古久）	1.7
13	相川（岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼）	5.7
14	緑ヶ丘（王子2丁目、王子3丁目、緑ヶ丘）	1.5
15	森の里	3.4
		無回答 0.3

⑤ お住まいの形態を教えてください。(n=1,451)

1 持ち家(分譲マンション含む)	71.7	5 社宅・寮・官舎	2.4
2 民営借家	2.0	6 間借り	0.8
3 民営アパート(賃貸マンション含む)	18.8	7 その他	1.3
4 公営住宅	2.3	無回答	0.7

⑥ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n=1,451)

1 20年以上(生まれてからずっと)	25.1	5 5~9年	7.7
2 20年以上(移り住んで以来)	43.3	6 3~4年	6.1
3 10~19年(生まれてからずっと)	1.0	7 2年以下	5.4
4 10~19年(移り住んで以来)	11.2	無回答	0.2

⑦ 職業を教えてください。(n=1,451)

1 会社員・公務員	36.2	4 パート・アルバイトなど	16.1	7 無職	23.4
2 自営業	4.9	5 学生	1.9	8 その他	3.0
3 農林業	0.5	6 専業主婦(主夫)	13.3	無回答	0.7

▶⑧ ⑦で1~5とお答えの方にお聴きします。通勤(通学)先はどこですか。(n=864)

1 厚木市内	54.3	4 東京23区内	7.3	7 その他	5.2
2 横浜・川崎市内	6.7	5 その他の都内	2.2	無回答	1.6
3 その他の県内	20.0	6 自宅	2.7		

⑨ 日頃、鉄道を利用する際の最寄駅はどちらですか。

(1つだけ選んでください)(n=1,451)

1 本厚木駅	75.8	3 海老名駅	7.5	5 その他	2.3
2 愛甲石田駅	11.4	4 厚木駅	0.7	無回答	2.3

■ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。
該当する数字を○印で囲んでください。

問1 厚木市に住み続けたいですか。

(1つだけ選んでください) (n=1,451)

1	住み続けたい	46.7		
2	できれば住み続けたい	31.8		
3	できれば市外に移りたい	6.3		
4	市外に移りたい	2.0		
5	どちらともいえない ⇒ 問4へ	12.1	無回答	1.2

問2 問1で「住み続けたい」または「できれば住み続けたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=1,138)

1	自然環境が良い	30.3	8	交通の便が良い	16.1
2	教育環境が良い	0.4	9	人間関係が良い	4.2
3	子育て環境が充実している	5.1	10	生まれ育ったところである	12.0
4	保健福祉施策が充実している	4.7	11	住み慣れて愛着がある	33.2
5	自分の家や土地がある	43.2	12	通勤・通学に便利である	5.9
6	仕事や学校の関係がある	11.5	13	その他	2.7
7	買物が便利である	12.6		無回答	0.3

問3 問1で「できれば市外に移りたい」または「市外に移りたい」とお答えの方は、どのような理由ですか。

(2つまで選んでください) (n=120)

1	自然環境が良くない	9.2	7	買物が不便	34.2
2	教育環境が不十分	3.3	8	交通の便が悪い	45.8
3	子育て環境が不十分	3.3	9	人間関係が希薄である	10.8
4	保健福祉施策が不十分	5.8	10	通勤・通学に不便である	18.3
5	自分の家や土地でない	8.3	11	その他	20.0
6	仕事や学校の関係がない	5.8			

問4 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいと思いますか。

(①～②について、それぞれ該当するものを3つまで選んでください) (n=1,451)

	自然環境の豊かなまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性が高いまち	花火大会や温泉のある商業・観光のまち	防犯・防災対策が充実したまち	保健福祉・子育て環境が充実したまち	研究所・大学等のある研究学園都市	若者が多い活気のあるまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	市民の自発的なまちづくりが活発なふれあいのまち	インターネットをいかした流通機能の高いまち	無回答
(記入例)	1	2	3	④	5	⑥	7	8	9	⑩	11	
①現在の厚木市のイメージ	43.3	35.0	25.6	35.8	4.5	24.7	7.8	4.3	13.0	3.8	24.1	6.3
②あなたが望む将来の厚木市	16.7	31.4	38.1	8.8	35.8	31.5	4.8	19.0	46.1	10.0	7.0	7.1

問5 本厚木駅周辺の治安について、過去と比べてどのように感じますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,451)

1 大変良くなった	2.9	4 悪くなった	13.4
2 良くなった	25.9	5 大変悪くなった	3.0
3 変わらない	25.5	6 分からない	28.4
無回答			0.9

問6 防犯対策について、どのような取組が効果的だと思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=1,451)

1	夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ	31.9
2	防犯カメラの設置	40.7
3	道路・公園・駐車場などで、犯罪の発生しやすい死角をなくす	18.6
4	地域住民等によるパトロール	4.7
5	広報等により市民に防犯を呼びかける	1.4
6	その他	2.0
	無回答	0.8

問 7 セーフコミュニティの手法を用いた安心・安全なまちづくりに、関心がありますか。
(1つだけ選んでください) (n = 1, 451)

1	とても関心がある	16.8	4	関心がない	4.7
2	少し関心がある	41.4	5	どちらともいえない	20.2
3	あまり関心がない	14.7		無回答	2.3

問 8 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動（愛の目運動）」などの活動に参加したいと思いますか。
(1つだけ選んでください) (n = 1, 451)

1	すでに参加している	6.1	3	将来的には参加したい	18.5
2	機会があれば参加したい	20.2	4	参加は考えていない	52.9
				無回答	2.2

問 9 いざという時のために、どのような応急手当を身に付ける必要があると思いますか。
また、どのような応急手当ができますか。
(①～②について、いくつでも選んでください) (n = 1, 451)

	止血	食べ物などがのどに詰まった場合の対処	心臓マッサージ（胸骨圧迫）	AED（自動体外式除細動器）の使用	人工呼吸	その他	何もできない	無回答
（記入例）① 身に付ける必要がある応急手当	①	2	③	4	⑤	6		
① 身に付ける必要がある応急手当	55.4	56.0	56.5	66.5	31.4	4.2		8.0
② 実行できる応急手当	34.7	17.6	30.7	31.1	16.4	3.4	33.1	7.0

問 10 地球温暖化防止には、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n = 1,451)

1	再生可能エネルギーの普及拡大	52.8	5	森林等の保全・創出	44.4
2	省エネルギーの推進	32.3	6	情報提供と環境教育の充実	13.8
3	自動車の利用抑制	8.8	7	その他	4.3
4	循環型社会の構築	20.5		無回答	2.7

問 11 豊かな自然環境や生態系を守っていくには、どのような取組が必要であると思いますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1,451)

1	生き物に関するイベントや市民講座の開催	18.7
2	自然や生き物の保護に携わる人材の育成	53.3
3	里地里山の保全活動の活性化	54.7
4	定期的な美化活動の実施	39.4
5	外来生物の駆除	49.3
6	その他	3.4
	無回答	2.3

問 12 資源とごみの分別を意識していますか。

(1つだけ選んでください) (n = 1,451)

1	意識している	70.5	3	あまり意識していない	2.3
2	おおむね意識している	25.4	4	意識していない	0.4
				無回答	1.3

問 13 ごみの減量化・資源化を推進する上で、どのような取組が重要であると思いますか。

(2つまで選んでください) (n = 1,451)

1	家庭での資源とごみの分別の徹底	62.4
2	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	31.4
3	販売店の過剰包装の削減	30.6
4	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	22.3
5	小・中学校における環境学習の充実	12.0
6	環境問題（ごみ減量化・資源化）を学習できる場の提供や施設見学会の実施	9.3
7	生ごみ処理機等の購入	9.8
8	出前講座等の実施	0.6
9	その他	4.1
	無回答	1.8

問 14 厚木市内の河川整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(1つだけ選んでください) (n = 1,451)

1	自然環境に配慮した河川整備	37.8
2	治水機能を重視した河川整備	24.1
3	水辺の自然を楽しむ親水施設の整備	19.6
4	機能保全を目的とした施設維持	6.4
5	河川敷における植栽等の維持管理	8.1
6	その他	2.0
	無回答	2.0

問 15 まちづくり全般の変化について、おおむね5年前と比べてどう感じますか。

(①～⑲について、それぞれ1つだけ選んでください。)

転入されて5年未満の方は、次の設問へお進みください。(n=1,282)

	5年前と比べ			
	良 く な っ た	変 わ ら な い	悪 く な っ た	無 回 答
(記入例) ① 子育てへの支援	①	2	3	
① 子育てへの支援	49.0	36.1	0.6	14.3
② 福祉サービスの充実	29.5	55.7	2.9	11.9
③ 災害に強い都市環境	16.3	69.6	1.5	12.6
④ 地域の防災対策	16.7	67.2	4.0	12.2
⑤ 自転車の安全な利用	14.0	53.8	20.6	11.5
⑥ 防犯対策の推進	16.7	65.7	5.6	12.0
⑦ 健康増進の対策や支援	26.4	59.4	1.9	12.4
⑧ 生涯学習・文化芸術活動の場と機会	18.3	64.7	2.2	14.7
⑨ スポーツ・レクリエーション活動の場と機会	18.9	63.7	3.5	13.9
⑩ カーボンニュートラルへの取組	10.9	70.6	1.9	16.6
⑪ 河川など水辺空間の活用	11.1	70.1	4.7	14.1
⑫ 公園や自然環境など緑の空間	23.6	57.5	6.2	12.8
⑬ 市街地のユニバーサルデザイン(※)化 (※)誰もが使いやすい機能や空間にすること	15.2	65.2	4.4	15.1
⑭ 安全な道路整備	21.9	57.7	9.0	11.3
⑮ 交通混雑の緩和対策	10.9	62.6	15.6	10.9
⑯ 企業・商業の活性化	8.9	54.8	23.7	12.6
⑰ 地域資源を活用した観光振興	7.7	70.2	7.2	14.9
⑱ 市民協働の推進	8.3	73.2	3.0	15.4
⑲ 行政サービスのデジタル化	30.7	52.3	3.0	14.0

問 16 日常的に、どこにある店舗・施設を利用していますか。

(①～⑪について、それぞれ1つだけ選んでください) (n = 1, 451)

		自宅 周辺	本厚 木駅 周辺	愛甲 石田 駅周 辺	その 他厚 木市 内	近隣 市	横浜 市内	東京 23区 内	イン ター ネッ ト	その 他	利用 しない	無回 答
(記入例) ① 食料品		1	2	3	④	5	6	7	8	9	10	
店 舗	① 食料品	59.8	14.7	1.3	13.6	6.0	0.0	0.0	0.9	0.9	0.3	2.5
	② 外食	21.2	28.9	1.0	19.3	11.8	1.0	1.4	0.3	2.1	8.2	4.7
	③ 日用衣料品・雑貨	27.4	22.9	0.6	19.3	15.8	0.7	0.6	7.1	1.7	0.2	3.8
	④ 高級衣料品・装飾品	1.7	7.6	0.1	4.6	15.2	11.4	11.6	8.5	4.5	28.3	6.5
	⑤ 電気製品・家具・趣味用品	17.4	13.4	0.1	28.3	12.5	1.0	1.2	17.7	1.9	1.7	4.6
施 設	⑥ 病院・診療所	39.4	21.3	1.7	23.2	8.6	0.6	0.3	0.0	0.7	1.0	3.3
	⑦ 郵便局・金融機関	47.6	26.8	2.3	13.8	2.3	0.3	0.2	1.7	0.6	0.8	3.7
	⑧ 幼稚園・保育所	15.4	2.8	0.3	4.7	1.0	0.0	0.1	0.1	0.4	62.0	13.3
	⑨ 福祉・介護施設	13.2	5.6	0.5	9.6	1.3	0.0	0.1	0.1	0.8	59.5	9.4
	⑩ 公園・スポーツ施設	26.6	7.9	0.3	17.2	4.8	0.2	0.4	0.0	0.9	34.0	7.6
	⑪ 趣味・習い事	13.4	12.4	0.2	10.3	5.4	0.7	1.7	1.9	3.2	42.4	8.5

問 17 徒歩や自転車で移動できる自宅周辺に、どのような施設が必要であると思いますか。

(5つまで選んでください) (n = 1, 451)

1 飲食店	42.1	8 市役所などの行政窓口	29.6
2 食料品など日常的な買い物をする施設	68.2	9 郵便局や金融機関	45.3
3 コンビニエンスストア	42.4	10 図書館(図書室)	12.2
4 大型の商業施設	22.3	11 スポーツ施設	13.9
5 病院・診療所	58.6	12 公民館や集会施設	13.2
6 デイサービスなどの福祉・介護施設	15.1	13 その他	6.1
7 幼稚園・保育所などの子育て関連施設	9.4		無回答 4.2

問 18 現在の本厚木駅周辺（中心市街地）のイメージについて、どのように感じますか。

（①～⑩について、それぞれ1つだけ選んでください）（n = 1, 451）

（記入例）① 活気	ある	普通	ない	無回答
① 活気	ある 20.5	普通 52.9	ない 21.6	5.0
② 明るさ・清潔感	ある 15.1	普通 62.4	ない 18.1	4.4
③ 駐車場	多い 10.2	普通 51.9	少ない 32.8	5.1
④ 駐輪場	多い 6.5	普通 56.5	少ない 30.0	7.0
⑤ 商店（飲食店等）	多い 26.0	普通 54.2	少ない 14.6	5.2
⑥ マンション（住宅）	多い 41.8	普通 48.4	少ない 4.1	5.7
⑦ 緑	多い 6.3	普通 40.1	少ない 48.8	4.8
⑧ 歩道の整備	良い 11.6	普通 60.8	悪い 23.1	4.5
⑨ 治安	良い 6.6	普通 57.1	悪い 31.7	4.5
⑩ 交通混雑の状況	良い 2.0	普通 46.9	悪い 46.9	4.2

問 19 本厚木駅周辺で、仕事・学校帰りや休みの日にどのようなことをしたいですか。

（3つまで選んでください）（n = 1, 451）

1 知人・友人とおしゃべりをする	28.7
2 夫婦や恋人同士でデートをする	12.0
3 ゆっくり自分だけの時間を過ごす	33.4
4 おいしい料理を楽しむ	48.2
5 買い物を楽しむ	53.8
6 コンサートやお祭りなどのイベントに参加する	11.2
7 個人の能力を高める講座・勉強会に参加する	7.7
8 市民活動に参加する	2.0
9 公園などで緑を眺めリラックスする	16.3
10 運動やスポーツをする	11.6
11 絵画や彫刻、現代アートなどの芸術に触れる	7.4
12 その他	10.1
無回答	4.8

問 20 厚木市の将来的なまちづくりについて、優先的にどのような取組が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください) (n = 1,451)

1	中心市街地の整備による活性化	45.3	6	身近な公園や緑地の整備	26.1
2	魅力ある都市景観の創造	23.1	7	河川の保全と親しみやすい水辺の環境づくり	20.1
3	インターチェンジ周辺の新たな拠点づくり	13.6	8	優良な農地の保全と有効利用	16.7
4	良好な住環境の保全	45.1	9	幹線道路の計画的な整備	24.7
5	豊かな自然環境の保護	32.5	10	その他	5.4
					無回答 4.8

問 21 本厚木駅周辺に訪れるとき、自宅からはどのような交通手段を利用されますか。

(1つだけ選んでください) (n = 1,451)

1	自家用車	38.5	3	タクシー	0.8	5	バイク	2.1	7	徒歩	17.2
2	バス	28.5	4	電車	2.5	6	自転車	7.3		無回答	3.1

問 22 本厚木駅周辺に訪れるとき、主にどちらの駐車場を利用されますか。

(1つだけ選んでください) (n = 1,451)

1	店舗等の専用駐車場	27.4	5	民間のコインパーキング等時間貸し駐車場	16.9
2	厚木中央公園地下駐車場	3.6	6	自動車で行かない・駐車場を利用しない	26.3
3	中町立体駐車場	14.3	7	その他	3.9
4	民間の月極駐車場	1.5			無回答 6.2

問 23 厚木市内のバス交通について、どのような取組が必要であると思いますか。

(3つまで選んでください) (n = 1,451)

1	鉄道との乗り継ぎの向上	20.0
2	定時性の向上（ダイヤに正確な運行）	21.0
3	バス待ち環境の向上（バス停のベンチ、屋根の設置、スペース（広さ））	35.2
4	運行本数の増加	31.6
5	コミュニティバスなどの運行	29.7
6	運賃の見直し	20.5
7	ノンステップバス（超低床バス）の導入促進	8.7
8	始発、終発の見直し	12.5
9	運行ルートの見直し	10.3
10	送迎バス、観光バス等の発着場所の整備	7.2
11	料金、行先案内等の明確化	7.2
12	サイクルアンドバスライド（バス停を利用する方のための駐輪場の設置）事業の推進	5.7
13	特になし	11.6
		無回答 4.3

問 24 厚木市の道路の現状について、どのように感じますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 451)

1	混雑がひどい	48.4	7	歩道が少なく、安心して歩けない	32.5
2	混雑が改善されてきた	9.4	8	未舗装道路が多い	3.2
3	バリアフリー化が進んできた	4.2	9	舗装状態が良くない	23.3
4	よく整備されている	9.2	10	降雨時に冠水する	12.7
5	道路の幅が狭い	33.5	11	その他	8.2
6	工事が多い	14.6		無回答	5.0

問 25 厚木市の道路整備について、どのような取組が必要であると思いますか。

(いくつでも選んでください) (n = 1, 451)

1	混雑解消（交差点の改良等）	58.9
2	バリアフリー化の更なる推進	19.5
3	都市計画道路など幹線道路の早期完成	17.8
4	生活道路を中心とした道路の拡幅	28.7
5	歩道の設置	36.6
6	未舗装道路の舗装整備	7.9
7	安心して散策できる遊歩道等の整備	27.2
8	災害時・緊急時に対応できる走路の整備	17.8
9	街路灯・カーブミラー等の整備	33.9
10	騒音等の環境対策	11.6
11	高速道路の整備	2.0
12	バス等の公共交通機関への支援	26.7
13	道路景観の改善	4.7
14	市内に整備予定のインターチェンジへのアクセス道路の整備	7.4
15	冠水対策	19.5
16	その他	5.2
	無回答	4.3

ご協力ありがとうございました。

最後に、本調査や市に関するご意見等がありましたら、お書きください。

--

厚木市民意識調査報告書

令和 8 年 1 月

発 行 厚木市

企画・編集 厚木市広報シティプロモーション課
〒243-8511 厚木市中町三丁目 17 番 17 号
電話 046 (225) 2043

調 査 協 力 株式会社エスピー研

令和7年度厚木市表彰式・厚木市教育委員会表彰式について

1 目的

市政の振興、公共の福祉の増進、文化の向上等に功労のあったもの又は広く市民の模範となるものを表彰します。

2 日時 令和8年1月31日(土) 午前9時30分から午前11時15分まで

3 会場 厚木市文化会館 大ホール

4 被表彰者

(1) 厚木市表彰

市民功労表彰	2件
自治表彰	1件
一般表彰	133件
スポーツ表彰	89件
感謝状	17件
合 計	242件

(2) 厚木市教育委員会表彰

非常勤特別職	9件
教育関係団体役員	2件
合 計	11件

5 式次第

9時30分	開 式
	市長式辞、議長祝辞
	表 彰
	来賓紹介・祝辞、祝電披露
	市制70周年記念ビデオ上映
	祝賀披露(藤塚中学校吹奏楽部)
11時15分	閉 会

6 その他

広報あつぎ2月15日号に被表彰者の名簿を掲載します。

第 62 回あつぎ飯山桜まつりの実施について

1 目的

桜の開花に合わせ、各種催しを飯山白山森林公園で開催し、にぎわいの拠点を創出するとともに、市内外から広く集客を促すことで、飯山地区を始めとする本市の観光振興や市民相互の交流促進を図ることを目的に実施します。

2 主催

厚木市、(一社)厚木市観光協会、飯山観光協会

3 実施主体

あつぎ飯山桜まつり実行委員会

4 後援(予定)

小鮎地区自治会連絡協議会、みどりと清流のふるさと創造委員会、飯山まちおこし絆の会、(公社)神奈川県観光協会、厚木商工会議所、(一社)厚木市商店会連合会、飯山観音長谷寺、華嚴山遍照院金剛寺、龍蔵神社、厚木市農業協同組合小鮎支所・宮の里支店

5 協力団体(予定)

小田急電鉄(株)、神奈川中央交通(株)

6 開催期間

令和 8 年 3 月 28 日(土)・29 日(日)

式典は 28 日(土)に実施、警備員は 4 月 4 日(土)・5 日(日)も配備

7 会場

飯山白山森林公園 桜の広場 庫裡橋大門通り

8 催物

- (1) オープニングセレモニー
- (2) 桜ライトアップ
- (3) 飯山白龍太鼓
- (4) 白龍の舞
- (5) 小鮎中吹奏楽部演奏会
- (6) 飯山花音頭
- (7) さくら輿
- (8) 紙芝居
- (9) ステージパフォーマンス
- (10) 相模里神楽垣澤社中(白龍の舞とのコラボ)
- (11) お茶処

パブリックコメント実施予定一覧

令和8年1月定例全員協議会報告分

	名称	時期	所管課
1	厚木市子育て支援センターリニューアル基本計画（案）	令和8年2月2日 ～令和8年3月4日	こども家庭センター

上記一覧は、実施予定です。変更する場合がありますので、御了承願います。